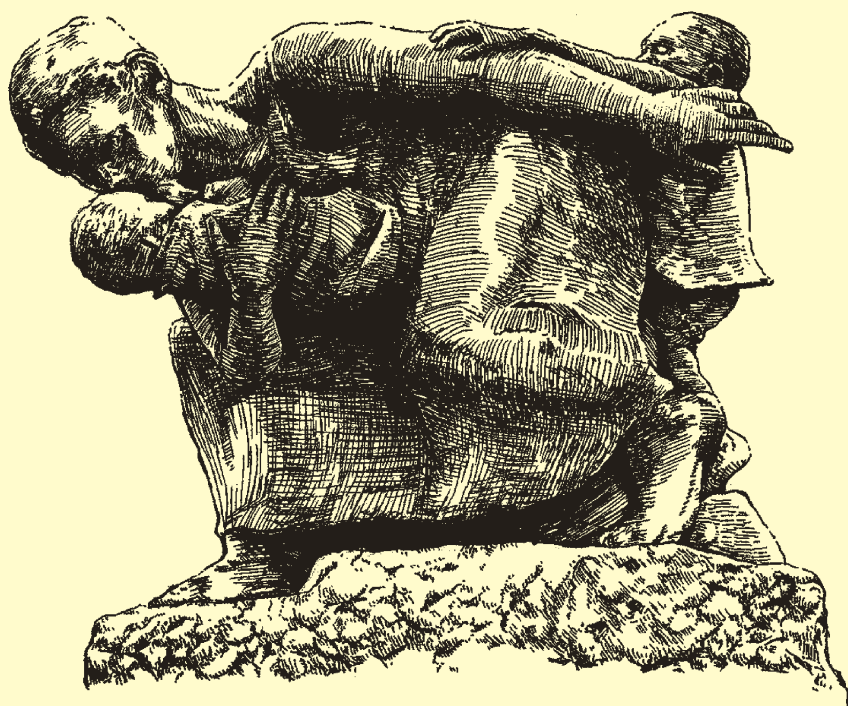


子どもたちへ原爆を語りつぐ本

—総集版・2025—



広島市こども図書館

子どもたちへ原爆を語りつぐ本

—総集版・2025—

も く じ

はじめに

凡例

1. 紙芝居	1
2. 絵本	5
3. フィクション	31
4. ノンフィクション	90
5. 詩歌	176
6. 原爆関係図書目録	182
対象別リスト	183
さくいん	217
表紙装画・挿絵について	229
図書館案内	230

はじめに

核兵器をめぐる世界情勢が緊迫化している中、広島市は、市民社会において核兵器のない世界を目指す潮流を作り出していく必要があると考え、平和文化の振興を図るための取組を進めています。

令和7年（2025年）に被爆80周年を迎えるに当たっては、「原爆死没者の慰霊と被爆者の援護」に、「平和文化の振興」を記念事業の柱に加えました。

こども図書館では、「平和文化の振興」の中のテーマ「平和への思いを共有する学習や活動の機会の提供」に沿い、『子どもたちへ原爆を語りつぐ本—総集版・2025—』を発行することとしました。

『子どもたちへ原爆を語りつぐ本』は、原爆をテーマにした子ども向けの本を紹介した冊子です。被爆地ヒロシマにある図書館として、作品に込められた平和への願いを伝え、次世代へと継承していくことを意図しており、1985年の発行以来、10年ごとに改訂し、今回で5冊目となります。

この冊子は、対象を中学生までとし、当館所蔵の広島・長崎の原爆に関する図書を掲載しています。また、前回の2015年版に、原則として、2023年（令和5年）12月までに発行された図書（196点）を新たに選定して加え、884点が掲載された図書目録となりました。

被爆から80年が経過し、被爆体験の継承がますます困難になる中、『子どもたちへ原爆を語りつぐ本—総集版・2025—』の発行が、原爆や平和について子どもたちに伝え、次世代へ継承していく一助となることを強く祈念します。

令和7年（2025年）10月30日
広島市こども図書館
館長 末定 勝実

凡 例

1. この目録には、当館原爆コーナー所蔵図書のうち、広島・長崎の原爆に関する図書884点を掲載しています。
2. 中学生までを対象に選んでいます。
3. 図書をその内容から次の6テーマに分類しました。
 - (1) 紙芝居
 - (2) 絵本
 - (3) フィクション
 - (4) ノンフィクション
 - (5) 詩歌
 - (6) 原爆関係図書目録また、記述が広島に関するものは〈広〉、長崎に関するものは〈長〉、両方に関するものは〈広〉〈長〉としています。
4. 配列は、日本十進分類法（NDC）新訂10版による分類の番号順とし、同一分類内は、著者名の50音順となっています。なお、絵本は、出版社の頭文字を付し、出版社名の50音順に並べています。
5. 図書記載事項は、請求記号、対象、書名、副書名、シリーズ名、各巻書名、著編者・訳者・画家名、出版社、初版発行年、ページ数の順になっています。
6. 対象は幼児～（幼児から）、小低～（小学校低学年から）、小中～（小学校中学年から）、小高～（小学校高学年から）、中学～（中学生から）としていますが、目安としてご覧ください。
7. 対象別リストを付しています。配列は幼児から、小学校低学年から、小学校中学年から、小学校高学年から、中学生からの順になっています。
8. 巻末に書名索引を付しています。配列は50音順とし、清音、濁音、半濁音の区別はしていません。

1. 紙芝居

18点

P
〈広〉
幼児～

おばあちゃんの人形

佛教大学社会福祉学部・黒岩ゼミ 制作
本の泉社 2013年 13枚

あいこの祖母は5歳の頃に原爆にあい、当時の記憶をなくしていた。ある時、いつも笑顔の祖母が泣いているのでその訳を聞くと……。孫の人形を見て63年前の原爆の記憶がよみがえった祖母が、被爆時の様子を語り始める。京都に住む被爆者をモデルとした紙芝居。

P
〈広〉
小低～

原爆の子さだ子の願い

(平和紙芝居 私たちの声をきいて 3)

宮崎 二美枝 脚本

江口 準次 絵

汐文社 1994年 12枚

〔一復刻版一 南々社 2023年 12枚〕

広島に原子爆弾が落ちた時2歳だったさだ子は、母に守られたおかげで幸いにも命は助かった。しかしその10年後、さだ子は原爆症のため……。さだ子の死後、級友たちが、1958年の子どもの日、「原爆の子の像」を建てるまでを描いた紙芝居。

P
〈広〉
幼児～

シュモーさんとヒロシマの家

シュモーさんの「ヒロシマの家」を語りつぐ会 作

山先 方江 絵

シュモーさんの「ヒロシマの家」を語りつぐ会 2013年 11枚

広島に原爆投下にあい心を痛めた米国人のシュモーさんは、被爆者のために家を建てようとアメリカで募金活動を始め。自らも広島で建設に加わり、21軒の家を建てた彼の活動を水彩画で描いた紙芝居。ただ一軒残ったシュモーハウスについても写真で紹介している。

P
〈広〉
幼児～

ちっちゃいこえ ―「原爆の図」より―

アーサー・ビナード 脚本

丸木 俊 絵

丸木 位里 絵

童心社 2019年 16枚

猫のクロは、人間の姉さんやその赤ん坊たちと広島にすんでいた。8月6日、赤ん坊の1歳の誕生日に原子爆弾が落ち、クロは被爆。体内の細胞をむしばむ放射性物質の恐ろしさを、猫の視点で語る。連作「原爆の図」から絵を選び、工夫を凝らして構成した紙芝居。

P
〈長〉
小低～

長崎原爆紙芝居 1 ー火のトンネルー

坂口 便 原作
古村 覚 脚色
村上 新一郎 画
あらき書店 1985年 16枚

昭和20年8月9日。長崎の神社の境内にある大クスの木は、突然すさまじい熱風に襲われ丸はだかになる。町の様子を見渡すと、建物はつぶれて炎が上がり、火の手に追われる人々が大クスの立つ丘に向かっていた——。神社の大木が、被爆体験を語る形式で描く。

P
〈長〉
小低～

長崎原爆紙芝居 2 ー雲になってきえたー

坂口 便 原作
古村 覚 脚色
村上 新一郎 画
あらき書店 1984年 16枚

長崎市の爆心地に近い浜口町に住んでいた小学生のムツ子ちゃん、タエ子ちゃん、ヨシぼうはいつも山王神社の境内で一緒に遊んでいた。しかし、空襲がひどくなると境内に行くこともなくなり……。原爆投下後の3人の行方について、境内にある大クスが語る。

P
〈長〉
小低～

長崎原爆紙芝居 3 ーかえってきたおとうさんー

坂口 便 原作
古村 覚 脚色
村上 新一郎 画
あらき書店 1984年 16枚

タエ子ちゃんのお父さんは、戦争が終わって、長崎に帰ってきた。だが原爆を落とされた町は、見る影もなく変わっていた。家族を探すお父さんと、一人生き残ったタエ子ちゃんは、お婆さんの家でようやく再会する。神社の大木が、被爆体験を語る形で描く紙芝居。

P
〈長〉
小低～

長崎原爆紙芝居 4 ータエ子ちゃんのふでー

坂口 便 原作
古村 覚 脚色
村上 新一郎 画
あらき書店 1985年 16枚

原爆で母やきょうだいを失った1年生のタエ子ちゃんは、再開した国民学校に通い始めた。6年生になった時、「平和の児童祈念像」の建立が決まり、像の建つ台にはめ込む「平和」の字を彼女が代表で書くことになる。神社の大木が、被爆体験を語る形式で描く。

P
〈長〉
小低～

長崎原爆紙芝居 5 ー原子病のおいしゃさんー

坂口 便 原作
古村 覚 脚色
村上 新一郎 画
あらき書店 1985年 16枚

白血病を患っていた永井博士は、8月9日長崎に原爆が落とされた日から、自らも負傷しながら多くの人を助け出し治療した。しかし病状が悪化し——。『この子を残して』等の著書で知られる永井隆博士の、子どもたちへの思いや平和を愛する心を伝える紙芝居。

P
〈広〉
中学～

夏の花

原 民喜 原作
竹原 陽子 制作
のびる文庫 2015年 9枚

原爆に襲われて川に向かった私は、被害にあった人々の惨状を目にする。翌日、避難の途中で次兄は甥の文彦^{ふみひこ}の遺体を見つける。表題作の原民喜の小説を基に、詩「水ヲ下サイ」（一部）・「永遠のみどり」を入れた紙芝居。朗読と歌・伴奏の入ったCD付き。

P
〈広〉
〈長〉
小低～

二度と

(平和かみしばい)
松井 エイコ 脚本・絵
童心社 2005年 12枚

1945年8月、世界で初めて原子爆弾が落とされた広島と長崎の悲惨さを、前半は写真、後半は絵画で表現した紙芝居。多くの命を奪った残酷な兵器、原子爆弾を二度と落させたくない、核兵器のない平和な世界を作りたいという思いが込められている。

P
1～5
〈広〉
小低～

はだしのゲン 1～5 一紙芝居一

中沢 啓治 作・絵
汐文社 1991年 5巻

広島で原爆で父や姉を失いながらも、たくましく生きていく少年ゲンを主人公にした紙芝居。終戦後、ゲンたちが新たな一步を踏み出すまでを描く。原作の漫画に比べ、話の省略が多く、内容の食い違いもあるが、戦争や原爆の恐ろしさを考えさせられる。

P
〈広〉
小中～

8月のウサギ 一被服支廠^{ししょう}物語一

佐藤 優 文
いくまさ 鉄平 絵
ヒロシマ・ヤング・ピース・ビルダーズ
2022年 20枚

1945年、ウサギたちが置き去りにされた大きな建物は、自分を「被服支廠^{ししょう}」と名乗った。軍服を作る軍の施設だと言い、その歴史を語る。広島の人々を見守ってきた「被服支廠」の、声なき声を伝えようと、大学生らの平和発信プロジェクトから生まれた創作紙芝居。

P
〈広〉
小中～

被爆アオギリ物語 一そばにいるよ～いつしよにあるいていこう～

グループアオギリ 制作
コミュニティルネッサンス研究所
2014年 16枚

広島で被爆したアオギリの木。幹が真っ二つに裂けたにもかかわらず、翌春芽を出し、広島の人々を勇気づけた。復興のシンボルともいえるアオギリの物語を、世界中の子どもたちに伝えようと、保育科の学生が中心となり紙芝居を制作。日・英・仏の3か国語併記。

P
〈広〉
小高～

ヒロシマへ行って ―ゆきこの夏休みレポート―

(紙芝居 日本憲法 2)

谷田川 和夫 原案
渡辺 泰子 脚本
宮本 忠夫 絵
汐文社 1990年 16枚

6年生の夏休み、母とヒロシマを訪れたゆきこは、広島平和記念資料館で原爆の惨状を目の当たりにする。さらにショックを受けたのは、ホテルで会った被爆者の話だった……。ゆきこの体験を通して、戦争・平和、そして核兵器のことなどを考えさせられる紙芝居。

P
〈広〉
小中～

平和のちかい ―「原爆の子」より― ―復刻版―

稲庭 桂子 脚本
佐藤 忠良 画
子どもの文化研究所 1979年 16枚

原爆の惨禍に巻き込まれた子どもたちの手記『原爆の子』から紙芝居化されたもの。二人の子どもの痛ましい体験が描かれている。幼児用と小学生用に本文が2通り用意されているのが特徴。昭和27年に発行されたものの復刻版。

P
〈広〉
小中～

平和のちかい ―「原爆の子」より―

(平和かみしばい)

稲庭 桂子 脚本
佐藤 忠良 絵
童心社 2005年 16枚

原爆で顔に傷を負ったきよ子や、母を失ったけんいち。終戦後も心の傷が癒えない子どもたちの体験をつづった『原爆の子』を基に、原爆の恐ろしさや平和の大切さが幼児にも伝わるよう脚本化された紙芝居。1952年に出版されたものを、原画から製版し直した新版。

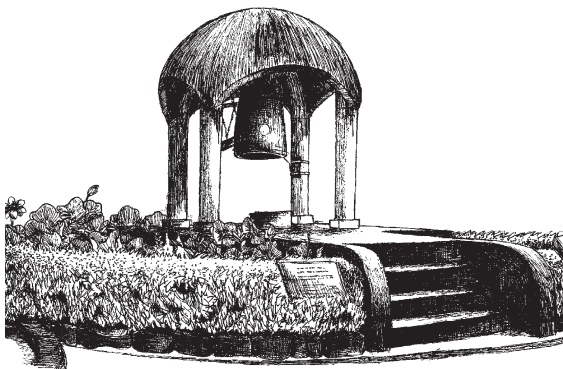
P
〈広〉
小中～

平和への祈り 2

(懐かしの紙芝居)

町屋 住男 作
N きいち 線
大空社 1995年 11枚

原子爆弾によって破壊された広島で生き残った光子は、母とも姉とも慕う先生を崩れた家の下から助けた。しかしその先生が、一緒に逃げている途中で突然のめるようにして倒れ……。被爆直後の広島の惨状を描き、平和の大切さを訴えた紙芝居。



2. 絵本

118点＋外国語版 8 点

あ
〈広〉
小高～

オマール王子の旅 —広島で原爆に遭った南方特別留学生—

古田 博一 作
藤原 飛鳥 絵
あいり出版 2019年 31 P

マレーシア王族の家庭に生まれ育ち、1943年日本に来たサイド・オマール。留学中の広島で被爆し、東京に戻る途中京都で死去する。あまり知られていない南方特別留学生の歩みを、関係者の証言と共にたどった絵本。原爆の悲惨さや原発の恐ろしさを伝えている。

あ
〈広〉
小中～

わすれていてごめんね きょうちくとう —夾竹桃物語—

緒方 俊平 画・文
朝日新聞出版 2018年 47 P

きょうちくとう 夾竹桃は、ハトやカラスたちに8月6日のお話を語って聞かせる。原爆の悲惨さが動植物の視点で語られ、原爆は人間の命だけでなく、動植物の命も奪ったことを見過ごしてはならないと訴える。2000年他社刊に迫力ある筆使いの新しい絵を添えて出版。英文併記。

あ
〈広〉
〈長〉
小低～

ピカ —ケイとタックン核の旅—

西本 伸 絵と文
あゆみ出版 1984年 35 P

ケイちゃんとタックンは、砂にうもれた原爆ヒカをみつけた。たくさんの人を苦しめた原爆は、今は人の心のわかるタイムマシンに変わっていた。原爆に乗った二人は、ヒロシマ、ナガサキ、ビキニを訪れ……。核兵器への疑問と、平和とは何かを考えさせる絵本。

あ
〈広〉
小高～

ジュノー —絵本版—

津谷 静子 文
enjin productions・UNION CHO 絵
ありがとう出版 2008年 35 P

原爆投下後の広島に大量の医療物資を届けたスイス人医師マルセル・ジュノー。広島滞在中には被爆者の治療も行い、大勢の人を勇気付けた。国際赤十字の派遣員として戦争の被害者を救うため、広島のほか世界各地で人道支援を行った彼の生涯を描く。

あ
〈広〉
小中～

サダコの祈り

フォージア・ミナラ 作
うねざき まさこ 訳
アント・ヒロシマ 2008年 30P

パキスタンの絵本作家である作者が、2005年に広島を訪れ、原爆の子の像に触発されてできた絵本。像のモデルとなった佐々木禎子さんの、最後まで希望を捨てない姿を通して、パキスタン大地震の被災者へ励ましを送る。原爆の子の像建立50周年を記念して出版。

英語版： ⁰³_A 『Sadako's Prayer』

Fauzia Aziz Minallah 絵・文
Fauzia Aziz Minallah 2012年 28P

他にダリ語、パシュトゥ語版も刊行。

い
〈長〉
小高～

あの日のこと ―戦争を読む・平和を考える19450809―

山口 美代子 文
吉澤 みか 絵
倉田 ひさし 編
今人舎 2023年 32P

長崎高等女学校3年生で14歳の著者は、学徒動員で働いていた三菱兵器製作所で被爆。地獄絵図のような惨状、父や友の死など見聞きした出来事や、高熱、出血に苦しみ生死をさまよった体験を克明に記す。自然や花の絵で、悲慘さを和らげて伝える絵本。英訳付き。

い
〈長〉
小中～

ざっそう ―weeds―

ロアルド・ホフマン 原作
きむら ゆういち 構成・訳
吉澤 みか 絵
今人舎 2018年 31P

雑草の広場はトモの大好きな遊び場。ところがある日、除草剤がまかれて草が枯れてしまう。その様子から長崎への原爆投下時の焼け野原を思い出したおばあちゃんは、春になるとまた雑草が生えてきたと教えてくれる。逆境に負けず力強く生きることを伝える絵本。

い
〈広〉
小高～

星は見ている ―戦争を読む・平和を考える19450806―

藤野 としえ 文
広田 郁世 絵
紺野 美沙子 編
今人舎 2023年 31P

自宅で被爆し、娘と共に山へ逃げた母。焼け野原の町を歩き、必死に息子を探すが、とうとう行方は分からなかった。前夜、一緒に星空を見た息子の「戦争を止めてほしい」という言葉を追憶し、世界共通の願いだと訴える。映像・朗読作品の絵本化。英訳付き。

い
〈広〉
幼児～

ピカドンたけやぶ

(岩崎創作絵本 3)

はら みちを 作・絵
岩崎書店 1983年 28P

広島を中心街から少し離れた牛田の町に、青々とした竹やぶがある。原爆が落とされた日、火傷を負った人々が、その竹やぶの下の防空壕にやって来た。人々の苦しみを見て、竹やぶは悲しくて泣き続けて……。原爆の恐ろしさ、平和への願いを、切々と描く。

え
〈広〉
小低～

青い空ヒロシマ ぼくたち、わたしたちにできること

—今伝えたいメッセージ— 被爆71年— 絵本—

HP S 国際ボランティア 企画
学生・生徒・児童一同 編
HP S 国際ボランティア 2016年 36P

原爆の強烈な光に襲われ、大やけどを負ったヒロくん。回復して最愛の姉が命を落としたと知り、戦争のない青い空を守ろうと決心する。被爆者の話を基に広島の大学生、高校生が中心となり作成したお話。彼らの平和活動の様子も写真を交えて紹介。英文併記。

え
〈広〉
小中～

ピカドン きのこ雲の下で見つけた宝物

佐藤 廣枝 著
南有田 秋徳 絵
HP S 国際ボランティア 2013年 32P

8月5日、小学1年生だったわたしの疎開先に、広島から家族が訪ねて来てくれた——。原爆投下後、広島にただ一人残った兄を探しに行き入市被爆した著者の体験を通して、未来を担う子どもたちに平和の大切さを伝える。千羽鶴の再生紙で作られた本。

え
〈広〉
小低～

MY HIROSHIMA —わたしのヒロシマ—

森本 順子 著
HP S 国際ボランティア 2010年 37P
〔森本 順子 作・絵 2011年 37P〕
〔森本 順子 作・絵 2012年 38P〕

家族と平和に暮らしていた女の子の生活が、一発の原子爆弾で消えてしまった。思い出深いふるさとが、「その日」どうなってしまったかを、少女の視点でありのままに描く。1988年他社刊に英文を併記した改訂版。巻末に関係者からのメッセージを追加。

お
〈長〉
小中～

赤いボタン

岡本 央 写真・文
大月書店 2023年 35P

1996年に長崎市爆心地公園を改修する際、工事現場で遺骨や遺品を掘り出す活動をした竹下芙美さん。発掘したボタンやおはじきに触れ、そこにあった人々の日常が失われた現実^{現実}に胸を痛める。言葉以上の力を持つ被爆品が、原爆の恐ろしさを伝える写真絵本。

お
〈長〉
小中～

火のトンネル

岡本 央 写真・文
大月書店 2023年 35 P

長崎市立^{ぎんぎ}銭座小学校6年生が、原爆被害を描いた絵画「火のトンネル」。6年間の平和学習で学んだ原爆の悲惨さや平和への思いを、貼り合わせた模造紙に黒一色で描く。迫力ある巨大な絵の制作風景を、その過程で生まれた子どもたちの言葉と共に紹介する写真絵本。

お
〈広〉
小中～

さだ子と千羽づる

SHANTI 作
オーロラ自由アトリエ 1994年 42 P

被爆から10年たったある日、突然原爆症になったさだ子。さだ子は、病気が治ることを祈り、来る日も来る日も折り鶴を折るが……。『原爆の子の像』にまつわる実話を、日本が侵略したアジアの国の子どもたちにも読んでもらえるよう、配慮して描いた絵本。

か
〈広〉
幼児～

とうろうながし

(新編・絵本平和のために 4)

松谷 みよ子 文
丸木 俊 絵
偕成社 1985年 32 P

8月6日の夜、広島多くの川に、とうろうが流れていく。ちらちらとまたたいて、海へ流れていく。でも、いくら流しても死者たちは、ヒロシマへ帰ってきてしまう。だわだわだわと、つぶやきながら。

か
〈広〉
幼児～

まちんと

(絵本・平和のために 1)

松谷 みよ子 文
司 修 絵
偕成社 1978年 27 P
〔(新編・絵本平和のために 1)〕
〔1983年 31 P〕

もうじき三つになる女の子が、原爆にあった。母は苦しむその子の口にトマトを入れた。すると「まちんと(もうちょっと)」と言いながら亡くなり、鳥になった。2場面と作者あとがきを加えた改訂版も刊行。

か
〈広〉
小中～

彼岸花はきつねのかんざし —絵本—

朽木 祥 作
ささめや ゆき 絵
学研教育出版 2015年 55 P

戦時下の広島で暮らす^{かのこ}也子は、竹やぶで出会った子狐と一緒に遊ぶようになる。子狐が白い彼岸花を探しに町に行くと次々と言った日、原爆が投下され、子狐の行方は分からなくなる。同名の物語の絵本版。ヒロシマの記憶を後々まで伝えてほしいという願いが込められる。

か
〈広〉
小高～

可部に舞い降りた落下傘^{らっかさん} —昭和20年8月6日—

いくまさ 鉄平 文・絵
〔可部まち物語つたえたい〕〔2021年〕 14P

昭和20年8月6日、原子爆弾の投下とともに、3個の落下傘^{らっかさん}が可部の町に舞い降りてきた。爆弾と思い込み、逃げ惑う人々、広島市内から押し寄せてくる多くの被爆者たち。あまり知られていない、戦時中の可部の町の様子や、原爆投下直後の混乱を今に伝える絵本。

き
〈広〉
小中～

昭ちゃんの紙芝居 （“百番目のサル”シリーズ）

山口 昭治 作
木戸出版 2005年 46P

赤痢で舟入病院に入院中、ベッドの上で被爆した昭ちゃんは、看病に来ていた母と共に家に逃げ帰る。その途中、変わり果てた街の惨状を目にし……。戦争や原爆のことを次世代に伝えたいと願う作者が被爆体験を紙芝居にまとめたものを、作者の死後、絵本化した。

き
〈広〉
小高～

音が消えた時 —絵本—

森本 マリア 著
小泉 直子 英訳
ジム・ロナルド 英訳
吉備人出版 1999年 34P

著者が平成元年から書き始めた紙芝居の作品の一つを絵本にしたもの。自身の体験を基に、ピカドンが落ちる前5分と落ちた後5分の状況を鮮やかな色彩でダイナミックに描いている。いろいろな国の人に読んでもらうため、日本語の本文に英訳を付記している。

き
〈広〉
小低～

おこりじぞう —絵本—

山口 勇子 原作
沼田 曜一 語り
四国 五郎 絵
金の星社 1979年 33P

広島のに笑い顔の地藏さんがあった。ところが、原爆が落とされ幼い女の子が水を求めて倒れた時、地藏さんの目から涙があふれ、その顔は怒りの表情に変わった。『おこりじぞう』（山口勇子作）を絵本化したもの。

き
〈広〉
小低～

わたしのヒロシマ

森本 順子 作・絵
金の星社 1988年 28P

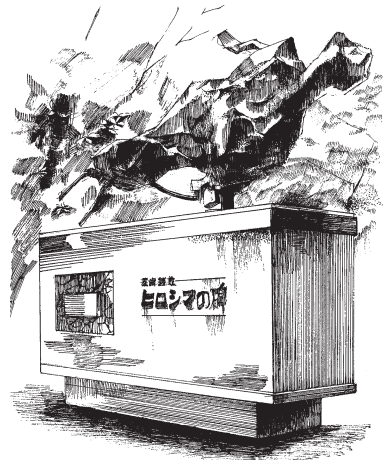
ヒロシマで生まれ育ち、平凡に生活していた「わたし」。その「わたし」が4年生の時、原爆が落ちた。原爆のあとの、地獄を見た「わたし」の目を通して、原爆の悲惨さを訴えながら、平和を大切に思う心を育ててほしいと願って描かれた絵本。

英語版： ⁰³_B 『MY HIROSHIMA』

Junko Morimoto 著
ブッキング 2006年 29P

英語版： ⁰³_C 『MY HIROSHIMA』

Junko Morimoto 作
ANNE BOWER INGRAM 編訳
ISAO MORIMOTO 訳
COLLINS 1987年 27P



英語版： ⁰³_L 『MY HIROSHIMA』 —A powerful true story of war, survival and hope—

Junko Morimoto 作・絵
Anne Bower Ingram 訳
Isao Morimoto 訳
LOTHIAN Children's Books [2018年]
32P

く
〈長〉
小高～

ようすけ君の夢 —平和への思いをこめて被爆者と学生たちがつくった絵本—

上村 吉 語り
真柳 タケ子 語り
佛教大学黒岩ゼミ 文
田中 愛 絵
越智 裕希美 絵
クリエイツかもがわ 2008年 47P

夏休みのある日、京都に住むぼくは長崎弁で話す不思議な少年、ようすけ君と出会う。登校日の授業で長崎の女性が語った被爆体験談が、ようすけ君から聞いた「怖い夢」の話とそっくりで……。2006年発行のものをハードカバー化し再版。英訳・仏訳の付録付き。

く
〈長〉
小中～

わらってお母さん

たから さき 文
たから さやか 絵
クリエイティブ21 2004年 37P

爆心地近くに住んでいた、ようこと妹、弟は、留守番をしている時に原爆に会い、亡くなった。でも、ようこの魂は、子どもを亡くし悲しむ両親を助けたいと人形に宿り……。子どもたちの供養と平和を祈り、毎年人形を買い続けた、長崎市の夫妻の実話を基にした創作。

こ
〈広〉
小低～

むかえじぞう

(創作民話絵本)

吉本 直志郎 作

飯原 一夫 絵

佼成出版社 1991年 32 P

安芸の宮島から海を渡ってくる死人を弔うため、向かいの赤崎に「むかえじぞう」がたたずんでいた。広島に原爆の落とされた日の朝、数えきれないほどのむかえじぞうが、亡くなった人々を広島へ迎えに行った。1980年他社刊の改訂版。

こ
〈長〉
中学～

母と暮せば —絵本—

山田 洋次 文

森本 千絵 絵

講談社 2015年 44 P

長崎で原爆がさく裂した瞬間、最愛の母を残しこの世から消えた青年浩二。死後も母を慕い続けて亡霊となり3年目の命日に再会を果たす。以前に戻ったかのような日々を過ごす、母は衰弱していき……。黒い画面に優しい色の絵で描いた作品で、原作は映画脚本。

こ
〈広〉
〈長〉
小高～

100ばんめのサル —国際平和記念作品アニメーション「100ばんめのサル」より—

ケン・キース・ジュニア 原作

松本 茂樹 文

尾崎 真吾 絵

国土社 1987年 35 P

広島・長崎原爆のもたらした被害と、今もなお造られている、核爆弾のおそろしさを訴える。1匹のサルから始まったイモ洗いが、仲間へ伝わるように、一人一人の愛の輪が広がれば平和へとつながることを描いた、国際平和記念映画の絵本版。

こ
〈広〉
〈長〉
小低～

げんばくとげんぱつ

増山 麗奈 文・絵

子どもの未来社 2013年 19 P

追悼碑に選ばれた石の「ぼく」は被爆者の苦しみを知り、原爆のない世界を願う。しかし福島第一原発事故の発生で再び被曝の恐怖を目の当たりにし……。東京の滝野公園に実在する原爆犠牲者追悼碑を主人公に、深みのある色彩の絵で原爆と原発の記憶を伝える。

こ
〈広〉
〈長〉
小中～

わたしはひろがる

(教室の絵本シリーズ)

岸 武雄 作

長谷川 知子 絵

子どもの未来社 2010年 43 P

小さい時は自分のことしか頭になかった「わたし」。家族を思い、友達を理解し、世界について考えるうち、次第に「わたし」は大きくなっていく……。遠い昔の出来事に過ぎなかった原爆も、平和を願う大切さを教えてくれた。旧版の挿絵を改め、本文も加筆。

こ
〈広〉
小中～

海をわたった折り鶴

(えほんひろば)

石倉 欣二 作

小峰書店 2010年 27 P

白血病で亡くなったサダコちゃんは、鶴を折れば願いがかなうと信じていた。数十年後、兄のマサヒロさんはテレビで9.11のテロの様子を見て、妹が残した小さな赤い折り鶴をニューヨークへ届け、命の大切さ、尊さを伝えようとする。淡い色調の絵が優しく温かい。

こ
〈広〉
小中～

ピカドン

丸木 位里 作

丸木 俊 作

ナンシー H. ツニソン 英訳

石川 保夫 英訳

小峰書店 1987年 78 P

スマおばあちゃんは、原爆のためにおじいちゃんを失った。おばあちゃんは孫に昼も夜もピカの話語った。被爆の状況を力強い絵で描くことにより、戦争の悲惨さを訴える。1950年、ポツダム書店刊の復刻新版。英文対訳。

こ
〈広〉
小低～

ひろしまのピカ

(記録のえほん 1)

丸木 俊 文・絵

小峰書店 1980年 45 P

親子3人で朝御飯を食べていた時に被爆したみいちゃんは、箸を持ったまま両親と逃げて……。被爆体験を心の奥深く沈めていたおばあさんが、丸木夫妻の作品「原爆の図」を見て語った話を基に描かれた絵本。

英語版：⁰³_A 『The Hiroshima Story』

Toshi Maruki 作

Judith Elkin 英訳

A&C Black 1983年 47 P

こ
〈広〉
小中～

わたしはひろがる ー愛、平和、そして人間ー

(えほん・こどもとともに)

岸 武雄 詩

辻本 洋太郎 染絵

小峰書店 1994年 23 P

小さい頃は、「わたし」が世界の全てだった。そんな「わたし」の中に、弟や母、友達が入ってきた。そして原爆の本を読み、映画を見て、広島へ旅行した「わたし」の中には――。「わたし」の心の中で広がる、愛・平和・人間への思いを歌った詩絵本。

し
〈広〉
小中～

母さんをたのんだぞ！ ―むっちゃんの戦争と原爆―

被爆体験伝承者 瀬越グループ 作
沖本 直子 絵
沖本 直子（ほか） 英語
Shift Project 2023年 25 P

4年生のむっちゃんは、母と弟と一緒に母のふるさと、広島に行くことに。その時、父は「母さんをたのんだぞ」と一言だけ言った。空腹、疎開先でのいじめ、そして被爆。80歳の時、被爆体験証言者としての活動を始めた瀬川睦彦さんの体験を基に制作。英文併記。

し
〈広〉
小中～

ふじおくんのハーモニカ

被爆体験伝承者 鳥越グループ 作
山口 香織 絵
松下 富美 英訳
Lucy Ruiko Sakanishi-Judd 英訳
Shift Project [2022年] 24 P

すさまじい光と猛烈な熱線。広島で被爆し、何日も意識を失ったままのふじおの耳に、母の子守唄が聞こえてきた。後遺症に苦しむ人生でも、母のくれたハーモニカに励まされた。音楽を支えに、命や平和の尊さを訴え続けた鳥越さんの体験を伝える絵本。英文併記。

し
〈長〉
小中～

あの夏の日

葉 祥明 絵・文
長崎市 編集協力・英訳
吉崎 克美 アートディレクション
自由国民社 2000年 48 P

1945年8月9日、ナガサキの空に一機の飛行機が現れた。その飛行機から原子爆弾が投下され、人・動物・建物など地上にあったあらゆるものが一瞬のうちに消滅してしまった――。被爆当時の状況を描きながら、平和の大切さを訴える絵本。英文併記。

し
〈広〉
小中～

いわたくんちのおばあちゃん

天野 夏美 作
はまの ゆか 絵
主婦の友社 2006年 62 P

いわたくんのおばあちゃんは、家族と一緒に写真を撮らない。その理由には、1945年8月に撮った写真にまつわる、つらく悲しく残酷な原爆の記憶が秘められていた。小学校の「平和学習」で被爆体験を伝えたおばあちゃんと、平和への思いを受け継ぐ小学生の姿を描く。

し
〈広〉
小低～

シュモーおじさん

とがわ こういちろう 文・絵
シュモーに学ぶ会 2016年 28 P
〔エリザベス・ボールドウィン 英訳〕
〔小泉 直子 英訳 2019年 28 P〕

原爆投下で住宅を失った広島の人々のために、21戸の家を建設したアメリカ人、フロイド・シュモー。現存する「シュモーハウス」は、広島平和記念資料館の附属展示施設となっている。彼の活動を優しい言葉と柔らかい絵で語る。2019年刊の改訂版は、英文併記。

し
〈広〉
小中～

パンフルートになった木

巢山 ひろみ 文
こがしわ かおり 絵
少年写真新聞社 2020年 33 P

小学校の校庭に生えるカイヅカイブキの木。被爆後も生き続け、子どもたちを見守ってきた。寿命が尽きた後もパンフルートとして生まれ変わり、その音色は平和の大切さを訴える。実話を基に被爆樹木の目線で描かれた絵本。やわらかな色彩からは温もりが伝わる。

し
〈広〉
小中～

原爆の火

岩崎 京子 文
毛利 まさみち 絵
新日本出版社 2000年 31 P

兵隊の山本さんは、8月6日の朝、大乗駐屯地から広島市の司令部へ出かける途中、原爆にあった。終戦後、おじさんが営んでいた本屋の焼け跡でくすぶる火を、おじさんの形見にと故郷へ持ち帰り――。平和の象徴として福岡県星野村に灯る「原爆の火」の物語。

し
〈広〉
小低～

まっ黒なおべんとう ―絵本―

児玉 辰春 文
長澤 靖 絵
新日本出版社 1995年 31 P

中学1年生のしげるは、毎日広島まで建物疎開に出かけていた。8月6日の朝も、母の作ったお弁当を持って元気よく家を出たしげるだが……。原爆資料館にある炭化してまっ黒になったお弁当にまつわる実話を基に描かれた絵本。

し
〈広〉
小中～

やくそくのどんぐり

大門 高子 文
松永 禎郎 絵
新日本出版社 2010年 31 P

広島市の原爆では3万人の韓国・朝鮮の人が亡くなったといわれ、戦後祖国に戻り、今なお原爆症に苦しむ人が大勢いる。ある男性の生涯を通して、海外在住の被爆者の苦悩を描いた絵本。巻末の解説で、韓国人被爆者を支援している広島市の医師との交流にも触れる。

し
〈広〉
小低～

よっちゃんのビー玉 ―絵本―

児玉 辰春 ぶん
北島 新平 え
新日本出版社 1996年 31 P

4さいのよっちゃんの宝物は、大好きな実雄にいさんがくれたビー玉。にいさんが出兵した時も、ビー玉をにぎりしめて見送った。8月6日の朝、ビー玉で遊んでいたよっちゃんは、原爆にあい……。実話を基に書かれた同書名の物語を絵本にしたもの。

す
〈広〉
小高～

旅のネコと神社のクスノキ

池澤 夏樹 文
黒田 征太郎 絵
スイッチ・パブリッシング 2022年 71 P

神社のクスノキは、横に立つ大きな建物について、ネコに話してくれた。兵隊の軍服を用意するこの施設は、原爆投下後も持ちこたえ、被災者の避難場所となる。陸軍被服支廠^{ししやう}をめぐる対話を大胆な筆致の絵や木工作品で表現した、戦争や命について考える絵本。

す
〈広〉
小低～

かえってきたつりがね

児玉 辰春 作
長澤 靖 絵
鈴木出版 1996年 31 P

戦争中、鉄砲のたまにするために持って行かれたお寺の鐘が、50年ぶりに返ってくることになった。その鐘には、広島原爆にまつわる、ごん太じいさんの悲しい思い出があつて……。大切な友達を失ったごん太じいさんの話を通し、平和の尊さを訴える絵本。

せ
〈広〉
小高～

昭和二十年八さいの日記

佐木 隆三 文
黒田 征太郎 絵
石風社 2011年 30 P

終戦4カ月前に8歳の誕生日を迎えた少年は、「国のために命をささげます」と誓った。8月6日の原爆投下を経て終戦後まで、当時軍国少年だった著者の心の移り変わりを、見開きいっぱいに描かれた迫力ある絵と、日記形式の文章で伝える。

せ
〈広〉
〈長〉
小高～

火の話

黒田 征太郎 作
石風社 2011年 31 P

火を手に入れたことで人間の暮らしは便利になった。しかし、火への怖れを失くした人間は、火を武器として使うようになる。とうとう原子爆弾が落とされても、人間はまだ原子力を使い続け——。ダイナミックに描かれた絵で人間の愚かさに警鐘を鳴らす絵本。

た
〈広〉
小低～

ひばくポンプ

児玉 美空 作
第一美術印刷 2020年 26 P

原爆投下時、多くの人が広島駅前のポンプに水を求めてやってきた。その被爆ポンプの視点で描く。3台のポンプは、駅前再開発の際に取り壊されかけたが、市民の働きかけにより残された。小学4年生の著者が、平和を願い絵と広島弁を用いて文を書いた。英文併記。

た
〈広〉
小中～

ドームがたり

アーサー・ビナード 作
スズキ コージ 画
玉川大学出版部 2017年 33 P

擬人化された「ドーム」の視点で、1915年に建てられ、後に原爆ドームと呼ばれるに至った経緯が語られる。原爆の恐ろしさを訴え、原発への警鐘を鳴らす。変わり果てた広島街とドームの姿を、鳥瞰図で描いた絵が印象的。巻末には著者の解説も掲載。

ち
〈広〉
小高～

うわさごと

梅田 俊作 文・絵
汐文社 2012年 39 P

うわさを信じてケンカをした私に、祖父が子どもの頃の話語る。広島で原爆にあい、遠い親戚の所にきた転校生に、うわさをうのみにして心無い言葉を発した祖父の兄を、その父が戒めたという。うわさに流されず物事の真実を見極めることの大切さを訴える絵本。

ち
〈長〉
小低～

悲しい顔のマリア

(長崎平和絵本シリーズ 2)
原 之夫 作・絵
汐文社 1991年 40 P

まり子の一家は、長崎のクリスチャン。父は戦争に反対したために一番危険な戦地にやられ、母と兄と3人で暮らしていた……。原爆による直接の被害は受けなかったものの、次第に体をむしばまれていくまり子たちを通して、原爆の恐ろしさを静かに描いた絵本。

ち
〈広〉
小低～

金魚がきえた

(原爆絵本シリーズ 6)
山本 美次 作・絵
吉野 和子 作
汐文社 1989年 40 P

1945年8月6日朝、お兄ちゃんと虫取りから帰ってきたまことちゃん、お母さんにしかられまいと机の下に隠れていた。その時原爆が投下され、お母さんもお兄ちゃんも、飼っていた金魚まで一瞬にして消えてしまった。日常を一変させた原爆の恐ろしさを描く。

ち
〈広〉
小低～

雲のむこうに

毛利 まさみち 作・絵
汐文社 1996年 29 P

いじめられていたところを助けてくれたお礼に、男の子は女の子にぎんなんをあげた。家の庭に二人で植えようとしたその時、頭上に原子爆弾が落ちて……。平和大橋の近くにあるイチョウの木をモチーフに、平和への願いを込めて描かれた作品。

ち
〈広〉
小中～

クロがいた夏 ―絵本―

中沢 啓治 作・絵
汐文社 1990年 45P

広島に住む真二は、戦時下の厳しい生活の中で、クロというネコを飼っていた。昭和20年8月6日の朝、学校へ行く途中でクロを見かけた真二が、クロの後を追い路地に入った途端、閃光が弾けて……。生き延びた真二の目を通し、原爆の悲惨さや恐怖を訴える絵本。

ち
〈広〉
小低～

原爆の少女ちどり (原爆絵本シリーズ 3)

山下 まさと 作・絵
汐文社 1989年 40P

広島で被爆した少女・ちどりは、妹を抱いて地獄と化した街の中を逃げ惑う。妹は死に、ちどりも母が待つ比治山の家に戻ろうとするが、鶴見橋の川辺で力尽きる。被爆直後の広島で弟を捜し歩いた著者が、3羽の山鳩の目を通して核兵器の恐ろしさを訴える。

ち
〈長〉
小中～

それから (長崎平和絵本シリーズ 3)

榎田 伸子 作・絵
汐文社 1992年 40P

友人のダナは、チェルノブイリ原子力発電所事故による原爆症で、美しい髪を失ってしまった。ゆうこは自分の父が長崎で被爆した事実を思い、原爆の恐ろしさと、いつまでも続く不安に苦悩する。穏やかな日常に影を落とす、戦争や原発事故の存在を伝える絵本。

ち
〈広〉
小中～

天に焼かれる (原爆平和絵本シリーズ 7)

金崎 是 作・絵
汐文社 1989年 40P

8月6日の朝、仕事を始めようとしていた「わたし」は、目のくらむような閃光に襲われる。家族の元へ帰ろうと歩き出した広島街の光景は、生き地獄そのものだった。時を経ても忘れることのできない原爆の被害と、二度と繰り返すまいとの思いを込めた一冊。

ち
〈広〉
小低～

とうちゃんの涙 (原爆絵本シリーズ 4)

下村 仁一 作・絵
汐文社 1989年 40P

昭和20年4月。当時小学生だった父ちゃんは、広島から庄原市に学童疎開し、腹をすかせながら暮らしていた。8月6日、広島が原子爆弾の被害を受けると、庄原にも被爆者や死亡者が運び込まれ――。小学4年生の娘に父が体験を語る、実話を基にした絵本。

ち
〈広〉
小中～

はだしのゲン —絵本—

中沢 啓治 作・絵
汐文社 1980年 45 P

わんぱくな男の子ゲンは、原爆で父・姉・弟を失い、ヒロシマの惨状を目の当たりにする。一方、母は被爆当日、子どもを出産する。戦争が終わり、ゲンが母と赤ん坊との3人で、新たな一歩を踏み出していくまでを描く。

ち
〈長〉
幼児～

ピカドン

(長崎平和絵本シリーズ 1)

小崎 侃 作・版画
汐文社 1991年 40 P

1945年8月9日11時02分。長崎に何が起こったか? 「ピカ」という閃光とそれに続く「ドン」という爆発。一瞬にして破壊されたあらゆるものたち。色彩豊かな版画で、原爆の恐ろしさ、平和の素晴らしさを描き、ピカドンを許すなど訴える絵本。

ち
〈広〉
〈長〉
小高～

光にむかって —サーロー節子ノーベル平和賞のスピーチ—

くさば よしみ 編
やまなか ももこ 絵
汐文社 2022年 35 P

2017年、ノーベル平和賞を受賞したNGO・^{アイキャン}I CAN。メンバーのサーロー節子さんは、授賞式で核実験の被害や自らの被爆体験を語り、各国の指導者に核兵器禁止条約への署名を求め、核兵器の廃絶を訴えた。英語でのスピーチを分かりやすい日本語に訳した絵本。

ち
〈広〉
小低～

ヒロクンとエンコウさん

(原爆絵本シリーズ 1)

四国 五郎 作・絵
汐文社 1989年 40 P

ヒロクンとシマちゃんは、あることから、怖いと恐れられていたエンコウ川のエンコウと仲良くなる。戦争はだんだん激しくなり、8月6日の朝ヒロシマに恐ろしい爆弾が落とされた……。被爆した家族のタイムスリップを通し、核廃絶と平和への願いを描く絵本。

ち
〈広〉
小中～

ヒロシマのおとうさん —絵本— —ヒロシマの心を子どもたちに—

高橋 昭博 文
四国 五郎 絵
汐文社 1983年 45 P

作者は、中学生の時広島で被爆し、大やけどを負い死の淵をさまよった。その時の広島の惨状と、今もなお原爆の影響による病気と闘いながら、多くの子どもたちに平和の尊さを伝えようとする姿とを自ら描いた作品。

ち
〈長〉
小低～

ふりそでの少女

(長崎平和絵本シリーズ 6)

松添 博 作・絵

汐文社 1992年 40P

原爆で死亡し、晴れ着を着せられて火葬される二人の少女。著者はその光景がいつまでも忘れられず、後に1枚の絵にした。それが縁で、著者はこの見ず知らずの二人の少女のことを少しずつ知ってゆく。1枚の絵に秘められた悲劇を描くノンフィクション絵本。

ち
〈長〉
小中～

ぼくは生きている

(長崎平和絵本シリーズ 4)

尾崎 正義 作・絵

汐文社 1992年 40P

8月9日長崎。ぼくたちが山で作業をしていると、突然全てが強烈な光に覆われ——。山を下りると街は変わり果て、作業を休んだ友人は死んでしまった。偶然が重なって生き残り、画家になったぼくの、明るい絵が描けないその思いを伝える一冊。

ち
〈広〉
小低～

ミヨちゃんの笛

(原爆絵本シリーズ 5)

白井 史朗 作・絵

汐文社 1989年 40P

お腹をすかせた猿のもん吉とおじいさんを家に招いたみよちゃん。しかし翌朝、原爆が落とされ、大やけどを負ったおじいさんは亡くなってしまう。みよちゃんはもん吉を連れ、迫ってくる火から逃げるが……。少女と猿の交流を通して、原爆の悲惨さを描いた絵本。

ち
〈広〉
小低～

もえたじゃがいも

(原爆絵本シリーズ 2)

入野 忠芳 作・絵

汐文社 1989年 40P

あの朝、ケンが食べたのは小さなじゃがいも3個だけ。残りは昼の分にするよう母に言われ、空腹に耐えていた。その時、見たこともない光が一瞬のうちに何もかも焼いてしまい……。戦争時の食料不足による苦しみや原爆の悲惨さを、男の子の目を通して伝える。

ち
〈長〉
小低～

ゆめくい雲とアッコちゃん

(長崎平和絵本シリーズ 5)

黒崎 美千子 作・絵

汐文社 1992年 40P

1945年8月9日。妹と防空壕の中にいたアッコちゃんは、突然壁にたたきつけられ、気を失ってしまう。数時間後、探しにきた父親と一緒に外に出ると、目の前には悲惨な光景が広がっていた——。女性が修学旅行生に被爆体験を語る形で、平和の尊さを伝える作品。

て
〈広〉
小中～

クロがいた夏 ―絵本―

中沢 啓治 著
DINO BOX 2011年 46P

戦時下の広島で、真二はクロというネコを家族の一員としてかわいがっていた。しかし原爆が、父と弟、そしてクロの命を奪ってしまう——。実話を基に描かれた漫画形式の絵本。著者のあとがきを加えた新装版で、戦争や核利用の恐ろしさ、愚かさを訴えている。

て
〈広〉
小中～

はだしのゲン BAREFOOT GEN ―絵本―

中沢 啓治 著
Elizabeth Baldwin 訳
DINO BOX 2013年 47P

戦争の中、家族と共に精いっぱい生きていたゲンは、原爆投下直後の地獄のような街の中を無我夢中で走り逃げる。一夜明けた街には、黒焦げの死体があふれていて——。漫画『はだしのゲン』の絵本版。全ページカラー、英文併記。1980年汐文社版の新装・英日版。

て
〈広〉
小高～

原爆の怖さの物語 ―今伝えたい― ―原爆被爆70年―

兒玉 智江 絵と文
デザイン・コダマ 2016年 64P

広島爆心地近くで被爆し、奇跡的に助かるも、後遺症や差別に苦しみ続けた体験を語り継ぎたいという岩手県在住の被爆者に依頼されてできた絵本。その生々しい証言を軸に、核兵器や放射能の恐ろしさをデータや史実から浮かび上がらせ、迫力ある水彩画で描く。

て
〈広〉
小中～

ピンク色の雲 ―おばあちゃんのヒロシマ―

宇留賀 佳代子 文
稲田 善樹 絵
てらいんく 2007年 43P

「いくちゃん どうして戦争はなくならないのかしらね」。孫娘に問いかけたおばあちゃんは、戦争のこと、原爆が落ちたときの記憶を静かに語る。おばあちゃんの平和への願いが、紙の質感を生かした絵とともにつづられる、実話を基にした絵本。

と
〈広〉
小中～

さがしています

アーサー・ビナード 作
岡倉 禎志 写真
童心社 2012年 32P

「ピカアアアアッ」。原爆が落ちた瞬間から、わたしたちは探している。聞けなかった言葉を。会えなくなった人を……。被爆のカタリベとなった、時計や軍手などの「もの」たちが語る言葉を、画面いっぱいに撮影された姿と共に掲載する写真絵本。

と
〈広〉
幼児～

伸ちゃんのさんりんしゃ

(絵本・こどものひろば)

児玉 辰春 作

おぼ まこと 絵

童心社 1992年 40 P

水兵さんになって戦争へ行くおじさんがくれたさんりんしゃは伸ちゃんの宝物。けれど、昭和20年8月6日の朝、伸ちゃんが仲良しのきみちゃんとさんりんしゃで遊んでいた時、原爆が落ちて――。広島平和記念資料館にあるさんりんしゃにまつわる実話を基に描かれた絵本。

英語版： ⁰³_S 『SHIN'S TRICYCLE』

CHART INSTITUTE 編著

CHART INSTITUTE 1994年 39 P

と
〈広〉
小中～

チュニイ

春姫という名前の赤ちゃん 一日・中・韓平和絵本一

ピョン・キジャ 文

チョン・スンガク 絵

童心社 2017年 35 P

通学路でおしめを干した家を見かけた由美は、そこに住む朝鮮人のおばあさんと仲良くなる。由美はおばあさんが、胎内被爆した43歳の娘の世話をしていることを知り……。植民地支配による強制連行と原爆が残した傷跡を描く。深みのある墨絵が悲しみを増す。

と
〈広〉
幼児～

ひろしまのエノキ

長崎 源之助 作

二俣 英五郎 絵

童心社 1988年 35 P

ヒロシマの病院の庭で、患者さんたちをなぐさめていたエノキは、原爆によって、枝は折れ、幹もえぐられてしまったが……。原爆で傷ついたエノキを守ろうとする小学生たちと、死にかけたエノキを救おうとする木のお医者さんの姿を、実話を基に描いた絵本。

と
〈広〉
小中～

ピカドン

丸木 位里 著

丸木 俊 著

東邦出版 1982年 78 P

墨1色で描かれた絵本ではあるが、原爆投下直後の広島の惨状が鮮烈に描かれ、人々の悲しみ、苦しみが生々しく伝わってくる。夫妻の「原爆の図」創作の原点とも言える作品。1950年刊の新版。

と
〈広〉
小中～

この世界の片隅に

(徳間アニメ絵本 38)

こうの 史代 原作

徳間書店 2019年 143 P

18歳で広島から呉へ嫁いだ、おっとりとした性格のすず。新しい暮らしを築いていく中、戦争は激化。空襲や原爆で身内を失い、自身も深い傷を負う。戦争に翻弄されながらも、前を向き、懸命に日々を生きる姿を描く。原作を基にしたアニメーション映画を書籍化。

と
〈長〉
幼児～

ながさきアンジェラスのかね ―1945年のクリスマス―

中井 俊巳 ぶん

おむら まりこ え

ドン・ボスコ社 2017年 31 P

戦時中でも笑顔の絶えない家庭に生まれた少女かやの。戦況の悪化で離れて暮らしていた両親が被爆し、母を亡くす。悲しみの中、瓦礫から見つかった浦上天主堂の鐘の音が彼女の心を支える。負傷しながらも医師として救護活動続けた永井隆の娘、茅乃の物語。

に
〈広〉
小中～

本川をつたえて ―爆心地350mで被爆した小学6年生の女の子―

奥原 球喜 文・絵

田中 八重子 原案

日本電子書籍技術普及協会 2022年 39 P

爆心地から350mの学校で被爆しながら、奇跡的に助かった清子さん。家族全員を原爆で亡くした彼女は、当時のつらい出来事を長い間誰にも話さなかったが、平和な世になることを願い証言を始める。清子さんの本川小学校での被爆体験と証言活動を伝える絵本。

に
〈広〉
小中～

つる ―サダコの願い―

(世界子ども平和図書館 2)

エリナー・コア 文

こだま ともこ 訳

エド・ヤング 絵

日本図書センター 2005年 46 P

2歳の時に被爆し、中学入学直前に白血病で倒れて入院したサダコは、回復を信じて千羽鶴を折り始めるが……。『原爆の子の像』のモデルとなった少女の平和への思いを静かに訴える。1977年にアメリカで出版された『サダコと千羽鶴』を絵本化したもの。

は
〈広〉
幼児～

8月6日のこと

中川 ひろたか 文

長谷川 義史 絵

ハモニカブックス 2011年 31 P

兵隊だった伯父は8月6日に原爆で亡くなった。当時16歳の母は一週間後、広島に入り惨状を目にする。おだやかな瀬戸内の海と廃墟となった広島を対比させた絵と共に、瀬戸内の島で暮らしていた著者の母の体験を伝え、静かに平和を訴える。英文併記。

ひ
〈広〉
小低～

おりづるの旅 —さだこの祈りをのせて—
(PHPにこにこえほん)

うみの しほ 作
狩野 富貴子 絵
PHP研究所 2003年 39P

病気の回復を願い折り鶴を折り続けたさだこは、願いかなわず原爆症で亡くなった。その死を悼んだ同級生は、平和な世界の実現を願い「原爆の子の像」を完成させる。やがてこの話は世界中に伝わり……。平和を祈る象徴として広がった、さだこと折り鶴の物語。

英語版： ⁰³_P 『Paper Crane Journey —Carrying Sadako's Prayer—』
(PHPにこにこえほん)

Shiho UMINO 作
Fukiko KARINO 絵
Keiko Miyamoto 訳
Steve leeper 訳
PHP研究所 2003年 39P

ほか36カ国語に翻訳され刊行。

ひ
〈広〉
小中～

ここにいること おかあさんにしらせて —原爆の子からのメッセージ—

上野 さかる 文
藤 わかな 絵
BOC出版部 2005年 51P

国民学校3年生の明子は、被爆してお母さんと逃げる途中、舟の中で体中にやけどを負った女の子と出会う。女の子はお弁当をさし出して、自分がここにいることをお母さんに伝えてほしいと言い——。名前すら残せなかった少女の死を通して、原爆の悲惨さを描く。

ひ
〈広〉
小中～

小さな赤いてぶくろ

西野 綾子 文
渡辺 俊明 絵
ひくまの出版 1983年 39P

広島へ引越したなっちゃんは、友達のとしちゃんに送るてぶくろを編んでいる時、原爆を受け小さなかけになる。年月がたち、お母さんになったとしちゃんの前に現れたなっちゃんは……。核戦争の恐怖を訴え、平和への願いを描いた作品。

ひ
〈広〉
小中～

童心寺 —被爆70周年記念事業—

木下 数子 文・絵
童心寺を次世代に語りつぐ会 編
広島市五日市公民館 広島市皆賀公民館
2016年 16P

原爆で親を亡くした孤児を收容するため、昭和20年、山下義信^{きしん}さんは私財を投じ広島戦災児育成所を開設。敷地内に建設された童心寺は、子どもたちの精神的な支えとなる。職員が父や母となり養育し、子どもたちは懸命に生きた。戦災児育成所の歴史を記した絵本。

ひ
〈広〉
小中～

走れひばく電車

まさき かずみ 文
しげとう さちよ 絵
ひろしま女性学研究所 2008年 24P

広島町の走る路面電車たち。ある日
年老いた一台の電車が、仲間に語り始
めた。60年以上前の、ぬけるような青
空だった8月6日のことを……。原爆
により壊滅した町で、人々が再び生き
る勇気を奮い起こしていく様子を、被
爆電車の視点で語った絵本。

ひ
〈広〉
小中～

助けてあげられなくてごめんね

広島市立段原小学校 編
平和教育推進委員会 編
広島市立段原小学校 2003年 44P

昭和20年8月6日、段原小学校は原子
爆弾の被害を受け、多くの子どもたち
が校舎の下敷きになった。当時17歳
だった加藤さんは通りがかりの人たち
と、子どもたちを助けようと……。加藤
さんの体験を基に段原小学校の子ども
たちが平和を願って作った手作り絵本。

ひ
〈広〉
小低～

はじめてのヒロシマ

広島平和記念資料館啓発課 〔編〕
広島平和記念資料館啓発課 2023年 35P

原爆の惨劇を記録し、町や人へ与えた
影響を後世に伝えるために建てられた
広島平和記念資料館。展示物の中から
子どもたちに関わり深い三輪車、弁当
箱、時計、折り鶴の4点を紹介。易し
い言葉と写真、単純化した絵で、平和
について考えさせる低学年向け教材。

ひ
〈広〉
幼児～

アオギリのねがい ―被爆アオギリ二世物語―

『被爆アオギリ二世』の絵本をつくる会 作・画
広島平和教育研究所 1996年 32P
〔新版 2003年 32P〕

ある日、1本のアオギリの苗木が小学
校にやってきた。その苗木のおかあさ
んは、若かった頃広島原爆にあって
……。 “被爆アオギリ”を通して子ども
たちが平和の尊さを知り、“ヒロシマの
心”を受け継ぐことを願って作られた
絵本。英文を併記した改訂新版もあり。

ひ
〈広〉
小中～

8月のウサギ ―被服支^{ししょう}廠物語―

佐藤 優 文
いくまさ 鉄平 絵
ヒロシマ・ヤング・ピース・ビルダーズ
2022年 15P

1945年、ウサギたちが置き去りにされ
た大きな建物は、自分を「被服支^{ししょう}廠」
と名乗った。軍服を作る軍の施設だと
言い、その歴史を語る。平和発信プロ
ジェクトから生まれた、広島を見守り
続ける「被服支廠」の紙芝居を絵本化。

ふ
〈広〉
小中～

青い空

柳生 研太郎 作・画
風詠社 2011年 31P

8月6日の原爆投下時、3歳3カ月だった著者は、爆心地より2.3キロ離れた自宅で被爆し、父に連れられ山の中に逃れた。翌朝、勤め先へ向かった父が目にしたのは……。被爆直後の体験を、著者の母が残した手記を基に、核廃絶への願いを込めて描いた絵本。

ふ
〈広〉
小中～

きときこえるよ —Tree Voices—

藤原 美香 作
村本 美香 作
瀧川 裕恵 絵
Haruki Asagoshi (ほか) 英訳
〔藤原美香・村本美香〕 2019年 32P

「わしは あの日が わすれられん」。広島市の被爆樹木が語る形式で、原爆投下の事実と平和への願いを伝える絵本。焼け焦げた株から再び芽吹いた樹木が、爆心地に向かって幹を傾け成長する様子を、柔らかいタッチの絵で描いている。被爆樹木の解説も掲載。英文併記。

ふ
〈長〉
小高～

ようすけ君の夢 —平和への思いをこめて被爆者と学生たちがつくった絵本— (平成17年度佛教大学特色G P事業 関連刊行物)

上村 吉 語り
真柳 タケ子 語り
佛教大学社会学部社会福祉学科社会福祉援助技術演習ゼミ生(二〇〇五年度二KFクラス) 文
田中 愛 絵
越智 裕希美 絵
佛教大学社会学部・佛教大学福祉教育開発センター 2006年 46P

京都に住むぼくは、不思議な男の子ようすけ君と友達になり、彼が見た怖い夢を教えてもらおう。ある日学校で聞いた被爆体験が、その夢と同じだと気が付き……。長崎で被爆した真柳タケ子さんの話に構想を得た佛教大学生たちが、平和への願いを込め創作した絵本。

ふ
〈広〉
小中～

いのりの石 —ヒロシマ・平和へのいのり—

こやま 峰子 文
塚本 やすし 絵
フレーベル館 2015年 40P

8月6日、爆心地付近にあった市内電車の敷石は、一変する町の様子を目撃する。年月を経て、被爆した敷石は観音像を掘り込まれ、200個の「いのりの石」となり世界各地に送られている。被爆敷石をモデルにした絵本。巻末に石の歴史をたどる解説と本文英訳あり。

ふ
〈長〉
小中～

ピカッ！ドン！！はもうやめて！！！

—世界中を平和な笑顔でいっぱいになりたい—

久野 登久子 文
佐藤 八重子 絵
フレーベル館 2010年 23P

ある夏の日、お母さんは話してくれた。昔、長崎に原爆が投下され街が地獄絵図になったこと。放射能の後遺症に苦しむ人々のこと。そして戦争のない世界を願い、行動する人々のこと。平和について考え始める子どもたちの姿を素朴な絵で描く。英文併記。

ふ
〈広〉
小低～

ちいさなおはか

おおた そら 文
鈴木 康治 絵
文芸社 2012年 19P

「ずっとむかしのはなしです おおきなせんそうありました」。父さんがボクに10代の頃の話をしてくれた。戦争中、祖国を離れてきた一家と親しくなったこと。原爆が落とされた時のこと——。戦争体験を語り継ぐことの大切さを伝える、実話を基にした絵本。

ふ
〈広〉
小中～

海をわたったヒロシマの人形

(えほんのもり)
指田 和 文
牧野 鈴子 絵
文研出版 2011年 32P

原爆投下後のヒロシマで拾われた人形を、海を隔てたアメリカで大切に、60年後、平和記念資料館に寄贈したナンシー。人形を通じて、被爆した人たちの恐怖や悲しみに思いをはせ続けた女性の心情を、淡い色彩の絵と共に伝える。巻末には資料館の紹介もある。

ふ
〈広〉
小低～

ヒロシマのいのちの水

(えほんのもり)
指田 和 文
野村 たかあき 絵
文研出版 2009年 32P

「わたしが宇根利枝です。きょうは、このお水のことをおはなししたいの」。原爆で負傷し、水を求めながら死んでいった人たちの供養に、120カ所以上ある慰霊碑へ献水続ける宇根さん。彼女の被爆体験と、献水に託した平和への思いを伝える絵本。

ふ
〈広〉
小低～

ヒロシマのピアノ

(えほんのもり)
指田 和子 文
坪谷 令子 絵
文研出版 2007年 32P

広島に住む4歳のみさちゃんの家にやってきたピアノ。やがて、1945年8月6日、爆心地からわずか1.8kmの地点で被爆したそのピアノは、奇跡的に壊れずに残るが……。ピアノの視点から平和の尊さを訴えた絵本。被爆ピアノで演奏された曲を収録したCD付き。

ほ
〈広〉
〈長〉
小中～

北の里から平和の祈り —ノーモア・ヒバクシャ会館物語—

こやま 峰子 文
藤本 四郎 絵
エバンズ・キアラ 英訳
五十嵐 夕夏 英訳
北海道新聞社 2020年 32P

長崎で被爆した7歳のまり子は、北海道の親戚の家で暮らすことに。やがて成長し、札幌の「ノーモア・ヒバクシャ会館」を訪れる。「ふたたび被爆者をつくらない」という願いのもと、9年に及ぶ市民運動を経て建てられた民間初の原爆資料展示館を描く。英文併記。

ほ
〈広〉
幼児～

かあさんのうた

(おはなし名作絵本 29)

大野 允子 文

山中 冬児 絵

ポプラ社 1977年 31P

原爆が落とされた日、町はずれのくすの木の下へ多くの人々が逃げてきた。その夜くすの木は、女学生がやけどを負った迷子のぼうやを抱いて子守歌を歌うのを聞いたが、翌日、二人は息絶えていた。短編集『つるのとぶ日』収録作「夜のくすの木」を絵本化したもの。

ほ
〈広〉
小低～

ケイコちゃんごめんね

(絵本・子どもの世界 30)

奥田 貞子 作

宮本 忠夫 絵

ポプラ社 1983年 31P

焦土と化した広島へ肉親を捜しに出かけ、手がかりのないまま帰る私の前を走っていた自転車の兄妹が、原爆による負傷のため相次いで死んでしまった。幼い命をも容赦なく奪われた悲しみを、実話を基に描く。

ほ
〈長〉
小低～

長崎のふしぎな女の子

(絵本・子どもの世界 29)

大川 悦生 作

宮崎 耕平 絵

ポプラ社 1983年 39P

東京から長崎に越してきたあきは、精霊流しの夜、ふしぎな女の子に出会う。次の日も林の中で出会い、セミの鳴き声にまじった悲しい叫びを聞かされる。そして、平和公園でもう1度出会う、あきは女の子の心からの願いを知ったのだった。

ほ
〈広〉
小低～

はとよひろしまの空を —アニメ版—

大川 悦生 原作

大川 弘子 文

大川 富美 文

ポプラ社 1999年 38P

原爆で、家も家族も失った伝書バトのミチル号は、飼い主のあきらから託された最期の手紙を大切に持ち続けた。一年後、親バトになったミチル号だったが——。1979年刊行の著書をもとにアニメ化したものの絵本版。全ての生命を奪う原爆の悲惨さを訴える。

ほ
〈広〉
小中～

ヒロシマ消えたかぞく

(ポプラ社の絵本 67)

指田 和 著

鈴木 六郎 写真

ポプラ社 2019年 41P

公子ちゃんの家は6人家族。ネコやイヌと遊んだり、ピクニックに行ったり。お父さんが撮った写真は、みんなの笑顔でいっぱい。でも原爆で一家は全滅した。戦争が一瞬で奪った、家族の日々。人々の日常や風景が確かに存在した事実を、静かに語る写真絵本。英文併記。

韓国語版：⁴⁶_N 『히로시마사라진가족』

指田 和 著
鈴木 六郎 写真
ニシンラムメディア 2022年 41 P

ヒロシマに原爆がおとされたとき

大道 あや 著
赤木 かん子 企画・編集協力
ポプラ社 2002年 1 冊

作者自身の被爆体験を描いた絵画を、絵本の形にまとめたもの。見開きいっぱいの絵が、横に添えられた文章と共に当時の惨状を伝えている。付属のCDでは作者本人の語りで絵の説明を聞くことができ、戦争を繰り返すまいという強い思いが伝わってくる。

むかえじぞう

(絵本・すこしむかし 7)

吉本 直志郎 ぶん
遠藤 てるよ え
ポプラ社 1980年 32 P

広島に原爆がさく裂して何万人という人が死んだ日、数えきれないほどの「むかえじぞう」が、亡くなった人々を広島へ迎えに行った。子々孫々にいつまでも平和を……、と願う作者の気持ちが込められた創作絵本。

ルミちゃんの赤いリボン

(絵本・子どもの世界 26)

奥田 貞子 作
宮本 忠夫 絵
ポプラ社 1983年 31 P

——一つだけとまったらかえってくるといったのに——

「一つだけとまったら帰ってくる」と言ったのに……。8月5日の朝、船に乗って広島へ出かけたルミの両親は帰らない。おじさんと広島で両親を捜したルミは放射能に侵されながらも、浜辺で両親を待っている。作者が実際に出会った少女のことを描いた絵本。

げんばくとハマユウの花

桜井 信夫 文
鈴木 義治 絵
ほるぷ出版 1981年 32 P

戦争中、人にもらい受けて比治山に植えたハマユウが、原爆にも耐え生き続けていると知った尾島さんは、その花を増やし、ヒロシマの象徴として多くの町に配り歩いた。平和を訴える人の姿を描いた実話。

み
〈広〉
小低～

おりづるにのって —サダコと子どもたちの物語—

中村 里美 文
吉田 しんこ 絵
ミューズの里 2010年 32P

2歳の時に被爆したサダコは奇跡的に無傷で助かるが、10年後に白血病を発症し、12歳で短い生涯を閉じる。サダコと平和を願う子どもたちの物語をやさしいイラストで描いた絵本。本文は英文併記。巻末に折り鶴の折り方と「おりづるにのって」の楽譜を収録。

ら
〈広〉
小低～

アサガオ —1945年8月6日ひろしま—

むらはし こまち 文・絵
らくだ出版 1982年 25P

アサガオの花が咲くのを楽しみにしていたあき子は、原爆によって溶けてしまった。「もし、あの日一緒に出かけていれば……」と悔やむ母も放射能の影響で亡くなる。広島に住む母親の手作り絵本。

ら
〈広〉
小低～

おじいちゃんの銀時計

はら みちを さく・え
らくだ出版 1995年 23P

8月6日の朝、被爆したおじいちゃん、大事にしていた銀時計を孫娘のランコに託して死んだ。やがてランコはバレリーナとなり、「おじいちゃんの銀時計」を踊ることに……。銀時計にまつわる実話を基に、平和への願いを込めて創作された絵本。

れ
〈広〉
小中～

しげるくん物語 —ヒロシマの誓い—

アマーリエ 文
もりひろ てるみ 絵
レムリア・ルネッサンス 2011年 31P

しげるは、母と別れたまま原爆で亡くなる。天の神様は、人間の愚かさを嘆き、原爆で亡くなった人々の魂を救うため、戦後生まれのりえに彼らを天国に導くよう託す。しげるの魂もようやく天国の母と再会する。世界中の女性が平和の尊さを伝えることを願う絵本。

03
K
〈広〉
小中～

SADAKO OF HIROSHIMA

MANORAMA Jafa 作
AJANTA GUHATHAKURTA 絵
Khas Kitab foundation 2000年 12P

佐々木禎子は、父母や兄たち家族と幸せに暮らしていた。1945年8月6日、広島に原爆が落とされる。奇跡的に生き延びたが、被爆した禎子は、10年後、白血病に侵されてしまう。病気が治ることを信じ、願いを込めて鶴を折り続けた禎子を描く、インドの絵本。英文。

03
L
〈広〉
中学～

My Story —When I Was Three— —ぼくが3さいのとき—

Naomi Nakagoshi 編
Living Pages Publishing 2018年 24P

満州から祖父母の暮らす広島へやって来た飯田國彦さんは、3歳の時に被爆。身内は相次いで亡くなり孤児となる。自身は長く体調不良に苦しみ、ようやく通い始めた学校ではやけど痕をからかわれ……。被爆証言者の中学時代までの経験を素朴な絵で伝える。英文。

03
T
〈広〉
小低～

The Peace Tree from Hiroshima —The Little Bonsai with a Big Story—

Sandra Moore 著
Kazumi Wilds 絵
TUTTLE Publishing 2015年 31P

アメリカ合衆国建国200年を記念し、日本が贈った盆栽の一つは、原爆を生き延びた五葉松だった。日本とアメリカの平和の象徴になった盆栽が、およそ400年前に宮島で生まれてから山木家で代々受け継ぎ育てられ、アメリカの樹木園で展示されるまでを語る。英文。



3. フィクション

280点＋外国語版 7 点

388
に
〈広〉
小高～

広島県の民話

(県別 ふるさとの民話 12)

日本児童文学者協会 編
偕成社 1979年 225 P

広島県に伝わる民話32編を収録。広島
の現代民話「あの子ものがたり」「ガ
ラスのわきでた話」「墓の石べい」の
3 話は、原爆の恐ろしさを今に伝える。
ヒロシマが後世に語り続けたい民
話の一つである。

726
あ
〈広〉
小中～

赤い靴はいた

(シリーズ戦争 5)

あおき てつお まんが
「シリーズ戦争」編集委員会 編
草土文化 1991年 291 P

〔(コミック戦争 5) あおき てつお マンガ〕
〔「戦争」編集委員会 〔編〕 1995年 291 P〕

1945年夏、東京へ出張した「広島日報」
の新聞記者下条は、娘洋子の土産に赤
い靴を手に入れた。だが、その頃、広
島には原子爆弾が投下され……。子ど
もたちをも巻き込んでいく戦争の悲惨
さを訴える漫画集。他に、東京大空襲
や沖縄戦をテーマにした2編を併収。

726
あ
1・2
〈長〉
小中～

まんが ロザリオの祈り 1・2

(まんがジュニアノンフィクション 1)
(ビジュアルノンフィクション)

青空 風太郎 漫画
さかい ともみ 原作
教育出版センター 〔1984年〕・〔1985年〕
124 P・116 P

長崎で被爆した人々をモデルとして書
かれたフィクション『ロザリオの祈り』
3部作を漫画化したもの。1巻目には、
永井博士の遺児の茅乃と誠一を主人公
にした作品と、元渕国民学校の先生と
生徒の話の2編、2巻目には、トマス
小崎修道士をモデルにした話を収録。

726
か
〈広〉
小高～

マンガでつづる原爆の子の像 一六年竹組の仲間たち一

川野 登美子 著
山田 奈穂 構成・漫画
文化評論 2021年 45 P

元気がった禎ちゃんが、原爆症で入院
した。竹組の仲間は担任の野村先生に
励まされ、小学校卒業後も交流を続け
るが、彼女は12歳で亡くなってしまう。
原爆で命を落とした子どものため、像
を建立しようと力を合わせる竹組の活
動を描いた2013年刊の手記を漫画化。

726
き
1～5
〈広〉
小高～

キセキのヒロシマ 1～5 —朝陽に映えて—

—HIROSHIMA is in The PINK!—

ピースピースプロジェクト 企画

高下 知代 漫画

谷川 知子 漫画

山田 康代 漫画

こばやし 将 漫画（4巻・5巻）

美健ガイド社 2014年～2015年 各32P

息子夫婦を戦争で失った^{ともえ}巴は、残された二人の孫を育てると誓う。巴の被爆体験を、曾孫である多延子^{たえこ}が来日した元伯爵夫妻に語る漫画。未来に向かってたくましく生きる女性たちの姿を描き、広島^{ヒロシマ}の復興の様子、お好み焼きやカープの歴史などにも触れる。

英語版： ⁷²⁶_T 『The Hiroshima Miracle —Hiroshima Is in the Pink!—』

Taeko Tada 著

Tomoyo Takashita 漫画

Tomoko Tanigawa 漫画

Alan Gleason 英訳

Biken Guide Sha 制作

Peace Piece Project 2016年 171P

726
く
〈広〉
小中～

まんが 被爆地の新聞社 —中国新聞創刊130周年記念—

くぼ なおこ 漫画

木々 ゆき 漫画

坂井 香予 漫画

中国新聞社 企画

中国新聞社 2022年 83P

原爆で社屋も印刷機も全焼した新聞社。市民に必要な情報を声で伝える「口伝^{くでん}隊^{たい}」を編成する。整理部記者の八島ナツエは、行方不明の家族を探しながら「声の新聞」を届け続けた（「声の新聞力の限り」）。被爆後の中国新聞社の歩みと社員の奮闘を、4話の漫画で紹介。

726
く
〈広〉
〈長〉
小高～

^{おこ}怒る犬

黒田 征太郎 著

日暮 真三 著

長友 啓典 著

岩波書店 2012年 62P

「原爆を落としたのは誰だ」「死んでいったのは誰だ」「地球を壊すのは誰だ」、「それは人間だ」。激しい色使いでアーティスティックに描かれた、たくさん怒っている犬の絵に、過ちを繰り返す人間の愚かさと平和へのメッセージを添える。英文併記。

726
け
2
〈広〉
小中～

原水爆漫画コレクション 2 —閃光—

谷川 一彦 著

平凡社 2015年 368P

原水爆を描いた漫画集の第2巻で「星は見ている」を収録。原爆で父を、その後病で母も失った少女が、父の形見をめぐる事件に巻き込まれ——。実は被爆者として苦難を抱え生きていた父親と、周囲の人々に見守られて暮らす少女の姿を描く。著者は広島出身。

726
け
3
〈広〉
〈長〉
小高～

原水爆漫画コレクション 3 —^{えんこう}焰光—

白土 三平 著
滝田 ゆう 著
平凡社 2015年 405 P

終戦から10年たってなお、原子病で亡くなる人がいる。14歳の雪子も母を失い、一人ぼっちで生きていく。この「消え行く少女」と、被爆した姉妹たちが、平和と幸福を求める姿を描いた作品を収録。復興する社会の片隅で、原爆の苦しみを抱え続ける人々の姿を伝える。

726
け
4
〈広〉
小高～

原水爆漫画コレクション 4 —残光—

赤塚 不二夫（ほか） 著
平凡社 2015年 385 P

みよ子は、幼い頃広島の前爆で母親を失い、自身は右手にやけどを負った。それでもピアニストになることを夢見ている彼女に原爆症の症状が——。この「みよちゃん死なないで」ほか12の中短編を収録。原爆や「核」への怒り、不安、終わらない痛みなどを描く。

726
こ
1～3
〈広〉
小高～

この世界の片隅に 上・中・下 (ACTION COMICS)

こうの 史代 著
双葉社 2008年・2008年・2009年
144 P・138 P・154 P

昭和19年に、18歳で広島から呉へ嫁いだすず。おっとりとした性格の彼女は新しい暮らしを築いていくが、徐々に戦争は激化していく。空襲や原爆によって身内を失い、自身も深い傷を負う。戦争に翻弄^{ほんろう}されながらも、前を向き懸命に日々を生きる姿を描いた漫画。

726
こ
〈広〉
小高～

夕風の街桜の国

こうの 史代 著
双葉社 2004年 103 P

昭和30年の広島。^{みなみ}皆実^{みなみ}は会社の同僚に思いを打ち明けられるが、原爆投下時の光景が忘れられず……。この「夕風の街」と、昭和62年から平成へと続く皆実の姪、七波^{ななみ}の物語「桜の国」を収録。異なる時代を生きる二人の日常を通して、原爆による惨禍を描いた漫画。

726
さ
〈広〉
小高～

あの日、ヒロシマで —被爆後のヒロシマを生きた少女と軍医の話—

さすらいのカナブン 著
みらいパブリッシング 2022年 295 P

1944年広島電鉄家政女学校に入学した小西^{さちこ}幸子^{さちこ}さん。被爆しけがを治療後、車掌に復帰。偏見と差別も描く「ヒロシマを生きた少女の話」。戸坂小学校で救護と治療の使命を果たす肥田舜太郎さんの「原爆と闘った軍医の話」の2編を収録。手記を漫画化し、伝える。

726
し
〈長〉
小高～

長崎の原爆を生きぬいて ―少女たちが受けた過酷な運命―

しおうら しんたろう 作・絵
ポトス出版 2023年 126 P

長崎で被爆した人々を描く『ロザリオの祈り』を漫画化。永井隆博士の子どもを主人公にした作品と、淵国民学校の先生や生徒を描いた作品2編を収録。家族や級友を失った人々が、苦しみの中で生き抜いていく物語。他社刊『まんがロザリオの祈り』の改題加筆。

726
そ
〈長〉
小高～

焼けあとのイチ ―子どもたちの戦争体験―

(平和への願いをこめて ジュニア版)

創価学会婦人平和委員会 編
第三文明社 1995年 191 P

太平洋戦争下と戦後の混乱期の子どもたちの過酷な現実を、実体験に基づき描いた4編の漫画。「ピース・フロム・ナガサキ」では、被爆二世の少女が、死への恐怖と向き合おうと、父に被爆体験を聞く姿を描く。巻頭に当時の子どもたちの様子を撮影した写真を掲載。

726
て
〈広〉
小高～

原爆といのち

(漫画家たちの戦争)

手塚 治虫 (ほか) 著
金の星社 2013年 374 P

漫画で戦争を伝えるシリーズのうち、原爆をテーマにした短編集。原爆投下直後の広島を目の当たりにした中沢啓治さんが、自らの体験を基に描いた作品「おれは見た」など、6人の著名な漫画家が、原爆による被害の惨状やその後の被爆者の苦しみを描く。

726
な
〈広〉
小中～

ある日突然に

(中沢啓治平和マンガシリーズ 17)

中沢 啓治 作
汐文社 1987年 224 P

昭和45年、弘は突然倒れ白血病だと診断される。弘の両親は広島で被爆しており、母親は弘が6歳の時、原爆症のために亡くなっていた。25年たってもなお人々を苦しめる原爆の恐ろしさを劇画で描いた表題作ほか2編を収録。

726
な
1・2
〈広〉
小中～

いつか見た青い空 上・下

(中沢啓治平和マンガシリーズ 1・2)

中沢 啓治 作
汐文社 1986年 192 P・199 P

被爆の事実を隠して東京で生活していた父親。しかし、娘に結婚話が持ち上がった時、被爆のことが分かり、破談になってしまう。被爆後も、健康への不安、周りからの差別などに苦しむ父親の姿を中心に原爆の悲惨さを劇画で描く。

726
な
〈広〉
〈長〉
小高～

沖縄戦と原爆投下

(漫画家たちの戦争)

中沢 啓治 (ほか) 著
金の星社 2017年 345 P

漫画で戦争を伝えるシリーズのうち、原爆投下と沖縄戦をテーマにした短編集。6名の漫画家の作品を掲載し、戦争による悲劇を伝える。原爆を扱った作品は3編で、原爆で妻子を亡くした過去を持ち、自らも原爆症を患う男性を描いた「赤とんぼの歌」などがある。

726
な
〈広〉
小高～

黒い雨にうたれて

中沢 啓治 著
ディノボックス 2005年 289 P

原爆で家族を失った過去を持ち、自らも原爆症を発症した男は、アメリカ人専門の殺し屋になった。被爆から23年後の広島で彼は……。著者初の原爆漫画であるこの表題作をはじめ、原爆への怒りを描く短編漫画8編を収録。巻末に著者略年譜と主な作品も掲載する。

726
な
2～4
〈広〉
小高～

中沢啓治著作集 2～4

- 2 ー黒い雨にうたれてー
- 3 ーオキナワー
- 4 ーろくでなしー

中沢 啓治 著
DINO BOX 2014年・2015年・2018年
353 P・347 P・294 P

原爆への怒り、戦争がもたらした苦しみや平和の大切さを描く短編漫画集。2巻は、著者初の原爆漫画である表題作など全9編、3巻は、被爆二世の少年を描く「永遠のアンカー」ほか1編、4巻は、小頭症被爆者を描く「裏切り者」が広島の前爆をテーマにした作品。

726
な
1～10
〈広〉
小高～

はだしのゲン 1～10 ーコミックス版ー

中沢 啓治 作
汐文社 1975～87年 254 P～281 P
〔(愛蔵版) 1988年〕

戦争末期の生活と原爆の悲惨さを直視し、生き残った者の生きざまを鋭く描いている。主人公ゲンの正義感とわんぱくぶりは、子どもたちを引き付けて離さない。戦争の恐ろしさと原爆を考えさせられる劇画。

英語版： ⁷²⁶ N 『BAREFOOT GEN ーA CARTOON STORY OF HIROSHIMAー』 1～10
1～10

Keiji Nakazawa 著
Project Gen 訳
LAST GASP 2004年～2009年
234 P～284 P

726
な
1～3
〈広〉
小高～

はだしのゲン 1～3 —中公愛蔵版—
(CHUKO★COMICS)
中沢 啓治 著
中央公論社 1996年
904 P・886 P・838 P

1975年～1987年に汐文社から発行された『はだしのゲン』全10冊を3冊にまとめた愛蔵版。原爆で父と姉・弟を失ったゲンが、残された家族や仲間たちと戦後を生き抜いていく様子を描く。戦争の恐ろしさと原爆の悲惨さが、ゲンの目を通して伝わってくる。

726
な
1～7
〈広〉
小高～

はだしのゲン 1～7 —完全版—
中沢 啓治 著
金の星社 2019年～2020年
404 P・406 P・387 P・413 P・410 P・
407 P・400 P

1973年に「週刊少年ジャンプ」で連載が始まった『はだしのゲン』。本作は初出時の誌面を可能な限り再現した完全版。原爆で父と姉、弟を失ったゲンが、残された家族や仲間と共に戦後を力強く生き抜いていく様子を描く。巻末に用語集や掲載時のイラストも収録。

726
な
〈広〉
小中～

野球バカ
(中沢啓治平和マンガシリーズ 8)
中沢 啓治 作
汐文社 1986年 222 P

寿司屋で働く一人者の熊さんは、大の野球好き。仕事そっちのけで、貧しい家庭の子どもばかりの少年野球チームに心血を注いでいた。その陰には野球少年だった息子を原爆で失った過去があり……。『いいタマー一本』の他、4編を収録。

726
な
〈広〉
小中～

ユーカリの木の下で —新装版—
(中沢啓治平和マンガシリーズ 3)
中沢 啓治 作
汐文社 1986年 219 P

原爆の体験があまりにも悲惨なものだったため、源二は広島を離れ、原爆を忘れようとして暮らしてきた。だが25年ぶりに帰郷しての母の葬儀で、原爆が母の骨までもボロボロにしていた事を知り、息子に自分の原爆・戦争体験を語る。戦争を告発する劇画。

726
に
〈長〉
中学～

夏の残像 —ナガサキの八月九日—
西岡 由香 著
凱風社 2008年 142 P

夏休みに長崎の祖母の家を訪れたカナ。これまで原爆について深く知ろうとしなかった彼女が、さまざまな人と交流する中で変わっていく。核開発を始めたドイツ、実際に使用したアメリカ、日本で被爆した朝鮮人など、多角的な視点で原爆を描いた漫画5編を収録。

726
に
〈長〉
中学～

八月九日のサンタクロース —長崎原爆と被爆者— (ジュニア平和館)

西岡 由香 マンガと文
凱風社 2010年 246 P

祖父母の住む長崎に引っ越してきたまゆは、誘われて入った新聞部で原爆の記事を担当することに。取材を通じて、被爆者がつらい記憶を思い出して語っていることを知り、伝えることの大切さを学んでいく。表題作の漫画と、長崎原爆と被爆者についての解説を収録。

726
ひ
〈広〉
小高～

わたしからのメッセージ —はばたけ未来へサダコの折り鶴—

広島市立幟町中学校「この世界に平和を！」
委員会 執筆
広島市立幟町中学校 2001年 62 P

原爆の子の像のモデルとなった佐々木禎子さんのことを、後輩にあたる広島市立幟町中学校の生徒8名が描いた漫画。8カ月にわたる闘病生活を中心に、中学1年で亡くなった後に像が建立されるまでの禎子と周囲の人々の姿を通して、平和の尊さを訴える。

726
ま
〈広〉
小高～

帰らない夏

まえだ なおこ 著
まえだ なおこ 2017年 556 P

父の被爆体験をアニメ映画にして次世代へ伝えようとする家族の物語。原爆の悲惨さを記録に残したい父と、悲惨な場面をあえて入れないことで、失った日常の大切さを描きたい息子たちがぶつかり合う。10年かかって、ついに映画は完成した。事実を基にした漫画。

778
き
〈広〉
小中～

ピカドン

木下 蓮三 作
木下 小夜子 作
ダイナミックセラーズ 1979年 141 P
〔一新装改訂版—ダイナミックセラーズ出版〕
〔2009年 150 P〕

被爆者の手記と資料を基に制作されたアニメーション映画「ピカドン」を冊子化したもの。ページをめくるたびに、原爆の恐ろしさ悲惨さが生々しく伝わってくる。

908
せ
〈広〉
中学～

夏の花

(中学生の文学 10)
成城国文学会 編
ポプラ社 1984年 278 P

昭和20年8月6日、広島街は一瞬の光とともに地獄と化した。黒焦げの死体、水を求める人々……。作者が体験した原爆の悲惨な光景を、目に映ったまま描いた表題作「夏の花」ほか、中学生向けに、世界の短編や詩を14編収録。

908
に
〈広〉
小中～

チュイホアねえさん ―戦火のなかで子どもたちは―

日中児童文学美術交流センター 編
フレーベル館 1994年 269 P

戦火の中で生きてきた子どもたちの姿を描いた、日本と中国の物語をそれぞれ4編選び1冊にまとめたもの。日中の共同編集による。被爆後、白血病で死んでいった女の子のことと、戦争がもたらした悲しみをハンノキが語る「あるハンノキの話」を収める。

908
に
〈広〉
〈長〉
小高～

読み聞かせる戦争 ―新装版―

日本ペンクラブ 編
加賀美 幸子 選
光文社 2015年 263 P

戦争について人々が残した詩や小説、体験記など27編を収めた本。朗読を通して戦争を伝えるため、作品の一部を抜粋し短い解説と共に掲載している。原民喜の「夏の花」など、原爆を扱った作品も7編収録。戦後70年を機に刊行された新装版。9作品の朗読CD付。

913
あ
〈広〉
小中～

ユソフさん

あおき けいこ 文
あおき ゆみえ 絵
南方特別留学生を語り伝える会 2019年
12 P
〔英文併記版『ユソフさん—Remembering Nik—』
〔William R. Nelson 英訳 2019年 26 P〕〕

五日市の光禅寺に眠るニック・ユソフは、マレーシアに生まれ、1943年来日。広島文理科大学の興南寮で他の留学生と共に被爆する。本作は、日本の国策の犠牲となった南方特別留学生の存在を語り伝えるために作られた。英文併記の『ユソフさん—Remembering Nik—』も同時刊行。

913
あ
〈広〉
小高～

北国の子どもたち

(児童文学創作シリーズ)

赤木 由子 作
池田 仙三郎 絵
講談社 1982年 245 P

青森県車力村に住むあやたちは、村の歴史を調べているうちに、戦争の犠牲者のことを知る。そんな折、村にミサイル基地ができることになった。小学校で峠三吉の原爆詩集を習った子どもたちは、核・原爆について子どもたちなりに真剣に考えるようになった。

913
あ
〈広〉
中学～

おかあちゃんがほしい ―原爆投下と取り残された子どもたち―

梓 加依 著
素人社 2018年 207 P

原爆投下後の広島。修道院で手伝いをしていた志津子は、偶然出会った子どもたちに母親になって頼まれる。やがて修道院は、原爆孤児を受け入れる孤児院となる。親の愛情を受けて育ち孤児となった子、親の愛情を得られず養護施設で暮らす現代の子。子どもにとっての幸せとは何かを問いかける。

913
あ
〈広〉
小高～

広島の追憶 —原爆投下後、子どもたちのそれからの物語—

梓 加依 著
鹿砦社 2023年 190 P

被爆後12年たった広島。体の弱い由美子を、同じクラスの和也たち3人が、いつも助けてくれた。だが和也の父や仲間の裕、担任の先生まで原爆症で亡くなり、由美子自身の体調も悪化する。時が過ぎても消えない苦しみと、未来へと歩き出す子どもたちの姿を描く。

913
あ
〈広〉
小中～

あの海の波間に
(おはなし愛の学校 7 平和)
岩崎書店 1989年 157 P

愛と平和を訴えた物語12編を収めた短編集。うち大野允子作「ミチコさんの宝もの」は、原爆で姉を亡くしたミチコさんが著者を尋ねて広島を訪れる話。姉の残した日記を手に、ヒロシマ、原爆を知っていこうとする妹の姿が描かれている。

913
い
〈広〉
小高～

テニアン島の少女
(原爆児童文学集 24)
石上 正夫 作
井口 文秀 絵
汐文社 1985年 174 P

マリアナ諸島テニアン島の少女利恵は戦火に巻き込まれ、家族を失ってしまふ。しかも、島民が日本のためにと作った飛行場から原爆を搭載したエノラ・ゲイ号が飛び立ち、広島の祖父が殺されたことで心を痛める。戦争のもたらす不幸をテニアン島を舞台に描く。

913
い
〈広〉
小高～

あの戦争のなかにぼくもいた
(ベスト・セレクション 1)
石浜 みかる 著
国土社 1992年 271 P

イエス・キリストを信じ刑務所に入れられた父。非国民の子どもとしていじめられた兄たち。神戸から山口県大島へ移り住んだ少年の目を通して、開戦から終戦までの、ある一家族の歴史を描く。原爆投下後、広島にいる父を探しに行った時の様子も語られている。

913
い
〈広〉
小中～

川とノリオ
(理論社名作の愛蔵版)
いぬい とみこ 作
長谷川 集平 絵
理論社 1982年 214 P
〔(フォア文庫 C050) 1982年 178 P〕

町のはずれのひとすじの川で、小さなノリオはいつもそのすずしい音を聞いていた。8月6日もノリオは川で遊んだ。その日から母は帰らない…。「川とノリオ」ほか、8編の反核・反戦を訴える作品を収める。

913
い
〈広〉
中学～

野の花は生きる ―リディツェと広島の花たち―

いぬい とみこ 文
司 修 画
童心社 1972年 109 P

原爆の傷跡から復興したかに見える現代の広島で、今なお苦しみ続けている被爆二世の問題や、ナチの手で破壊されたリディツェ村の悲劇。被害を受けた子どもたちの姿を通して、戦争を知らない世代へ平和の大切さを訴えかける。

913
い
〈広〉
小高～

光の消えた日

(岩波少年少女の本 44)

いぬい とみこ 作
長 新太 画
岩波書店 1978年 297 P

昭和20年8月6日、保母の朋子は山口県柳井市で閃光を見た。それは広島に投下された原爆の光だった。その後、“光”の街(光市)も空襲にあう。戦後、柳井と広島を訪れた朋子は被爆者の悲しみにふれる。

913
い
〈広〉
小高～

みどりの川のぎんしょきしょき

いぬい とみこ 作
太田 大八 画
福音館書店 1978年 282 P

団地の子どもと川の精“ぎんしょきしょき”そして不思議な魔女お婆さんの交流を描く。みどりの川に青酸カリが流れ魚が死んだ時、魔女お婆さんの兄は、広島で原爆が投下された後の川の惨状を初めて語った……。

913
い
〈広〉
小高～

この空の下で

井上 雅博 作
朝日学生新聞社 2011年 222 P

広島市の草津の町で暮らす12歳の高志は、兄を戦争で亡くし、今度は姉が原爆で半身大やけどの重傷を負う。原爆投下による苦難と、それを乗り越え生きようとする人々の姿を、少年の視点で語る。未来への希望を持って生きることの大切さが伝わる物語。

913
い
〈広〉
小高～

化石原人の告白

(少年少女学研文庫 306)

猪野 省三 作
学習研究社 1963年 271 P

5年生の竜太は、山で見かけた怪しい人影を“化石原人”だと思い込み友だちと追っていく。そして、彼らは“原人”が、やけどを負った自分の顔を隠し、娘の幸せを願って山奥に隠れ暮らす被爆者であること知る。

913
い
〈広〉
〈長〉
小高～

いま、戦争と平和を考えてみる。

(読書がたのしくなるニッポンの文学)

峠 三吉 (ほか) 作
くもん出版 2009年 173 P

日常を一瞬で崩壊させた8月6日の惨劇を、感情を抑え、あるがままに描写した「夏の花」(原民喜)。長崎で被爆した医師が、放射能の恐ろしさとわが子への愛情を切々とつづる「この子を残して」(永井隆)。この他、峠三吉「原爆詩集」など、全6作品を収録。

913
い
〈広〉
小高～

あるハンノキの話

(創作少年少女小説)

今西 祐行 著
実業之日本社 1966年 221 P
〔(偕成社文庫 3012) 偕成社 1976年 168 P〕

広島の実験場に立つハンノキが、原爆で母を失い、数年後、白血病で死んだ女の子について語る。原爆の悲惨さと人間の悲しさを訴えた表題作ほか3編を収める。

913
い
6
〈広〉
小高～

今西祐行全集 6 ―ヒロシマの歌―

今西 祐行 著
偕成社 1988年 293 P

広島に原爆が投下された時、呉の山中で原子雲を見て、その夜から、広島で救援にあたった著者が、その体験を描いた「ヒロシマの歌」。その他「あるハンノキの話」などヒロシマを題材にした6編と沖縄戦の悲劇を描いた「光と風と雲と樹と」を収録。

913
い
〈広〉
小高～

くらがり峠

(偕成社の創作)

今西 祐行 著
福田 庄助 絵
偕成社 1981年 190 P

昭和18年、筆者が大竹に入隊する前日、徹夜で腕時計を直してくれた時計屋が、20年、広島に落とされた原爆で亡くなった。救援隊としてヒロシマへ入った様子にも触れる「時計」を収めた8編からなる短編集。

913
い
〈広〉
小高～

ハコちゃん・あるハンノキの話ほか

(少年少女小説傑作選)

今西 祐行 著
実業之日本社 1981年 203 P

広島に原爆が落とされた日、ハンノキの下で母を亡くした赤ん坊は、救援の兵隊に助けられた。しかし数年後、その子も白血病で亡くなってしまった。この「あるハンノキの話」ほか9編を収録。

913
い
〈広〉
小中～

一つの花

(ポプラ社文庫 A126)
今西 祐行 著
伊勢 英子 絵
ポプラ社 1983年 188 P
〔(ポプラポケット文庫) 2005年 190 P〕

原爆投下の翌日に広島町の町へ出動した兵士は、死ぬ間際の母親から赤ん坊を預かる。通りすがりの夫婦に赤ん坊を託すが、7年後再会する……。原爆孤児と兵士の交流を描いた「ヒロシマの歌」ほか、心温まる11編の短編を収録。

913
い
〈広〉
小中～

一つの花 ヒロシマの歌

(集英社みらい文庫)
今西 祐行 作
森川 泉 本文イラスト
集英社 2015年 174 P

田舎で一人暮らしをしている祖母に、同居のお願いをしに行った3年生のふき子と兄。そこで、40年前広島に住んでいた祖母の原爆にまつわる悲しい思い出を聞く。この「おばあちゃんとおつばめ」を含め、全9編の戦争物語を収録。総ルビ、注釈付きで読みやすい。

913
い
〈広〉
小高～

ヒロシマの歌

(フォア文庫 B043)
今西 祐行 作
遠藤 てるよ 画
岩崎書店 1982年 184 P
〔(フォア文庫愛蔵版) 1994年 184 P〕

原爆孤児の赤ん坊は、一兵士に救われ、原爆で子を失った夫婦に育てられた。15年後、その子は兵士に会い真実を知る。この「ヒロシマの歌」ほか「ゆみ子とおつばめのお墓」「あるハンノキの話」「時計」など8編収録。

913
い
〈広〉
小低～

ゆみ子とおつばめのおはか

(創作どうわ傑作選)
今西 祐行 さく
遠藤 てるよ え
偕成社 1972年 77 P

お寺の学校へ行く途中、原爆が落とされて被爆したみち子は、翼を焼かれて飛べなくなったおつばめと出会う。黒い雨の降る中、みち子はおつばめを胸に抱いて、広島町の町をさまよい……。被爆直後のヒロシマの姿を淡々と描き、癒やされぬ悲しみを伝える。

913
お
〈長〉
小中～

石のひとりごと ほか3篇

(長崎の原爆シリーズ 別巻)
大石 千枝子 (ほか) 作
富永 佳宏 絵
あらき書店 1981年 27 P

浦上川の土手の石が“あの日”の惨状を語る「石のひとりごと」ほか「波のおじさんの昔話」「子すずめの冒険」を収録。この3点は長崎の原爆の悲惨さを本にしようと公募されたものの中より選定された作品。

913
お
〈長〉
小高～

心でさげんでください ―ナガサキの歳月―

(小学館の創作児童文学〈高学年以上 35〉)

おおえ ひで 作

かみや しん 画

小学館 1983年 142P

父が急に長崎に旅立った。いとこのみちよちゃんが病気だという。このことをきっかけに初めて父が被爆者であることを知った杉夫は、原爆について聞きして……。原爆の恐ろしさを知り、平和への認識を深めていく少年の、心の成長を描いた本。

913
お
〈長〉
小中～

八月がくるたびに

(どうわの本棚)

おおえ ひで 作

篠原 勝之 え

理論社 1971年 123P

〔(理論社 名作の愛蔵版) 篠原 勝之 絵 1978年 158P〕
〔(フォア文庫 B044) 篠原 勝之 画 1982年 162P〕
〔(新・名作の愛蔵版) 篠原 勝之 絵 2001年 193P〕

きぬえは5歳で被爆し負傷する。同様に被爆した兄は、傷は負わなかったが、放射能に侵され、原爆症になり……。原爆の傷跡を背負いつつ、ひたむきに生きるきぬえの目を通し、原爆を生き延びた人たちの苦しみや、平和への祈りを訴える。

913
お
〈長〉
小中～

浜ひるがおの花が咲く

(原爆児童文学集 2)

おおえ ひで 作

四国 五郎 絵

汐文社 1985年 172P

舟大工の仙三じいさんは、ある日ハコふぐの骨を抱えた、不思議な少年と出会う。少年と話すうちに、仙三じいさんは、長崎に原爆が落ちた日のことを思い出し――。一瞬のうちに、かけがえない者を失った人たちの、言いようのない悲しみ、むなしさを連作で描く。

913
お
〈長〉
小高～

南の風の物語

(創作少年文学)

おおえ ひで 著

理論社 1961年 222P

長崎の物語3編を収録。「ごあんしゃん」では、純心なごあんしゃんのおかげで父に巡り会う原爆孤児を、「りゅうおばさん」では、中国へ嫁いだが戦争のため帰国させられ、めい達を原爆で失うおばさんを描く。

913
お
〈長〉
小高～

りよおばあさん

(少年少女短編名作選)

おおえ ひで 著

実業之日本社 1972年 213P

原爆で亡くなった両親の墓参りで、同じように原爆で子を失った母と、母を失った子に出会い、その姿を描く「浦上の町で」と、被爆した鳩の話をはひいおじいさんがひ孫に語る「ぴろくんの話」ほか6編を収録。

913
お
〈広〉
小中～

アオギリよ芽をだせ —被爆した広島の木—
(新日本少年少女の文学 II・20)

大川 悦生 作
遠藤 てるよ 絵
新日本出版社 1992年 158 P

夏休み、広島を訪れた5年生の七美は、平和公園で出会った米川さんから、被爆した「アオギリさん」の話を聞いた。そして2学期、東京に帰った七美あてに送られてきたのは……。核兵器の廃絶と平和への願いを込めて、被爆アオギリの種を育てる少女の成長を描く。

913
お
〈広〉
小中～

おかあさんの木
(ポプラ社の創作童話 15)

大川 悦生 作
箕田 源二郎 絵
ポプラ社 1969年 119 P
〔(ポプラ社文庫 A39) 1979年 190 P〕
〔(ポプラポケット文庫) 2005年 190 P〕

原爆で家族を失い、自らも傷を負ったのぶ子は、その後も被爆者であるがために苦しんだ。彼女が「原爆は日本中の人の心に深い傷をつけた」と語る「ひろしまのきず」ほか、戦争を伝える物語4編を収録。

913
お
〈長〉
小中～

木は生きかえった
(新日本少年少女の文学 II・5)

大川 悦生 作
宮本 忠夫 絵
新日本出版社 1986年 158 P

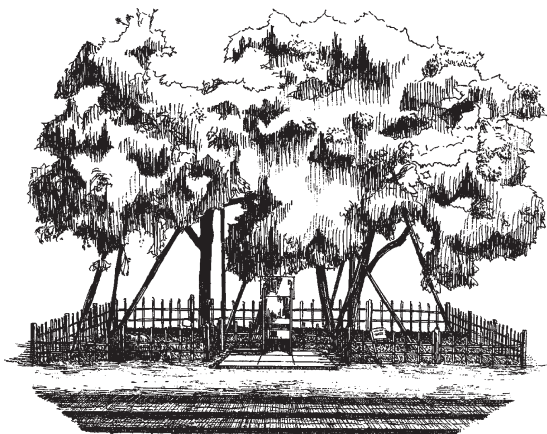
長崎に原爆が落ちたとき、爆風によってガラスやちゃわんが木の中にとびこんだカシの木など、人間だけでなく木たちもたくさんの被害にあった。そんな木たちの様子を紀行文・詩・童話の形式でつづり、原爆のすさまじさを訴える。

913
お
〈長〉
小中～

長崎にいた小人のフ란ツ
(国土社の子どもの文学 10)

大川 悦生 作
宮本 忠夫 絵
国土社 1988年 135 P

東京から、母さんの生家、長崎へと疎開してきた民夫だが、民夫の父が朝鮮人だということで、つらい思いをしていた。そんな民夫の前に小人のフ란ツが現れて、長崎に恐ろしいことが起こると告げる。原爆の悲惨さと、朝鮮人被爆者の悲しみを描く。



913
お
〈長〉
小低～

ながさきの子うま

(新日本おはなし文庫 15)

大川 悦生 さく

宮本 忠夫 え

新日本出版社 1984年 77P

浦上の小さなうまやに、甘えたい盛りの子馬とその母馬がいた。でもある日、ぴかーっどおーんと……。平和に暮らしていた子馬の目を通して、原爆の悲惨さを語り、平和の尊さを訴える作品。

913
お
〈長〉
小低～

ながさきの子うま 一人形アニメ版—

(アニメでよむ戦争シリーズ)

大川 悦生 原作

翼プロダクション 作

新日本出版社 2016年 70P

長崎の、浦上天主堂がよく見える秀男の家で、雄の子馬が一頭生まれた。ところが、8月9日に原子爆弾が投下され、一緒にいた母馬が負傷してしまう。子馬は母馬と別れ、迫ってくる火から逃げて行く。天主堂に戻ると秀男が倒れていて……。人形アニメを書籍化。

913
お
〈広〉
〈長〉
小中～

長崎のふしぎな女の子

(ポプラ社文庫 A181)

大川 悦生 著

宮崎 耕平 絵

ポプラ社 1985年 174P

民話とともに、戦争や被爆の体験を聞き歩く筆者の作品集。原爆をテーマとした「はとよひろしまの空を」「長崎のふしぎな女の子」と、南の島で自動小銃に撃たれた少女や、東京大空襲などを描く5編を収録。

913
お
〈広〉
小低～

はとよひろしまの空を

(ポプラ社の幼年文学 1)

大川 悦生 作

二俣 英五郎 絵

ポプラ社 1979年 79P

原爆が落ち、やさしい飼い主の少年や、自分の家族を失ったハトのミチル号は、廃墟の広島を飛び続けるが……。幸福な生活を一瞬にして奪われ、自らも放射能に侵され死んでいくハトの姿を通して、全ての生命を無差別に奪う、原爆への怒りと人間の愚かさを描く。

913
お
〈広〉
〈長〉
小中～

星からきたカード

(原爆児童文学集 11)

大川 悦生 作

宮本 忠夫 絵

汐文社 1985年 180P

広和とユリは、不思議なカードを手に入れてから、次々におかしな体験をするようになる。しかも、全て原爆に関することばかりなのだ。広和とユリが、原爆を知り、学んでいくことで成長していく様子を描く。

913
お
〈広〉
小中～

ヒロシマの河童

おおた そら 著
幻冬舎 2018年 101P

広島に住むソラは、川で出会った河童と友達になり、「シド」と名前をつける。ある朝、すさまじい光と衝撃が町を襲い、川の中に吹き飛ばされたソラは、シドに支えられて浜に流れ着くが……。この表題作など4編を収録。戦争や原爆がもたらした悲しみを伝える。

913
お
〈広〉
小中～

ヒロシマのぬいぐるみ

おおた そら 著
パレード 2022年 87P

原爆が落とされる前の広島で、仕立て屋を営む老夫婦が残り布で作ったうさぎとくまのぬいぐるみ。それぞれの持ち主となった女の子と男の子がたどる運命を描いた表題作など、4編を収録。戦争で奪われた幼い命の物語を通して、平和の大切さを伝える短編集。

913
お
〈広〉
小高～

十四才の夏

(少年少女平和ライブラリー 4)

大谷 美和子 作
たざわ りえこ 絵
汐文社 1990年 131P

大好きな大叔父が被爆者であることを知り、広島への日帰り旅行で初めてその惨状を知った奈々子。過去のことは忘れ、嫌なことは見ない。そうした人々の生き方に疑問を持ち、自ら語り始めた大叔父と、それを真剣に受け止め生きていこうとする少女を描く。

913
お
〈広〉
小中～

海のむこうに

(原爆児童文学集 9)

大西 伝一郎 作
かみや しん 絵
汐文社 1985年 140P

原爆で妹を失い、両手両足を焼かれてしまったお母さんを支えて、四国の漁師の村で貝を採って生活する良太。都会っ子の良太が、周囲の優しさの中でたくましく成長していく姿を、村に古くからすむタヌキの目を通して描く。

913
お
〈広〉
小高～

朝の別れを —ヒロシマ、母と子の物語—

大野 允子 著
ポプラ社 2001年 191P

8月6日の朝、ミチは市内のほぼ中心地で、母マサノは家の中で原爆にあった。マサノはミチを探しに行くが、やっと出会えた娘は上半身がひどいやけどで……。被爆直後の人々の苦しみとともに、少しずつ希望を取り戻していくミチの姿を描く。

913
お
〈広〉
小中～

あした、またね！ —明日がなかった人たちへ—
(愛と心のシリーズ 10)

大野 允子 作
二俣 英五郎 絵
ポプラ社 1991年 175 P

広島原爆について書き続けている著者が、小学校4年生の冬、日本が太平洋戦争に突入するまでの思い出をつづった本。移り住んだ、本郷、三原、広島市郊外の川内村での日々を、原爆で、そして戦争で亡くなった多くの人々への追悼の気持ちを込めて振り返る。

913
お
〈広〉
小高～

あなたへ —1945年ヒロシマ・8月6日のない日記—
(あすなろ創作シリーズ)

大野 允子 作
鈴木 義治 絵
あすなろ書房 1985年 166 P

昭和20年8月5日で終わってしまった日記。それは、当時、広島第一高等女学校の1年生だった藤本佳子さんと石崎睦子さんの日記だった。原爆で亡くなるまでの二人の日記を通して、当時の女学生の姿を描く。

913
お
〈広〉
小中～

いないいない、いない —四つのひろしま物語—
(国土社の子どもの文学 5)

大野 允子 作
浜田 桂子 絵
国土社 1987年 126 P

原爆で死んだかっちゃんを埋めたサクラの木を今でも探し続けているおばあちゃんの話「うちのおばあちゃん」ほか3編を収録。肉親や友人を亡くし、今も「いないいない、いない……」とつぶやきながらあの日のことを思っている人たちを描いた短編集。

913
お
〈広〉
中学～

海に立つにじ —ある広島少女の物語—
(児童文学創作シリーズ)

大野 允子 著
講談社 1965年 210 P

島本緑は女学校1年生。広島で被爆し、背中に深い傷を負う。家族も失い、母の故郷に引き取られたが、学校では、異分子的存在になってしまう。やがて、緑は原爆症になり……。緑の死を通して、放射能の恐ろしさ、人間の愚かさを訴える作品。

913
お
〈広〉
小中～

かあさんのうた
(ポプラ社文庫 A99)

大野 允子 著
司 修 絵
ポプラ社 1981年 180 P

表題作「かあさんのうた」のほか7作品を収録。川のほとりにたつドームでの少女の被爆死を描く「川のほとり」、家族を原爆で失ったカッパの悲しさを描く「えんこう川のカッパ」など、原爆の悲惨さ、戦争の恐ろしさを訴える短編集。

913
お
〈広〉
中学～

消えていく詩^{うた}
(ポプラ社の創作文学 3)
大野 允子 作
織茂 恭子 画
ポプラ社 1976年 222 P

広島の親戚のところに来た姉妹が、トマト嫌いのおばあさんの戦争体験や、近所の時計屋の恩師の消息を調べ、戦争や原爆の残した傷を知る。原爆によって人生を狂わされた人にも触れ、周辺からヒロシマに迫っている。

913
お
〈広〉
小中～

げんさん
(あすなろ心の絵ぶんこ)
大野 允子 作
上野 紀子 絵
あすなろ書房 1986年 53 P

若くて正直者のぼくろげんさんは町や村の人気者。そんなげんさんの宝物はアラブの血をひく馬のホシだ。ところがホシは戦争でとられ、広島へ。そして原爆……。広島へ駆け付けたげんさんの見たものは……。原爆の惨状を目の当たりにした驚きと悲しみを描く。

913
お
〈広〉
小中～

白い鳥とねむの木の町
(新しいこどもの文学 5)
大野 允子 作
向井 康子 絵
小峰書店 1990年 111 P

8月の太陽より大きな火の球が、頭のすぐ上で砕け、れんが倉庫の中で死んだ子どもたち。それから何年も過ぎ、倉庫の屋根にはハトが止まり、れんが塀にはネムの枝が広がる……。広島は今と昔を交錯させ、原爆で死んだ者と生き残った者の悲しみ、怒りを描く。

913
お
〈広〉
小中～

チコとじぞうさん
(国土社の新作童話 5)
大野 允子 作
こさか しげる 絵
国土社 1977年 110 P

公園で1体の地蔵を見つけたミチコは、この地蔵が原爆の被害者の供養のために造られた物であることを知る。原爆で肉親を失った人々の今なお続いている悲しみを描いた作品。

913
お
〈広〉
小高～

つるのとぶ日 —ヒロシマの童話—
大野 允子 (ほか) 著
東都書房 1963年 177 P
(児童文学創作シリーズ) 鈴木 義治 絵
講談社 1977年 203 P
—ヒロシマ童話集— (講談社青い鳥文庫010-1)
鈴木 義治 絵 講談社 1980年 221 P

広島「子どもの家」同人たちが、昭和30年代後半に描いた、原爆児童文学の短編集。表題作「つるのとぶ日」をはじめ、17編の作品を、「8月6日」「後遺症の苦しみ」「反核の心」の3部に分けて収録。

913
お
〈広〉
小高～

虹をみた日 —ヒロシマ、少女あきの物語—
(心にのこる文学 17)

大野 允子 作
永田 治子 絵
ポプラ社 1995年 158 P

亜紀は、父の伯母の道子さんと共に、その義母シマ子さんが暮らす瀬戸内の島を訪れる。二人はシマ子さんから満州の話聞き……。被爆体験を語れずに生きてきた道子さんと、原爆の話題を避けていた亜紀の心の変化を描き、原爆が残した心の傷の深さを訴える。

913
お
〈広〉
小高～

八月の少女たち —ヒロシマ・1945—
(新日本少年少女の文学 24)

大野 允子 著
吉崎 正巳 絵
新日本出版社 1985年 152 P

8月6日、広島第一高等女学校1年6組56人中、広島にいた41人全員が死亡した。「生きたいんよ」そう訴えながら……。1年6組一人一人の足取りを、著者自らがたどり、まとめあげた記録。

913
お
〈広〉
小中～

母の川
(小学館の創作児童文学シリーズ 1)

大野 允子 作
鈴木 義治 画
小学館 1978年 142 P

被爆二世の母とその娘ミユキを描き、この母子を交互に主体として物語が進む。母は被爆者であった祖母を軸に、ミユキは母と自分の友達を軸にして、被爆の悲しみに触れ、それぞれが成長していく。

913
お
〈広〉
中学～

ひーちゃんはいった —広島少女たちの遺書—
(ポプラ社の創作文学 9)

大野 允子 著
ポプラ社 1977年 256 P
〔—原爆で逝った広島少女たちの遺書—
(ポプラ社文庫 A161) 1984年 266 P〕

ひーちゃんは、たったの13歳なのに原爆で亡くなった。当時のひーちゃんの日記とクラス日誌などを基に、1年先輩だった著者が戦時下のヒロシマの少女たちの姿を映し出す。

913
お
〈広〉
小高～

ヒロシマの少女
(長編創作シリーズ)

大野 允子 著
鈴木 義治 え
鈴木 琢磨 え
盛光社 1969年 265 P

父の贈賄容疑を知った日、14歳の昌子は学校を欠席する。しがし、その日、差別に苦しむ友人と過ごし、翌日は一人の女性の被爆による悲しみに触れる。昌子はこの2日間で成長し、父を理解しようとしていく。

913
お
〈広〉
小高～

ヒロシマ、八月、炎の鎮魂歌^{レクイエム}
(心にのこる文学 33)
大野 允子 作
永田 治子 絵
ポプラ社 1998年 164P

とう子さんは、タバコ工場で働く動員学徒。昭和20年8月6日の朝も、大好きな家族のことを思いながら工場に出かけた。けれどその朝、一発の爆弾が、広島を街を焼き尽くして――。15歳のとう子さんの目を通して、あの日のヒロシマを淡々と描く。

913
お
〈広〉
小低～

まめたんばあさん
(あすなろ心の絵ぶんこ)
大野 允子 作
上野 紀子 絵
あすなろ書房 1987年 51P

“まめたんばあさん”はちょっと変わったおばあさん。電気もガスも使わず今でも“まめたん”で料理する。小学生のケンジとまめたんばあさんのほのぼのとした交流を軸に、原爆で7人の身内を失い一人きりになった、まめたんばあさんの思いを描く。

913
お
〈広〉
小中～

見えないトゲ
(新選創作児童文学 13)
大野 允子 作
田代 三善 絵
国土社 1970年 142P

小学校4年生のマコトは、夏休みに瀬戸内海の島へ行き、同い年のタミコと姉のフサコに会う。フサコは胎内被爆が原因で、原爆小頭症だった。マコトは姉を思うタミコの悩みに触れ、被爆二世について真剣に考える。

913
お
〈広〉
小中～

ミナのあした
大野 允子 作
吉田 翠 画
岩崎書店 1989年 161P

ミナは、母の姉ミサ子が13歳の時に書いた日記を渡される。夢の中でミサ子に会ったミナは、昭和20年のミサ子の生活をたどる。空襲警報、食糧不足、慣れない畑仕事に奮闘するミサ子の日記は8月5日で終わる。県立広島第一高等女学校の生徒の日記を基に描く。

913
お
〈広〉
小高～

夕焼けの記憶
(国土社の創作児童文学 6)
大野 允子 作
小坂 しげる 絵
国土社 1973年 187P

中学2年の浅野由美は、谷清という画家に会い、彼が描く絵“ある少女の像”のモデルとなる。その少女とは、彼が少年の日に憧れた少女だった。広島で二人は被爆し、彼は重体の少女を担いで逃げたが……。

913
お
〈広〉
小中～

ゆりさんの花物語

(PHP創作シリーズ)

大野 允子 作

狩野 富貴子 絵

PHP研究所 1989年 131P

ブティック“^{リリー}LILY”の女主人ゆりさんは、いつも明るく人気者。でもそんなゆりさんにも悲しい思い出があった。戦死してしまった大事な人のこと、同じ島から出てきて原爆で死んださっちゃんのこと……。悲しみを抱えながらも強く生きるゆりさんの姿を描く。

913
お
〈広〉
小高～

おれたちにできなかったこと

(PHP創作シリーズ)

大原 興三郎 作

こぐれ けんじろう 絵

PHP研究所 1996年 208P

師匠・デッコ・洋平の3人は、廃線トンネルの中に止まっていた列車に乗り込む。気がつくと、そこは戦争中の日本だった。見えない力に操られた3人は、やがて8月6日の広島へと向かい……。原爆から列車を救おうと懸命に立ち向かう少年たちの姿を描く。

913
お
〈広〉
〈長〉
小高～

マンモスの夏

(創作のメロディ 3)

大原 興三郎 作

山野辺 進 絵

文溪堂 1995年 175P

麦彦は、義父を手伝うためにトラックに同乗し、名古屋へ向かっていた。その途中、風変わりなペテロじいさんと出会い――。8月6日の前日に寄った広島で触れた原爆のこと、じいさんの語る長崎の原爆で失った家族のことなどを織りまぜ、戦争の悲しみを訴える。

913
お
〈長〉
小中～

夏の記憶

(シリーズ平和の風 5)

丘 修三 作

多田 治良 絵

汐文社 1992年 119P

終戦直前の九州の田舎町。静かな町に起きる戦争によるドラマを、3人の少年の目を通して淡々と描く。米軍機の不時着、空を焦がす隣町の空襲、機銃掃射……。正吉の家でも、中学生の兄が勤労働員で長崎に行き、原爆で帰らぬ人となる。

913
お
〈広〉
小中～

わすれていてごめんね ―夾竹桃物語― ―改訂版―

緒方 俊平 画・文

ガリバープロダクツ 2000年 43P

原爆で枝も葉っぱも燃え始めたキョウチクトウは、一匹の犬に助けを求めた。犬は、仲間を呼び、燃えるキョウチクトウたちに水をかけて木を救ったが……。キョウチクトウが語る「あの日」のヒロシマを通して、原爆で奪われたすべての生命を悼む。

913
お
〈広〉
小高～

空を飛んだ夏休み ―あの日へ―

丘乃 れい 作
大西 雅子 絵
東方出版 2018年 92P

ゆみは、班学習で曾祖母の疎開先の広島を調べることに。ある日、曾祖母が戦時中失くした人形ミリーと1945年8月6日の広島にタイムスリップし、原爆投下の瞬間を目の当たりにする。平和の中で育った子どもたちに、核の恐ろしさと平和の大切さを伝える。

913
お
〈広〉
小高～

歌よ川をわたれ (児童文学創作シリーズ)

沖井 千代子 作
こさか しげる 絵
講談社 1980年 253P

昭和16年、佐山一家は広島へ引越した。そこで3人の姉妹はのびのびと生活していたが、8月6日の原爆で、父と学童疎開していたゆり子を残して、みんな亡くなった。平和な生活を打ち碎いた原爆を描く。

913
お
〈広〉
中学～

ピラミッド帽子よ、さようなら (理論社の大長編シリーズ)

乙骨 淑子 作
長谷川 集平 絵
理論社 1981年 379P
〔復刻版 2010年 363P〕
〔新装版 2017年 412P〕

洋平は、浅川ゆりにそっくりな浅川ゆきと出会い、仲間と共に地下の国へ向かう。その頃ゆりは病院に入院していた……。最終章で、ゆりは被爆二世として生涯を閉じている。この章は、作者逝去のため未完となっていた部分で、小宮山量平の補筆で完成している。

913
お
〈広〉
小中～

ちちんぷいぷいとんでいけ (原爆児童文学集 23)

小野 和子 作
永井 紗智子 絵
汐文社 1985年 132P

あや子先生は、12歳の時原爆にあい、一人だけ生き残った。夏になると「あの日」を思い出して、生き残ったことに強い負い目を感じ、我を忘れてしまう。そんなあや子先生が国連へ平和を訴えに出かけるまでの葛藤を描く。今も被爆者の心に重く残る原爆を描いた作品。

913
か
〈広〉
小低～

人形レストラン
(怪談レストラン 34)
怪談レストラン編集委員会 〔編〕
かとう くみこ 絵
童心社 2004年 142P

人形にまつわる怖い話を、オムニバス風に13話収録した怪談集。最初のおはなし「人形レストランができたわけ」では、ヒロシマの原爆で亡くなった女の子と人形の不思議な物語が、最後のおはなしでは原爆で亡くなった子どもを悼む詩が載せられている。

913
か
〈長〉
中学～

脱走者たち
(理論社のロマンブック)
片山 昌造 作
いいの としお え
理論社 1973年 213P

自由を求めて逃走した黒犬ケルンの子ランは、原爆を受けた人々の住む村の大人から、放射能を象徴する魔物として命を狙われる。被爆の惨状と被爆者の癒やされない心身の傷を描く。

913
か
〈広〉
小高～

八月のすきまに
(ピース・セレクション 2)
辛島 萌 作
狩野 ふきこ 絵
新日本出版社 2005年 174P

中学2年のすずは、夏休みの部活中に学校の階段から落ちた。目を覚ますと、そこは1945年8月、原爆投下直前の広島で、すずは知らない人に「鈴子」と呼ばれ——。戦時下の広島にタイムスリップし、原爆を体験してしまった少女の心の成長を描く。

913
き
〈広〉
小高～

ちなみ
因の木と少女たちの40年
(原爆児童文学集 25)
菊地 澄子 作
津田 櫓冬 絵
汐文社 1986年 171P

中国山地の口和村には、広島から集団疎開してきた子どもたちがおり、家族のもとへ帰りたいと願っていた。しかし、原爆により、ほとんどの子が家族を失い、たまたま広島に帰っていたエミ子は……。口和村を舞台に、子どもたちの戦後40年の生きざまを描く。

913
き
〈広〉
小高～

ひとりひとりの戦争
(理論社のロマンブック)
菊地 澄子 作
鈴木 琢磨 え
理論社 1975年 222P

昭和19年から終戦までの県北の子どもたちの姿を描く。その子どもたちの生活にも戦争の暗い影がおちる。広島からの疎開児童と村の子は、衝突しながらも親しくなるが、8月に広島へ帰った子らに不幸が降りかかる。

913
き
〈広〉
小高～

もえる吹雪
(原爆児童文学集 26)
菊池 鮮 作
市川 禎男 絵
汐文社 1985年 189P

啓太の家で暮らすキンじいさんが交通事故で亡くなった。特攻隊長だった当時、広島に帰した妻子を原爆の犠牲にしまったことを悔やみながら。人間を人間でなくしてしまう戦争の恐ろしさを知り、成長していく啓太たちの姿を描く。

913
き
〈広〉
小高～

ヒロシマの子守唄

(原爆児童文学集 16)

菊地 正 作

こさか しげる 絵

汐文社 1985年 166 P

八王子から母の郷里の広島に、母よりひと足先に疎開してきた康男。指折り数え待ち続け、やっと母と暮らせると思ったのもつかの間、閃光、うずまき……。康男の耳に、母の歌う子守唄が聞こえた。

913
き
〈広〉
〈長〉
小高～

バオバブのゲンバク —短編集—

(原爆児童文学集 29)

木村 功 (ほか) 作

会田 恵津子 絵

汐文社 1986年 196 P

コウジとタクジは、田舎へ行く汽車の中で見知らぬおばあさんから原爆の話聞く。そして、田舎で水筒のことでけんかをしていた二人は、おじいさんから、水筒にまつわる原爆の悲しい話を聞かされる。この「小さなお墓」ほか8編を収録。

913
き
〈広〉
小高～

広島にチンチン電車の鐘が鳴る

きむら けん 著

高橋 透 装画

汐文社 1999年 162 P

軍隊に行った男性の代わりに、電車の車掌や運転士を担うこととなった、広島電鉄家政女学校の生徒たち。電車が大好きな浩作は、その学校に通う運転士の姉を慕っていた。ところが8月6日の朝に……。浩作の目を通して、戦時下を生きた少女たちの日常を描く。

913
き
〈長〉
小高～

さようならかげぼうし

(原爆児童文学集 15)

木村 英代 作

多田 治良 絵

汐文社 1985年 144 P

長崎。8月9日。壁に映ったおかあさんのかげぼうし、小頭症の妹ゆり、被爆した少女の自殺、白血病で亡くなったはつきおばさん……。精霊流しを見ながら、和夫は平和の大切さを痛感する。

913
き
〈広〉
小高～

白い町ヒロシマ

(現代・創作児童文学)

木村 靖子 作

梶 鮎太 画

金の星社 1983年 172 P

〔フォア文庫 C060〕 1985年 180 P〕

昭和20年、靖子一家は雪の広島へ引越す。学童疎開した靖子は、そこで原爆によって母、姉、弟を亡くしたことを知る。作者の体験を描き、戦争を知らない世代に平和を訴える。

英語版： ⁹¹³
K 『WHITE TOWN HIROSHIMA』

Yasuko Kimura 作
Nobuko Ueno 訳
Jerri Okada 訳
BUNKA HYORON PUBLISHING COMPANY
1985年 79P

913
く
〈広〉
小高～

かげふみ

朽木 祥 作
光村図書 2023年 167P

夏休みに広島を訪れた拓海^{たくみ}は、図書室で澄^{すみ}という少女に出会う。雨の日にしか現れない彼女が探す「影の話」を調べるうち、原爆の熱で焼け付いた影のことを知る。この表題作を含め、広島に残る原爆の痕跡に触れ、犠牲となった少女たちに思いをはせる2編を収録。

913
く
〈広〉
中学～

八月の光

朽木 祥 作
偕成社 2012年 145P

父を戦争で亡くし、母と二人で暮らす光子は、疎開の前日に、家の中で被爆する。銀行に出かけたまま帰ってこない母を探しに行った光子が見たものは——。この「石の記憶」など、広島の原因を体験し生き残った若者の、悲しみや苦悩を描いた3編を収める。

913
く
〈広〉
中学～

八月の光 一失われた声に耳をすませてー

朽木 祥 作
小学館 2017年 251P

『八月の光』、文庫『八月の光・あとかた』に続く新装版。祖母の被爆体験を聞いた「私」が、原爆で亡くなった人のことを忘れないと誓う「カンナあなたへの手紙」など2編を追加。原爆で失われた人々の声を届けたいという著者の思いが込められている。

913
く
〈広〉
中学～

八月の光・あとかた (小学館文庫)

朽木 祥 著
小学館 2015年 237P

父が戦死し、母と二人で広島に暮らす光子は、原爆投下の朝出かけたまま帰ってこない母を探しに行くが……。この「石の記憶」など、原爆を体験した若者の苦しみや悲しみを描いた全5編を収める。2012年刊『八月の光』を改稿し、書き下ろし2編を加えて文庫化。

913
く
〈広〉
中学～

パンに書かれた言葉

朽木 祥 作
小学館 2022年 285 P

日本人の父とイタリア人の母を持つエリーは、東日本大震災の後母の故郷を訪れ、ファシストに殺された祖母の兄のことを知る。さらに、父の故郷、広島で原爆の惨禍について聞き、二度と同じ過ちを繰り返さないために、言葉で伝えていくことの大切さを心に刻む。

913
く
〈広〉
中学～

光のうつしえ —広島 ヒロシマ 広島—

朽木 祥 作
講談社 2013年 189 P

中学生の希未^{のぞみ}たちは、恋人を亡くした教師や娘たちを失った夫婦などから広島での被爆体験を聞き、彼らの思いを絵や彫刻で描き出そうとする。灯籠流しの描写から始まる静かに流れるような文で、原爆投下によってもたらされた事実と残された人々の苦悩を伝える。

913
く
〈広〉
小中～

彼岸花はきつねのかんざし

(学研の新・創作シリーズ)

朽木 祥 作
ささめや ゆき 絵
学習研究社 2008年 175 P

戦時下の広島で暮らす4年生の^{かのこ}也子は、竹やぶで一匹の子ぎつねに話しかけられる。その時から徐々に子ぎつねと親しくなるが、ある日原爆が投下され……。かけがえのない日常を原爆によって奪われた悲しみを、少女と子ぎつねの交流を通して語る。

913
く
〈広〉
小高～

チビ兵行進曲

(少年少女平和ライブラリー 3)

熊谷 本郷 作
鈴木 孝子 絵
汐文社 1989年 167 P

戦争で受けた傷がもとで、思うように働けず、自暴自棄になっていく父と家族を抱えて苦勞する母。良兵は、そんな両親と別れ、親せきの間を転々とし、さまざまなつらい目にあう。原爆投下後の広島を舞台に、たくましく生き抜いていく少年の姿を描く。

913
く
〈広〉
小高～

どえりゃあやつ —原爆を生きぬいて—

(鈴の音童話)

熊谷 本郷 作
なんば 孝子 絵
銀の鈴社 2023年 229 P

昭和22年終戦後の広島。6歳のジョーは、生き残った家族や仲間と共に靴磨きなどでお金を稼ぎ、生活していた。だが、両親の入院のため親戚に預けられ……。祖父の死や貧困、差別など惨めな生活を生々しく描写。それでも力強く生き抜く姿を著者の体験を基に描く。

913
く
〈広〉
小中～

泣くな、東太

(鈴の音童話)

熊谷 本郷 作

吉野 晃希男 絵

銀の鈴社 2014年 175 P

原子爆弾で家を失った小学3年生の東太は、広島近くの町、八本松に移り家族で暮らしていた。彼は戦争孤児となった友人や父と弟の死、病を抱えた被爆者の苦しみ、不発弾の恐怖などを目の当たりにする。家族を守ろうと懸命にたくましく生きる少年を描いた物語。

913
く
〈広〉
小中～

おばけ雲

(新日本子どもの文学 5)

来栖 良夫 作

市川 禎男 絵

新日本出版社 1969年 142 P

〔(栗栖良夫児童文学全集 2)〕
岩崎書店 1983年 232 P

洋二は、いたずら好きの小学4年生。兄と従姉と共に呉に住んでいる。戦争も激しさを増したある朝、青い光が走り、体がとばされた。そして、おばけ雲が広がるのを見た。

913
く
〈広〉
〈長〉
小高～

太陽の落ちた日 ―ヒロシマ・ナガサキ原爆児童文学選―

来栖 良夫 (ほか) 編

労働教育センター 1980年 236 P

「墓標」(峠三吉作) など詩6編と、「ヒロシマの歌」(今西祐行作) などの短編9編を収録。作品は全て、広島・長崎の原爆について書かれたもの。巻末に原爆児童文学紹介、原爆児童文学一覧などを掲載。

913
こ
〈広〉
小高～

この世界の片隅に ―ノベライズ―

(双葉社ジュニア文庫)

こうの 史代 原作

蒔田 陽平 ノベライズ

双葉社 2016年 239 P

広島から呉に嫁いだ18歳のすず。素直でおっとりしたすずは、やがて新生活にも慣れていった。しかし、戦時下の空襲や原爆で身内を失い、自らも深い傷を負う。多くの試練に遭いながらも、前を向き、日々を生きる姿をつづる。原作漫画と映画を基に小説化。

913
こ
〈広〉
小高～

夕凧の街桜の国 ―ノベライズ―

(双葉社ジュニア文庫)

こうの 史代 原作・イラスト

蒔田 陽平 ノベライズ

双葉社 2017年 148 P

昭和30年の広島。焼け跡にできた集落に母と二人で暮らす皆実(みなみ)は、会社の同僚に思いを打ち明けられる。だが原爆投下時の光景が忘れられず……。この「夕凧の街」と、昭和62年から平成へと続く皆実の姪、七波(ななみ)の物語「桜の国」を収録。同名コミックを基に小説化。

913
こ
〈広〉
〈長〉
小低～

心がホッとする話 1年生下・2年生下・4年生下

ーやさしさとおもしろさをだいじにする本ー

井上 こみち (ほか) 文
井上 こみち (ほか) 文
七尾 純 (ほか) 文
学習研究社 1999年
135P・143P・159P

小学生の体験集を学年ごとにまとめたシリーズのうちの3冊。「ひばくカキの木をたすけた、木のおいしゃさん」のほか、被爆エノキや千羽づるをテーマにした話を収録。それぞれの体験や活動を通じて、原爆や平和について感じたことが描かれている。

913
こ
〈広〉
小中～

くちなしの花 八月 ーヒロシマ ヤケノハラニ ナルー

児玉 辰春 文
長澤 靖 絵
草土文化 2001年 110P

昭和20年7月、山の中に落ちた米軍機に乗っていたアメリカ兵が口にしたのは「8月6日、ヒロシマが焼け野原となる」という言葉だった。その場にいた兵隊にきつく口止めされたヨシ子だったが……。40年間誰にも言えずにいた木村ヨシ子さんの話を基に描かれた物語。

913
こ
〈広〉
小中～

まっ黒なおべんとう

(新日本にじの文学 18)

児玉 辰春 作
北島 新平 絵
新日本出版社 1989年 115P

中学生の折免しげる君は、出征した兄からもらったお弁当箱を持って、毎日建物疎開に出かけていた。8月6日の朝も好物をつめてもらい、家を出るが……。広島平和記念資料館に展示されている、炭化してまっ黒になったお弁当に秘められた悲劇を描く。

913
こ
〈広〉
小中～

よっちゃんのビー玉

(新日本子ども図書館 2)

児玉 辰春 作
北島 新平 絵
新日本出版社 1990年 109P

実男は、年の離れた弟のよっちゃんをとててもかわいがっていた。入隊した実男は死を覚悟して、よっちゃんに別れを告げる。しかし、昭和20年8月6日よっちゃんの住む広島に原爆が落ちて……。広島平和記念資料館にある溶けたガラス瓶にまつわる実話を基に書かれた物語。

913
こ
〈広〉
〈長〉
中学～

ある晴れた夏の朝

小手鞠 るい 著
偕成社 2018年 205P

日本人とアメリカ人の両親を持ち、アメリカに住むメイは、15歳の夏、公開討論会に参加した。テーマは広島、長崎への原爆投下の是非について。中国系、ユダヤ系、アフリカ系などさまざまなルーツを持つ高校生が集まり、肯定派と否定派に分かれディベートする。

英語版： ⁹¹³_K 『On A Bright Summer Morning』

Rui Kodemari 著
Guren Sariban 訳
KAISEI-SHA 2021年 161 P

913
こ
〈広〉
中学～

おかあさんの被爆ピアノ

五藤 利弘 著
講談社 2020年 172 P

被爆三世の葉々子は、母が祖母の被爆ピアノを調律師の矢川に託したと知り、彼に付いて広島を訪れる。被爆ピアノを通して平和を訴える彼の活動や、街に残る原爆の跡に触れ、自分を広島から遠ざける母の思いに気付いていく。実話を基にした映画のノベライズ版。

913
こ
〈広〉
小中～

ヒロシマの夏

(いっしょうけんめい物語 2 広島県 1)
子どもと文学の会 編
高田 勲 絵
国土社 1990年 175 P

何らかの形で広島に関わり生きてきた12人の作家たちの短編集。いっしょうけんめいに生きる子どもの姿を描く。特に「雨があがるまで」「野いちごのころと彼岸花」では、各々の原爆にまつわる思い出が淡々と語られており、生きることの重さを感じさせる。

913
こ
〈広〉
小高～

トンネルとビー玉とわすれ貝

子どもの家同人 編
牧書店 1971年 232 P

家族同然に暮らす由比^{ゆい}さんの頬には、傷がある。それが原爆によるものだと知ったぼくは……（「とげ」）。原爆症で苦しむ母を持つ三平と、やけどの跡に苦しむ女性、みさとの交流を描く「三平のぱちんこ」など9編を収録。広島の人誌から生まれた短編集。

913
こ
〈広〉
小中～

遠い国からきた小さな友だち

こにし ひでこ 作
末吉 陽子 絵
新風舎 2007年 79 P

日米親善大使として、アメリカから来た1万2739体の青い目の人形たち。その中のシャーリーは、ちえちゃんのもとに。仲良くなった二人を待っていたのは、アメリカと日本の戦争、そして原爆だった。人形たちの目を通して、戦争の愚かさを伝える実話に基づく物語。

913
さ
1～3
〈長〉
小高～

ロザリオの祈り 1～3

(ジュニア・ノンフィクション 9～11)

- 1 ー長崎の原爆を生きぬいてー
- 2 ー少女にのこした原爆のつめあとー
- 3 ー原爆を受けた少年が見つけた愛の道ー

さかい ともみ 作

青空 風太郎 絵

教育出版センター 1984年 138P・152P・154P

永井博士とその子どもたちの話(1)、元渕国民学校の少女たちと女教師の話(2)、小崎修道士の話(3)。それぞれに、原爆にあい苦悩しながらも清廉な心を持って生きた人々の実話に基づき、長崎の原爆を描いた3部作。

913
さ
〈長〉
小中～

あの子らの碑

(長崎の原爆シリーズ 6)

坂口 便 作

村上 新一郎 画

あらき書店 1982年 47P

山里小学校では原爆によって1300名もの子どもたちが死亡した。その悲惨な体験を継承しようとした永井博士と、それに応えた教師、子どもたちの姿を描く。長崎の山里小学校にある「あの子らの碑」の由来記。

913
さ
〈長〉
小中～

消えてしまった町

(続・長崎の原爆シリーズ 下巻)

坂口 便 作

平田 賢昭 画

あらき書店 1987年 44P

爆心^{まつやままち}地松山町に住み、生き残った内田伯^{つさか}さんは、町の人々が生きた証に『松山町復元地図』の作成を決意。賛同する住民と共に始めたこの取り組みは、他の町にも広がり、爆心から2km以内の町での復元運動につながる。この表題作を含む実話に基づく5話を収録。

913
さ
〈長〉
小中～

原子雲を見た子どもたち

(長崎の原爆シリーズ 1)

坂口 便 作

村上 新一郎 画

あらき書店 1980年 32P

浦上に住む父母から離れ、山の家で祖母と疎開していた昭太と百合子。ある日二人は、浦上一帯から巨大な雲が立ちのぼるのを見た。原爆による母の死も知らず、原子雲を見た子どもたちの話。

913
さ
〈長〉
小中～

原子野の汽笛

(続・長崎の原爆シリーズ 中巻)

坂口 便 作

榎田 八郎 画

あらき書店 1986年 44P

事故のため列車が遅れたおかげで、原爆の直撃を避けられた機関車は、乗客を降ろした後、爆心地に向かい被爆者の救出を行う。“原爆救援列車第一号”について描いた「原子野の汽笛」。ほかに「二度原爆を受けた人」など、実話に基づいた話5編を収めている。

913
さ
〈長〉
小中～

原子爆弾『でぶっちょ』
(続・長崎の原爆シリーズ 上巻)
坂口 便 作
平野 伸人 画
あらき書店 1988年 43P

アメリカ、オハイオ州にある空軍博物館。そこには広島型・長崎型の原爆模型を積んだB29が展示してある。なぜ、原爆は2度も投下されたのか？ 主人公の疑問と怒りは募る。この「原子爆弾『でぶっちょ』」ほか長崎の被爆にまつわる実話を基にした5編を収める。

913
さ
〈長〉
小中～

世界でいちばん悲しいクラス
(長崎の原爆シリーズ 3)
坂口 便 作
村上 新一郎 画
あらき書店 1981年 47P

昭和27年、浦上の爆心に近い城山小学校に、「原爆学級」と呼ばれる養護学級ができた。被爆児および胎内被爆児と対照児からなり、6年間続いたこのクラスができるまでを中心に、原爆が子どもたちに残した傷跡を描く。

913
さ
〈長〉
小中～

土のなかの顔
(長崎の原爆シリーズ 5)
坂口 便 作
村上 新一郎 画
あらき書店 1982年 47P

被爆したがなんとか助かった孝一。しかし、父は行方不明のまま、母と妹弟は次々死亡し、祖母と二人きりで残される……。子どもの目を通して、原爆の惨状とその後の生活の苦闘を描き、キリスト教信者と原爆の問題にも触れる。

913
さ
〈長〉
小中～

なぐさめの天使
(長崎の原爆シリーズ 4)
坂口 便 作
村上 新一郎 画
あらき書店 1981年 36P

10歳のシノブは、長崎の原爆にあい、母と兄と姉の3人を一度に亡くし、家も焼かれた。そんなある日……。人々を一瞬にして不幸に追いやった原爆。その悲惨さを、悲しみにうちひしがれるシノブ一家にやってきた、ふしぎな迷子のお話を絡めて描く。

913
さ
〈長〉
小中～

見えないほうがよかった
(長崎の原爆シリーズ 2)
坂口 便 作
村上 新一郎 画
あらき書店 1980年 32P

「ピカッ！」の強い光線のため失明した静夫が、やっと見えるようになったのに、父親は原爆症で苦しみ死んでしまう。長崎に投下された原爆による人々の悲惨な姿を、被爆し負傷した静夫一家を通して描いた作品。

913
さ
〈広〉
小高～

ラグリマが聞こえる ―ギターよひびけ、ヒロシマの空に―

ささぐち ともこ 著
くまおり 純 絵
汐文社 2020年 139P

広島に住む5年生の美音^{みおん}は、近所の洋館から聞こえてきたギターの旋律に驚く。それは亡き父との思い出の曲「ラグリマ」だった。演奏するおじいさんが何者か調べるうちに、戦時中の自身の祖父との関係について知ること。実在する被爆ギターを題材にした物語。

913
さ
〈長〉
小低～

かずさんの手

佐和 みずえ 作
かわい ちひろ 絵
小峰書店 2021年 62P

ある夏の日、みかはひいおばあちゃんのかずさんから、長崎に原爆が落とされた日の話を聞く。海軍病院の看護師だったかずさんは、被爆して次々と運ばれてくる人たちの母を呼ぶ声にこたえ、手を握り返したことを話す。原爆の悲惨さを分かりやすく伝える作品。

913
さ
〈広〉
小中～

赤い風よふけ

(原爆児童文学集 21)
沢井 充子 作
渡辺 安芸夫 絵
汐文社 1986年 128P

幸太の家は、広島を中心に近い商店街でラーメン屋をしている。原爆でおじいさんを亡くしている幸太は、日頃から、原爆の惨状や戦後の生活などを聞きながら育ってきた。原爆の恐ろしさは、何年たっても消えないものだということを描いた作品。

913
し
〈広〉
中学～

48色の夢のクレヨン ―ヒロシマからワシントンDCに届いた絵―

一日米平和の架け橋―
重藤静美マナーレ 著
佐藤 綾子 編集
池田出版 2013年 131P

〔第3版 ―ヒロシマからワシントンDCに届いた絵―
一日米平和の架け橋― 記録映画「ヒロシマの校庭から届いた絵」取材と自らの体験に基づく物語―
重藤マナーレ静美 著 2015年 179P〕

60年前、本川小学校の児童が、アメリカから届いた文房具などのお礼にと絵を描いて贈った。その絵が発見されたと報じる新聞を目にした花子は、原爆で家族全員を失った当時の状況を思い起こす。実話を基にした物語。巻末に贈った48点の絵や書を掲載する。第2版。

913
し
〈広〉
中学～

夢のクレヨン希望にのって ―ワシントンDCに届いたヒロシマの子供の心―

重藤静美マナーレ 著
文芸出版 2019年 191P

原爆で家族を失い、叔母と暮らす花子は本川小学校に通い始めた。ある日、学校に米国から贈り物が届き、その中の画材で絵を描くことに。広島の小学生の絵と書が米国で約60年後に再発見された史実と当時の人々の体験を基にした物語。他社刊を改題、加筆修正。

913
し
〈広〉
小高～

アイリーンのとうろう

(児童文庫 11)

柴田 克子 著

永井 吐無 絵

アリス館 1976年 145 P

米国人の父と日本人の母を持つアイリーンは、ある日鼻血を出して倒れる。体調が悪い中、母からもらうはずだった人形の秘密を調べていた彼女は、母が原爆投下13日後のヒロシマの町を歩いたことを知る。原爆の事実を語り継いでほしいと願う少女の姿を描く。

913
し
〈長〉
小中～

十五年めのおくりもの ―戦争と友情の物語―

(みんなで話しあおう！にんげん発見シリーズ)

柴山 一郎 作

村田 収 絵

金の星社 1997年 85 P

栄太は、学徒動員で働いていた長崎造船所で被爆した。それから15年後、原爆による後遺症の心配はあるものの親子3人幸せに暮らしている栄太のもとに、一つの小包が届いた……。2人の青年の友情を通して、人々の心にいつまでも残る戦争の傷の深さを描く。

913
し
〈広〉
小低～

つるにのって ―とも子の冒険― ―アニメ版―

ミホ・シボ 原案

金の星社 1994年 85 P

6年生のとも子は、夏休みの宿題をするため、たった一人で福山から、広島市の平和記念公園に来ていた。広島平和記念資料館で原爆の恐ろしさを感じたとも子は、公園の中の“原爆の子の像”へ向かい……。短編アニメーション映画「つるにのって」を基に作られた本。

913
し
〈広〉
〈長〉
小高～

遙かなトナカイの国

(新創作児童文学 3)

清水 道尾 作

阿嘉 まさご 画

岩崎書店 1991年 229 P

春休みにラップランドを訪れた絵里はミッケルと友達になった。だが、帰国直後、チェルノブイリで原発事故が起き、放射能汚染がラップランドにも及んできた。ミッケルを心配する絵里だが……。広島・長崎の原爆を踏まえながら、死の灰と原発の怖さを訴える。

913
し
〈広〉
小中～

とべ、ぼくの鳩よ

(みんなの文学 20)

下嶋 哲朗 作・絵

金の星社 1984年 185 P

ある日、炎太は片目の鳩をつかまえた。その日から、無口な父ちゃんとよく話をするようになった。原爆の苦い傷跡を抱え、がんこにかじ屋を続ける父と、父の生き方を知ること、成長する息子の姿を描く。

913
し
〈広〉
小低～

ちゃんちゃこばあちゃん

(太平けっさく童話 どうわのうみへ 3)

正田 篠枝 作

榎本 めぐみ 絵

太平出版社 1980年 73P

原爆のため右手が不自由になったおばあさんは、小さな店を開き、周囲の人々の協力を得ながら淡々と生きていく……。原爆の悲惨さとそれを乗り越えていくおばあさんの姿を描いた作品。『ピカッ子ちゃん』の中の1編。

913
し
〈広〉
小中～

ピカッ子ちゃん

(母と子の図書室 34—42)

正田 篠枝 作

なかの ひろたか 絵

太平出版社 1977年 164P

原爆投下後、救護所で生まれた女の子はピカッ子ちゃんと名付けられた。母子は多くの人々に支えられ、またピカッ子ちゃんの成長は人々に勇気を与えるが……。表題作「ピカッ子ちゃん」ほか、老婆が語る形で広島の被爆者たちを描いた6編を収録。

913
し
〈広〉
小低～

ことりになったエノキ

(新日本ひまわり文庫 II・8)

白木 恵委子 さく

ふりや かよこ え

新日本出版社 2002年 69P

原子爆弾によって傷つきながらも生き残ったエノキは30年後、たくさんの人々に守られていた。ところがある日、台風で幹が折れてしまい……。コカリナという楽器に生まれ変わり、平和を願う音楽会で演奏されている被爆エノキの物語。

913
し
〈長〉
小低～

人形がかぞえる子もりうた

(草炎社新こども文庫 8)

白根 厚子 作

遠藤 てるよ 絵

草炎社 1996年 85P

赤いふりそでの人形が来たのは、日本人形ばかりいる人形の家だった。この家に住んでいるおじいさんとおばあさんが、長崎で亡くなった子どもたちの代わりに毎年一体ずつ集めていたのだ……。原爆で幼い生命を失った家族の悲しみを、実話を基に描いたもの。

913
す
〈広〉
小高～

夏の花たち —ヒロシマの献水者 宇根利枝物語—

鈴木 ゆき江 著

ひくまの出版 2004年 169P

大好きな祖母を亡くしたばかりのゆきは、平和公園で宇根利枝というおばあさんと出会う。祖母に似た宇根さんにひかれたゆきは、一緒に原爆慰霊碑に献水してまわることになり……。実在の人物をモデルに、平和を守り、命を受け継ぐことの大切さを伝える物語。

913
す
〈広〉
小中～

ヒロシマのいのちの歌

鈴木 ゆき江 作
末崎 茂樹 絵
ひくまの出版 2001年 135 P

知里は、あやのおばあさんに「母さんエノキ」の話をしてもらうのが大好きだ。でも、8月6日から先のことは聞かせてもらえなくて……。原爆で家族を失い、エノキを心の支えにしてきたおばあさんと子どもたちとの交流を、平和への願いを込めて描いた物語。

913
す
〈広〉
小中～

おばあさんのとっくり

(日本の幼年童話 29)
砂田 弘 作
富永 秀夫 絵
岩崎書店 1977年 114 P
〔(フォア文庫 B017) 1980年 170 P〕

短編5編を収めた童話集。表題作「おばあさんのとっくり」は、両親、夫と次々に死別し、原爆で娘夫婦を失ったフサばあさんの一生の物語。残された孫を抱えて、ぼうぜん自失となるフサばあさんが、やがて孫を支えとして立ち直っていくさまを描いている。

913
す
〈広〉
小高～

バウムクーヘンとヒロシマ ―ドイツ人捕虜ユーハイムの物語―

巢山 ひろみ 著
銀杏 早苗 絵
くもん出版 2020年 175 P

夏休み、6年生の颯太^{そうた}は、ピースキャンプ・イン似島に参加。そこで、日本にバウムクーヘンを伝えたドイツ人菓子職人ユーハイムのことを知る。彼と後の原爆ドーム、物産陳列館との関わりや、似島の歴史を教わるうち、颯太は祖父の戦争への思いに気付いていく。

913
せ
〈広〉
小中～

十日間のお客 ―愛とまごころの物語―

(現代日本の童話 1)
関 英雄 編
大石 真 編
古田 足日 編
小峰書店 1970年 227 P

三郎は、父を交通事故で亡くした後、母も原爆症で失い、兄と二人で暮らしている。同じように両親を原爆で亡くした大学生と、三郎の交流を描いた「三郎のきょうのできごと」(山口勇子作)。ほかに8編の作品を収める。

913
せ
〈広〉
小中～

ヒロシマのうた ―戦争と平和の物語―

(現代日本の童話 12)
関 英雄 編
大石 真 編
古田 足日 編
小峰書店 1971年 223 P

原爆について知りたいと思い、北海道からやって来た学生と、広島の高校生との出会いを描く「いじわるアニキ」(山下夕美子作)と「ヒロシマのうた」(今西祐行作)を収める。ほかに、第二次世界大戦下と戦後の作品6編を収録。

913
そ
〈広〉
小高～

ねこになった少年

征矢 清 作
やまだ 紫 画
岩波書店 1988年 349 P
〔(岩波少年文庫 2138) 1996年 379 P〕

ねこに変身したぼくは、ねこたちが核に対する予感を人間に伝えたいと思っていることを知った。そんなある日、花火を見て、広島原爆の話思い出して、自分が人間であったことに気付く。そして、予感を人間に伝える使命を持って、人間世界へ戻る決心をした。

913
た
〈長〉
小中～

ナガサキのおばあちゃん

高橋 克雄 作
吉田 隆 絵
『ナガサキのおばあちゃん』出版支援会
2006年 175 P

長崎におばあちゃんと二人で住むケンちゃんは、母親の再婚により、仲良しの友達とも別れて朝鮮に行くことになる。4年後、おばあちゃんや友達は原爆にあい……。原爆によって亡くなった多くの長崎の人々をしのびつつ、戦争の愚かさを訴える物語。

913
た
〈広〉
小中～

地図にない島へ

武田 英子 文
吉本 宗 絵
農山漁村文化協会 1990年 164 P

夏休みにおばあちゃんと大久野島へ出かけたミキは、おばあちゃんから、戦争にまつわる島の過去を聞く。軍事秘密として地図から消された島には、一体何があったのか？ 被爆直後の広島の惨状などを交えながら、戦争のもたらす狂気と悲しみを描く。

913
た
〈広〉
小高～

あしたへげんまん

(新日本創作少年少女文学 11)
竹田 まゆみ 著
小坂 しげる 絵
新日本出版社 1971年 206 P

広島市郊外の国民学校に通う、ケンチ、エツオ、ミカ、ヒロコの4人組の、日米開戦から敗戦までの日々を描く。学童疎開中に、広島に投下された原爆は、皆の父や母たちを奪った。そして、9月、広島に戻ったケンチたちは、二度と戦争を起こさないよう誓いあう。

913
た
〈広〉
小中～

風のみた街

(創作こども文学 3)
竹田 まゆみ 作
司 真実 画
ポプラ社 1985年 174 P

“風”は洪介が好きだった。少年の日々、原爆で家族、友人を失った時、息子を交通事故で亡くした時、そして洪介の最期。“風”はいつも洪介のそばにいた。“風”の目を通して、日本の歩んできた道を見て、命の大切さを訴える。

913
た
〈広〉
小中～

ガラスびんの夏

(原爆児童文学集 3)

竹田 まゆみ 作

石倉 欣二 絵

汐文社 1985年 134P

広島のおじいちゃんが、良太の家にやってきたが、夜ごとパジャマめくりをするようになった——。長男を原爆の放射能で失った時の不安、悲しみを死ぬまで抱え続けた祖父を通して、原爆への憤りを描く。

913
た
〈広〉
小中～

四年一組にきた子

(こども文学館 35)

竹田 まゆみ 作

山中 冬児 絵

ポプラ社 1983年 182P

田中先生のクラスに、森ユキコという女の子が転校してきた。ユキコは驚くと「ワーッ」と声をあげる不思議な子。実は、田中先生が小学校の時、原爆で亡くなった友達林幸子^{さちこ}が、“4年生の女の子が生きている”ことを感じるために、この世を訪ねたのだった……。

913
た
〈広〉
小中～

るるるるるるるる —1945.8.6 広島のカ—

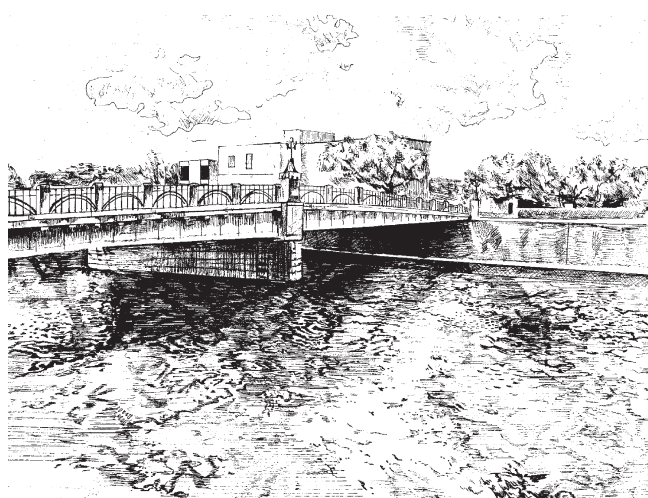
(少年少女平和ライブラリー 1)

竹田 まゆみ 作

こさか しげる 絵

汐文社 1987年 139P

1945年8月6日、広島のカは、数知れない屍を飲み込んだ。ある者は母と死に別れ、ある者はまだ幼い子どもを抱いたまま……。広島のカに浮かんでいった、生きたかった人たちの物語5編を、それぞれに関わり合いを持たせながら描く。



913
た
〈広〉
小中～

ロクの菜の花畑

竹田 まゆみ 作
相沢 るつ子 絵
汐文社 1996年 133P

ヨシハルは、大阪に帰った六さんの代わりに犬のロクの世話をしている。8月6日の朝、心臓の発作で苦しむヨシハルの夢にロクが現れた。目が覚めて、ロクを捜しに縁側に出たとき、空に閃光が走り……。ヨシハルとロクの心の絆を通して、命の尊さを描く。

913
た
〈広〉
小高～

おじいちゃんは兵隊だった

(旺文社創作児童文学)

竹野 栄 作
田代 三善 絵
旺文社 1994年 175P

特攻隊に志願したさとるのおじいちゃんは、昭和20年6月「最後の記念」に広島の写真館で写真を撮ってもらう。それから3カ月後、おじいちゃんは再び広島を訪れるが、街も写真館も原爆に焼き尽くされ……。おじいちゃんの目に映った被爆後の様子を語る。

913
つ
〈広〉
小中～

魔法のぶた

(原爆児童文学集 12)

司 修 作・絵
汐文社 1985年 137P

核戦争後、荒廃した惑星でわずかに生き残った都市ユートの少年、通称“魔法のぶた”。彼の立体テレビに、ある日、なぜか懐かしい思いのする父子の像が現われ、父が子に、広島での被爆体験を語り始めた。

913
つ
〈広〉
小中～

見てるよ！ヒトミ

(原爆児童文学集 4)

槻野 けい 作
倉石 琢也 絵
汐文社 1985年 159P

お母さんに赤ちゃんが生まれるので広島から手伝いに来たおばあちゃんには、何か、秘密があるみたい。小学生のサトちゃんとイサオくんは、その秘密をさぐろうと広島に行き、そこで原爆症で娘ヒトミを失ったおばあちゃんの悲しみを初めて知った。

913
つ
〈広〉
小高～

あしたの風

(ポプラ社文庫 A20)

壺井 栄 著
ポプラ社 1978年 197P

田舎で暮らす千枝子のところへ、いとこの瑞枝がお母さんに連れられてきた。石うすをひきながら、お盆の支度をする千枝子たち。だが、瑞枝のお母さんは、一人で広島へ帰っていき、8月6日の早朝を迎えた——。「石うすの歌」ほか7編を収録。

913
つ
〈長〉
小高～

明日が来なかった子どもたち

鶴 文乃 文
能伸 リエ 絵
サンパウロ〔発売〕 2000年 31P

健太は毎朝、強制労働に向かう金さんに食べ物を入れた小袋をこっそり投げ渡していた。8月9日、その日も金さんに袋を渡した健太が川で遊んでいると空襲警報が鳴り……。韓国の人と日本の子どものささやかな交流と、一瞬にして命を奪う原爆の残酷さを描く。

913
て
〈広〉
小中～

かべにきえる少年

(児童文学創作シリーズ)

手島 悠介 作
岩淵 慶造 絵
講談社 1976年 205P
〔(講談社青い鳥文庫 3-2)〕
〔1981年 213P〕

白血病で入院中の父を見舞った希子は、白いかげの少年を見た。それをきっかけに、希子は友人の健一と共に、謎に満ちた事件に巻き込まれ、“あの日”の広島へと時をさかのぼる。放射線で焼かれた“かげ”を題材に、原爆をファンタジー形式で描いた作品。

913
と
〈長〉
小中～

白いチマチョゴリ

(スピカの創作文学 3)

徳永 和子 作
岩淵 慶造 絵
教育画劇 1991年 157P

6年生の美智子のクラスでは、戦争中の朝鮮人差別を題材にした絵本をきっかけに、さまざまな取り組みを行うことに。そんな折、大学生のいとこ孝志から、原爆の朝鮮人犠牲者の話を聞いた美智子は……。加害者の立場から、戦争、そして差別を考えさせられる本。

913
と
〈広〉
小高～

消えた夏休み

富家 知道 著
富家 美代子 著
大羽 睦代 著
ウインかもがわ 2005年 57P

広島少女美由紀が作った慰問袋を受け取った兵隊は、おじいちゃんになっても袋の中の手紙を大切にしていた。しかし美由紀は昭和20年8月6日の朝に……。13歳で被爆し亡くなった松田美由紀さんの手紙をきっかけに、戦争のむごさを伝えようと書かれた物語。

913
な
〈広〉
小中～

うそつき咲っぺ

長崎 源之助 著
石倉 欣二 挿絵
佼成出版社 1995年 63P

40年ぶりに戻った広島で、道子は被爆体験を語る同級生の咲子を見かける。しかし、彼女は道子と一緒に建物疎開をさぼったために、被爆していないはずだった……。家族が死に、自分だけ生き残ったことに苦しみ続けてきた咲子の姿を通して、原爆の悲惨さを描く。

913
な
〈長〉
小中～

汽笛

長崎 源之助 作
石倉 欣二 絵
ポプラ社 2008年 47P

終戦後日本に帰った兵隊さんは、入院した長崎の病院で、被爆した子どもたちに出会う。すぐに彼らと仲良くなった兵隊さんは、病院の崖下を通る汽車を見に行こうと誘われる。たくましく生きる子どもたちと、彼らの過酷な状況を思う兵隊さんの交流を描く。

913
な
〈広〉
小中～

五十年めの手紙

(童話のすけっちぶっく 16)
長崎 源之助 作
山中 冬児 絵
ポプラ社 1996年 126P

お父さんの転勤で京都から広島に越してきた弘は、ピカで死んだゆうれいの女の子と出会う。女の子の名前はユリちゃん。ユリちゃんは、弘のおじいちゃんの友達だった——。弘の目を通し、原爆の悲惨さや平和を引き継ぐ大切さを、さりと描いている。

913
な
〈広〉
中学～

もうひとつのヒロシマ —秀男と千穂の似島物語—

仲里 三津治 著
講談社 2008年 223P

広島原爆投下直後、臨時の野戦病院として無数の被爆者が送られた似島。だが、そこで救援活動に活躍した少年特攻兵のことはあまり知られていない。2004年の遺骨発掘調査をきっかけに取材を重ねた著者が、実話を基に一人の少年の物語として描く、似島の真実。

913
な
〈広〉
小高～

はだしのゲン —テレビドラマ版—

中沢 啓治 原作
君塚 良一 脚本
田中館 哲彦 構成
汐文社 2007年 191P

太平洋戦争下の広島に住む8歳の元。食料が不足し常に空腹であっても、戦争を批判する非国民とものしられても、家族と力を合わせ明るく暮らしていた。しかし、1945年8月6日、原爆が投下され、元たち家族は——。ロングセラー漫画が原作のテレビドラマを小説化。

913
な
1～3
〈広〉
小高～

はだしのゲン 上・中・下 —児童文学版—

中沢 啓治 原作
深沢 一夫 作
汐文社 1980年・1981年・1981年
222P・213P・217P

広島原爆を描く劇画『はだしのゲン』の児童文学版。原爆で父と姉、そして弟を目の前で失ったゲンは、残された家族や仲間たちとたくましく生きていく。ゲンが母親を原爆の後遺症で失うまでを描いた作品。

913
な
〈広〉
中学～

あなたがいたところ ―ワタシゴト14歳のひろしま・2―

中澤 晶子 作
ささめや ゆき 絵
汐文社 2021年 134P

中学3年生で不登校の修^{しゅう}は、広島への修学旅行の事前学習委員を押し付けられる。もと呉服店を調べるうち興味が湧いてきて……（「もと呉服店」）。被爆建物を訪れた中学生たちが、他人事とと思っていた戦争や原爆についてさまざまな思いを巡らせる姿を描く。全4話。

913
な
〈広〉
中学～

いつものところで ―ワタシゴト14歳のひろしま・3―

中澤 晶子 作
ささめや ゆき 絵
汐文社 2023年 163P

広島への修学旅行から帰ってきた4人の中学生。事前に被爆証言を聞いていた生徒たちは、証言者の女性との交流を通じて、それぞれの思いを絵や歌で表現しようと試みる。遠い昔の他人事だと思っていた被爆者たちに思いをはせる「ワタシゴト」3部作の完結作品。

913
な
〈広〉
小中～

3+6の夏 ―ひろしま、あの子はだあれ―

中澤 晶子 作
ささめや ゆき 絵
汐文社 2015年 119P

絵画教室に通うかなたのスケッチブックに、描いた覚えのない花模様のブラウスの絵が現れた。同時に、そのブラウスを着たお婆けが、かなたの肩にくっついて――。6人の子どもたちが、70年前の広島で被爆し亡くなった3人の子に出会う、3つの不思議な物語。

913
な
〈広〉
小高～

1983年熱い秋のノート

(原爆児童文学集 19)

中澤 晶子 作
むかい ながまさ 絵
汐文社 1985年 136P

1983年秋、西ドイツでは、新型核ミサイル配備を巡り、大規模な反核運動が起こっていた。その集会で、自分の被爆体験を語ろうとする祖母。隠そうとする父。本当のことが知りたいツトム。家族の心の葛藤を描く。

913
な
〈広〉
小中～

ひろしまの満月

中澤 晶子 作
ささめや ゆき 絵
小峰書店 2022年 63P

空き家に引っ越して来た少女に、庭の池にすむカメが、遠い昔、その家に住んでいたある家族の出来事を話す。名前を付けてくれたまつこ、焦げた弁当箱とボタンを残して帰らなかったみのる、泣いていた母。満月が思い出させる、心が破れそうな原爆の記憶を記す。

913
な
〈広〉
中学～

ワタシゴト —14歳のひろしま—

中澤 晶子 作
ささめや ゆき 絵
汐文社 2020年 127P

修学旅行で広島を訪れた中学生5人の物語。それぞれに悩みを抱える彼らが、平和記念資料館に展示された、焼けてしまった遺品を見て、遠い昔の他人事だと思っていた被爆者たちに思いをはせる。続編に『あなたがいたところ』『いつものところで』がある。

913
な
〈広〉
小中～

白い物語

(原爆児童文学集 7)

中島 信子 作
田沢 梨枝子 絵
汐文社 1985年 152P

由子は祖父が死んだあと、田宮さんという老人と出会った。田宮さんは、祖父と同じように心を閉ざして生きていた。実は昔、二人は戦友で、中国で多くの人々を殺し、その後、田宮さんは、妻と娘を広島の原爆で……。戦争による心の傷の深さを語りかける作品。

913
な
〈広〉
小中～

やんばる君

(童心社・新創作シリーズ)

中野 慶 作
山本 祐司 画
童心社 2000年 254P

浩史の夏休みの自由研究は、広島で原爆について調べる。広島を訪れた浩史は、被爆体験を話してくれた黒木さんからケロイドのかゆみに苦しんだことを聞き……。アトピーに苦しむ浩史と被爆者の交流を通し、原爆の恐怖や後遺症のつらさが描かれている。

913
な
〈広〉
小中～

あやかし草子 —現代変化物語—

(シリーズ本のチカラ)

那須 正幹 作
タカタ カヲリ 絵
日本標準 2011年 197P

原爆で亡くなった妻の霊が、戦地から帰る夫を待つ「やけあと」をはじめ、ささやかな願いさえかなえられない社会状況を背景に描かれた、5つの物語。1991年刊行の『世にもふしぎな物語』の一部を書き換えた、改題新装版。原作は江戸時代の怪談集『雨月物語』。

913
な
〈広〉
小高～

時の石

(創作のとびら 11)

那須 正幹 作
岡本 順 絵
文溪堂 1994年 272P

4千年の時を旅する、ふしぎな小石。それを手にした人物に起きる12の物語が描かれた本。第11話「ヒロヒトの石」では、原爆を投下したB29の尾部砲手の物語と、ヒロシマの少年勇平の物語を交互に絡ませながら、“あの日”のヒロシマを立体的に描く。

913
な
5
〈広〉
小中～

那須正幹童話集 5 —ねんどの神さま—

那須 正幹 作
武田 美穂 絵
ポプラ社 2014年 153 P

8月6日、女学生だったキヨ姉ちゃんを見送ったあの日の思い出を、年長いた久江が語る「八月の髪かざり」、核戦争後の世界を描いた「The End of the World」など3編。3歳の時広島で被爆した著者の童話集。第5巻は戦争と平和を問いかける物語を収める。

913
な
〈広〉
小中～

八月の髪かざり

那須 正幹 作
片岡 まみこ 絵
佼成出版社 2006年 127 P

故郷の広島に戻り、一人で暮らす久江さん。人形展に出かけたことがきっかけで、姉の姿をかたどった人形を作る決心をする。人形作りは、原爆で行方不明となった姉やひまわりの髪かざり、家族のあの日の事を次々と鮮明に思い出させる。忘れられない記憶の物語。

913
な
1～3
〈広〉
中学～

ヒロシマ

第1部 歩きだした日
第2部 様々な予感
第3部 めぐりくる夏
那須 正幹 作
長谷川 知子 装画
ポプラ社 2011年 305 P・365 P・337 P
(ポプラ文庫)
ヒロシマ1949—歩きだした日— 那須 正幹 [著] 2015年 305 P
ヒロシマ1960—様々な予感— 那須 正幹 [著] 2015年 385 P
ヒロシマ1977—めぐりくる夏— 那須 正幹 [著] 2015年 357 P

昭和26年末、原爆で夫を亡くした靖子は、広島で町でお好み焼の店を始めた。娘・孫へと店は続いていくが、靖子には大きな秘密があり……。原爆に人生を変えられた人々の姿を約50年にわたって描いた3部作。故郷を舞台に、作者の人生と呼応した時代をつづった物語。

913
な
〈広〉
小高～

チョウのいる丘

(児童文学創作シリーズ)

那須田 稔 作
市川 禎男 絵
講談社 1968年 198 P
(講談社青い鳥文庫 52-1)
1982年 211 P

小学校5年の小百合は、白血病で倒れる。彼女の父親は広島で被爆し、13年後に亡くなっていた。病魔に侵されながらも、他人への思いやりを忘れずに短い人生を生き抜いた少女を描く。

913
に
1～3
〈広〉
中学～

お菓子放浪記 [正]・続・完結

(理論社の大長編シリーズ)

西村 滋 作 八木 康夫 絵
西村 滋 作 朝倉 美恵子 絵
西村 滋 作 武藤 セイ子 画
理論社 1976年・1994年・2003年
310 P・364 P・362 P
[[正] (新装版) 1994年 309 P]

お菓子を求めて流転する孤児シゲルの姿を通して、戦争を描いた作品。シゲルの懂れていた富永先生が、広島で原爆で家族を失ったという挿話で、原爆の悲しみに触れている。1994年に新装版と続編を出版。

913
に
〈広〉
小高～

ぼくはうそをついた
(ノベルズ・エクスプレス 55)
西村 すぐり 作
中島 花野 絵
ポプラ社 2023年 172P

5年生のリョウタは、被爆死した祖父の兄の足取りをたどって、爆心地から家までの道を歩いてみた。また、あるおばあさんの抱える後悔を知り、原爆や戦争の傷は、年月では癒やせないと実感する。おばあさんの心に寄り添えたらと、リョウタは小さなうそをつく。

913
に
4
〈広〉
小中～

戦争と平和のものがたり 4 —ヒロシマの歌—
西本 鶏介 編
篠崎 三朗 絵
ポプラ社 2015年 125P

原爆投下直後の広島で、惨状を目の当たりにした水兵は、死んだ母に抱かれた赤ちゃんを保護する。この「ヒロシマの歌」を含め、5つの戦争物語を収録。戦争の時代を生きた作家たちが、平和への祈りを込めて描いた物語を、子どもたちに伝えるシリーズの第4巻。

913
に
〈広〉
小中～

ん子先生お元気で、ねっ
(ぼくの先生・わたしの先生)
日本子どもの本研究会 編
黒岩 章人 絵
ほるぷ出版 1993年 145P

日本のいろいろな地方から寄せられた、心に残る先生のお話13編を紹介。表題作の「ん子先生お元気で、ねっ」(大野允子作)は、広島の実爆の話を書き続ける著者が、原爆が落ちた時、先生と一緒に田舎の工場で働いていて助かったことなど、思い出をつづったもの。

913
に
〈広〉
小中～

傘の舞った日
(おはなしのピースウォーク 4)
日本児童文学者協会 編
山田 花菜 絵
新日本出版社 2007年 185P

6年生のみさきのクラスに貼られていた「ヒロシマ平和カレンダー」が、ある日突然取り外された。それがきっかけで、みさきは、平和へのさまざまな考え方の違いを知ること——。この「一寸の虫にも」のほか、戦争や平和を題材にした全7編の短編集。

913
に
〈広〉
〈長〉
小高～

北風は芽を
(戦争児童文学傑作選 4)
日本児童文学者協会 編
市川 禎男 画
童心社 1971年 237P

詩「水ヲ下サイ」(原民喜作)、「ヒロシマの空」(林幸子作)、短編「あるハンノキの話」(今西祐行作)、詩「深海魚のように」(近藤東作)の原爆を描いた4編の作品と、戦争を描く9編を収録。

913
に
〈広〉
小高～

こすもすベーカリー物語
(おはなしのピースウォーク 6)
日本児童文学者協会 編
松本 春野 絵
新日本出版社 2008年 171P

朝子の家に届く「廣島市 森口朝子」からの手紙。料理研究家になる夢など、戦争中には口に出せない気持ちが、南方の戦地にいる父へ宛ててつづられていて……。過去から届く不思議な手紙の話「森口朝子の手紙」など、戦争と平和について考える全7作品を収録。

913
に
〈広〉
小中～

ヒロシマのうた
(新選・子どもの文学 21)
(戦争と平和ものがたり 2)
日本児童文学者協会 編
小峰書店 1986年 147P

原爆で母親を亡くした赤ちゃんを救った兵士は、原爆で子どもを失った夫婦にその子を託し、夫婦は実の子として育てる。15年後、兵士はその子に本当の事を告げる。この表題作「ヒロシマのうた」ほか、戦争、原爆の恐ろしさを訴える話4編を収録。

913
に
〈広〉
小高～

ひろしまのオデット
(戦争児童文学傑作選 5)
日本児童文学者協会 編
小林 与志 画
童心社 1972年 237P

三木久美子が原爆乙女の孤独や愛、恐れ、死をテーマとするバレエ〈ひろしまの組曲〉に出演する話を描いた「ひろしまのオデット(『二年2組はヒヨコのクラス』より)」(山下夕美子作)。ほかに、「川とノリオ」(いぬいとみこ作)を含む10編の作品集。

913
に
〈広〉
小高～

ふたりの英雄
(戦争児童文学傑作選 3)
日本児童文学者協会 編
太田 大八 画
童心社 1971年 237P

太平洋戦争末期の人々の姿を描いた作品集。「スイカのたね」(沖井千代子作)、「夜のくすの木」(大野允子作)、「ヒロシマのうた」(今西祐行作)の3編と「墓標」(峠三吉作)、「花」(近藤東作)の2編の詩が、広島原爆を扱っている。

913
に
〈広〉
小中～

焼けあとの白鳥
(新選・子どもの文学 20)
(戦争と平和ものがたり 1)
日本児童文学者協会 編
小峰書店 1986年 127P

原爆が落ちた後、ハンノキの根もとで赤ん坊に声をかけながら死んでいった母親があった。それから何年かたって……。『あるハンノキの話』。帰ってきたらスイカを食べようと出かけた父親は、原爆にあって戻ってこなかった。「スイカのたね」。の2編を含む。

913
の
〈広〉
小中～

転校生とぼくの秘密

(創作こどもの文学 20)

野矢 一郎 作

丸木 俊 絵

小峰書店 1986年 127 P

在日朝鮮人であると堂々と語る転校生の少女や、自分の祖父の尊厳を持った死を知り、変わってゆく在日三世の弘少年を描く。転校生グ・ヨンヒは原爆症で両親を失い、自らも病気に侵されていた。原爆で苦しむ人を身近に見てその苛酷さを実感する子どもたちに触れる。

913
は
〈長〉
小中～

ナガサキの花

畑島 喜久夫 著

辻 みやこ 絵

らくだ出版 1989年 91 P

和子は、赤ちゃんの時長崎の原爆でお母さんを亡くした。その時和子を拾って育ててくれた今のお父さんと過ごした1歳から8歳までの8月9日の思い出をつづった作品「キョウチクトウ」など、長崎の被爆者たちの生きる姿を美しい花に託した4つの物語集。

913
は
〈広〉
〈長〉
小低～

むらさき色のピカ ―戦争があった日のはなし 2―

(太平けっさく童話 どうわのもりへ 19)

馬場 淑子 作

中沢 啓治 絵

太平出版社 1981年 74 P

3年1組の担任大口キノ先生は、なぜかむらさき色の使用を禁止する。絵を描くのが大好きなレイジは、一方的な禁止に反発していく。しかし、原爆で家族を失った先生には、その色は恐ろしい色だったのだ……。

913
は
〈広〉
中学～

友よ・夏の花・原爆詩

(日本の文学 40)

林 京子 (ほか) 著

金の星社 1985年 286 P

「友よ」(林京子作)ほか3編、「夏の花」(原民喜作)ほか2編の作品、さらに、原民喜、峠三吉、栗原貞子の原爆詩を収録。それぞれに詳しい注・解説を付し、若い読者が原爆文学を理解しやすいように配慮されている。

913
は
〈広〉
小中～

虹

(原爆児童文学集 8)

早船 ちよ 作

太田 大八 絵

汐文社 1985年 142 P

ユージのパパが「学童疎開ものがたり」という紙芝居を読んできた。原爆で家族と死に別れたことへの憤り、学友や先生を失った悲しみ……。見終わったみんなの心には、ずっしりと重たいものが残った。原爆を伝えることの大切さを考えさせる作品。

913
は
〈広〉
小中～

灯ろう —リョウヘイの夏—
(シリーズ平和の風 8)

原 のぶ子 作
岩淵 慶造 絵
汐文社 1992年 114P

夏休みを広島祖父の家で過ごす良平たち。その祖父の背中には、原爆で受けたひどいやけどがある。8月6日の晩、妹と灯ろう流しに出かけた良平は……。原爆が残したさまざまな傷跡や悲しみに触れ、その恐ろしさを少しずつ理解していく少年の姿を描く。

913
は
〈広〉
小中～

みえちゃんの集団疎開

はら みえこ さく
だんばらちゅうがっこうびじゅつぶ え
段原中学校美術部 1993年 22P

小学校6年生の時、集団疎開中に原爆で両親を失った著者。その体験をつづった手記が平和教材として'91年に発行された。本書はこの手記に段原中学校美術部の生徒が絵をつけ、絵本に仕立てたもの。低年齢の子でも読めるよう、総ルビにするなど工夫されている。

913
は
〈広〉
小中～

みえちゃんの集団疎開

原 美恵子 著
原 美恵子 1991年 7P

B29が広島に飛来し、子どもたちは集団疎開をすることになる。6年生のみえちゃんも、両親と別れて大きな農家で生活することに。「ひもじい・さみしい・帰りたい」そんな毎日を送るある日、閃光が……。6年生の少女の立場で書かれた、集団疎開の手記。

英語版： ⁹¹³_H 『Mie's group Evacuation —away from hom[e], away from parents—』

Mieko Hara 著
Mieko Hara 1992年 7P

913
ひ
〈広〉
小中～

らくだい先生
(先生のとおきのお話 35 広島編)

広島・子どもと教師の文学の会 編
せき あきこ 絵
ポプラ社 1982年 174P

広島先生たちが語る小さい時の話や先生になってからの話10編を収録。そのうち、「水玉もようのワンピース」(山本玲子著)と、「あの日のこと」(佐藤禎子著)の2編が昭和20年8月6日の出来事を描く。

913
ひ
〈広〉
小高～

歌のとどく日

(新日本創作少年少女文学 7)

広島児童文学研究会 編

遠藤 てるよ 絵

新日本出版社 1970年 186P

被爆のため疲れがちな母の体を気遣う少年、原爆症で倒れるおばあさんと出会う少女など、老若男女、各登場人物が関わり合いながら、原爆から目をそらすことなく生きていこうとする姿を8人の連作で描く。

913
ふ
〈広〉
小高～

ミチコとクミ ーヒロシマの二人ー

(汐文社ノンフィクションライブラリー 1)

深沢 一夫 作

高田 三郎 絵

汐文社 1986年 147P

おとなしく、きゃしゃなミチコ、ほかから大柄なクミ。戦争が暗い影を落としてはいたが、親友の二人は毎日を楽しく暮らそうとしていた。だが、たった一つの原爆のために……。二人の少女の友情を軸に戦争の、原爆の悲惨さを描く。

913
ふ
〈広〉
小中～

クレヨン王国月のたまご

(講談社青い鳥文庫 20-9)

福永 令三 作

三木 由記子 絵

講談社 1986年 283P

〔(児童文学創作シリーズ・クレヨン王国シリーズ 10) 1998年 285P〕

「月のたまご」は、人間の闘争本能から地球を守るためにつくられた天体である。ところが、そのたまごが、人間の憎しみの総決算ともいえるべき広島の原爆にあってしまう。人間の好戦的な性質を批判した、原爆がモチーフに使われたファンタジー。

913
ふ
〈広〉
小高～

犬之介さんと小犬

藤本 正文 文

市原 正勝 絵

近代文藝社 1995年 68P

兵隊の犬之介さんは、広島で軍事訓練中に被爆した。助かった彼は、被災民救助のため爆心地へ行き、大怪我を負った女の子を見つける。犬之介さんは、飼い犬を気遣う女の子のために、犬の鳴き真似をして……。原爆の悲惨さを訴える、実話を基にした物語。

913
ま
〈広〉
小中～

風のむらからさわこ

(シリーズ平和の風 4)

マオ アキラ 作

柿谷 織絵 絵

汐文社 1991年 142P

戦争によって、心に深い傷を負い帰ってきた父親と暮らすさわこは、父親が怖くて仕方がない。そんなある日、家族を探して、広島へ行っていた、たどところさんが帰ってくるが……。終戦直後の広島の様子に触れながら、戦争で傷ついた人たちの心の葛藤を描く。

913
ま
〈広〉
小高～

光る夏 ーたつひこ
(童心社・新創作シリーズ)
マオ アキラ 作
谷口 広樹 画
童心社 1993年 245 P

県下でも有望な野球選手になった幼なじみのたつひこと再会したみちこは、彼が被爆者であることを知る。そのたつひこが原爆症で入院した。ショックを受けたみちこは、自分も事後被爆していると知り……。死におびえながらも精一杯生きようとする二人の姿を描く。

913
ま
〈広〉
中学～

わたくし、始まる ーある少女の、ヒロシマー
松尾 静明 著
三宝社 2022年 92 P

理絵は、祖父から彼のかつての教え子が描いた絵をそれぞれに返すよう頼まれる。絵は原爆投下の前日に広島で描かれたもので、訪ねてみるとすでに亡くなった人や、後遺症に苦しむ人がいた。理絵は、戦後25年以上たっても戦争の影が消えていないことを思い知る。

913
ま
〈広〉
小高～

ふたりのイーダ
(児童文学創作シリーズ)
松谷 みよ子 著
司 修 絵
講談社 1976年 210 P
〔(講談社青い鳥文庫 6-6) 1980年 205 P〕
〔(子どもの文学傑作選) 1995年 210 P〕
〔(児童文学創作シリーズ) 2006年 210 P〕

母の実家に行った直樹と妹のゆう子は、無人の古い西洋館で、「イナイ、イナイ、ドコニモイナイ……」と、歩き回る椅子と出会う。椅子は8月6日の朝、出かけたまま帰ってこないイーダを待ち続けていた……。戦争や原爆がもたらす悲しみを、歩く椅子を通じて描く。

913
ま
〈広〉
小低～

ミサコの被爆ピアノ
松谷 みよ子 文
木内 達朗 絵
講談社 2007年 31 P

ミサコが4つの時、父が買ってくれたピアノ。1945年8月6日、ミサコとピアノは被爆した。長い年月がたち、ぼろぼろになったピアノは、ある調律師に託されて……。ミサコと共に原爆の苦しみを乗り越えてきたピアノが、戦争の悲しみ、恐ろしさを伝える。

913
ま
〈広〉
〈長〉
小高～

おもいで箱 ー短編集ー
(原爆児童文学集 20)
松永 伍一 (ほか) 作
鈴木 たくま 絵
汐文社 1985年 232 P

「この世の地獄のなかから／あたらしい生命が誕生した。／その母は人類の最後のぎせいとなり、／生まれ出た娘は人類の希望となってほしい。」表題作「おもいで箱」をはじめ、原爆を描いた2編の詩と10の短編で構成される。

913
ま
〈長〉
小高～

あやと青い目の人形 —ナガサキで被爆した少女の物語—

松永 照正 著
會田 貴代 絵
黒崎 晴生 写真
クリエイティブ21 2003年 119 P

アメリカから友好の印として贈られた人形を、戦時中にも関わらず大切にしていたあやとお母さん。しかし、アメリカの落とした原爆でお母さんと弟を失ったあやは、叔母の家で暮らすことになり……。長崎を舞台に、平和への願いを込めて書かれた物語。

913
み
〈広〉
小中～

ヤン一族の最後 (原爆児童文学集 1)

三浦 精子 作
入野 忠芳 絵
汐文社 1985年 156 P

身に危険を感じ、安全なみどりの島を求めて引っ越すことになったねずみのヤン一族は、その途中で原爆にあう……。人間同士が殺しあうことの愚かさ、弱い者まで巻き込んでしまうことへの怒りを描いた作品。

913
む
〈広〉
小中～

ヒロシマこどもたちの夏

村上 啓子 作
堀口 忠彦 絵
溪水社 1995年 102 P

夏休みに孝志は原爆ドームや資料館を見学し、似島で被爆者の体験を聞く。家に帰ると、早速見聞きしたことを基に壁新聞を作ること——。「僕、壁新聞をつくるんだ」ほか2編収録。ヒロシマに生きる子どもたちを描くことにより、平和や命の大切さを訴える。

913
も
〈広〉
小中～

青い空がつながった

毛利 まさみち 作
うめだ ゆみ 絵
新日本出版社 2014年 126 P

石巻市で東日本大震災に遭い、家族で広島に引っ越してきた麻美は、広島で原爆被害について学ぶ。震災で多くの人の死を見た彼女は、広島でもたくさんの人の命が失われたと知り、平和への思いを募らせる。人々が手をつなぎ助け合うことの大切さを教えてくれる物語。

913
も
〈長〉
小中～

ナガサキの男の子 (戦争があった日のはなし 第1集 12)

森下 真理 作
篠崎 三朗 絵
太平出版社 1985年 116 P

亡くなったお父さんの故郷、長崎に精霊流しを見に行った真紀は、不思議な少年と出会う。真紀が少年と見たものは、原爆投下直後の長崎と、再び核兵器が使用されてしまった後の“死の世界”だった。

913
や
〈広〉
小低～

おこりじそう

(新日本おはなし文庫 6)

山口 勇子 さく

四国 五郎 え

新日本出版社 1982年 67P

広島にあって笑った地蔵は原爆で吹き飛ばされ、目前で苦しむ子どもを見て怒り、ついに頭が砕けてしまう。その後、頭に丸い石をのせられたが、それも怒り顔になった。地蔵を通して原爆への怒りを訴えた作品。

英語版： ⁹¹³_Y 『THE ANGRY JIZO』

YUKO YAMAGUCHI 作

Beth Harrison 英訳

Hisashi Oda 編

YAMAGUCHI SHOTEN 1983年 31P

913
や
〈広〉
小低～

おこりじそう 一人形アニメ版

(アニメでよむ戦争シリーズ)

山口 勇子 原作

翼プロダクション 作

新日本出版社 2016年 70P

広島に住むひろちゃんは、家の近くにある笑った顔のお地蔵さんに話しかけながら、戦争へ行った父の帰りを母・祖父と共に待っていた。しかし、8月6日に原子爆弾が投下され、被爆した地蔵は怒り顔に変わっていく。原作を基に製作した人形アニメを書籍化。

913
や
〈広〉
小高～

かあさんの野菊

(新日本創作少年少女文学 25)

山口 勇子 著

東本 つね 絵

倉石 琢也 絵

新日本出版社 1974年 206P

戦争と原爆で両親を失った少年が、文通の相手に支えられながら、その悲しみや、戦後の生活の苦しさや闘いつつ、平和について考える姿を描いた「かあさんの野菊」。このほかに、原爆を描いた4つの短編など計6編を収録。

913
や
〈広〉
小高～

貝の鈴

(子ども図書館)

山口 勇子 著

岩崎 ちひろ 画

大日本図書 1970年 97P

わたしは、エレナ先生と呼ばれる白髪のおばあさんと偶然出会う。彼女はわたしの祖父がドイツ留学の時、一緒に写真に写っていた少女だった。エレナは戦争で婚約者を、わたしは原爆で両親と祖父を亡くしていた……。『わたしのプレスラウ』ほか表題作を収める。

913
や
〈広〉
小高～

スカーフは青だ

(新日本創作少年少女文学 2)

山口 勇子 著

二俣 英五郎 絵

新日本出版社 1969年 206 P

子ども会の自主的運営をめざす子どもたちと、町内実力者がつくるお仕着せの子ども会で満足する子どもたちとの対立を通し、いまだに人体を痛めつけている原爆について考えさせる作品。

913
や
〈広〉
小高～

人形マリー

(新日本少年少女の文学 11)

山口 勇子 著

四国 五郎 絵

新日本出版社 1980年 168 P

真理の家には、本を持ち口を丸く開けて歌っている陶器の人形“マリー”が大切に飾られている。ある日、広島からノブばあちゃんがやって来た。真理は初めて、マリーと原爆孤児だった両親の話聞くのだった。

913
や
〈広〉
小低～

ヒロシマからきたマメじぞう

(太平けっさく童話 どうわのいずみへ 4)

山口 勇子 作

小野 かおる 絵

太平出版社 1983年 74 P

サユリのおばあさんが、マメじぞうを大切に抱いてやって来た。それは、原爆で亡くなったタッチャンが、その胸にしっかりと押し付けていたものだ。サユリは初めておばあさんの深い悲しみを知った。

913
や
〈広〉
小低～

ヒロシマの火

(新日本おはなし文庫 21)

山口 勇子 さく

四国 五郎 え

新日本出版社 1988年 85 P

1945年8月6日、広島の街は炎に包まれた。終戦後、広島のおじの家を訪ねたヨシオは、そこにくすぶっている火をおじの形見として故郷へと持ち帰りそして……。福岡県星野村から世界へと広がった原爆の火にまつわる、被爆者の体験談を基に創作された物語。

913
や
〈広〉
中学～

カモメの家

山下 明生 作

宇野 亜喜良 絵

理論社 1991年 366 P

著者が少年時代を過ごした、戦後間もない頃の瀬戸内海の島を舞台にした、自伝的色彩の作品。島の少年たちの生き生きとした日常を、広島・長崎の原爆の影が取り巻く。軍服姿で門口に立つヨッチャンが連れた、被爆した少女ミイの姿は、原爆の悲惨さを伝える。

913
や
〈広〉
小低～

タヌキのきょうしつ

山下 明生 作
長谷川 義史 絵
あかね書房 2019年 79P

昔、^{のぼりまち}幟町小学校のクロガネモチの木の根元にタヌキ一家がすんでいた。ある日、夜の教室で勉強するタヌキたちの姿が目撃され、噂が広がり大騒ぎに。時は流れ、広島でも戦争の準備が始まる。明治から原爆投下後の広島を舞台に、人々とタヌキの交流を描いた物語。

913
や
〈広〉
小中～

ごめんねぼっこ

(創作児童文学選 12)
山下 夕美子 著
太田 大八 絵
あかね書房 1969年 160P

謝ることが嫌いな夏平に、ある日ぼっこがついてきた。ぼっこに心から謝ることを教えられた夏平は、以前意地悪を言ってしまったおばあさんが、原爆病院に入院したことを知り、謝りに行く。

913
や
〈広〉
小中～

三年三組なきむしメソコ先生

(こども童話館 11)
山下 夕美子 作
村井 香葉 絵
ポプラ社 1985年 110P

泣き虫だけど心優しいメソコ先生と、三年三組のみんなとの関わり合いを連作で描く。そのうちの〈メソコ先生、またないた〉の章で、メソコ先生の友達の童話作家が、広島「原爆の子の像」の由来を語る。

913
や
〈広〉
小低～

千羽づるのねがい

(小学館の創作童話シリーズ 20)
山下 夕美子 作
沢井 一三郎 画
小学館 1975年 43P

2歳の時被爆した禎子は、小学校6年生になり白血病で入院した。折り鶴を千羽折れば元気になれると願いつつ、彼女は12歳の生涯を閉じた。彼女の死後、その平和への願いを引き継いで「原爆の子の像」が造られる。

913
や
〈広〉
中学～

二年2組はヒヨコのクラス

(ジュニア・ライブラリー)
山下 夕美子 作
長 新太 え
理論社 1968年 254P
〔(理論社名作の愛蔵版) 1983年 253P〕
〔(フォア文庫 C090) 長 新太 画〕
〔1990年 288P〕

二年2組の6人の生徒と、担任の山田ひな子先生を巡る話。被爆二世の悩みや被爆者との関わりを通して、クラス全体で原爆などの問題を考えていく中学生たちを描く。

913
や
〈広〉
中学～

赤毛のポチ

(理論社名作の愛蔵版 わたしのほん)

山中 恒 作

しらい みのもる 絵

理論社 1969年 269 P

炭鉱町の貧しい長屋に住む少女カッコが、犬を巡る周囲との葛藤などを通して、力強く成長していく姿を描く。広島原爆で母を失い、自らも原爆の影響で脳に障害があると思われる少年・武も登場する。

913
や
8
〈広〉
小中～

ポケネコ・にゃんころりん 8 —影だけのねこの秘密—

(フォア文庫 B432)

山本 悦子 作

沢音 千尋 画

童心社 2012年 174 P

〔沢音 千尋 絵 2013年〕

夏の広島を訪れたユウたち3人は、平和公園で、実体のない影だけのネコに出会う。そのネコは、原爆投下の日にいなくなった飼い主をずっと探していて——。ネコを助けたいと、8月6日の出来事を調べるうちに、平和への願いを強くする子どもたちの姿を描く。

913
や
〈長〉
小低～

かよこ桜

(新日本おはなし文庫 5)

山本 典人 さく

井口 文秀 え

新日本出版社 1981年 75 P

その朝、いつになく嫌がる娘を無理やり学校へ行かせた母は、原爆で亡くなった娘をしのび、多くの女学生の魂をなぐさめるため、校庭にさくらの木を植えた。原爆で子を失った母親の悲しみを描いた作品。

913
や
〈広〉
小高～

広島姉妹

(岩崎少年文庫 9)

山本 真理子 作

岩淵 慶造 絵

岩崎書店 1973年 141 P

〔(フォア文庫 B001) 岩淵 慶造 画 1979年 148 P〕

〔(フォア文庫愛蔵版) 岩淵 慶造 画 1994年 150 P〕

15歳の秋子は、広島で姉と共に被爆する。瓦に埋もれた秋子を必死に助けたその姉の太ももには、15cmもの深い傷があった。広島を逃げ迷う姉妹の長い1日を描き、ヒロシマの悲しみを伝える。

英語版： ⁹¹³
Y 『Sisters in Hiroshima』

Mariko Yamamoto 原作

Osamu Umeda 編訳

Sanyusha 1984年 88 P

913
や
〈広〉
小高～

広島の友

(創作児童文学館 14)

山本 真理子 作

藤田 通代 絵

岩崎書店 1995年 205 P

幼なじみの朝ちゃんや和枝、同級生のお藤、戦闘機工場の吉村班長らに囲まれ、秋子は戦争中だが楽しく暮らしていた。ところが、8月6日に原子爆弾が落ちて……。被爆後の友人たちとの再会を通して、友人を失う悲しみ、国による被爆者への差別などを描く。

913
や
〈広〉
小高～

広島之母たち

(創作児童文学 28)

山本 真理子 作

佐伯 和子 画

岩崎書店 1982年 177 P

〔(フォア文庫 C062) 1985年 202 P〕

1945年8月7日、秋子は姉の死を母に知らせるため、広島の焼野原をさまよい歩く。そこには子を失った母や、最後の力を振り絞って子を産んだ母達の姿があった。『広島姉妹』の続編。

913
や
〈広〉
小中～

おばあちゃんのももの木

(原爆児童文学集 22)

山本 玲子 作

長野 ヒデ子 絵

汐文社 1986年 134 P

めぐみのおばあちゃんは、花見山に学校が建つのに反対している。大事なももの木が切られるからだ。おばあちゃんは8月6日の朝、広島の医者に行った息子に桃を食べさせないまま死なせたことを悔やんでいるのだ。原爆のもたらした心の傷の深さを描く。

913
ゆ
〈広〉
小中～

広島 昭和20年8月6日

遊川 和彦 著

汐文社 2005年 144 P

両親が遺した「矢島旅館」で、3人の姉と仲良く暮らしていた年明は、少年航空隊に志願し広島を離れる。その15日後、原爆が落ち、姉たちの未来は一瞬にして奪われた。戦時下の広島をひたむきに生きた姉弟の物語。戦後60周年記念テレビドラマを小説化したもの。

913
よ
〈広〉
小高～

北の天使南の天使

(文学の館 15)

吉本 直志郎 作

遠藤 てるよ 絵

ポプラ社 1982年 317 P

〔(ポプラ社文庫 A180)

おおた 慶文 絵 1985年 350 P〕

11歳の孝太は、学校で朝礼中に原爆にあった。母を探して焦土の街をさまよう孝太は、迷子収容所に収容されるが……。やがて、収容所を抜け出して、浮浪児の仲間になった孝太が、戦災孤児育成所“青葉学園”にたどりつくまでの遍歴をつづった作品。

913
よ
〈広〉
小中～

翔ぶんだったら、いま！ —青葉学園物語—

(こども文学館 11)

吉本 直志郎 作

村上 豊 絵

ポプラ社 1979年 174P

〔(ポプラ社文庫 A160)
中島 きよし 絵 1984年 214P〕

親のない子どもたちの養護施設“青葉学園”の物語第3作。和彦たちは拾った2000円を手に、広島街へ……。食堂で経営者の老夫婦から原爆で亡くなった孫の話を聞き、2000円をそっと置く。その和彦は原爆孤児だった。

913
よ
〈広〉
小高～

リトルボーイ

吉本 直志郎 作

中島 潔 絵

ポプラ社 2005年 259P

原爆で廃墟となった広島街で母を探す広彦は、同じように街をさまよう14歳の少女真弓と出会う。二人は同じ境遇の子どもたちと共に、助け合いながら生活を始めるが……。戦争をおこした大人に頼らず、自分の力で生きようとする子どもたちの姿を淡々と描く。

913
れ
〈広〉
〈長〉
小中～

パンプキン！ —模擬原爆の夏—

令丈 ヒロ子 作

宮尾 和孝 絵

講談社 2011年 95P

〔(講談社青い鳥文庫) 2019年 121P〕

戦争中、原爆投下の練習のために日本各地に落とされた「模擬原爆（パンプキン爆弾）」。自分の家の近くにも投下されていたことを知ったヒロカは、この爆弾のことを調べ始める。原爆や戦争について考える少女の姿を通して、模擬原爆投下の事実を伝える物語。

913
わ
〈広〉
小高～

麦畑のカマキリ

(原爆児童文学集 28)

和田 勝恵 作

鈴木 孝子 絵

汐文社 1986年 174P

陽子が転校してきた観音小学校は、原爆を受けた学校で、学級園からは人骨が出てきた。今まで、原爆について考えたことのなかった陽子は、級友の死、新しい学校での体験を通して、原爆を受けた街と人の苦しみは今も変わらず続いていることを知る。

913
わ
〈広〉
小高～

いのちの石

渡部 秀美 著

新風舎 1996年 101P

被爆した際に近くに立つ塀のおかげで助かった「私」が、戦時中の様子を語る(「いのちの石」)。松山の軍事施設から広島へ帰ってきた古川さんは、芽を出した被爆アオギリに勇気づけられる(「アオギリの木」)。原爆が投下された広島について伝える物語を2編収録。

913
わ
〈広〉
小中～

霧に消えた少女
(国土社の新創作童話 6)
わたり むつこ 作
秋元 純子 絵
国土社 1985年 155 P

湖のむこう岸に見える幻の館を探しに行った健たちは、美しい少女小雪と出会う。そこで起こった不思議な出来事は、30年前に原爆症で亡くなった小雪の日記に書かれたことだった。悲しい愛の世界へ誘うファンタジー。

918
な
16
〈広〉
〈長〉
小高～

「戦争と平和」子ども文学館 16

長崎 源之助 (ほか) 編
日本図書センター 1995年 362 P

全20巻・別巻1からなる、戦争児童文学の全集の16巻目で、原爆を扱った3巻の第1冊目に当たる。「ふたりのイーダ」(松谷みよ子作)など、ヒロシマをテーマにした4編と、全編で唯一、ナガサキをテーマにした、「八月がくるたびに」(おおえひで作)を収録。

918
な
17
〈広〉
小高～

「戦争と平和」子ども文学館 17

長崎 源之助 (ほか) 編
日本図書センター 1995年 341 P

原爆を扱った3巻の第2冊目。この巻では、原爆の子の像建立の原動力となった、佐々木禎子と級友の姿を描いた「折り鶴の子どもたち」(那須正幹著)ほか、「まちゃんと」(松谷みよ子作)、「げんさん」(大野允子作)を収める。

918
な
18
〈広〉
小高～

「戦争と平和」子ども文学館 18

長崎 源之助 (ほか) 編
日本図書センター 1995年 321 P

戦争児童文学集のうち、原爆を扱った3巻の第3冊目。この巻では、原爆孤児の少年たちの姿を描いた「北の天使 南の天使」(吉本直志郎作)と、少女の平和への祈りを訴えた「つるのとぶ日」(大野允子作)の2作品を収める。

918
よ
〈広〉
小中～

ヒロシマの風 ー伝えたい、原爆のことー
(角川つばさ文庫 Dよ1ー1)
吉永 小百合 編
男鹿 和雄 カバー絵・挿絵
YUME 挿絵
KADOKAWA 2014年 173 P

編者が朗読に取り組む原爆詩を次世代へ伝える作品集。第1部「おばあちゃんの願い」は、小学4年生の少女が祖母の被爆の実相をたどる物語。既刊詩集を再構成した第2部は、峠三吉ほかの詩人、歌人、小学生、母親の被爆体験などから生まれた詩20編を収録する。

933
か
〈広〉
中学～

ハナコの愛したふたつの国

シンシア・カドハタ 作
もりうち すみこ 訳
小学館 2020年 411P

ハナコの一家は、アメリカの収容所に入れられ、財産を失って日本へ帰国。父の故郷である広島に戻るが、原爆の惨禍が生々しい地での生活は、過酷だった。だが小作農として働き続ける祖父母は、深い愛情で家族を受け入れ、ハナコに生き抜く力を与えてくれる。

933
す
〈広〉
中学～

弟を地に埋めて

(Best Choice)
ロバート・スウィンデルズ 作
斉藤 健一 訳
福武書店 1988年 282P

トーチカで雨やどりしていたぼくは、閃光を見た。その後ぼくが見たのは、核ミサイルでできた廃墟だった。ヒロシマにも降った黒い雨による放射能汚染の恐怖。ヒロシマに起こったことと同じことがここにも……。廃墟の中で生きようとする人間の姿を描く。

933
は
〈広〉
中学～

ヒロシマから帰った兄

マリアン・D・バウアー 著
久米 穰 訳
佑学社 1992年 255P

1946年夏、駐留先のヒロシマから帰ってきた兄は、別人のように無口で無気力になっていた。原爆投下に疑問を持つ兄の苦悩が理解できないスティーブだが……。自分が傷つくことなく、他人を傷つけることはできないと、平和への願いと暴力への怒りを訴える。

933
は
〈広〉
小高～

ラスト・チェリー・ブロッサム ―わたしのヒロシマ―

(ほるぷ読み物シリーズ セカイへの窓)
キャサリン・バーキンショー 作
吉井 知代子 訳
ほるぷ出版 2022年 303P

優しい父親、気が合わないおば、幼いこと暮らす12歳のユリコ。裕福な生活の中、家系図を書く宿題をきっかけに出生の秘密を知る。戦争の影は日ましに濃くなり、昭和20年8月……。著者の母の体験を基に、原爆で奪われた少女の日常や被爆後の生活を記す。

933
ふ
〈広〉
〈長〉
小高～

さよならをいう時間もない

ジュディ＝ブルーム 作
長田 敏子 訳
偕成社 1991年 348P

父の突然の死に直面したデイビーと家族が、伯父夫婦の住むロスアラモスに身を寄せた日々の物語。この町では、かつて密かに原爆が作られた。科学館にある広島と長崎に投下された原爆の模型についての記述など、原子力の町の独特な歴史が織り込まれている。

933
ろ
〈広〉
中学～

ON THE HORIZON 水平線のかなたに パールハーバー ー真珠湾とヒロシマー

(講談社・文学の扉)

ロイス・ローリー 著
田中 奈津子 訳
ケナード・パーク 画
講談社 2023年 77P

父の撮影した古いフィルムに戦艦アリゾナの姿があった。著者は真珠湾攻撃で沈んだこの船の乗組員や、原子爆弾を落とされた広島で暮らしていた人々に思いをはせる。誰もが誰かの大事な存在で、必ずどこかでつながっている。過去に学ぶことの大切さを訴える。



4. ノンフィクション

414点＋外国語版10点

019
か
〈広〉
中学～

中学生の読書のために ー人間・勉強・平和を学ぶー

(手をつなぐ中学生の本 61)

川口 昭三 著

民衆社 1989年 174P

さまざまな可能性を秘めた中学時代。本書は、中学生に人間として本当に大切なことは何か、平和とは何かを問い、その指針となる本を紹介。特にⅢ章では原爆に触れ、峠三吉の『にんげんをかえせ』を中心に“人間の尊厳”とそれを奪う戦争について考える。

019
き
〈広〉
小高～

「夾竹桃物語ーわすれていてごめんね」 絵画・読書感想文集

「夾竹桃物語ーわすれていてごめんね」

絵画・読書感想文事務局 2002年 158P

三重県で行われた『夾竹桃物語』絵画・読書感想文コンクールの作品集。子どもたちがそれぞれ感じた戦争の残酷さや、原爆によって命を奪われた動植物への思い、平和を願う気持ちが表現されている。お互いを思いやることの大切さが伝わってくる。

019
せ
〈広〉
〈長〉
中学～

平和を考える絵本

(未来を生きるためのブック・リスト 3)

全国学校図書館協議会ブック・リスト委員会 編

全国学校図書館協議会 1992年 79P

親や教師にも、戦争を知らない世代が増えた今日、せめて、絵本を通して子どもたちに少しでも戦争を実感させたい、と作られたブックリスト。「2、ひかった空ーヒロシマ・ナガサキ・核」では、核の恐怖を伝える17点＋2シリーズを解説。他に11点の書目を紹介。

020
き
〈広〉
〈長〉
中学～

きみには関係ないことか ー戦争を考えるための子どもの本ー 1984・1991

京都家庭文庫地域文庫連絡会戦争を考えるための子どもの本リスト編集委員会 編

「きみには関係ないことか 2」

編集担当 読書研究会 編

京都家庭文庫地域文庫連絡会

1984年・1991年 86P・80P

なぜ戦争が起こるのか、どうすれば防げるのかを考えるための本のリストの2巻目。2巻目では1984年から1989年までに出版されたものを中心に収録。Ⅳ章では、広島・長崎の原爆に関する本54点を、また、Ⅷ章では、核軍備や原子力発電などの核問題を扱った本25点を紹介。

020
き
〈広〉
〈長〉
中学～

きみには関係ないことか ―戦争と平和を考えるブックリスト― '90～'96・'97～'03・'03～'10

京都家庭文庫地域文庫連絡会 編
かもがわ出版 1997年・2004年・2011年
102P・118P・127P

なぜ戦争が起こるのか、平和のために何ができるのかを考える子どもの本を、表紙写真と対象学年と共に紹介したリストの3～5巻目。いずれも広島・長崎の原爆や核を扱った項目がある。

060
り
9
〈広〉
〈長〉
小高～

戦争と郷土の歴史を考える ―郷土の研究―

(理科・社会がおもしろくなる博物館 9)
福武書店 1992年 47P

第二次世界大戦、日本で唯一戦場となった沖縄。その沖縄にある博物館や資料館のさまざまな資料や、訪ねた被災地を写真で紹介。巻末には、戦争や郷土の歴史を知る学習や研究に役立つ全国の博物館として、広島の平和記念資料館などが紹介されている。

150
こ
〈広〉
小高～

自分ってなんだろう? ―自分をみつめ、ひとをみつめる―

(10代の教養図書館 27)
小島 昌世 著
ポプラ社 1995年 172P

思春期の若者が抱える問題を、著者が出会った子どもたちの姿を通して考える本。その中の一人で不登校だった高校生のめぐみは、研修旅行で訪れた広島で被爆者の話を聞き、衝撃を受ける。そこから、自分が生きていることの意味を考え始めためぐみの姿を描く。

200
か
8
〈広〉
〈長〉
小高～

学習に役立つものしり事典365日 8月

小峰書店 1990年 65P

1年365日、その日に起こった歴史的な出来事を記し、月別にまとめた本。この8月の巻では、8月6日と9日に広島、長崎に原爆が落とされた経緯、被害状況などが記されている。また、燈籠流しの由来もミニコーナーで紹介されている。

200
き
〈広〉
〈長〉
小高～

きょうはなんの日? 7月・8月

―記念日・人物・できごと・お祭り・事件―
布施 孝子 文
ポプラ社 1999年 75P

毎日の記念日や出来事を紹介するシリーズの、7・8月を取り上げた巻。8月6日・9日の項で、広島・長崎に投下された原爆について述べている。被爆当時の被害状況をはじめ、その後の影響や核の脅威などにも触れ、本当の平和とは何かを問いかけている。

200
せ
〈広〉
小高～

平和公園碑めぐりガイドブック —国際平和年記念出版—

生活協同組合ひろしま 編
生活協同組合ひろしま 1986年 28 P
〔改訂版 2007年 32 P〕

広島平和記念公園内の碑、塔、像や原爆ドーム、爆心地周辺など12カ所を紹介する冊子。それぞれの写真と説明文を見開きで掲載し、写真に建立年月日、建立者と制作者名、碑文などを付記。平和記念資料館から峠三吉詩碑までを巡るコース順とガイドマップも掲載する。

200
に
1・2
〈広〉
中学～

広島のいしぶみはみつめる 第1集・第2集

西尾 隆昌 〔編〕
西尾隆昌 1982年・2000年 120 P・245 P

原爆犠牲者の慰霊や世界恒久平和を祈って建立された慰霊碑・平和祈（記）念碑。これらの碑銘や碑文を収録し、碑の写真と共に紹介した冊子。第2集では、1982年に出版された第1集で未収録だったものや新たに建立されたものを掲載している。

200
は
〈広〉
中学～

恐ろしい本

（ちくま少年図書館 2 歴史の本）
長谷川 四郎 著
筑摩書房 1970年 257 P

歴史上起こった恐ろしい出来事の話を集めたもの。「死んだ女の子」の章では、原爆投下を行った兵士の心理や行動、被爆者の手記、原爆投下の歴史的過程の3点から原爆の恐ろしさについて語っている。

209
あ
1
〈広〉
〈長〉
中学～

子どもにつたえる世界の戦争と平和 —写真・絵画集成— 1 —あの日を語りつぐ— （平和図書館）

荒井 信一（ほか） 編
日本図書センター 1995年 198 P

写真や絵によって、子どもたちに戦争を伝えようとするシリーズの第1巻。この巻では、写真のほか、直接戦闘に加わらなかった女性たちの証言も収録。「広島・長崎の原爆」の項で、在日朝鮮人被爆者を含む4人の女性の証言や写真から、原爆の悲惨さを訴える。

209
し
2
〈広〉
〈長〉
中学～

人類の歴史を変えた8つのできごと 2 —民主主義・報道機関・産業革命・原子爆弾編— （岩波ジュニア新書 712）

眞 淳平 著
岩波書店 2012年 263 P

人類の歴史を大きく変えた出来事を2分冊で紹介。第2巻では、最終章に兵器の歴史を取り上げ、弓矢の戦いから原爆投下、さらには急激に進歩する戦争技術を論じる。軍事と科学の密接な関連や、核兵器と核開発へのさまざまな動きから、人類の未来を考えさせる。

209
た
10
〈広〉
〈長〉
小高～

第二次世界大戦 10 —ヒロシマ・ナガサキの原爆—

梶 一男 著
太平出版社 1985年 129 P

第二次世界大戦の全容と問題点をまとめた全12巻のうちで、第10巻では広島と長崎の原爆の記録を描く。原爆が落とされるに至ったいきさつや、当時の日本政府の態度などが、写真や資料・コラムを用いて、簡潔にまとめられている。

209
よ
21
〈広〉
小高～

原子爆弾投下

(物語世界の歴史 21)
吉田 悟郎 (ほか) 編
岩崎書店 1983年 185 P

物語的に世界史を概説したシリーズの第二次世界大戦終結前後を扱った巻。「ノーモアヒロシマ」の章で女学生の娘を原爆で失った中村さんという人物を設定し、広島への原爆投下の歴史を語る。

209
れ
〈広〉
〈長〉
小高～

みんなが知りたい!世界と日本の「戦争遺産」戦跡から平和を学ぶ本 —戦いによる「負の遺産」を心に刻み争いのない世界への想いをあらたに!—
(まなぶっく)

歴史学習研究会 著
メイツ出版 2017年 128 P
〔新版 メイツユニバーサルコンテンツ〕
〔2021年〕

広島県の爆心地付近では唯一の被爆建造物・原爆ドーム。核の恐ろしさを、戦争遺産として今に伝える。戦争の記憶を残し、平和について考えさせる世界各地の施設や場所を、データ、写真、地図などと共に紹介。繰り返してはならない悲劇や歴史の一端を学べる本。

210
あ
〈広〉
〈長〉
中学～

母と子でみる広島・長崎

朝日新聞企画部 編
草土文化 1983年 111 P

1982年の夏から秋にかけ各地で催された「忘れまい、この惨禍——原爆展」(広島市・長崎市・朝日新聞社主催)の紙上展ともいえるもの。被爆した広島・長崎の悲惨な状況を、数々の遺品、被爆物、写真、証言によりつづる。

210
あ
〈長〉
小高～

小倉に原爆が落ちた日 —シミュレーション (モデル計測)—

朝日新聞西部本社社会部 編
あらき書店 1983年 29 P

広島に続く原爆投下予定地は小倉だったが、気象条件が悪く原爆は長崎に投下された。もし予定通り小倉に原爆が投下されていたらどうなっていたか。数々のデータを基に小倉に原爆が落ちた日の被害を予想する。

210
あ
〈広〉
〈長〉
小高～

アジア・太平洋戦争

(ポプラディア情報館)

ポプラ社 2006年 199 P

アジア・太平洋戦争を、戦争の始まりや経過、戦時下の人々の様子などのテーマごとに写真や資料で分かりやすく解説した本。3章で、原爆投下までの経緯や原爆による被害について取り上げる。また9章では、広島・長崎の原爆資料館や原爆遺跡を紹介している。

210
あ
5
〈広〉
〈長〉
小高～

語り伝える空襲 第5巻

(ビジュアルブック)

安斎 育郎 文

新日本出版社 2008年 39 P

—人類初の核攻撃— —広島・長崎の原爆と中国・九州の空襲—

広島・長崎の被爆の実態を伝えるとともに、中国地方と九州地方に加えられた空襲についても地図や写真を使って詳しくまとめた本。また、空襲を伝える資料館の紹介、戦争や平和について学べる映像作品の紹介なども充実しており、平和学習に役立つ。

210
あ
1～5
〈広〉
〈長〉
小高～

シリーズ戦争 語りつごうヒロシマ・ナガサキ

- 1 天からふってきた悪魔—
- 2 キノコ雲の下で起きたこと—
- 3 歴史を未来にいかす—
- 4 核兵器とはどういうものか—
- 5 平和についてかんがえる—

安斎 育郎 文

新日本出版社 2014年～2015年 各39 P

広島・長崎の原爆について、さまざまな視点から捉えた5巻のシリーズ。街の昔と今の様子や原爆の惨禍を伝える施設、放射線障害の特徴、原爆が作られた経緯、ヒロシマ・ナガサキを語り継ぐ意味など、関連資料を添えて解説する。5巻巻末には索引を付す。

210
い
〈広〉
小高～

復興の記憶

—ヒロシマを見つめた写真家たち— —被爆70年記念写真展—

泉美術館 企画制作

泉美術館 2015年 69 P

原爆投下後、焼け野原となった広島が次第に復興していく様子を、写真でたどる展覧会の図録。1945年から1968年までの作品70点を収録。当時の街や生活風景、子どもたちの様子を克明に捉え、復興に向けて力強く生きる人々の姿と戦争の惨禍を、後世に伝える。

210
い
〈広〉
小中～

ヒロシマ8月6日、少年の見た空

—戦争ノンフィクション物語—

井上 こみち 文

すがわら けいこ 絵

学研教育出版 2015年 103 P

—12歳5か月の戦没者—

両親と二人の姉に囲まれて育った中学1年生の杜夫^{もりお}は、家族に見送られ勤労動員先へ向かうが、作業中に被爆する。次女の証言を基に、杜夫の誕生から原爆投下、戦後、帰らぬ彼を見つけ出せず無念な思いで過ごした日々をつづる、一家の記録。既刊絵本を加筆、再編。

210
い
10
〈広〉
〈長〉
小高～

日本の歴史 10 —カラー版— —新しい日本—

今井 庄次 著
ポプラ社 1969年 247P

「日本の誕生」から「新しい日本」まで、日本の歴史を全10巻にまとめたシリーズ。最終巻では昭和時代を取り上げ、国際間の軋轢から世界大戦へと向かう状況を、第1章で語る。原子爆弾の開発・投下に至る歴史が、当時の写真や絵と共に掲載されている。

210
う
〈広〉
中学～

ヒロシマ散歩 —原爆遺跡・戦跡をたずねて—

植野 浩 著
汐文社 1997年 172P

旧市内に残る原爆遺跡・戦跡を15の地域に分けて紹介。地域の歴史・原爆との関わりや、各遺跡、戦跡について写真と共に解説。遺跡などを訪ねながら調べるのに役立つ内容となっている。巻末に「軍都「広島」を中心とした略年表」を掲載。

210
え
〈広〉
〈長〉
中学～

1941年12月8日 —アジア太平洋戦争はなぜ起こったか—

(岩波ジュニア新書 198)
江口 圭一 著
岩波書店 1991年 214P

1941年12月8日、ハワイ・マレー奇襲に始まった“アジア太平洋戦争”。その原因と前史を明らかにし、戦争に至る道筋と破局に向かう経緯をたどるとともに、戦法・戦力等の具体的な記述でこの戦争の実態にせまる。原爆投下とポツダム宣言との関連にも詳しい。

210
え
6
〈広〉
〈長〉
小中～

絵でよむ日本の歴史 6 —戦争と平和— —昭和—

鈴木 亮 編
中妻 雅彦 編
金沢 佑光 絵
大月書店 1990年 47P

日本史の1場面を絵にしたシリーズの昭和編。昭和初期の不況の時代から日中戦争、太平洋戦争、戦後、現代と21場面で構成されている。その中の12場面目が、広島・長崎の原爆投下についての記述。見開きいっぱいの絵と簡単な解説が記載されている。

210
え
5
〈広〉
小高～

NHK日本映像の20世紀 5 —中国・四国地方—

—都道府県別で100年の歴史がよくわかる—
ポプラ社 2003年 79P

同名のテレビ番組を基に、20世紀の歴史や産業を都道府県別に紹介するシリーズの5巻目。「原爆の被害を受け、平和への願いを発信し続ける広島県」というテーマで、軍都広島 of 歴史や被爆直後の様子、原爆ドーム保存運動などを取り上げる。

210
お
5
〈広〉
小高～

おはなし太平洋戦争史 5 一新日本の誕生—

和歌森 太郎（ほか） 編
岩崎書店 1970年 298 P

満州事変から太平洋戦争まで、15年間にわたる戦争の歴史を分かりやすく伝えるシリーズの最終巻。原子爆弾の開発や、1945年原爆投下に至るまでの状況などを記述。原爆投下後の広島の様子とその後の日本について書かれた被爆者の手記も掲載。巻末に年表あり。

210
か
〈長〉
中学～

九州史跡見学

（岩波ジュニア新書 162）

川添 昭二 著
岩波書店 1989年 239 P

九州には、太宰府・長崎をはじめ、外来文化の窓口として古くからの多くの史跡、文化財がある。北九州を出発点に、JR線に沿って、九州各県の名所・旧跡を探訪。長崎県の項では、長崎の原爆の惨禍と被爆遺跡の紹介がしてある。総合的な九州案内。

210
く
〈広〉
〈長〉
中学～

原爆写真 ノーモアヒロシマ・ナガサキ

黒古 一夫 編
清水 博義 編
James Dorsey 訳
日本図書センター 2005年 94 P

広島と長崎の原爆投下後の惨状を記録した写真集。写真のほかにも原爆を描いた絵や詩を収録。今も多くの人が苦しんでいる事実を記憶し、ヒロシマ・ナガサキの惨劇を伝え続けることによって、「核」という非人間的な兵器の廃絶を訴える。

210
け
1～3
〈広〉
〈長〉
小高～

新聞で調べよう現代日本の50年

- 1 新憲法と戦後復興
- 2 国際復帰と東京オリンピック
- 3 高度成長と公害

現代日本の50年編集委員会 編
大日本図書 1995年 各119 P

敗戦から現代まで、めざましい発展を遂げた日本。その50年を年代ごとに、写真と文章による新聞記事形式で解説。敗戦からの復興による国土の繁栄のみならず、それに伴う公害などのマイナス面も取り上げている。1～3巻に、広島・長崎の原爆に関する記述がある。

210
こ
〈長〉
中学～

長崎原爆写真集 一決定版—

小松 健一 編
新藤 健一 編
勉誠出版 2015年 257 P

1982年に発足した「反核・写真運動」が収集・保管していた長崎の原爆写真から、400点余りを撮影年月日順に掲載。それぞれの写真に、撮影日、場所、撮影者、説明等を記し、英文も併記する。撮影者の対談や証言、解説も収録。巻末に撮影者一覧あり。

210
こ
〈広〉
中学～

広島原爆写真集 ―決定版―

小松 健一 編
新藤 健一 編
勉誠出版 2015年 245 P

1982年に発足した「反核・写真運動」が収集・保管していた広島原爆写真から、400点余りを撮影年月日順に掲載。それぞれの写真に、撮影日、場所、撮影者、説明等を記し、英文も併記する。撮影者の対談や証言、解説も収録。巻末に撮影者一覧あり。

210
さ
〈広〉
小高～

「ヒロシマ消えたかぞく」のあしあと

(ポプラ社ノンフィクション 41)

指田 和 著
ポプラ社 2022年 239 P

原爆で死亡した鈴木六郎さん一家の写真を絵本にまとめた著者。その取材体験と、絵本完成後に広がった出会い、発見した新事実や気付きを丹念に記録した。家族の生きた証を次世代につなげたいと願う著者が、平和のために考え、行動することの大切さを訴える。

210
さ
1・2
〈広〉
〈長〉
小中～

ビジュアル版 平和博物館・戦跡ガイド

- 1 広島平和記念資料館と戦跡めぐり
- 2 長崎原爆資料館と戦跡めぐり

佐藤 広基 イラスト・文
本地 桃子 イラスト・文
汐文社 2004年 55 P・47 P

広島・長崎・沖縄の平和博物館や戦跡を、たくさんの写真やイラストで分かりやすく紹介した全3巻のシリーズ。1巻目では広島平和記念資料館を、2巻目では長崎原爆資料館を中心に、慰霊碑や被爆建物、被爆樹などの原爆遺跡を取り上げている。

210
し
2
〈広〉
〈長〉
小高～

昭和の歴史 中

(くもんのまんがおもしろ大研究ワイド)

森藤 よしひろ まんが
くもん出版 1989年 160 P

『昭和の歴史』の中巻として、昭和16年から27年までの、戦争の嵐と平和への道をたどる。敗戦色濃い日本の姿をまんがで描きながら、広島に原爆が落ちた前後の様子を、簡単な統計数値を含めて触れている。

210
し
8
〈広〉
〈長〉
小高～

調べ学習日本の歴史 8 ―アジア太平洋戦争の研究―

ポプラ社 2000年 47 P

日本の歴史のなかで、調べ学習に取り上げられることの多いテーマについて、各年代ごとに解説したシリーズの8巻目。アジア太平洋戦争をテーマに、「広島、長崎に原爆投下」「核兵器のない世界をめざして」の項で、原爆の被害状況や被爆者のその後に触れる。

210
し
12
〈広〉
〈長〉
小高～

しらべ学習に役立つ日本の歴史 12

—原爆ドームがかたる戦争の悲劇—

古川 清行 著

小峰書店 1995年 47P

—太平洋戦争をしらべる—

原爆が投下された頃の日本の様子を中心に、太平洋戦争の始まりから、敗戦までを解説。当時の写真や証言から、空襲の被害や、物資の不足による苦しい国民生活を考察する。また、広島と長崎の悲劇を数々の遺品や、迫力ある絵画で伝える。

210
し
3
〈広〉
〈長〉
小高～

シリーズ戦争遺跡 3 —町が消えた—全国の空襲・原爆遺跡—

辻 隆広 編

汐文社 2010年 59P

写真と共に戦争遺跡を紹介するシリーズ第3巻。空襲・原爆遺跡を取り上げる。広島と長崎に投下された原子爆弾の爪跡のほか、模擬原爆パンプキンの解説などもある。巻末には本文に登場する戦争遺跡の地図や日本の戦争史年表、索引を掲載。調べ学習にも使える。

210
し
5
〈広〉
〈長〉
小中～

シリーズ戦争孤児 5 —原爆孤児—

—ヒロシマの少年、ナガサキの少女—

平井 美津子 編

汐文社 2015年 55P

戦争で身寄りを失った子どもたちの姿を伝える全5巻のシリーズ。第5巻は「原爆孤児」を取り上げ、広島・長崎の原爆投下で、苦難を強いられた幼い子どもたちや、必死に生きる彼らを援助した人々を、写真と共に紹介。原爆の悲劇を伝える映像や文学にも言及。

210
し
7
〈広〉
〈長〉
小高～

人物や文化遺産で読み解く日本の歴史 7

—大正・昭和・平成時代—

あかね書房 2010年 47P

—吉田茂・原爆ドーム・日本国憲法—

各時代に活躍した人物や文化遺産を取り上げながら、日本の歴史を解説するシリーズの第7巻。「広島と長崎に原爆投下」の項で、原爆投下時の様子などを、爆心地付近の写真と共に伝えている。広島平和記念資料館、長崎原爆資料館の紹介もある。

210
す
〈広〉
〈長〉
小高～

子どもにおくる戦争があったころの話

鈴木 喜代春（ほか） 編

らくだ出版 2006年 207P

一人1ページで語られる、戦時下においての自身や家族、知人の実体験に基づく個人の話を収めたもの。第1章では、戦争の被害者、加害者両面からの話を取り上げる中、広島や長崎の原爆投下での体験を掲載し、二度と戦争による悲劇を繰り返さないよう訴える。

210
せ
7
〈広〉
小中～

せんそうってなんだったの？ 第7巻 —原爆・沖縄—

(語りつきお話絵本)

学習研究社 2007年 47P

広島市から少し距離がある仁方駅の駅員が、原爆投下2日後の爆心地で目にした光景とは——。この話のほか沖縄戦の物語一編を収める。さまざまな角度から語られた戦争の体験を、絵と物語と写真入りの解説で現代の子どもたちに伝えるシリーズの7巻目。

210
せ
〈広〉
小中～

せんそうってなんだったの？ —語りつきお話絵本 ほんとうにあった4つのお話—

ささき あり 作

井上 こみち 作

戸田 和代 作

夏目 尚吾 (ほか) 画

学研教育出版 2013年 79P

原爆投下の2日後に広島市内に入った仁方駅員は、変わり果てた町を目にする(「おねがいです、水をください」)。このほか、2007年出版の「せんそうってなんだったの？」(全8巻)から抜粋した3話を収めた本。巻末に「せんそうと原爆く」などのコラムもある。

210
せ
2-9
〈広〉
小中～

せんそうってなんだったの？ 第2期9 —広島原爆、少年の死— —8月6日、モリオの見た空—

(語りつきお話絵本)

井上 こみち 文

すがわら けいこ 絵

学研教育出版 2014年 31P

広島に住む中学1年生のモリオは、町の家屋を取り壊す作業中に被爆する。家族はモリオの無事を祈りながら、焼け野原となった町を探し続けるが……。戦争を体験した人の話を基に書かれたシリーズの1冊。巻末には原爆の被害や核兵器についての解説もある。

210
せ
2-10
〈長〉
小中～

せんそうってなんだったの？ 第2期10 —長崎原爆、生死を分けた運命— —それでも星はかがやいていた—

(語りつきお話絵本)

光丘 真理 文

藤本 四郎 絵

学研教育出版 2014年 31P

学徒動員で長崎の軍需工場に行っていた旧制高校2年生の治正^{はるまさ}は、8月9日に原子爆弾の炸裂を目撃する。仲間を探して向かった町は変わり果てていて——。実際に原爆を体験した人の話を基に書かれた物語。巻末に長崎の原爆と勤労働員の解説がある。

210
そ
〈広〉
中学～

加害基地宇品 —新しいヒロシマ学習—

空 辰男 著

汐文社 1994年 255P

被害者としての被爆地・ヒロシマは、一方で軍港だった宇品を持つという加害者の面も持っていた。その宇品の築港から、海上特攻隊の被爆者救出までの歴史をつづる。その上で、アジア侵略の反省や、これからのアジアの国々との共存・共生の道を問う。

210
た
〈広〉
小高～

ヒロシマの原子雲 —運命の無条件降伏—
(太平洋戦史 6)
高城 肇 著
偕成社 1972年 212 P

太平洋戦史全6巻の最終巻で、沖縄決戦から終戦までを5章に分けて描く。「ヒロシマに原爆投下」の章で日本が無条件降伏する要因となった原爆投下の過程を史実に基づいて述べる。

210
た
2
〈広〉
〈長〉
小高～

日本の歴史 下
(新版あかるい社会)
高橋 碩一 著
徳武 敏夫 著
山下 國幸 著
岩崎書店 1987年 225 P

お話形式による歴史の本。疎開先の宮島へ帰るといふ日に被爆し、母を失った山本節子さんの話(「原爆に焼かれて」)。昭和57年の反核・軍縮集会「5・23東京行動」とニューヨーク百万人大行進の話(「ノーモア=ヒロシマ・ナガサキ」)の二つを収録。

210
ち
〈広〉
中学～

ヒロシマの空白 —被爆75年—
中国新聞社報道センターヒロシマ平和メディアセンター 著
中国新聞社 2021年 127 P

原爆投下から75年たっても、犠牲者の正確な人数は分かっていない。本書では未解明の原爆被害の実態を取材し、公的記録から漏れた被爆者、身元不明の遺骨、散逸した資料などの問題を提起。被爆前後の写真から当時の街の全体像に迫る「街並み再現」も紹介。

210
ち
〈広〉
小中～

子どもたちへ、今こそ伝える戦争 —子どもの本の作家たち19人の真実—
長 新太(ほか) 著
講談社 2015年 175 P

子どもの本の作家19名が、それぞれの戦争体験を、子どもに向けてありのままに伝える一冊。「八月六日の思い出」(那須正幹著)、「原子爆弾が落ちた日」(山下明生著)は、広島原爆についての体験。文中の言葉の説明やイラスト、その時代の出来事も掲載。

210
つ
〈広〉
小高～

ヒロシマ・コレクション —広島平和記念資料館蔵—
土田 ヒロミ 撮影
日本放送出版協会 1995年 123 P

広島平和記念資料館が所蔵する7000点もの被爆資料や遺品のうち、過去15年間に新しく寄贈された資料を中心に撮影した写真集。写真を通してヒロシマを考え続けている著者の、後世にヒロシマを伝えようとする姿勢が感じられる。全ての説明に英訳を併記。

210
て
1・2
〈広〉
〈長〉
中学～

綾瀬はるか「戦争」を聞く 〔I〕・II

(岩波ジュニア新書 741・835)

TBSテレビ『NEWS23』取材班 編
岩波書店 2013年・2016年 191P・202P

広島出身の俳優・綾瀬はるかが戦争による被害者を取材したテレビ番組を書籍化したもの。自身の祖母に初めて聞いた原爆の話や、原爆投下の2日後に爆心地近くで生まれた女性の話など、年々減り続ける戦争体験者のつらい記憶と今の思いが語られる。全2巻。

210
て
〈広〉
小中～

まんがで語りつぐ広島復興 ―原爆の悲劇を乗り越えた人びと―

手塚プロダクション まんが
青木 健生 シナリオ
小学館クリエイティブ 2015年 255P

原爆投下により焼野原となった広島市街地。生き残った人たちの手で、水道は8月6日午後、電気は8日、路面電車の一部は9日には復旧した。深い傷を負いながらも、すぐさま街の再建に立ち上がった人びとの勇気と気力、平和への願いを復興秘話とともに伝える。

英語版: ²¹⁰_T 『Hiroshima's Revival』 ―Remembering how people overcame destruction and despair―

Takeo Aoki シナリオ
Tezuka Productions 漫画
Pauline Baldwin 英訳
Shogakukan Creative Inc. 2016年
255P

210
て
〈長〉
小中～

平和のたからもの ―大きく育て、被爆くすの木の子どもたち！―

(くもんのノンフィクション児童文学)

寺田 志桜里 ぶん・え
くもん出版 2001年 125P

小学2年生で被爆くすの木と出会った著者が、6年生の時に譲り受けた二世の苗木を中学生になって近隣の学校や神社に植樹するまでの活動の記録。くすの木の紙芝居をつくったり、祖父母に被爆当時の話を聞く中で感じたことや、平和について考えたことをつづる。

210
に
〈広〉
〈長〉
小高～

21世紀こども百科歴史館

小学館 1999年 358P

古代から現代までの日本の歴史を総合的に学習できる1冊。「昭和・平成時代」で、広島と長崎の原爆投下による被害の様子を、数々の遺品や写真と共に紹介している。また、原子爆弾の構造も図解されており、“核兵器のない平和な世界を”と訴えている。

210
に
〈広〉
小中～

ピカドンのきのこ雲

(こども日本の歴史 10)

日本児童文芸家協会 編
ポプラ社 1975年 174P

日本の歴史をものがたり形式でつづるシリーズの第10巻で、大正・昭和史10話が収められている。第8話「ピカドンのきのこ雲」で、疎開中の兄弟の目を通して広島原爆について描く。

210
に
7
〈広〉
〈長〉
小高～

日本の遺跡と遺産 7 ―戦争遺跡―

矢野 慎一 著

岩崎書店 2009年 55P

日本の遺跡と遺産を紹介するシリーズの、戦争遺跡を掲載した巻。各県ごとにまとめられた中で、広島と長崎は巻頭の特集で扱い、遺跡も相応のスペースをとって解説されている。図版も豊富で、巻末に索引もある。遺跡の調査方法も記載され、調べ学習に役立つ。

210
に
〈広〉
〈長〉
小中～

日本の戦争遺跡図鑑 ―そこで、何が起こったの?―

―歴史を正しく知るために―

PHP研究所 2013年 63P

明治初期から太平洋戦争までの、軍事施設や工場、戦災地、戦争に関連する建造物など、日本の戦争遺跡を紹介。第7章では広島や長崎の原爆遺跡を取り上げる。各遺跡の成り立ちや歴史などを写真や図で解説し、巻末には主な平和博物館・資料館ガイドもある。

210
に
5
〈広〉
〈長〉
小高～

日本の歴史 5 ―世界のなかの日本―

宇野 俊一 編

集英社 1991年 269P

写真や図版を取り入れた歴史書の5巻目で、明治維新から現代までを収める。第三章の「ふたつの世界大戦と日本」では、広島・長崎への原爆投下について記述。章の口絵に、被爆の惨状を伝える写真やカラー挿絵が配され、重要事項として取り上げられている。

210
に
7
〈広〉
〈長〉
小中～

日本の歴史博物館・史跡 7 ―明治・大正・昭和・平成時代―

あかね書房 1999年 47P

日本の歴史の時代順に、その時代の史跡や歴史博物館、資料館を紹介するシリーズの7巻目。「原爆」の項で、広島平和記念資料館、長崎原爆資料館を取り上げ、原子爆弾や被害について分かりやすく説明。両資料館の展示品数点のカラー写真を掲載する。

210
に
〈広〉
中学～

A I とカラー化した写真でよみがえる戦前・戦争

庭田 杏珠 著
渡邊 英徳 著
光文社 2020年 466 P

戦前から戦後にかけてのモノクロ写真をカラー化する取り組み「記憶の解凍」プロジェクト。A I 技術と戦争体験者への聞き取りや資料を基に実現させた。広島、沖縄をはじめ国内外の写真約350枚を収録。よみがえった記憶の色が、当時の様子を鮮やかに伝える。

210
は
〈広〉
〈長〉
中学～

爆心地ヒロシマに入る ―カメラマンは何を見たか―

(岩波ジュニア新書 208)

林 重男 著
岩波書店 1992年 194 P

原爆投下から2カ月後の広島・長崎を、学術調査団のカメラマンとして撮影した著者が見、感じたことは何か？ 当時の貴重な写真や、それを残した他の原爆カメラマンたちのその後も交えて述懐。掲載された写真の1枚1枚が、原爆の悲惨さ、恐怖を静かに訴える。

210
は
〈広〉
〈長〉
中学～

母と子でみる原爆を撮った男たち

反核・写真運動 編
草の根出版会 1987年 183 P

広島・長崎の原爆の惨状を記録した写真はいま、全世界の人々に核の恐ろしさを訴えている。この貴重な記録が埋もれることなく、正しい歴史の証として後世に残るようにと作られた本である。撮影した時の実態・撮影者の事情などが写真と共に記録されている。

210
ひ
12
〈広〉
〈長〉
小中～

ひとり調べができる時代別日本の歴史 12 ―昭和（後期）・平成時代―

学習研究社 1997年 48 P

調べ学習の際に必要な項目を取り上げて解説した、日本の歴史シリーズの12巻目。本書では、第二次世界大戦から現在までを取り上げる。「原爆投下」「平和のとうとさ」の項で、広島・長崎の被害状況や広島平和記念資料館について、写真・図と共に紹介する。

210
ひ
1・2
〈広〉
〈長〉
小高～

100人が語る戦争とくらし 1・2

1 子どものくらし
2 家庭のくらし
学研プラス 2017年 各47 P

戦中・戦後の事柄や道具を写真やイラストと共に説明しながら、当時の暮らしを伝えるシリーズ。戦争体験者へのインタビューを基にした漫画やコラムも掲載。第1巻に原爆孤児となった男性の体験談、第2巻に原爆の解説と、自宅で被爆した女性の体験談がある。

210
ひ
〈広〉
中学～

爆心直下の町—細工町・猿楽町 —広島平和記念資料館令和四年度第一回企画展—

広島平和記念資料館学芸課 〔編〕
広島平和記念資料館学芸課 2022年 14P

爆心直下の細工町には郵便局、お寺、病院が、猿楽町には広島県産業奨励館、商店が立ち並び、人々の暮らしがあった。二つの町の被爆前の街並み、変わり果てた光景、再建の歩みを、当時の写真や遺品、住民の証言を交えて解説した企画展の図録。英語版も同時刊行。

英語版： ²¹⁰_H 『Neighborhoods Directly Beneath the Center of Explosion
—Saiku-machi and Sarugaku-cho —Hiroshima Peace Memorial Museum Special Exhibition—』

Hiroshima Peace Memorial Museum 〔編〕
Curatorial Decision, Hiroshima Peace Memorial Museum
2022年 14P

210
ひ
〈広〉
小高～

広島県の歴史ものがたり

広島県郷土史研究会 編著
日本標準 1981年 223P

広島県の歴史をものがたり形式で分かりやすく紹介したもの。7・8章の「変わる世の中」「生まれ変わる広島」には、原爆投下時の様子や、平和記念都市広島へと復興するまでの人々の努力がつつられている。

210
ふ
3
〈広〉
〈長〉
小高～

わたしたちのアジア・太平洋戦争 3 —新しい道を選ぶ—

古田 足日 編
米田 佐代子 編
西山 利佳 編
童心社 2004年 299P

アジア・太平洋戦争を振り返り、さまざまな立場の人の手記や体験談を収めたシリーズの3巻目。本書では、広島で被爆した後教師となった田川時彦さんをはじめ、韓国の被爆者や、平和について学ぶ若者まで、幅広い年代の人の平和を願う強い思いがつつられている。

210
へ
1
〈広〉
小高～

平和学習に役立つ戦跡ガイド 1 —ヒロシマー—

平和学習に役立つ戦跡ガイド編集委員会 編
汐文社 2014年 47P

修学旅行の事前学習や平和学習に役立つシリーズの第1巻。原爆ドームをはじめ、広島市内にある22の戦跡や資料館などを写真と共に紹介。所在地や見学の注意も記す。原爆投下による被害状況や核について考えるコラム、第二次世界大戦のあらましも掲載。

210
へ
2
〈長〉
小高～

平和学習に役立つ戦跡ガイド 2 —ナガサキ—

平和学習に役立つ戦跡ガイド編集委員会 編
汐文社 2014年 47P

修学旅行の事前学習や平和学習に役立つシリーズの第2巻。長崎市内にある、浦上天主堂など9カ所の戦跡と、長崎原爆資料館など原爆を学ぶ6カ所の施設を紹介。原爆投下による被害状況や第二次世界大戦のあらまし、戦跡の見学後、新聞にまとめる方法も掲載する。

210
へ
5
〈広〉
〈長〉
小高～

平和を考える戦争遺物 5 —広島・長崎・空襲—

是恒 高志 編
汐文社 2014年 55P

博物館などに保存されている戦争の遺物をまとめたシリーズ。第5巻では原爆と空襲がもたらした惨状を、残された品々と、当時の証言や絵・写真と共に紹介。さびついた焼夷弾や砲弾、時を止めた時計や焼け焦げた夏服が、「あの日」の出来事を語っている。

210
ま
〈広〉
小高～

なみだのファインダー —広島原爆被災カメラマン 松重美人の1945.8.6の記録—

松重 美人 著
ぎょうせい 2003年 63P

軍の報道班員であり、新聞社社員であった著者は、自宅で被爆。地獄絵図と化した広島や、生死の境で苦しむ人々の様子を伝え残さねばと、慟哭の思いでシャッターを切る。その貴重な写真と、当日の状況をまとめた記録集。写真に写った人との対談も収録。

210
む
〈広〉
〈長〉
中学～

20世紀を一緒に歩いてみないか

(岩波ジュニア新書 377)

村上 義雄 著
岩波書店 2001年 256P

ジャーナリストである著者が、20世紀に起こった忘れてはならない事実を若い人たちに伝えたいと記した本。日本の出来事を中心に年代順に解説しており、1945年の「原爆投下」では広島・長崎での惨状について触れ、21世紀への課題として核兵器廃絶を訴えている。

210
む
4
〈広〉
〈長〉
小高～

シリーズ戦争 子どもたちが綴った戦争体験 4

—最後まで、勝利を信じて～本土決戦、焼土と化した日本～—

村山 士郎 著
新日本出版社 2021年 63P

太平洋戦争中、子どもたちが戦争をどう捉え、どのような体験をしたのか。子どもたち自身が綴った作文や絵、日記などからひもとくシリーズの第4巻。広島・長崎での原爆体験を書いた手記、戦後作られた映画「ひろしま」を観た感想文なども掲載されている。

210
め
4
〈広〉
〈長〉
小中～

目でみる戦争とくらし百科 4 一空襲と空腹の日々ー ー1943～1945ー

日本図書センター 2001年 55P

豊富な写真とイラストにより、戦時中のくらしを紹介するシリーズの4巻目。第1章の「広島悲劇」「長崎の惨劇」で、広島・長崎への原爆投下を取り上げ、被爆の状況や爆弾の種類等を対比させ解説。資料として「原爆の図」の世界」も掲載している。

210
も
〈広〉
中学～

遺品は語る

森下 一徹 写真
深沢 一夫 文
汐文社 1982年 238P

ボロボロになった学生服、曲がった弁当箱……。被爆者の遺品であるそれらの資料は、一体、何を語るのだろうか。広島平和記念資料館の展示資料の一部を取り上げ、その写真と遺品にまつわる話を収める。

210
や
〈広〉
〈長〉
中学～

日本の戦跡を見る

(岩波ジュニア新書 454)
安島 太佳由 著
岩波書店 2003年 216P

日本各地に残る戦争遺跡(戦跡)を訪ね歩いた記録とその写真により構成されており、代表的な戦跡として、広島、長崎についても語られている。被災地、要塞、掩体壕など、さまざまな戦跡の中に過去の日本の姿が垣間見え、戦争について考えさせられる。

210
や
〈広〉
〈長〉
小高～

平和を考える戦争遺産図鑑

安島 太佳由 写真・著
岩崎書店 2015年 176P

日本各地から太平洋の島々、東アジアに残る戦争遺跡を訪ねた著者が、軍事施設や艦船の残骸など戦争の痕跡と現在の姿を写真に収めた。第1章始めに広島・長崎の原爆を取り上げ慰霊の様子も伝える。各写真に説明と撮影場所、巻末に主な平和資料館、年表を掲載。

210
れ
11
〈広〉
〈長〉
小中～

太平洋戦争はじまる

(歴史おもしろ新聞 11)
笠原 秀 文
ポプラ社 1990年 55P

地球誕生から現代までの歴史上の事件や出来事を新聞形式でまとめた日本史シリーズの11巻目。この巻では、太平洋戦争の開戦から終戦までの歴史が書かれており、広島・長崎の原爆投下についても、写真を載せ、簡単な解説がなされている。

210
れ
5
〈広〉
〈長〉
小高～

世界と出会う日本の歴史 5 —アメリカからきた青い目の人形—

—第1次・第2次世界大戦—

歴史教育者協議会 編
ほるぷ出版 1999年 47P

日本の歴史を世界との関わりの中から描いたシリーズの5巻目。原爆について書かれた第6章では、その惨状だけでなく、投下に至る経緯や、原爆使用に反対した科学者の話など、背景についても記述。また、スミソニアン博物館の展示問題も取り上げている。

210
わ
9
〈広〉
〈長〉
小高～

1945年8月15日 —日本が負けた日—

(語りつごうアジア・太平洋戦争 9)

和歌森 太郎 (ほか) 編
岩崎書店 1995年 157P

アジア・太平洋戦争の歴史を記したシリーズで、“太平洋戦争史シリーズ”の3訂版。「原爆投下とソ連参戦」の項で、原爆が投下された経緯が被爆者の手記を交えながら述べられている。項末の文が若干加筆され、死没者数などの数値が改められている。

210
わ
7
〈広〉
〈長〉
小中～

わたしたちの戦争体験 7 —原爆—

日本児童文芸家協会 著
学研教育出版 2010年 107P

広島に被爆体験を描いた「キノコ雲が見えた」ほか2編と、長崎の被爆体験を描いた「2枚の絵」の全4編を収録。原爆遺跡をカラーで紹介したページのほか、それぞれの体験の舞台や背景を写真や図版で解説したページもあり、分かりやすい。

250
え
〈広〉
〈長〉
中学～

アメリカ

(世界の国ぐにの歴史 9)

槐 一男 著
岩崎書店 1990年 203P

1945年7月16日、ロスアラモスの工場で、3発の原爆が完成。うちの1発は実験で、あとの2発は広島・長崎で使われた。ぶつつけ本番ともいえる投下の真相とは。「原爆投下」の項で、アメリカ史の視点から、原爆の開発、投下、終戦への経緯を明らかにする。

250
す
2・3
〈広〉
〈長〉
中学～

語られなかったアメリカ史 2・3

2 —オリバー・ストーンの告発— —なぜ原爆は投下されたのか?—

オリバー・ストーン 著
ピーター・カズニック 著
S・C・バートレット 編著
鳥見 真生 訳

3 —人類史上もっとも危険な瞬間—

オリバー・ストーン 著
ピーター・カズニック 著
エリック・シンガー 編著
鳥見 真生 訳

あすなろ書房 2016年・2020年 213P・359P

『オリバー・ストーンが語るもうひとつのアメリカ史』をリライトしたシリーズ。2巻では、広島、長崎への原爆投下に至った経緯について探る。3巻では、米国で原爆投下がどのように報じられたか、またケロイド治療のため渡米した原爆乙女についても触れる。

280
た
〈広〉
中学～

ヒロシマツインズ ―爆心地から生きのびた家族十人の真実の話―

高橋 文子 著
展望社 2022年 237 P

中村家は広島で小さな針工場を営んでいた。1945年の春には双子の赤ちゃんが生まれ、10人家族に。だが同じ年の8月6日、原爆が落とされた。地獄のような惨状の中を生き延び、その後の人生を切り開いていく姿を、当時の世相を振り返りながらつづった家族史。

280
た
〈広〉
中学～

最後の手紙 (ちくまプリマーブックス 44)

立川 昭二 著
筑摩書房 1990年 234 P

人が最後に書く手紙は、その生きざまの集約といえる。本書では、明治以降の32人の人物の最後の手紙や遺書を取り上げ、その背景や意味にも迫る。被爆した東大生鈴木実の死の直前の遺言状や、轢死を選んだ詩人原民喜の遺書は、原爆の悲惨さを鮮やかに伝える。

280
な
〈広〉
中学～

名もなき人びとの伝記 ―わたしのわすれられない人びと― (大日本ジュニア・ブックス ノンフィクション)

永井 萌二 著
大日本図書 1971年 143 P

25年にわたる記者生活の中で、著者が出会った9人の忘れられない人々の人生をつづったもの。まえがきとして、かけだし記者時代に、似島の「広島平和養老館」で暮らすお年寄りの被爆者や、原爆ドームの見える貧しい町で懸命に生きる一家を取材した思いを伝える。

281
え
2
〈広〉
小高～

兵隊ぐらしとピカドン ―吾輩は猫ではない 2― (のびのび人生論 19)

江戸家 猫八 著
ポプラ社 1983年 222 P

著者の半生をユーモラスにつづった『吾輩は猫ではない』の第2部。入隊から復員までの軍隊生活や、広島で被爆した時の様子が描かれている。第3部では、原爆の後遺症に苦しむ姿にも触れている。

281
き
〈長〉
小中～

たゆまぬ歩み おれはカタツムリ ―長崎の平和像を作った北村西望― (ノンフィクション・シリーズ かがやく心)

畑島 喜久生 作
小林 与志 絵
佼成出版社 1986年 163 P

昭和30年に完成した長崎の「平和祈念像」の作者、彫刻家北村西望の半生をつづった伝記。美術学校で彫刻を学び東京で活躍していた西望は、郷里である長崎県原爆犠牲者の慰霊碑を建てる計画に加わり、世界人類の平和を願う「人の形」の像を作りたいと訴える。

- 281
こ
〈広〉
小高～
- 憎しみを乗り越えて** —ヒロシマを語り継ぐ近藤紘子—
佐藤 真澄 著
汐文社 2019年 213P
- 広島^この惨状を米国に伝え、被爆者救済に尽力した牧師・谷本清。その娘の紘子は生後8カ月で被爆。家庭より救済活動を優先する父への不信感や原爆へのわだかまりを抱え、米国へ留学するが……。つらい過去を乗り越え、平和を訴えて講演活動続ける女性の伝記。
- 281
さ
〈広〉
中学～
- 忘れないで8月6日** —広島 母の2週間の学生生活—
佐々木 和子 著
佐々木眞 2019年 39P
- 著者の母は、広島女子高等師範学校に1期生として入学。1945年8月6日に教室で被爆したが、奇跡的に助かり宇品の救護所にたどり着く。わずか2週間の学生生活だった。母の体験を基に、戦争や核の恐ろしさ、平和への思いとともに学ぶことの喜びを伝える。
- 281
さ
〈広〉
小高～
- シゲコ!** —ヒロシマから海をわたって—
菅 聖子 著
偕成社 2010年 171P
- 1955年5月、広島で被爆した25人の女性が、原爆によるやけどの傷を治療するためアメリカに渡った。その一人・笹森恵子^{しげこ}さんは、今もアメリカで暮らしている。被爆時の様子や手術までの道のり、その後の人生などを、本人へのインタビューによりまとめた一冊。
- 281
と
〈広〉
小高～
- 風のように炎のように 峠三吉**
岩崎 健二 作・画
峠三吉記念事業委員会 1993年 193P
- 『原爆詩集』等で知られ36歳で早世した詩人、峠三吉の誕生から死までを追った伝記漫画。三吉の没後40周年を記念して出されたもので、小学校高学年から読める内容となっている。巻末に本人や関係者、直筆原稿等の写真・三吉の年譜を付す。
- 281
な
〈長〉
小高～
- 永井隆** —原爆の荒野から世界に「平和を」—
(ひかりをかかげて)
片山 はるひ 著
日本キリスト教団出版局 2015年 126P
- 白血病を患っていた医師の永井隆は、長崎の爆心地から700mの場所で被爆する。重傷を負いながらも必死の救護活動を行い、病床で原爆の被害報告書や体験記を書き遺した。隣人愛による平和を訴え続けた彼の生涯を紹介する。巻末に年譜、関連作品の案内を掲載。

281
な
〈長〉
小中～

永井隆 —平和を祈り愛に生きた医師—

中井 俊巳 著
童心社 2007年 175 P

放射線科医・永井隆は、白血病を発症した2カ月後、長崎の爆心地から700mの場所で被爆した。重傷を負いながらも医師として救護活動にあたった彼は、病の床で原爆体験記を執筆し、平和を訴え続ける。彼が1951年に亡くなるまでの生涯を写真と共にたどる。

281
な
〈長〉
中学～

オヤジがライバルだった (ちくま少年図書館 82 社会の本)

中里 喜昭 著
筑摩書房 1984年 205 P

大酒飲みで、愚痴と説教ばかりのダメなオヤジ。そのオヤジは、被爆者だった。長崎で被爆し、重い原爆症で入院を繰り返しながら、家族9人を養うオヤジ……。著者の少年時代を振り返り、戦後の貧しい時代を生きる被爆者と、その家族の苦しみをつづる。

281
に
〈広〉
〈長〉
小高～

仁科芳雄／本多光太郎 —基礎科学体系化する— (漫画人物科学の歴史 (日本編))

関口 たか広 漫画
ほるぷ出版 1991年 144 P

日本の基礎科学を世界の水準にまで高めた、仁科芳雄と本多光太郎の業績を漫画で紹介。第二次大戦中、仁科が軍の要請で、当時の技術の低さから実現不能と知りつつ原爆の開発を行い、また、被爆直後の広島・長崎へ調査団として訪れたことなどが描かれている。

281
は
〈広〉
中学～

ヒロシマに生きて —ある外科医の回想— (母と子でみる A 6)

原田 東岷 著
草の根出版会 1999年 135 P

原爆障害の治療や被爆者救援事業など、医療を通して「ヒロシマと平和」をテーマに活動が続けてきた著者の回想録。中国・台湾での7年間に及ぶ軍医としての戦争体験、原爆乙女たちの渡米治療の経緯、バーバラ・レイノルズ氏たち平和活動家との交流などをつづる。

281
ま
〈広〉
小中～

丸木 俊 —「原爆の図」を描き^{えが}世界に戦争を伝える— (伝記を読もう 30)

岡村 幸宣 文
あかね書房 2023年 149 P

夫、丸木位里^{いり}と共に「原爆の図」を描き、世界中で巡回展を行った画家、丸木俊^{とし}の人生をたどる。北海道で生まれた俊は、東京で絵を学び位里と出会う。位里の故郷、広島に原爆が落とされ、その惨状に衝撃を受けた二人は、芸術を通して平和の尊さを伝えようとする。

- 281
や
〈広〉
〈長〉
小高～
- 平和のバトンをつないで** —広島と長崎の二重被爆者・山口^{つとむ}彊さんからの伝言—
(いのちのドラマ 3)
池田 まき子 著
タムラ フキコ 絵
WAVE出版 2014年 141P
- 長崎造船所の技師山口^{つとむ}彊は、3カ月間の広島出張を終え帰郷を翌日にひかえた朝、被爆する。必死に家族の元に戻るが、再びきこ雲を目にする。「あれに追いかけてられているみたいだ」。後遺症を抱えながら家族を養い、後年は語り部として非核平和を訴えた彼の伝記。
- 281
よ
〈広〉
小高～
- 暁の超特急** —吉岡隆徳ものがたり—
辺見 じゅん 著
今井書店 2001年 187P
- 「暁の超特急」と呼ばれた名スプリンター、吉岡隆徳の陸上にかけての一生をつづった伝記。その中で、昭和20年8月6日、動員学徒の監督者として広島市郊外の工場にいた吉岡が、原爆投下直後に広島市内に戻り目にした、建物や人々の惨状を描く。
- 283
あ
〈広〉
〈長〉
小高～
- アインシュタインと相対性理論**
(世界の伝記科学のパイオニア)
D・J・レイン 作
ないとう ふみこ 訳
玉川大学出版部 2015年 123P
- 相対性理論を発表し、物理学の世界に革命を起こしたアインシュタイン。その業績と生涯を写真や図版と共に紹介。11章「戦争と原子爆弾」で、彼が米国大統領に原子爆弾製造の可能性について書簡を書いたことや、核兵器の使用に反対したことなどを伝えている。
- 291
お
11
〈広〉
小高～
- おはなし日本地理 11** —都市・交通 I—
入江 敏夫（ほか） 編
岩崎書店 1978年 156P
- 日本各地の地理をおはなし形式でつづったシリーズの1冊。都市の暮らしについて7章にわたり書かれているが、その内の1章で「原爆にみまわれたまち」として、広島市の原爆投下の歴史、現状に触れている。
- 291
け
〈広〉
中学～
- ガイドブック ヒロシマ** —被爆の跡を歩く—
原爆遺跡保存運動懇談会 編
新日本出版社 1996年 111P
- 原爆遺跡を探訪することで、ヒロシマを知ってもらいたいと編まれたガイドブック。市内に点在する遺跡を7地区に分け、一つ一つ写真や説明文を添えて紹介する。地区ごとの地図や最寄りの公共交通機関なども掲載されており分かりやすい。

291
こ
7・8
〈広〉
〈長〉
小中～

日本と世界のちがいを考える本 —国際理解にやくだつ—

7 世界の中の日本の歴史
8 世界の中での日本のこれから
ポプラ社 2000年 63P・63P

日本と世界の違いを、生活文化や国土などさまざまな角度から考えたシリーズ。日本の歴史に世界の国々がどう関わってきたかをまとめた7巻では、原爆の恐ろしさや被害について解説。8巻では、被爆国として核廃絶と国際平和への取り組みについて考える。

291
し
〈広〉
小高～

事前学習に役立つみんなの修学旅行 —広島・山口—

小峰書店 2015年 44P

修学旅行の事前学習を助け、目的地のテーマ別スポットを紹介した一冊。広島島の地理や歴史と併せ「平和の尊さを学ぼう」では、原爆投下の被害状況のほか、平和学習の地としてヒロシマの願いを語り継ぐ原爆ドーム、平和記念公園などを取り上げる。索引あり。

291
し
6
〈広〉
小高～

事前に調べる修学旅行パーフェクトガイド 6 —京都・神戸・広島—

金の星社 2003年 95P

修学旅行の事前学習を目的としたシリーズの6巻目。「世界に知られる平和都市」をテーマに広島を取り上げ、原爆投下時の時代背景や被害の様子を紹介。また、平和記念公園ガイドマップや平和を学ぶための施設も掲載され、平和学習に役立つ内容となっている。

291
し
5
〈広〉
小中～

調べ学習に役立つ宇宙から見た日本の地理と産業 5

—中国・四国地方—
あかね書房 1998年 39P

豊富な衛星画像や写真と共に日本各地の地理と産業を解説したシリーズの1冊。「太田川の三角州に発達した広島市」の項目で、原爆投下による破壊から戦後の復興と平和への取り組みについて簡単に記述。原爆ドームのある平和記念公園も写真と併せ紹介する。

291
し
〈広〉
小高～

新図解 わたしたちの日本地理 —いきいき調べ学習—

—中国・四国地方—
学習研究社 1997年 63P

日本各地の人々の暮らしを、自然や産業などの項目ごとに、データや写真を添えて解説したシリーズの中国・四国地方を扱った巻。「平和都市のあゆみ」の項の中で、広島が受けた原爆の被害状況や、その後の復興について触れている。

- 291
た
〈広〉
中学～
- ヒロシマの碑**
いしづみ
宅和 純 著
広島県教職員組合 編
広島平和教育研究所 編
広島県教育用品 1996年 313 P
- 原爆の犠牲者を祀る慰霊碑・供養塔などを訪れ、その時に感じたことをつづった著者の遺稿をまとめたもの。句碑のほか、像・モニュメント・被爆樹など155カ所を掲載。巻末には所在地図を掲載。碑を通して、ヒロシマが持つ過去の歴史の重さを考えさせられる。
- 291
に
34
〈広〉
小高～
- 子ども日本風土記 34** —広島—
日本作文の会 編
岩崎書店 1975年 158 P
- 各地の風土を小・中学生の作文によりつづったシリーズの広島編。4章構成の第1章を「世界ではじめての原爆の地」として、原爆体験を聞いて思うこと、広島平和記念資料館を訪れての感想など原爆に関する作文で構成する。
- 291
に
42
〈長〉
小高～
- 子ども日本風土記 42** —長崎—
日本作文の会 編
岩崎書店 1971年 158 P
- 各地の風土を小・中学生の作文によりつづったシリーズの長崎編。5章構成の第1章「長崎・この古くて新しいところ」に「原爆をおとされて」として8編の作文を収め、その悲惨さと問題点に触れている。
- 291
に
3
〈広〉
小高～
- 日本の地理 3** —中国・四国—
小島 晃 編
あゆみ出版 1990年 204 P
- 日本の地方を9つに分けて記した地理の本の、中国・四国版。第3話、「平和の町—広島—」では、広島市の軍都としての歴史と被爆、その状況等について書かれている。広島平和記念資料館の資料で、話題となった黒こげのお弁当のエピソードも紹介されている。
- 291
は
〈長〉
中学～
- 長崎** —カラー版— —南蛮文化のまちを歩こう—
(岩波ジュニア新書 548)
原田 博二 著
岩波書店 2006年 200 P
- 長崎に残る数々の史跡を、開港以前から現代までの時代順に分け、その歴史と共に解説したガイドブック。6章「現代の長崎」で、原爆落下中心地である浦上地域を取り上げ、長崎大学の原爆被害跡や「11時2分のモニュメント」、平和公園などを紹介している。

291
ひ
〈広〉
中学～

慰霊碑解説のしおり〈抜粋〉 —学習用— —平和学習・ひろしま—

被爆体験証言者グループ 編
被爆体験証言者グループ 〔出版年不明〕
76 P

原爆の子像、原爆供養塔といった、平和記念公園とその周辺にある約40カ所の慰霊碑などを写真と共に紹介。建立の目的、碑文、関連する人物や事柄の解説を各1ページずつにまとめた平和学習用教材。「ヒロシマ読本」より抜粋の原爆投下経緯や被害状況も掲載。

291
ひ
〈広〉
中学～

ヒロシマの旅 —碑めぐりガイドブック—

広島県歴史教育者協議会（ほか） 編
平和文化 1983年 32 P

ヒロシマを学習するための、原爆モニュメント巡りのモデルコースなどを紹介したガイドブック。200基近くあるうちの主な20基の原爆モニュメントの解説や、原爆遺跡案内、平和公園マップなどを収める。

291
ひ
〈広〉
中学～

一瞬に消え去った爆心の町 —よみがえる歴史の記憶—

—広島平和記念資料館企画展—
広島平和記念資料館 〔編〕
広島平和記念資料館 2001年 15 P

2001年3月から7月にかけて広島平和記念資料館で開催された企画展の資料。原爆によって一瞬のうちに廃墟となった爆心地・中島地区の被爆前後の町並や人々の写真、国立広島原爆死没者追悼平和祈念館の工事で発掘された資料等を通し、被爆の実相を紹介している。

291
ひ
〈広〉
中学～

ひろしま碑・遺跡・平和あんない —ヒロシマの心をたずねて—

広島平和教育研究所 編
広島県原爆被爆教職員の会 編
広島平和教育研究所 1984年
1枚（折畳）

原爆の犠牲者を祀る、慰霊碑・記念碑162基と、原爆・平和の遺跡24カ所が一見できる地図。裏面は、原爆投下による被害の状況を示す原爆被災地図になっている。ヒロシマを考える案内図とも言える。

291
れ
5
〈広〉
小中～

歴史と文化を伝える117の町 —ふるさとアルバム—

5 中国・四国 歴史の町
三浦 はじめ 編著
PHP研究所 1994年 39 P

歴史の足跡を現在に伝える全国117の町を、歴史的背景を踏まえ、カラー写真で紹介するシリーズの第5巻。「世界最初の被爆地ヒロシマ」の項で、被爆当時の様子を記すとともに、被爆後50年近くたった原爆ドームや平和公園の慰霊碑などを写真で紹介する。

300
こ
〈広〉
中学～

ヒロシマ読本 〔初版〕

(平和冊子 No.1)

小堀 吉光 著

広島平和文化センター 編

広島平和文化センター 1978年 52 P

〔第23版 2023年 92 P〕

毛利時代から戦後の復興までの広島
の歩みを描く第1章。原爆とその惨状を
解説する第2章。平和公園建設の由来
や周辺の慰霊碑等を紹介する第3章。
ヒロシマの総合的理解に役立つ一冊。

英語版： ³⁰⁰_K 『HIROSHIMA PEACE READER』

Yoshiteru Kosakai 著

Akira Tashiro (ほか) 訳

Hiroshima Peace Culture Foundation

2023年 99 P

310
あ
〈広〉
〈長〉
小中～

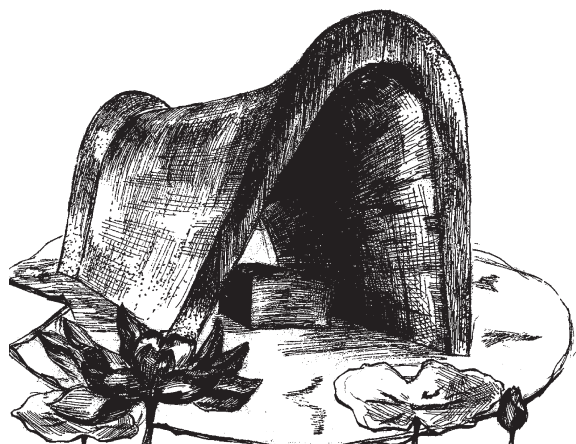
被爆者 ―60年目のことば―

(シリーズ 自然 いのち ひと 7)

会田 法行 写真・文

ポプラ社 2005年 41 P

戦後60年の節目を迎えた広島と長崎
で、カメラマンの著者が出会った6人
の被爆者。自らの体験を語り、核兵器
廃絶と世界平和を訴え続けてきた彼ら
の声を迫力のある写真と共に紹介。高
齢化が進む被爆者の声に改めて耳を傾
けることの大切さを伝える。



310
あ
〈広〉
〈長〉
小中～

続・被爆者 —70年目の出会い—
(シリーズ自然 いのち ひと 16)
会田 法行 写真・文
ポプラ社 2015年 40P

10年前に取材した二人と再会し、被爆者の高齢化を痛感した著者。二人の現在を追いつつ、新たな広島「原爆の絵」プロジェクトや、福島原発事故で出会った人々の姿も写真で紹介。彼らが語る被爆体験や、放射線の恐ろしさを継承していく大切さを伝える。

310
あ
〈広〉
〈長〉
小高～

13歳からの平和教室
浅井 基文 著
かもがわ出版 2010年 154P

“人間の尊厳”や“国際協力”など、毎月テーマを決め、祖父と孫たちの対話形式でつづる。7月は「核兵器」について考えてみよう」というテーマで、被爆者の訴えや核兵器廃絶への動きを、分かりやすく解説。さまざまな角度から平和について考えさせる一冊。

310
あ
〈広〉
小高～

INORI —いのり—
綾野 まさる 著
ハート出版 2010年 181P

原爆投下から10年後の広島で、小学6年生の禎子は原爆症を発症する。悪化する病状と闘いながら、回復を信じて千羽鶴を折り続けたが……。『原爆の子の像』のモデルで、平和の大切さを訴える象徴として知られる佐々木禎子さんの話。実兄が監修。

310
あ
1～5
〈広〉
〈長〉
小高～

語り伝えるヒロシマ・ナガサキ
(ビジュアルブック)
1 あの日、家族が消えた！—広島への原爆投下
2 天主堂も友達も消えた！—長崎への原爆投下
3 原爆はなぜおとされたのか？
4 あの日を忘れない—被爆体験を語り伝える—広島編
5 平和をひろげよう—被爆体験を語り伝える—長崎編
安斎 育郎 文
新日本出版社 2004年 各31P

広島・長崎の原爆を、被害状況や投下理由、被爆体験とその継承活動、資料館の案内やマップなど、さまざまな面から捉えた全5巻のシリーズ。写真や体験談のほか、太平洋戦争の概要や原爆のしくみなども解説されており、総合的に原爆を学ぶのに役立つ。

310
あ
〈広〉
中学～

ヒロシマ、顔「岡田恵美子」
ヒロシマ、顔「西岡誠吾」
ヒロシマ、顔「清水恵子」
ANT-Hiroshima 編
石河 真理 写真
後藤 三歌 文
ANT-Hiroshima [2020年]・[2020年]・[2020年]
17P・13P・17P

被爆者の姿や思いを写真で伝えるプロジェクトのシリーズ。姉を失った岡田さん。同級生を全員亡くした西岡さん。さまざまな病気に苦しむ清水さん。それぞれが深い絶望の中で、平和を願い活動してきた。彼らの言葉や表情が、ここまで生き抜いた誇りを感じさせる。

310
い
3
〈広〉
小高～

いのちを学ぼう平和学習実践集 3 ー世界へ目を広げようー

汐文社 2002年 59P

「平和」をテーマに行った総合学習実践集の第3巻。「ヒロシマから世界へチャレンジ!」と題して、奈良県般若寺に今も灯されている原爆の火を出発点に原爆について学ぶ過程が載せられている。また、一連の学習を通し、平和や戦争を語ることの大切さも伝える。

310
え
1～6
〈広〉
小高～

ヒロシマの心 [1]～6

[1]・2 ーヒロシマから世界へ～空と虹がつなぐ夢～
3 ーみんなでつなぐ平和な世界ー
4 ーヒロシマから世界へ～みんなの平和を希求する心をつないでー
5 ー～世代を超えヒロシマから世界へ～
6 ー「ヒロシマの心」を若い世代へ
証言のバトンタッチ～ヒロシマから世界へ～
H P S 国際ボランティア 企画・構成
H P S 国際ボランティア 2018年～2023年
56P・56P・60P・52P・40P・40P

県内の小学生から大学生まで、若い世代の平和への思いを記したメッセージ集。それぞれの学校が取り組んでいる平和活動を紹介、戦争体験者から次世代への言葉も収録。未来を担う若い世代が自ら企画、製作し、被爆体験を継承する大切さを伝えている。英文併記。

310
え
〈広〉
小高～

御霊への誓い ー被爆72年 ー祈る平和から創る平和へ 私たちの想いをつづるー

H P S 国際ボランティア (ほか) [編]
H P S 国際ボランティア 2017年 36P

絵本作家の森本順子氏をはじめとする被爆者や平和活動家などのメッセージを掲載。広島市立広島商業高等学校、広島市立川内小学校の平和学習の取り組みや、H P S 国際ボランティアの活動も写真を交えて紹介。幅広い世代の人たちが平和への思いを寄せた一冊。

310
え
〈広〉
〈長〉
小高～

絵で見てわかる核兵器禁止条約ってなんだろう?

旬報社 2021年 111P

国連で採択され、2021年に発効した「核兵器禁止条約」。核兵器がなぜ作られ、どんな恐ろしい悲劇を生んできたか。核兵器をなくすために世界はどう取り組んできたかなど、具体的な数字やイラスト、写真を交えて分かりやすくまとめる。巻末に条約の全文を収録。

310
お
〈広〉
小中～

きみに聞いてほしい ー広島に来た大統領ー

[バラク・オバマ 述]
池上 彰 翻訳
葉 祥明 画
リンダパブリッシャーズ 2016年
38、5P

2016年5月27日にアメリカのバラク・オバマ大統領が、被爆地広島を訪れた。その際の演説を、子ども向けに分かりやすく翻訳し、美しい絵とあわせた一冊。核兵器のない平和な未来に向けて、努力を続けることの大切さを呼びかける。演説原文も掲載。

310
か
〈広〉
中学～

14歳のヒロシマ ―被爆者が伝える戦争と平和のはなし― (14歳の世渡り術)

梶本 淑子 著
河出書房新社 2023年 184、3 P

70歳から証言活動を始めた著者は、14歳の時に被爆した。戦争に翻弄された学校生活、原爆投下直後に見た地獄のような街の光景、家族を養うために働いた戦後。自身の体験から戦争の悲慘さを多くの人へ伝えることで、次世代に平和のバトンがつながることを願う。

310
か
〈広〉
〈長〉
中学～

核兵器はなくせる (岩波ジュニア新書 880)

川崎 哲 著
岩波書店 2018年 187 P

核兵器禁止条約の成立に大きく貢献したことが評価され、NGO・I C A N^{アイキャン}は2017年にノーベル平和賞を受賞した。このI C A Nのメンバーで長年反核運動に携わってきた著者が、核兵器問題を分かりやすく解説、核廃絶のために私たちが今できることを提言する。

310
か
〈広〉
〈長〉
中学～

僕の仕事は、世界を平和にすること。 (探究のDOOR 1)

川崎 哲 著
旬報社 2023年 177 P

平和活動家の著者は、非政府組織「ピースボート」^{アイキャン}、「I C A N」で働く。前者では、被爆者が世界各地で被爆証言を行うプロジェクト、後者では、核兵器禁止条約の成立に貢献。それらの活動や自身の体験を交え、若者が世界の平和に関わる上で大切なことを挙げる。

310
き
〈広〉
〈長〉
中学～

訪ねてみよう 戦争を学ぶミュージアム／メモリアル (岩波ジュニア新書510)

〔記憶と表現〕研究会 著
岩波書店 2005年 211 P

十五年戦争の記憶を引き継ぎ後世へ伝えるミュージアムやメモリアル（記念碑、記念物）を通じて、戦争を学ぶためのガイドブック。第2章でヒロシマ、ナガサキを取り上げ、広島平和記念資料館や長崎平和公園など6施設を紹介。エノラ・ゲイの展示についても触れる。

310
く
〈広〉
中学～

猫ちゃんは帰らない ―何よりも平和を― (手をつなぐ中学生の本 17)

黒川 万千代 著
民衆社 1983年 203 P

広島に原爆が落とされた時女学生だった著者は、猫島さんたち多くの級友を失い、夢多き青春時代も奪われた。自らも原爆症と闘いつつ、怒りと悲しみの底から平和運動と関わりながら生きる著者の記録。

310
け
〈広〉
中学～

ヒロシマの声を聞こう ―原爆の碑と遺跡が語るもの―

「原爆碑・遺跡案内」編集委員会 〔編〕
「原爆碑・遺跡案内」編集委員会 1990年 64P
〔第6版 「原爆碑・遺跡案内」刊行委員会 〔編〕
「原爆碑・遺跡案内」刊行委員会
2012年 64P〕

被爆の惨禍を忘れまいと保存工事を重ねて守り続けられてきた「原爆ドーム」。子どもたちが平和を願って建てた「原爆の子の像」。これらの、広島に存在する原爆に関する碑や遺跡の一部を紹介する。それぞれの場所を記した、平和記念公園略図や市内中心部略図も収録。

310
こ
〈広〉
中学～

広島復興の歩み ―ひろしま復興・平和構築研究事業―

国際平和拠点ひろしま構想推進連携事業
実行委員会 編
国際平和拠点ひろしま構想推進連携事業
実行委員会 2015年 58P

被爆地広島が、廃墟から再出発し、復興に至った軌跡を写真や図と共にたどる。復興に関する12のQ&Aや、復興の過程で登場したお好み焼、広島カープなどをコラムで紹介する。参考文献と参照ウェブサイトの掲載が充実し、理解を深めるために役立つ。

英語版： ³¹⁰_H 『Hiroshima's Path to Reconstruction』
―Hiroshima Reconstruction and Peacebuilding Research Project―

“Hiroshima for Global Peace”
Plan Joint Project Executive Committee 編
Hiroshima Prefecture and The City of Hiroshima 〔編〕
“Hiroshima for Global Peace”
Plan Joint Project Executive Committee
2015年 62P

310
こ
〈広〉
中学～

ヒロシマは世界をむすぶ ―核兵器廃絶に挑む―

(21世紀知的好奇心探求読本 5)

小島 昌世 著
ポプラ社 1999年 207P

教師としてヒロシマ研修旅行に携わってきた著者が、市民レベルで続けられる平和活動を紹介。語り部としてヒロシマを伝える人、米国から広島に招かれた新聞記者、在韓被爆者や核実験による被爆者を支援する人たちの姿を通して、核廃絶を強く訴える。

310
さ
〈広〉
小高～

ヒロシマのいのち

(文研じゅべにーる・ノンフィクション)

指田 和 著
文研出版 2017年 159P

被爆しながら奇跡的に助かった人たち、平和を願い原爆の恐ろしさを伝えるため、さまざまな活動をする人たち、そして被爆者の遺品を通して戦争のむごさを伝える人たち。著者が取材した7人の生の声をまとめ、今私たちにできることは何かを問いかける。

310
さ
〈広〉
小高～

ヒロシマここより永遠に^{とわ} —被爆70年— —今伝えたいメッセージ—

—祈る平和から創る平和へ—
—よみがえる命・羽ばたけ世界へ—

佐藤 廣枝 企画
佐藤 菜笑 編
佐藤 太紀 編
スティーブン・リーパー 英訳
H P S 国際ボランティア 2015年 56 P

被爆者の証言や願い、園児から大人までさまざまな人の平和のメッセージを英文併記でつづる。子どもたちの直筆メッセージやイラスト、寄稿者の写真もあり、平和実現を強くアピールする。広島を代表する企業の復興の記録も掲載。おりづる再生紙を用いて製作。

310
さ
〈広〉
小高～

ようきんさった原爆ドームは語る

—言葉をを超えて見て感じる 命のきずな—

佐藤 廣枝 企画
佐藤 菜笑 編
スティーブン・リーパー 英訳
H P S 国際ボランティア 2014年 72 P

長年平和活動を続ける団体が、国籍を超えて集めた被爆者の証言に加え、活動の中で出会った子どもたちや、世界のさまざまな人々からのメッセージをまとめた。核廃絶を目指す他団体の行動や平和公園一帯の碑の解説も、写真と共に掲載。一部に英訳あり。

310
さ
〈広〉
小高～

生まれかわるヒロシマの折り鶴

佐藤 真澄 著
汐文社 2023年 211 P

原爆の子の像へ毎年捧げられる約10 tもの折り鶴。広島市はその取り扱いに苦慮してきたが、2012年度から折り鶴再生事業として、再生紙などへの活用を決める。折り鶴に込められた平和への思いを昇華させるべく、再生事業に臨む広島市と地元企業の挑戦を紹介。

310
さ
〈広〉
小高～

ヒロシマをのこす —平和記念資料館をつくった人・長岡省吾—

佐藤 真澄 著
汐文社 2018年 185 P

地質学者の長岡省吾は、原爆投下翌日から広島市内で被爆の痕跡を調査し、被爆者の遺品や被爆当時の写真の収集も始める。これらの活動が、広島平和記念資料館の開館へとつながった。原爆の悲劇を伝えるために尽力し、資料館初代館長となった長岡の半生を描く。

310
さ
〈広〉
中学～

折り鶴に出会った子どもたち —平和を祈るエッセイ100編—

三省堂 編
三省堂 2003年 239 P

モンゴルで作られた、サダコの悲劇を嘆き平和を願う歌「ヒロシマの折鶴」。この歌をコンサートで必ず歌うモンゴル人歌手オユンナの活動に触発され、全国の中高生から募ったエッセイのうち入賞作100編を収録。子どもたちの平和への願いがつつられている。CD付。

310
し
〈広〉
中学～

ピース・アニメを創る ―フランスからの手紙―

(かもがわブックレット 59)

ミホ・シボ 著

かもがわ出版 1993年 62P

佐々木禎子と「原爆の子の像」の実話を基にした、ピース・アニメ『つるにのって「とも子の冒険」』。本書は、フランス在住の著者が、その制作までの過程をつづったもの。子どもたちに、原爆の恐ろしさと、平和の大切さを伝える。

310
す
1・2
〈広〉
〈長〉
小高～

こんなに恐ろしい核兵器 1・2

―1 核兵器はこうしてつくられた―

―2 核兵器のない世界へ―

鈴木 達治郎 著

光岡 華子 著

ゆまに書房 2018年・2019年 53P・52P

豊富な写真と図版で、核兵器を巡る世界情勢を伝える。1巻は核兵器の開発、原爆投下、抑止力としての核保有、核軍縮に至る歴史を解説。2巻は核兵器保有の現状や新たな核問題を例示し、核廃絶への取り組みを紹介。広島・長崎の被爆者についても言及する。

310
せ
〈広〉
中学～

せこへい ―平和をつくる子どもたち―

(シリーズ・21世紀の人権 4)

世界の子どもの平和像を広島につくる会 編
部落問題研究所 2002年 119P

アメリカで「原爆の子の像」の姉妹像が建立されたのをきっかけにスタートした「世界の子どもの平和像」、略して「せこへい」建立運動の記録。建立までの経緯や、運動に関わった子どもたちの手記のほか、運動に賛同した人々のメッセージも紹介されている。

310
せ
6
〈広〉
〈長〉
中学～

世界の「戦争と平和」博物館 ―写真・絵画集成― 第6巻 ―日本―

草の根出版会 編

日本図書センター 1997年 189P

戦争・平和に関する資料を集めた世界各地の博物館を紹介したシリーズの6巻目。本書は、広島平和記念資料館・長崎原爆資料館の展示写真を豊富に掲載し、原爆の恐ろしさを伝えている。巻末に、日本の戦争・平和博物館設立の歩みを解説。

310
せ
〈広〉
〈長〉
小高～

戦争体験を「語り」・「継ぐ」 ―広島・長崎・沖縄―

―“次世代型”の平和教育―

学研プラス 2018年 143P

広島以外でも「ヒロシマ」をテーマにした企画展を主宰する久保田さん。仮想空間でのとうろう流し、ワークショップなど、若者が参加しやすい形で平和学習の場を提供する。戦争体験者が高齢化する中、次世代が「伝える人」になる各地の取り組みを紹介する。

310
そ
〈広〉
〈長〉
小高～

青い地球はぼくたちのもの ―戦争のない未来のために―

(平和への願いをこめて ジュニア版)

創価学会婦人平和委員会 編
第三文明社 1986年 181 P

戦争とは何か、核兵器とは何か、原爆とはなど、戦争を知らない子どもたちのために、戦争の残酷さ、悲惨さを分かりやすくまとめたもの。実証言や写真を盛り込み、あらゆる方面から戦争について考えさせる。

310
そ
〈広〉
小高～

ヒロシマ「平和への^{たびだち}出発」

(平和への願いをこめて ジュニア版)

創価学会婦人平和委員会 編
第三文明社 1987年 183 P

広島平和記念資料館の案内から核の冬問題に至るまで、原爆について総合的に分かりやすく編集されている。原爆投下までの経緯、原爆の内部構造、核分裂・爆発の様子、原爆の威力・被害、地球上の核兵器数などを、多数の写真・図版と共に掲載。

310
た
〈広〉
〈長〉
小中～

核兵器をなくすと世界が決めた日 ―The Day the World Decided to Say No to Nuclear Weapons―

高橋 真樹 文
岩崎 由美子 文
TOTO 絵
大月書店 2022年 38 P

世界に1万発以上存在するという核兵器。原爆を投下された広島・長崎だけでなく、実験や処理に関わる核の影響は、多くの悲劇を生む。平和を願う人々の思いが、2021年の核兵器禁止条約発効に繋がり、さらに未来へと広がる様子を、易しい言葉で描く。英文併記。

310
た
〈広〉
〈長〉
中学～

ヒロシマ、ナガサキ、フクシマ ―原子力を受け入れた日本―

(ちくまプリマー新書 165)

田口 ランディ 著
筑摩書房 2011年 175 P

茨城県東海村の臨界事故をきっかけに、核エネルギーと向き合い取材を続けてきた著者が、歴史をさかのぼり原爆、原子力、原発の関係をひもとく。なぜ日本は原発大国となったのか？未来の安全はどうすれば得られるのか？「核」の問題を理解するための一冊。

310
ち
〈広〉
小高～

ひろしま国 ―10代がつくる平和新聞―

中国新聞社 編
明石書店 2009年 269 P

中国新聞で月2回発行される特集紙面、「ひろしま国」の創刊号から50号までをまとめたもの。公募のジュニアライターたちが、さまざまな角度から、平和を切り口に各方面へ綿密に取材し、写真も撮影。被爆地ヒロシマの子どもとして、平和への思いを発信している。

310
ち
〈広〉
中学～

ユネスコ世界遺産原爆ドーム —21世紀への証人—

中国新聞社 編
中国新聞社 1997年 167 P

原爆前史と原爆ドーム存廃の経緯、世界遺産決定までの歩みを解説。また、「ドームと私」のタイトルで公募した新聞応募作品の紹介と共に、21世紀への提言も収録した資料集。世界遺産登録によって負う課題と継承されていく原爆ドームの意義を考える。

310
ち
〈広〉
小高～

原爆ドーム物語

汐文社編集部 編
汐文社 1990年 55 P

大正4年、元安川を埋め立てて、広島県物産陳列館が建てられた。現在の原爆ドームである。本書の前半は、同名のアニメ映画を基にした絵本の形式をとり、ドームが見つめてきたヒロシマの歴史を、原爆の惨状を交えて描く。後半は、それを解説した資料編。

310
と
〈広〉
小高～

「原爆の子の像」と「折鶴」 —正しい知識— 〔再版〕

豊田 清史 著
火幻社 2003年 75 P

広島市の平和記念公園の「原爆の子の像」は、佐々木禎子さんの死を契機とした生徒たちの運動により建てられた。中学教諭として運動に関わった著者が、建立の経緯や、像に「折鶴」を供えるようになった由来を記した書。1995年出版のものに年表等を加筆した再版。

310
と
〈広〉
中学～

はばたけ千羽鶴

(ちくま少年図書館 65 社会の本)
豊田 清史 著
筑摩書房 1982年 236 P

原爆症のため、わずか12歳で死んでいった少女の死を悼む級友達の手で、「原爆の子の像」は建立された。その建設運動の世話をしていた著者が、教師という立場からつづる記録。前著『千羽鶴』(1958年)を加筆訂正したもの。

310
な
〈長〉
中学～

ナガサキー1945年8月9日

(岩波ジュニア新書 79)
長崎総合科学大学平和文化研究所 編
岩波書店 1984年 201 P
〔新版 (岩波ジュニア新書 260) 〕
〔1995年 204 P〕

歴史と殉教の街長崎が、原爆投下によって一瞬のうちに破壊され焦熱地獄と化した実態をつづる。また、体験者の記録や証言を基に原爆の恐ろしさを伝え、反核・平和運動への人々の苦難の道を描く。

310
な
〈広〉
中学～

明子のピアノ —被爆をこえて奏で継ぐ—
(岩波ブックレット No.1028)
中村 真人 著
岩波書店 2020年 71 P

19歳で被爆死した河本明子さん。捨てられようとしていた彼女のピアノは、不思議な巡り合わせにより修復される。世界的なピアニストに奏でられ、ピアノのための曲も作られた。被爆ピアノ復活に関わった人々の、音楽への思い、平和への祈りと活動を記録する。

310
な
〈広〉
〈長〉
中学～

妹たちへの手紙
(青春ノート 5)
中山 千夏 著
国土社 1984年 206 P

原爆の脅威は、その爆発力のすごさだけでなく、後々まで生命をむしろ放射能の影響にある。原爆と同じ「原子核」の分裂エネルギーを利用した原発も、さまざまな問題点を抱えている。自由・平等・平和などを考えてほしいと、女の子たちにメッセージを送る。

310
に
〈広〉
中学～

広島・被爆ハマユウの祈り
西村 一郎 著
同時代社 2020年 158 P

比治山の兵舎の庭でハマユウを育てていた尾島良平さんは、被爆後のガレキの間から新しい葉が出ているのを見つける。持ち帰り増やした株を、平和を祈念して各地へ届けた。彼の遺志をつなぐために活動する著者が、国内外に30カ所以上ある移植先を紹介する。

310
に
2
〈広〉
〈長〉
小中～

いま戦争を考える No.2 —小学校中学年—
日本作文の会 編
百合出版 1987年 94 P

戦争を体験した子どもの書いた作文、現在の子どもの戦争を考え書いた作文など、「戦争」をテーマにした子どもの作文を多くの資料の中から集めた作文集。原爆に関しては、被爆体験をつづったものと、今、原爆から平和を考えたいものの計7編を収録。

310
に
〈長〉
中学～

原爆の絵 —ナガサキの祈り DRAWINGS BY SURVIVORS—
NHK長崎放送局 編
日本放送出版協会 2003年 109 P

被爆体験を語り継いでいきたいと、NHK長崎放送局が募集した“原爆の絵”。その呼びかけに応じて寄せられた329点の絵と放送番組を基に編集し、絵に説明を付しまとめたもの。脳裏に焼きついた被爆の実相を伝える絵に、核廃絶と平和への祈りを込めている。

310
に
〈広〉
中学～

原爆の絵 —ヒロシマの記憶 DRAWINGS BY SURVIVORS—

NHK広島放送局 編
日本放送出版協会 2003年 125 P

被爆体験の風化を食い止めたいと、NHK広島放送局が募集した“原爆の絵”。その呼びかけに応じて寄せられた1000枚を超す絵の中から100点余を掲載し、簡単な説明を付す。今残さなければという思いで描かれた絵が、人々の暮らしを奪う原爆のむごさを伝えている。

310
に
〈広〉
中学～

サダコ —「原爆の子の像」の物語— (NHKスペシャルセレクション)

NHK広島「核・平和」プロジェクト 著
日本放送出版協会 2000年 267 P

戦争の犠牲となっている子どもたちに希望と勇気を与え続けている「サダコ」。本書では、生前の禎子の姿と、「原爆の子の像」建立の経緯に触れ、二人の外国人作家による「サダコ」の物語が世界中にどう伝わったかを、丹念な取材を基にまとめている。

310
の
〈広〉
中学～

「ノーモアヒロシマ」伝えていこう！平和

—広島平和学習に行く前に読む本—

ユニプラン編集部 編
ユニプラン 2020年 80 P

太平洋戦争勃発から原爆投下に至る経緯と被爆状況、また、戦後の核実験・核利用・核事故、そして核の制限に関するさまざまな取り組みなどについて、多数の写真や絵で分かりやすくまとめる。平和学習や修学旅行で広島を訪れる生徒たちの事前学習にも役立つ。

310
は
〈広〉
〈長〉
中学～

ノーモア核兵器 —広島・長崎は最小の核戦争だった—

服部 学 編著
高田 藤三郎 イラスト
草土文化 1983年 59 P

広島・長崎に落とされた原爆や、現在の核兵器への恐怖などをイラストを使って説明し、平和を主張する書。さらに、核軍縮を訴える文化人8人の言葉や、核兵器に関する用語解説を加える。

310
ひ
〈長〉
小高～

長崎原爆資料館 —資料館見学・被爆地めぐり「平和学習」の手引書—

ピースウイング長崎（長崎平和推進協会） 編
長崎平和推進協会 2000年 100 P

長崎原爆資料館の見学や被爆地巡りの手引として編まれた資料集。長崎の歴史をたどるⅠ章、原爆資料館展示物を中心に、被害状況やその後の平和活動などを解説するⅡ章、市内に点在する被爆地を紹介するⅢ章があり、総合的な平和学習資料として使いやすい。

310
ひ
〈広〉
〈長〉
中学～

原水爆とのたたかい —平和の声まちに村に—
(みつばち図書館 17)

日高 六郎 著
国土社 1963年 173 P

1945年8月6日広島に原爆投下、それから人々はどのように原水爆とたたかってきたのか。第五福竜丸被災事件など主要な事柄を取り上げながら、平和を求める歩みを歴史の流れに沿って概説し、平和を考える。

310
ひ
〈広〉
中学～

希望のヒロシマ —市長はうったえる—
(岩波新書新赤版 452)

平岡 敬 著
岩波書店 1996年 222 P

被爆地ヒロシマの市長である著者が、被爆50周年を迎えた1995年を振り返り、その1年間の活動をまとめたもの。また、アメリカでの公開講演、アジアへの謝罪を明言した平和宣言、国際司法裁判所での陳述なども収録。核廃絶と世界平和への希望と苦悩を語る。

310
ひ
〈広〉
中学～

被爆アオギリと生きる —語り部・沼田鈴子の伝言—
(岩波ジュニア新書 740)

広岩 近広 著
岩波書店 2013年 242 P

22歳の時に広島で原爆にあい、左足を失った沼田鈴子さん。自身の被爆体験を被爆アオギリに重ね合わせ、58歳から28年間にわたって国内外で証言活動を行い、「反戦・反核・反差別」を訴え続けた。彼女の証言と、2011年に亡くなるまでの活動の軌跡をつづる。

310
ひ
〈広〉
中学～

原爆モニュメント物語

広島県歴史教育者協議会 編著
平和文化 1984年 222 P

広島は世界でも有数のモニュメントの街である。原爆によりもたらされた原爆慰霊碑など13のモニュメントを取り上げ、それぞれの由来、歴史、建設までの経過などモニュメントにまつわる話を集める。

310
ひ
〈広〉
中学～

原爆死没者慰霊式典の記録 —被爆70周年記念事業—

広島市 〔編〕
広島市 2016年 80 P

被爆70周年を記念し、「原爆死没者慰霊等事業」として行われた38の慰霊式典の状況をまとめた一冊。永遠の平和を願い、地域の人々や職場の仲間、同窓生や次世代の子どもたちが参加する式典の写真と、実施主体や日時・場所、目的・経緯などを掲載。

310
ひ
〈広〉
中学～

世界遺産原爆ドーム

広島市市民局平和推進室 編
広島平和文化センター 編
広島市市民局 1997年 20P

大正4年4月、広島県物産陳列館として建設され、昭和20年8月6日被爆した原爆ドーム。戦後、被爆建物が次第に姿を消していく中、原爆ドームが保存されてきた過程と、1996年12月、世界遺産に登録されるまでの経緯を数々の写真と共に紹介する。

310
ひ
〈広〉
中学～

オバマ大統領がヒロシマを訪れた日

広島テレビ放送 編
ポプラ社 2016年 62P

2016年5月27日、オバマ氏が現職のアメリカ大統領として、初めて広島を訪れた。原爆死没者慰霊碑前で核廃絶を訴えた演説の全文を、柔らかな日本語の対訳で収録。会場に同席した被爆者・森重昭氏やジャーナリスト・手嶋龍一氏の手記も掲載。DVD付。

310
ひ
〈広〉
中学～

ヒロシマを世界に ―図録・広島平和記念資料館―

広島平和記念資料館 編
広島平和記念資料館 1999年 127P

広島平和記念資料館の展示を解説するために編まれた図録。豊富な写真や資料を中心に、被爆前の広島の歩みから、被爆の様子、その後の平和への取り組みまでを、詳細に記す。フィールドワーク用として、平和記念公園周辺、被爆建造物・樹木のガイドマップを掲載。

310
ひ
〈広〉
小高～

平和記念資料館学習ハンドブック [小学生用]・[中・高生用]

広島平和記念資料館 [著]
広島平和記念資料館 2001年 各14P

小学生と中・高生用に、広島平和記念資料館が作成した平和学習のためのハンドブック。原爆の開発や被害の実相、核兵器の現状や廃絶への取り組みについて、豊富な写真や図で分かりやすく解説。館内案内図のほか慰霊碑や被爆建物マップが掲載され、利用しやすい。

310
ひ
〈広〉
中学～

「平和宣言」を読む ―平成6年（1994年）12月― ほか14冊

広島平和記念資料館（ほか） 編
広島平和記念資料館（ほか）
1994年（ほか） 10P（ほか）

平和記念式典で広島市長が行う「平和宣言」の全文を、年ごとにまとめたもの。学校や家庭で平和について考える一助にと、語句の説明や戦後の主な出来事をまとめた年表などを掲載。平成15年版以降は英文訳、こども代表による「平和への誓い」全文も収録。

310
ひ
〈広〉
中学～

ヒロシマ平和宣言集〔1947～2015〕
—HIROSHIMA PEACE DECLARATIONS—
トーク出版 2015年 199 P

1947年から2015年までに平和記念式典で広島市長が行った「平和宣言」、1995年から2015年までの子ども代表による「平和への誓い」の全文を英訳と共に収録。平和宣言の歴史と核を巡る主な出来事の年表や、折り鶴の作り方も掲載。平和について考える一助になる。

310
ひ
〈広〉
〈長〉
中学～

平和—国家・核・教育
(平和冊子 No.2)
広島平和文化センター 編
広島平和文化センター 1989年 46 P

現在、多くの国が保有する核兵器。広島・長崎に落とされた原子爆弾は、その核兵器の第一歩だった。本書は、国家・核・教育の3つの視点から、戦争とは何か、原水爆の原理と核兵器の危険性、平和教育の意義などを解説。総合的に“平和”について考える。

310
ふ
〈長〉
中学～

長崎原爆絵巻 崎陽のあらし
(母と子でみる A30)
深水 経孝 作
人吉高校英語研究会 編
草の根出版会 2003年 44、66 P

原爆投下時、山にある兵舎で勤務していたため奇跡的に無傷だった作者は、救援に向かった長崎市街で甚だしい惨禍を目にする。昭和21年に彼が描き残した、原爆投下前後の長崎を伝える絵巻物「崎陽のあら志」をカラーで掲載し、現代語・英語訳、追悼文等を付す。

310
ふ
〈広〉
小高～

アオギリのいのち —被爆樹木二世と歩んだ学校の軌跡—
藤井 健太郎 文
秦 さやか 絵
三恵社 2019年 18 P

広島で被爆したアオギリが芽吹き、その苗木が、岐阜県の学校に届けられた。生徒たちは水やりや草取りなどの世話を続け、「アオギリノート」に様子を記録していく。柔らかな色合いの絵で、成長するアオギリや子どもたちの姿を描き、生命と平和の尊さを伝える。

310
ふ
〈広〉
中学～

原爆ドーム再生の奇跡
古川 修文 著
南々社 2022年 10、269、10 P

建築家の佐藤重夫は、戦後の広島復興に携わり、原爆ドーム修理保存に取り組む。保存に否定的な声や巨額の費用、世界初の工法など、多くの問題を乗り越え、保存工事は行われた。原爆ドーム再生までの軌跡と関係者の思いを、本人の残した資料などから読み解く。

310
へ
〈広〉
小高～

広島修学旅行ハンドブック ―学び・調べ・考えよう―

平和・国際教育研究会 編
平和文化 1999年 64P
〔(第6版) 2006年 64P〕

ヒロシマを学び、調べ、考えるために編まれたガイドブック。「1945年8月6日——広島で起こったこと」「爆心地を歩いてみよう」「核廃絶のために」の3章から成り、原爆瓦作りや原爆ドーム模型作りなどのコラムも掲載。幅広く簡便な平和学習資料。

310
ほ
〈広〉
小中～

ほんとうにあった戦争と平和の話

(講談社青い鳥文庫 A2-2)
講談社 2016年 253P

戦時下に起きたさまざまな出来事や、その中を精一杯生き抜いた人の話など14話を収録。「世界をつなぐ原爆の子の像」では、2歳で被爆し、10年後に白血病で亡くなった佐々木禎子さんを取り上げる。平和を祈るシンボルとなった千羽鶴についても触れている。

310
ま
〈広〉
小高～

翼のヒロシマ

町田 樹生 文・絵
飛鳥出版室(制作) 2011年 36P

夏休み、おばあさんから原爆や戦争の話聞いた翼少年は、戦争の恐ろしさ、平和の尊さをもっと深く知るため、一人で広島に行くことにする。一人一人が、過去をきちんと知り、考え続けていくことの大切さを、色鮮やかな絵と共に伝える。

310
ま
〈広〉
〈長〉
中学～

広島長崎修学旅行案内 ―原爆の跡をたずねる―

(岩波ジュニア新書 48)
松元 寛 著
岩波書店 1982年 206P
〔新版(岩波ジュニア新書 300) 1998年〕
〔217P〕

人類の歴史上初めて原爆を投下された広島・長崎を訪れる修学旅行生のために、両市の歴史的背景とともに、数多く残っている原爆のつめ跡や記念碑などを案内した書。

310
み
〈広〉
小高～

奇跡はつばさに乗って

(世の中への扉)
源 和子 著
講談社 2013年 155P

ニューヨークの「9・11追悼施設」に寄贈された、佐々木禎子さんの折り鶴。世界平和のメッセージとして届けられた鶴を通じて出会った人々は、恨みや憎しみの連鎖を断ち切り、お互いの心を思いやる。禎子さんの兄の平和への願いが交流を生んだ実話を紹介した本。

310
も
〈広〉
中学～

ヒロシマの子 ―「君たちはどう生きるか……。」―

森下 弘（ほか） 編著
平和文化 1983年 251 P

中学3年生のトシ君は、ヒロシマを訪ねる旅を続けるうちに、“ヒロシマの子”へと成長していく。ヒロシマの意味は？ 被爆体験の継承とは？ など、ヒロシマに関心を持つ若い世代への案内書。

310
も
〈広〉
中学～

Do you know Sadako?

守屋 敦子 著
よも出版 2002年 176、6 P

長い間絶版になっていたカール・ブルックナーの『サダコは生きる』を『サダコ』として復刊するまでの経緯を中心に、世界中で知られる「サダコ」を迫った記録。著者とサダコとの出会いや、サダコを通して出会った人々との交流、平和への思いがつつられている。

310
や
〈広〉
中学～

原爆瓦 ―世界史をつくる十代たち―

山口 勇子 著
平和文化 1982年 255 P

爆心地近くの川床で原爆瓦が見つかった。それを契機に広島県高校生平和ゼミナールの生徒たちは手作りの平和運動を展開し、原爆瓦の記念碑建立にこぎつける。その軌跡を追い、現代におけるヒロシマの意味を探る。

310
や
〈広〉
中学～

ぼくのピース・メッセージ ―HIROSHIMA '87～'97への道のり―

（岩波ジュニア新書 177）
山本 コウタロー 著
岩波書店 1990年 193 P

1986年から“平和がいいに決まってる”を合言葉に始まった平和祈念コンサート・ヒロシマ。このコンサートの企画から開演までのエピソードを、父の戦争体験談や自身の青春時代を交えて述懐。平和とは何か、ヒロシマのもつ傷跡が語るものは何かを問いかける。

310
ゆ
〈広〉
小高～

平和のバトン ―広島の高校生たちが描いた8月6日の記憶―

弓狩 匡純 著
くもん出版 2019年 159 P

被爆体験証言者の記憶を、基町高校創造表現コースの生徒が1年間かけて絵にする「次世代と描く原爆の絵」プロジェクト。記憶を正確に描くため、生徒と証言者は何度も話し合い、確認を重ねる。参加者を取材し、原爆や戦争を見つめ直す高校生たちの姿を伝える。

310
よ
〈広〉
小高～

聞かせて、おじいちゃん ―原爆の語り部・森政忠雄さんの決意―

横田 明子 著
国土社 2021年 159 P

早く忘れてしまいたいと59年間被爆体験を口にしてこなかった森政忠雄さん。孫の自由研究をきっかけに、初めてその悲惨な体験を語る。孫に語ることで、命のつながりや次世代への継承の大切さに気付いた森政さんは、原爆の語り部として活動することを決意する。

310
れ
〈広〉
〈長〉
中学～

平和博物館・戦争資料館ガイドブック ―増補―

歴史教育者協議会 編
青木書店 2004年 278 P

世界各地の平和博物館・戦争資料館及び、戦争と平和に関する施設を取り上げ、国内は県別、海外は国別に解説したガイドブックの改訂版。広島県では、広島平和記念資料館のほか5カ所を、長崎県では、長崎原爆資料館のほか6カ所の施設が紹介されている。

310
ろ
〈広〉
〈長〉
小高～

たった一発の爆弾でヒロシマ20万人、ナガサキ10万人が死んだ。

―原爆入門・写真詩集―

労働教育センター編集部 編
労働教育センター 2011年 76 P

原爆を体験した子どもたちが書いた詩のほか、原民喜「水ヲ下サイ」、栗原貞子「生ましめんかな」などの詩を収録。広島、長崎への原爆投下による被害を撮影した写真と共に掲載している。2004年発行のものに、英訳を加えた2版。

310
わ
〈長〉
中学～

15歳のナガサキ原爆

(岩波ジュニア新書 416)

渡辺 浩 著
岩波書店 2002年 185 P

15歳の時、長崎で被爆した著者の体験記。爆心地の中学校の被害状況や被爆した同級生たちの様子を詳細につづる。また、被爆者の現在の生活や反核運動の必要性なども述べ、21世紀を生きる人々へ、平和な世界を築いてほしいというメッセージを送っている。

320
し
2
〈広〉
〈長〉
小高～

シリーズ国連 2 ―平和へのとりくみ―

半田 博 著
蔵元 幸二 著
リブリオ出版 1993年 63 P

国連の役割、活動についてまとめたシリーズの1冊。この巻では、世界平和への取り組みについて記述。世界各地で起こっている戦争・紛争を取り上げた章で、広島・長崎への原爆投下について触れている。原爆死没者数等が記載されている。

320
れ
1
〈広〉
〈長〉
小高～

シリーズ憲法9条 第1巻 ―9条を知っていますか―

歴史教育者協議会 編
汐文社 2006年 47P

日本国憲法で決めた平和主義や9条の戦争放棄について考え、検討するシリーズの第1巻。「核戦争がおきたら、どうなるのですか」と題して、広島・長崎への原爆投下や第五福竜丸の被爆のほか、今も開発が進んでいる核兵器についても解説している。

360
い
〈広〉
中学～

ヒロシマを持ちかえった人々 ―「韓国の広島」はなぜ生まれたのか―

市場 淳子 著
凱風社 2000年 363P
〔新装増補版 2005年 381P〕

在韓被爆者の問題と「韓国の広島」と呼ばれる陝川^{ハフチョン}の歴史とを二部構成でまとめたもの。第一部は補償も援護も受けられない在韓被爆者の苦しみと闘いの軌跡を、第二部は陝川における日本の植民地政策の実態や広島との関わりについての記録が記されている。

360
く
〈広〉
〈長〉
中学～

被爆者たちの戦後50年
(岩波ブックレット No.376)
栗原 淑江 〔著〕
岩波書店 1995年 63P

自分史を書くことによって、原爆が自分にどのような影響を与えてきたかを明らかにしようとする被爆者たち。彼らの談話を通し、原爆による苦しみや悲しみを乗り越えて、懸命に生きる姿をつづる。被爆者たちの核兵器廃絶への切実な願いが伝わってくる。

361
な
〈長〉
小中～

ゲンバクとよばれた少年
(世の中への扉)
中村 由一 著
渡辺 考 聞き書き
宮尾 和孝 絵
講談社 2018年 155P

2歳10カ月の時に長崎の自宅で被爆した由一^{よしかず}は、兄と弟を亡くし、自身も重傷を負った。小学校入学後、クラスでただ一人の被爆者だった彼は、「ゲンバク」と呼ばれひどいじめにあう。被爆体験や被差別体験を子どもたちに語り続けている著者が、その思いを伝える。

369
と
〈広〉
〈長〉
中学～

キノコ雲に追われて ―二重被爆者9人の証言―

ロバート・トランブル 著
吉井 知代子 訳
あすなろ書房 2010年 167P

広島で原爆にあい、その後逃げ戻った長崎で再び被爆した「二重被爆者」。彼らの苦悩と絶望、復興への模索を、詳細な体験談でつづる。終戦から10年後につらい事実を語ってくれた彼らの思いを、アメリカ人ジャーナリストが渾身の取材でまとめた証言集。

369
ひ
〈広〉
中学～

ヒロシマから「内部被ばく」と歩んで

(わが子からはじまるクレヨンハウス・ブックレット 008)

肥田 舜太郎 著

クレヨンハウス 2012年 63P

広島陸軍病院に勤務し往診先の戸坂で被爆、その直後から被爆者治療・支援にたずさわってきた著者の講演を基に再構成したもの。目に見えない放射線による内部被爆の恐ろしさ、更に原子力発電所における放射能問題にも触れており、核廃絶を強く訴える一冊。

370
い
〈広〉
中学～

中学生の春夏秋冬

(岩波ジュニア新書 75)

石川 逸子 著

岩波書店 1984年 213P

人間性重視の教育実践を行う東京のK中学校の生徒たちの1年間。K中は毎年広島への修学旅行を行っており、その旅行を中心とした平和学習、文化祭での原爆展などで原爆の問題に取り組む中学生の姿が描かれている。

370
い
〈広〉
中学～

高校生の正しい夏

(岩波ジュニア新書 161)

岩波書店編集部 編

岩波書店 1989年 247P

高校生たちに特別の夏が過ごせるようにと、著名人の青春時代のさまざまな夏を紹介。「ヒロシマの旅」(石川逸子著)は、高3の夏に友人と広島に行った時、平和公園、慰霊碑、被爆者の証言などから、ヒロシマの深い傷に触れ、ショックを受けたことを語る。

370
い
3
〈広〉
小中～

ビジュアル版 学校の歴史 3 一校舎・校庭編一

岩本 努 共著

保坂 和雄 共著

渡辺 賢二 共著

汐文社 2012年 54P

Q&A形式の文章と写真で学校の歴史を紹介するシリーズの第3巻。「学校はいつから始まったの?」「校庭に桜の木が多いのはなぜ?」など、校舎と校庭について解説。「学校も空襲にあったの?」の問いで、原爆で被害を受けた広島の本川小学校を取り上げる。

370
う
〈長〉
中学～

学校演劇で平和を学ぶ

(母と子でみる A42)

上田 精一 著

草の根出版会 2004年 135P

生徒が平和学習の一環として、自分たちの手で演劇を行い、悲惨な戦争を体験していく様子を、写真と共にまとめたもの。序章と第1章で、長崎の原爆をテーマに演劇を行った3つの学校を取り上げ、その取り組みや舞台の様子、生徒の感想などを紹介している。

370
う
〈長〉
小高～

君と感動の日々を
(手をつなぐ中学生の本 49)
上田 精一 著
民衆社 1985年 220 P

九州・錦中学校の上田学級の3年間の記録。パート7で「歴史と平和を学ぶ旅」として長崎・佐世保への修学旅行の様子が描かれる。佐世保で原子力空母カールビンソン入港を見た時の思い、長崎の国際文化会館でのショックなどをつづった生徒の詩や感想文も収録。

370
お
〈広〉
小高～

歩いて見てほしいひろしま原爆の木たち

大川 悦生 著
たかの書房 1995年 109 P

著者が訪ねた被爆樹のうち、学校や幼稚園にあるものを中心に、木にまつわる話をまとめ、写真と共に紹介。被爆当時の傷跡を残す木を通し、原爆の悲惨さを伝える。同時に、手書きの被爆樹のマップを掲載し、実際に被爆樹探訪ができる本。

370
け
〈広〉
小高～

似島 一廣島とヒロシマー

原水爆禁止似島少年少女のつどい実行委員会 編
一粒の麦社 101 P 2012年

広島が軍都としての機能を持つ中、似島には検疫所や弾薬庫などの軍事施設が整備された。原爆投下後は約1万人の被爆者が運ばれ、衛生兵が不休で救護にあたるも次々と亡くなる様子がつづられる。加害と被害の二つの側面を持つ似島の、平和への取り組みも紹介。

370
こ
1
〈広〉
中学～

中学生のための「総合」アイデアBOOK 1
—国際理解・平和—
滝口 正樹 著
こどもくらぶ 編
ポプラ社 2001年 55 P

中学生の総合学習に役立つ実践のノウハウや実践例をテーマごとに紹介したシリーズの1巻目。本書では国際理解・平和をテーマとし、その中で日米の子どもたちによる原爆の子の像建立の取り組みや、広島への修学旅行を通して平和について考えている学校を紹介。

370
こ
〈広〉
〈長〉
中学～

原爆碑を洗う中学生
(母と子でみる A43)
小林 文男 著
草の根出版会 2005年 135 P

被爆者の声を広島で直接聞いてほしいと、東京の中学校教諭時代にヒロシマ修学旅行を実現させた江口保さん。自身も長崎の被爆者として原爆の脅威と悲惨さを訴え、退職後は広島市で全国の修学旅行生の平和学習を支えた彼が69歳で亡くなるまでの足跡をつづる。

370
さ
〈広〉
中学～

原爆は終わっていない ―出島艶子さんの〈ヒロシマ〉―

埼玉県立朝霞高等学校一年二組 著
埼玉県立朝霞高等学校一年二組 1990年
66 P

埼玉県立朝霞高等学校1年2組(1989年当時)では、広島で被爆した出島艶子さんに、その体験を聞く機会を持った。その時の「証言」と、その翌日に生徒たちが書いた「手紙」とで構成されている。高校生たちの平和への取り組みを記録する冊子。

370
さ
〈広〉
中学～

ヒロシマ希望の未来 ―核兵器のない世界のために―

澤野 重男 著
平和文化 2010年 159 P

「広島高校生平和ゼミナール」など、高校生や若者たちが自主的に取り組む平和運動を紹介。核問題を巡る世界の現状・被爆の実相・核廃絶への動き等も、さまざまな証言や手記と共に提示する。「できることから始める」ための、平和学習の手引きとなる一冊。

370
し
〈広〉
〈長〉
小高～

ひろしま ―これはわたしたちのさけびです(試案)―

小学校平和教育教材編集委員会 編
広島県原爆被爆教師の会 編
広島平和教育研究所出版部 1970年 64 P
〔3訂 11刷 1984年、16刷 1992年〕

「夜のくすの木」「スカーフは青だ」など、原爆を扱った作品を紹介。原爆の悲惨さ、むごたらしさ、被爆者の苦しみ、そして平和とは何かなどについて、小学生向きに分かりやすく説明した副読本。

370
ひ
〈広〉
〈長〉
中学～

ひろしま ―原爆をかんがえる(試案)―

広島県平和教育教材編集委員会 編
広島県原爆被爆教師の会 編
広島平和教育研究所出版部 1969年 64 P
〔8訂 29刷 1993年〕

原爆の恐ろしさ、悲惨さを知り、それを語り継ぐことがヒロシマを考えるための原点であるという立場から、原爆についてあらゆる角度から掘り下げた中学生以上を対象に編集された副読本。

370
ひ
〈広〉
中学～

ヒロシマは語る ―平和学習のために―

「ヒロシマは語る」刊行委員会 編
河野 通宏 著
宮本 幸晴 写真
原 広司 挿絵
広島県原爆被害者団体協議会 1997年
90 P

被爆者の高齢化、被爆体験の風化が言われる中で、未来を担う子どもたちの平和学習のために編まれたもの。4章から成っており、被爆証言、写真、慰霊碑、原爆遺跡ガイドのほか、核兵器とは何かなどを多角的にまとめ、ヒロシマの総合的資料として役立つ。

370
ひ
〈広〉
〈長〉
中学～

ひろしま ―今日の核時代を生きる（試案）―

広島平和教育研究所 編
広島平和教育研究所出版部 1977年 71P
〔4訂 10刷 1993年
改訂版 広島県教育用品 1997年 85P〕

どのようにして第二次世界大戦は起こり、なぜ原爆は落とされたのか。そして現在の核をめぐる諸問題は？ 原爆を通して今日の核時代の恐怖へ迫り、“戦争”“平和”について述べる、中学生以上を対象にした副読本。

370
ひ
〈広〉
中学～

ひろしま ―15年戦争と広島（試案）―

広島平和教育研究所 編
広島平和教育研究所出版部 1986年 63P

世界で最初の原子爆弾による被爆体験を持つ広島。明治以降、朝鮮・中国などアジアの国を侵略し、多くの人々を殺傷した加害基地としての歴史を持つ軍都広島。元日本兵の中国での体験を基に、中学生以上を対象に編集し、戦争とは何かを考えるための副読本。

390
に
〈広〉
〈長〉
小高～

せんそう ―詩と作文― (岩崎少年文庫 30)

日本作文の会 編
岩崎書店 1991年 202P

戦争をテーマにした子どもたちの詩と作文を、湾岸戦争・日清～太平洋戦争・戦後の3章に分けて集めたもの。第3章「平和への願いをこめて」には、広島・長崎の原爆に関する7編の詩と作文を収録。子どもたちの平和への思いが鮮烈につづられた、胸を打つ文集。

390
ふ
〈広〉
〈長〉
中学～

戦争がやってくる (ちくまプリマーブックス 60)

藤井 治夫 著
筑摩書房 1991年 216P

今世紀世界で起こった戦争の流れを追い、戦後の軍事史を具体的に記すことで、戦争の愚かさ、虚しさを追求した本。冒頭で広島・長崎に原爆が落とされた経緯、その威力・被害について述べられている。米ソの“冷戦”がヒロシマの悲劇の起点という指摘は鋭い。

430
お
〈広〉
〈長〉
小高～

火ははたらく ―科学と技術の誕生― (日本の科学・技術史ものがたり)

大竹 三郎 著
大日本図書 1987年 147P

人類がつくりだした火は、科学技術のおかげで石炭や石油の火となり、さらに電気や原子力の火となった。ところが、戦争が原子の火を原子爆弾という“悪魔の火”に変えてしまった。火の科学と技術の面から、原子爆弾の正体を捉える。

490
い
〈広〉
〈長〉
中学～

広島・長崎でなにが起ったのか —原爆の人体への影響—
(岩波ブックレット No.8)

飯島 宗一 著
岩波書店 1982年 63P

人類史上初めて広島・長崎に投下された原爆によって、人体はどのような影響を受けたのだろうか。熱線によるやけど、爆風による外傷やケロイド、白血病などの後遺症について医学的に説明した書。

490
か
〈広〉
中学～

広島のおばあちゃん 過去 現在 未来

—平和学習 中・高校生、社会人向け—

鎌田 七男 著
鎌田七男シフトプロジェクト 2005年
119P

広島原爆養護ホームで暮らす一人のおばあちゃんを通し、原爆が人体に与える影響、被爆の実態などを医学的立場から分かりやすく解説。過去、現在、未来の3章に分け、見開きの左ページは中・高校生向きのQ&A、右ページは一般向けの資料で構成されている。

490
に
5
〈広〉
〈長〉
小高～

日本人のいのちと健康の歴史 5 —わたしたちのいのち・健康・未来(昭和～現代)—

加藤 文三 編
名原 壽子 編
石井 勉 絵
汐文社 1991年 51P
〔改訂 2008年 47P〕

医学を中心に、日本の歴史を1項目1画面のイラストと簡単な説明文で描いた歴史シリーズの第5巻。本書では、昭和史を中心に、伝染病や飢餓、結核、公害病などを解説。また、広島・長崎の被爆の惨状を描いた項では、そこで働く救護班について解説している。

510
ち
7
〈広〉
〈長〉
小高～

地球の環境問題シリーズ 7 —核の時代をどう生きるか—

—核兵器と原子力発電—

伊東 壮 編
ポプラ社 1991年 55P

地球の環境や安全性を考えるシリーズの7巻目。本書は、核兵器と原子力発電の二つの視点から、“核”の問題に迫る。広島・長崎への原爆投下を踏まえて、核の恐ろしさを伝えるとともに、原子力と深い関わりを持っている、私たちの今後の生活を考えさせられる。

520
ひ
〈広〉
中学～

ヒロシマの被爆建造物は語る —被爆50周年 未来への記録—

被爆建造物調査研究会 編
広島平和記念資料館 1996年 399P

被爆建造物の記録を後世に残すために調査した建物や橋・樹木などを収録。各建物について写真を中心に紹介した図説編、被爆建造物を巡る諸問題について述べた概説編、掲載された412点のリストなどの資料編で構成される。被爆後の建物の変遷がよくわかる一冊。

520
ひ
〈広〉
中学～

原爆ドーム100年の記憶

広島平和記念資料館 編
広島平和文化センター平和記念資料館
2015年 15P

チェコ人ヤン・レツルが設計し、大正4（1915）年に完成した「広島県物産陳列館」。原爆投下により無残な姿となるが、核廃絶と平和のシンボル「原爆ドーム」として、世界遺産登録が実現した。新聞記事や写真と共に、「原爆ドーム」の歴史を振り返る。英文併記。

530
い
〈広〉
〈長〉
小高～

核はほんとうに安全か？ —原子力の歴史と未来を考える—

（ポプラ社教養文庫 1）

伊東 壮 著
ポプラ社 1990年 188P

広島・長崎での悲惨な原爆体験の後も人類は核兵器を開発していった。原子力の仕組みや、その利用が発達していく経緯を語りながら、原子力発電事故や核兵器の危険性を取り上げる。そして、広い視野から、人類の未来に原子力が本当に必要かを問いかけた本。

530
け
〈広〉
〈長〉
小高～

原子力がわかる事典 —正しく知ろう！— —しくみから放射線・原発まで—

PHP研究所 2012年 63P

原子と原子力、放射線に関する基礎知識から、原子力発電のしくみと課題までをイラストと写真で解説。広島と長崎に落とされた原子爆弾や福島第一原発事故についても紹介する。原子力発電に代わる発電を考えるヒントも加え、原子力とエネルギー問題に迫る。

530
け
〈広〉
〈長〉
小高～

原子力のことがわかる本 —原子爆弾から原子力発電まで—

（チャートBOOKS）

数研出版 2003年 143P

原子のしくみから原子力の歴史・原爆の威力・原子力発電の技術など原子力について、豊富な写真や図と共に分かりやすく解説した本。第3章では、広島と長崎の原爆投下による被害状況に触れ、併せて核兵器廃絶に向けた世界の動きを紹介している。

530
た
〈広〉
小高～

核災害からの復興 —広島、チェルノブイリ、ロンゲラップ環礁の調査から—

高田 純 著
医療科学社 2005年 63P

放射線や原爆被害の研究に携わってきた著者が、広島で市民向けに行った核災害についての講演をまとめたもの。広島・チェルノブイリ・ロンゲラップ環礁の調査を基に、放射線による被害の実態のほか、人体に及ぼす影響について分かりやすく説明している。

540
こ
〈広〉
〈長〉
中学～

子どもたちに伝えたいー原発が許されない理由

小出 裕章 著
東邦出版 2011年 129 P

反原発を掲げる著者が、原子力発電の構造や危険性、放射能による健康被害などを図やグラフを交えて解説。原子力発電によって、広島に投下された原爆の110万発分以上の放射性物質が生み出されたと述べるほか、原爆の爆発力や原料についての説明もある。

540
ひ
〈広〉
中学～

チェルノブイリから広島へ

(岩波ジュニア新書 251)
広河 隆一 著
岩波書店 1995年 203 P

1986年、旧ソ連ウクライナ共和国のチェルノブイリで原発事故が発生した。事故後の被災地の様子や、避難した人々を追跡調査し、その被害の実態を報告。被爆50年目を迎えた広島を見つめ直すとともに、繰り返される原発事故を通して、核は必要なのかを考える。

540
や
〈広〉
〈長〉
中学～

ハンドブック 原発事故と放射能

(岩波ジュニア新書 727)
山口 幸夫 著
岩波書店 2012年 11、159、3 P

東日本大震災の影響で、福島第一原子力発電所は制御不能に陥り、重大な事故を引き起こした。その実態と原発のリスク、放射能の影響、エネルギー問題などを、多くの図や表と共に解説。広島・長崎の被爆にも触れ、現在も続く放射能被害の甚大さを訴える。

550
な
〈広〉
小高～

絵で読む広島の原爆

那須 正幹 文
西村 繁男 絵
福音館書店 1995年 83 P

綿密な取材に基づいた絵で、広島の町や人々の姿、被爆状況などを克明に再現。原爆の原理、投下への経緯、被災状況、人体への影響や“核”の問題までを多角的に捉えて文章化。絵と文が一体となり、原爆の全体像を客観的に伝える。巻末に復元図絵解きを掲載。

英語版： 550
N 『HIROSHIMA —A Tragedy Never to Be Repeated—』

Masamoto Nasu 文
Shigeo Nishimura 絵
Joanna King 訳
Yuki Tanaka 訳
Fukuinkan Shoten 1998年 69 P

550
に
〈広〉
〈長〉
中学～

原爆の実相を語りつく 被爆者からの伝言

日本原水爆被害者団体協議会 編
あけび書房 1995年 94P 32枚
〔複合媒体資料 2006年 88P 32枚〕

紙芝居で、広島と長崎の原爆被害の実態や反核・平和運動の歩み、被爆者を巡る諸問題などを理解しやすいようにまとめたもの。別に解説書もあり、紙芝居のシナリオや原爆関係の資料が収録されている。写真や絵からなる紙芝居は、原爆展としても活用できる。

550
ひ
〈広〉
小高～

原爆一見えない放射線の被害 ―質問でつづるふしぎ発見―

広島平和記念資料館 著
広島平和記念資料館 2000年 15P

平成12年度に広島平和記念資料館で開催された第1回企画展のパンフレット。原爆のしくみや核兵器の特徴である放射線が人体へ及ぼす影響などについて一問一答形式で分かりやすく説明。図や写真もたくさん掲載されていて、平和学習の参考資料として利用しやすい。

550
ひ
〈広〉
小中～

広島平和記念資料館 ―ヒロシマをみつめて―

広島平和記念資料館 編
広島市市長室 1986年 28P

原爆が落とされるまでのB29爆撃機の経路、広島型と長崎型の原爆のしくみ、原爆投下後の町の様子やきのこ雲などを写真や図で分かりやすく解説する。また、熱線や爆風、放射線による影響についても触れ、多くの人命を奪った原爆についてまとめた小冊子。

550
へ
〈広〉
〈長〉
小高～

あの日、広島と長崎で ―写真物語―

平和博物館を創る会 編
平和のアトリエ 1994年 63P

1945年夏、広島と長崎に原子爆弾が投下された。廃墟と化した街、黒焦げの死体、そして、焼けただれて救いを求める人々……。2発の原子爆弾が引き起こした核被害を、貴重な写真で克明に記録した写真物語。地球上の全ての核兵器の根絶を願って作られた本。

650
い
〈広〉
小高～

広島の木に会いにいく

石田 優子 著
偕成社 2015年 239P

爆心地からおおむね半径2km以内に、被爆樹木が約170本ある。ドキュメンタリー映像作家の著者が、樹木医の診断や処置の様子、被爆者の証言、被爆2年後に調査した研究者への取材記録とともに、自身も観察した木の状況を伝える。巻末に被爆樹木マップを掲載。

650
に
〈広〉
中学～

被爆七〇年・西区の被爆樹・被爆遺跡・被爆建物

西区被爆フィールドワークの会 〔編〕
西区被爆フィールドワークの会 2015年
90 P

西区に残る18の被爆樹・36の被爆遺跡・24の被爆建物を紹介した一冊。現在の写真や来歴、被爆の様相、所在地、爆心地からの距離などを周辺案内図と共に掲載。被爆から70年がたち、惨禍の継承が難しくなる今日、これらをフィールドワークで集め伝え残す。

650
ひ
〈広〉
中学～

沈黙を聴く ―広島被爆樹木写真集―

広島東南ロータリークラブ 〔編〕
広島東南ロータリークラブ 2020年 89 P

広島の爆心地から2キロ以内には、被爆し傷つきながらもたくましく生き抜いてきた160本の被爆樹木がある。樹木1本1本の現在の様子を、3年間の時間をかけて集めた写真集。原爆投下当時の樹木の様子を写した写真や、広島市の被爆樹木リストとマップも掲載。

680
に
〈広〉
中学～

被爆電車に乗って1945年を語る ―広島電鉄沿線被爆資料全10回―

2000+7・平和 〔編〕
2000+7・平和 2016年 31 P

広島に残る2両の被爆電車に乗り、街中の碑や被爆建物を見て、平和を考えるきっかけにと始めた催しの記録。電車で巡る行程に沿い、多聞院など19件の史跡を写真付きで解説。原爆や他都市での空襲の体験者から寄せられた証言も掲載。2008年からの全10回を収録。

680
ひ
〈広〉
中学～

被爆電車75年の旅 ―“走る歴史モニュメント”、その裏に秘められた復興と再生の物語―

ザメディアジョンプレス 2017年 136 P

原爆投下後、広島は焼野原となり、路面電車も全線不通に陥った。しかし、わずか3日後には一部区間が復旧し、運転を再開した。路面電車の被爆と再生を、写真や図版、関係者インタビューを交えて伝える。被爆体験を描いた漫画「原爆に遭った少女の話」も掲載。

690
く
〈広〉
〈長〉
中学～

私はニュースキャスター

(岩波ジュニア新書 158)
久和 ひとみ 著
岩波書店 1989年 207 P

ニュースキャスターを夢見ていた少女が、実際にニュースキャスターになって報道をする中で印象に残ったことを紹介。7章「日本の見方・世界の見方」の中で、アメリカ人の原爆投下に対しての考え方に触れ、日米の報道の違いについて述べる。

690
け
〈広〉
中学～

原爆投下時の電信電話 —中国地方の中核都市広島で一つの爆弾により甚大な被害を受けながらも通信を守り続けた人々の記録—

西日本電信電話株式会社広島支店 2020年
11 P

原爆投下により、設備・人員ともに甚大な被害を受けた広島地区の電信電話関係機関。悲惨な状況の中、翌日には復旧工事に取りかかり、2日後には通信を復活させた。被爆直後の様子やその後の歩み、広島の電信・電話事業の歴史を豊富な写真と共に記す。

700
こ
〈広〉
小中～

ぼくらは生きたい —原爆の絵をかく—
(子ども美術館 18)

加藤 茂男 著
ポプラ社 1983年 39 P

東京都八王子養護学校の生徒たちが、実際に広島への修学旅行をし、自分たちの目や耳で確かめて原爆学習に取り組んだ。その後、『ピカドン』（丸木位里・俊著）を参考にしながら、平和への願いをこめて描いた画集。

700
し
5
〈広〉
小高～

修学旅行で行ってみたい日本の世界遺産 5 —原爆ドーム／厳島神社／屋久島／琉球王国のグスク及び関連遺産群—

本田 純 著
小松 亮一 著
清野 賢司 著
岩崎書店 2007年 47 P
〔新版 —広島と九州・沖縄の世界遺産—
2014年 55 P〕

日本の世界遺産を紹介する本書の一部で、原爆ドームを取り上げている。原爆の被害のほか、各地の戦争遺跡、地方都市の空襲についても触れる。原爆ドームが、人類が過去の過ちを二度と繰り返さないために遺す「負の遺産」であることの意味を考えさせられる。

700
せ
6
〈広〉
小高～

世界に誇る日本の世界遺産 6 —姫路城／厳島神社／原爆ドーム／石見银山—

吉田 忠正 文
ポプラ社 2014年 47 P

日本の世界遺産の中から、核兵器廃絶と恒久平和を訴える記念碑として登録された原爆ドームを取り上げる。被爆前後の原爆ドーム周辺の様子や原爆被害を写真などと共に解説する。広島平和記念資料館の展示資料、保存される被爆建物や被爆樹木、慰霊碑も紹介。

700
に
〈広〉
小高～

日本の世界遺産 —イラスト図解と写真でよくわかる！—
(朝日ジュニア学習年鑑 別冊)

朝日新聞出版 2016年 207 P

日本の世界遺産を「名建築」、「古都」などのテーマに分けて紹介し、世界遺産の登録ポイントにも触れる。第5章「近代」の世界遺産で原爆ドームを取り上げ、被爆前後の建物の様子を写した写真を交えて紹介。広島に原爆が落とされた理由や遺品などにも言及する。

700
ひ
〈広〉
小中～

日本の大切なもの ―見て知る13の世界遺産― ―ジオラマ地図絵本―

PHP研究所 編
PHP研究所 2007年 63P

2006年までに登録された日本の13の世界遺産を、写真やイラスト、地図を用いて解説する中で、広島平和記念碑「原爆ドーム」も取り上げる。設計者や構造、原爆投下前後の建物の姿などを紹介するほか、当時の広島の様子を撮影した航空写真も掲載している。

720
く
〈広〉
小高～

平和をねがう「原爆の図」 ―丸木位里・俊夫妻― (ジュニア・ノンフィクション)

楠木 しげお 著
くまがい まちこ 絵
銀の鈴社 2012年 218P

被爆直後の広島で、その惨状を見た丸木夫妻は、反戦平和を強く願い、「原爆の図」全15部を、30年余りかけて完成させていく。原爆のみならず、戦争や公害など、多くの社会の不合理に激しく抵抗し、「絵による平和運動家」として生き抜いた夫妻の活動を描く。

720
け
〈広〉
小高～

原爆の絵 HIROSHIMA

童心社 1977年 113P

昭和49年、「市民の手で原爆の絵を残そう」というNHK広島の呼びかけに、2年間で2225枚もの絵が寄せられた。まったくの素人が原爆の悲惨さを伝えようと描いた絵の中から110枚を収めた画集。

720
な
〈広〉
中学～

「原爆の絵」と出会う ―込められた想いに耳を澄まして― (岩波ブックレット No.627)

直野 章子 著
岩波書店 2004年 71P

1974年と1975年に描かれた、約2200枚の“市民が描いた原爆の絵”。その絵と出会い研究を始めた著者は、絵の作者や遺族を訪ねて話を聞いてまわる。多くの人がそれまで語れなかったという、絵に込められた思いや自身の体験から、原爆のむごさが伝わってくる。

720
ひ
〈広〉
〈長〉
中学～

平和への祈り ―画文集―

平山 郁夫 著
毎日新聞社 1998年 77P

中学3年生の時、勤労働員の作業中に被爆した著者が、原爆ドームや聖母像など多くのスケッチと共に、平和への思いを語った画文集。自身の被爆体験をはじめ、「長崎」「エノラゲイ」「サラエボ」の見聞録のほか、広島・長崎両市長との対談も収録されている。

720
ひ
〈広〉
中学～

次世代と描く原爆の絵 —平成19年度～29年度—

広島市立基町高等学校 〔編〕
広島市立基町高等学校 2018年 133 P
〔—平成19年度～令和2年度— 2022年 171 P〕

基町高校創造表現コースの生徒たちが続けている、「原爆の絵」の制作ボランティア。被爆者の語る凄惨な体験を、高校生が絵画にし、後世に残す取り組みをまとめた。世代を越えた平和への思いを伝える作品集。2022年刊行版には、前作に45点加えた計171点を収録。

英語版： ⁷²⁰_H 『Atomic Bomb Drawings —原爆の絵 2007～2017—』

Hiroshima Municipal Motomachi Senior High School 編
Hiroshima Municipal Motomachi Senior High School
2018年 134 P
〔—2007～2020— 2023年 171 P〕

原爆の絵 —ヒロシマを伝える— —図録—

広島平和記念資料館 編
岩波書店 2007年 174 P

広島平和記念資料館が所蔵する約3600枚の原爆の絵の中から約1200枚を掲載。本編で紹介する161点は作者名のほか、被爆当時の年齢や場所、絵中の文章などから編集した作者のことば等を記載。巻末に作品一覧として本編で掲載しなかった作者の絵を紹介。英語対訳付。

『はだしのゲン』を英語で読む

毎日文化センター広島 編
毎日新聞社 2013年 303 P

中沢啓治原作の漫画『はだしのゲン』を、広く海外に普及するための英語版『BAREFOOT GEN』全10巻から名場面を抜き出し、単語や心に残る英語表現と共に紹介。英語版を読むための入門編で日本語解説付き。巻末に原作者の略歴・作品目録を収録する。

原爆の図

丸木 位里 共同制作
丸木 俊 共同制作
丸木美術館 1983年 153 P
〔新版 原爆の図丸木美術館 1988年〕
〔188、12 P〕

原爆投下直後、広島入りし原爆の惨状を目にした丸木位里・俊夫妻が、戦後、半生をかけて制作した屏風15作からなる「原爆の図」を中心として編まれた画集。芸術の立場から原爆を告発する。

720
ひ
〈広〉
中学～

720
ま
〈広〉
中学～

720
ま
〈広〉
〈長〉
小高～

720
ま
〈広〉
〈長〉
小高～

原爆の図 一普及版完本一

丸木 位里 共同制作
丸木 俊 共同制作
小峰書店 2000年 202P

原爆投下直後の広島で惨状を目にした丸木位里・俊夫妻が、戦後、「原爆の図」として描いた15連作を収録した画集。1983年刊の普及版完本である本書は、丸木夫妻の死後出版されており、二人の共同制作史や略年譜などが加筆されている。英文併記。

720
も
〈広〉
中学～

消えた町 記憶をたどり

森富 茂雄 絵と証言
ヒロシマ・フィールドワーク実行委員会 編
ヒロシマ・フィールドワーク実行委員会
2011年 88P

森富さんが記憶を頼りに、何度も修正しながら鉛筆で描いた広島在市街地。昭和12年頃から原爆投下直後まで、確かにあった街並みが緻密に描かれる。当時の思い出や壮絶な体験と共に見開きで紹介。描いた地域と視点を記した地図も掲載。2020年に英語版も刊行。

英語版： 720
M 『DISAPPEARED TOWNS, TRACING MEMORIES』

Shigeo Moritomi 絵と証言
Luli van der Does 英訳
HIROSHIMA Fieldwork Committee 編
HIROSHIMA Fieldwork Committee
2020年 6、109P

720
や
1・2
〈広〉
中学～

あしたきらきら No.1・No.2 一心のひろしま一

伊藤 真理子 詩
山崎 盛夫 絵
HIP (平和のためのヒロシマ通訳者グループ) 翻訳
スュックル 1994年 111P・103P

画家・山崎盛夫が、義父の供養のため、広島市内に点在する碑をスケッチしたもの。100枚に及ぶ絵、1枚1枚に詩人・伊藤真理子が詩を添えた詩画集。巻末には、広島平和記念公園にある碑をガイドマップとして掲載。全2巻。英文併記。

726
け
〈広〉
中学～

『ピカドン』とその時代

原爆の図丸木美術館 編
岡村 幸宣 (ほか) 著
琥珀書房 2023年 16、43P

1950年に発行された原爆体験記『ピカドン』の復刻に併せ、研究者の作品解説編として刊行された。『ピカドン』が連合国軍検閲下でも出版、流通した背景や大江健三郎の『ヒロシマ・ノート』で果たした役割など、多角的視点で言及する。幻灯版『ピカドン』も掲載。

726
な
〈広〉
中学～

はだしのゲン自伝

中沢 啓治 著
教育史料出版会 1994年 228 P

著者が、実体験を基に描いた、漫画『はだしのゲン』。本書は、“ゲン”のモデルである著者の生いたちや、被爆体験、そして、『はだしのゲン』第1部の完結までの歩みをつづったもの。著者の原爆への怒りや平和への信念が伝わってくる。

726
な
〈広〉
小高～

はだしのゲンわたしの遺書

中沢 啓治 著
朝日学生新聞社 2012年 221 P

6歳で被爆し、家族4人を亡くした中沢啓治。「原爆のことは忘れたい」と思っていたが、母の死をきっかけに原爆漫画を描き始める。実体験を基に『はだしのゲン』を描いた著者が、原爆の実態と原爆への怒り、自身の人生を語る。著者年表と作品リストを掲載。

726
ま
〈広〉
中学～

ピカドン

丸木 位里 絵・文
赤松 俊子 絵・文
原爆の図丸木美術館 編
琥珀書房 2023年 64 P

朝8時、三滝町に住む老夫婦を強い光が襲う。崩れた家から這い出ると、周囲のものは消え、宇品が見えた。ツバメは羽が焼け、コイは死体の間を泳ぐ。生々しいペン画と簡潔な文章で、原爆被害の鮮明な記憶をつづる。1950年発行当時の紙質なども再現した復刻版。

726
ま
〈広〉
小高～

漫画から学ぶ生きる力 ―戦争編―

ほるぷ出版 2016年 47 P

さまざまな漫画の1場面から、生きる力を伝えるシリーズの1冊。戦争を描いた漫画の中のエピソードや著者プロフィール等を紹介している。広島を題材にした『はだしのゲン』（中沢啓治著）、『夕風の街桜の国』（こうの史代著）も収録。巻末に戦争年表がある。

740
い
〈広〉
中学～

ひろしま

石内 都 著
集英社 2008年 78 P

色鮮やかなワンピース、変色したズボン、黒く焦げた腕時計……。広島平和記念資料館に収蔵されている被爆資料の中から、肌身に直接触れていた物を中心に、45点を撮影した作品を収めた写真集。資料となってしまった物の、本来の姿と原爆の傷跡を伝えている。

740
い
〈広〉
中学～

Fromひろしま

石内 都 著
求龍堂 2014年 135 P

焼け焦げた眼鏡や断片だけが残る衣服など、広島平和記念資料館が所蔵する被爆遺品を掲載した写真集。2007年から2014年に、写真家・石内都が色彩豊かに撮影した。小説家の周防柳が描く、8月6日に被爆した少女についての物語「水色のワンピース」を巻末に収録。

740
け
〈広〉
〈長〉
中学～

ヒロシマ・ナガサキ

現代出版編集部 編
現代出版 1982年 191 P

広島と長崎の原爆による被害状況や悲惨な人々の様子を伝える写真集。さらに、実際に地獄のような光景を見てきた市民の手による絵が紹介され、核兵器についても触れられている。

740
つ
〈広〉
小高～

ヒロシマ1945～1979 ―「原爆の子」の30余年― ―土田ヒロミ写真集― (ソノラマ写真選集 22)

土田 ヒロミ 著
朝日ソノラマ 1979年 118 P

被爆体験記集『原爆の子』（長田新編 岩波書店 1951年）に作文を寄せた186人の少年少女たちのうち、107人の30余年後を紹介した写真集。“原爆の子”たちの苦難に満ちた生きざまや、その後の様子がうかがえる。

740
に
〈広〉
中学～

空から地下を探るには？

(ちくまプリマーブックス 14)
西尾 元充 著
筑摩書房 1988年 210 P

著者は空中写真判読のパイオニア。本書には、原爆を受ける直前と直後の広島を同角度から撮った空中写真が掲載されている。びっしり建てこんだ家々が一瞬にして灰と化した恐怖をまざまざと見せるものだ。著者はこの写真から被爆前の市街図を復元した。

740
ひ
〈広〉
中学～

ひろしま ―平和教育教材写真集―

広島県原爆被爆教職員の会 編
広島平和教育研究所 1984年 24枚

原爆投下直前の相生橋付近、キノコ雲、爆風によって壊された町、大やけどをした人々……など、原爆の恐ろしさを伝える24枚の写真を収める。ヒロシマを考えるための教材として編集されたもの。

750
て
〈広〉
中学～

原爆ヒロシマ ―きり絵画文集―

寺尾 知文 著
光人社 1982年 95 P

川の中は漂う死体がいっぱい、舟のスクリューに巻きついてくる……。広島県部隊へ配属され、原爆投下直後、大発舟艇に乗り被爆地援護に広島に入った著者が見た惨状を、きり絵と文章でつづった画文集。

750
ま
〈広〉
〈長〉
小低～

へいわをゆめみて ―マナ・オリさんのおりがみ「ツル」―

―Kraanvogel Droom voor vrede― ―Manna Ori's origami―

マナ・オリ さく
あいり出版 2015年 47 P

オランダ出身の折り紙作家の著者が、作製したさまざまな折り鶴の写真やイラスト、世界の子どもたちへのメッセージをつづる。原爆、千羽鶴、佐々木禎子さんについて説明があり、ツルと台座の折り方も掲載。折り鶴を作って平和を祈ろうと呼びかける。蘭文併記。

770
い
〈広〉
小高～

少年口伝隊一九四五

井上 ひさし 著
講談社 2013年 80 P

原爆投下後の広島で、英彦・正夫・勝利は中国新聞の女性記者に出会う。3人は焼失した新聞社を手伝い、報道を口で伝えて歩く口伝隊として働くことになった。だがある日正夫に原爆症が現れ、勝利は巨大台風のため行方不明に……。朗読劇の表記を一部改め刊行。

770
き
〈広〉
小高～

ゲン in ヒロシマ ―物語「はだしのゲン」―

中沢 啓治 原作
木島 恭 脚本・詞
講談社 1999年 143 P

原作者が、広島での被爆体験に基づいて描いた漫画『はだしのゲン』を、主人公のゲンと家族の被爆直後の生活に焦点をあてて舞台化したものの脚本。悲惨な状況の中で、たくましく生きていくゲンの姿が、脚本上に生き生きと再現されている。

770
く
〈広〉
〈長〉
中学～

私の戦争

(岩波ジュニア新書 479)

黒木 和雄 著
岩波書店 2004年 210 P

疎開中の体験がもとで戦争にまつわる映画を撮り始めた著者が、戦争体験を振り返りつつ、映画との関わりや作品についてつづった本。中でも、広島・長崎の原爆を題材とした作品の制作過程からは、戦争や原爆がもたらす悲劇が痛切に伝わってくる。

778
か
〈広〉
〈長〉
中学～

核のない21世紀を —ヒロシマからのメッセージ—

片桐 直樹 原案
田中館 哲彦 構成
汐文社 2001年 119P

21世紀こそ核のない世界であるように、という強いメッセージを込めて製作されたドキュメンタリー映画『核のない21世紀を』。この映画のノベライズを中心に、製作までの経緯と、被爆地ヒロシマとして原爆の実態や核の恐ろしさを記す。

800
ふ
2
〈広〉
〈長〉
小高～

チャレンジ！キッズスピーチ 2 —英語対訳つき—

—平和をもとめた子どもたち—
フリー・ザ・チルドレン・ジャパン 編
大月書店 2015年 39P

子どもが自ら声を上げる意義やスピーチのコツを、事例から学ぶシリーズの第2巻。事例の中に2014年の、被爆三世の高校生による国連軍縮会議での核兵器廃絶の訴えと、小学生による平和記念式典での「平和への誓い」がある。スピーチの背景ほか関連情報もあり。

810
に
〈広〉
小中～

にほんご多読ボックス vol.10-5 —広島少年飯田くん—

平和の大切さを伝える日本語教材をつくる会 作
土井 理絵子 挿絵
大修館書店 2019年 22P

ぼくは母と姉を原爆で失い、叔父に引き取られる。心身ともに傷ついたぼくは学校の勉強についていけず、孤独な日々を過ごす。しかし、中学校の先生にかけてもらった言葉で変わっていく。飯田國彦さんの実話を多読用に作成。全ての漢字とカタカナにルビが付く。

816
け
〈広〉
小高～

広島平和の親子バスツアー感想文集 —平成5年度—

原水爆禁止加古川市協議会 編
原水爆禁止加古川市協議会 1993年
102P

「核兵器廃絶都市宣言」をしている加古川市が主催する平和学習ツアー。本書は、そのツアーに参加した親子40組の感想文をまとめたもの。子どもたちの素直でストレートな戦争への嫌悪、親の未来への展望を込めた平和への願いなどが、真摯につづられている。

816
さ
〈広〉
〈長〉
小中～

作文が好きになる事典 3・4年

講談社 1995年 270P

「記ろくの書き方」では、平和公園を見学したことを書いた「ヒロシマ平和公園めぐり」、「読書感想文の書き方」では、『はだしのゲン』を読んで書かれた「こわい」ほか1編を収録。小学校3・4年生の、戦争や平和に対する率直な感想が述べられている。

816
に
1
〈広〉
〈長〉
小高～

子どもの作文で綴る戦後50年 1 ―戦争が終わった―

日本作文の会 編
大月書店 1995年 254 P

子どもたちの作文を通して戦後50年間の振り返るシリーズの第1集。本書では、戦争によって平和な生活を奪われ、肉親や友人を失った子どもたちの作文を紹介。広島・長崎の原爆によって、心身ともに傷つけられた子どもたちの思いもつづられている。

816
に
11
〈広〉
〈長〉
小高～

子どもの作文で綴る戦後50年 11 ―どうして戦争するの―

日本作文の会 編
大月書店 1995年 252 P

1945年から50年間に書かれた子どもたちの作品をテーマ別に収録。戦争がテーマの本書には、広島で原爆を受けた少女の作文や、広島・長崎への修学旅行記を掲載する。年代ごとに配列されており、戦後の子どもたちの生活や意識の変化がよく分かる。

816
に
〈広〉
小高～

たのしい観察記録の作文5年生

日本作文の会 編
小峰書店 1993年 175 P

子どもたちが実際に書いた観察・記録の作文集。授業の調べものや観察の記録、家族旅行の体験記などを収録する。また、見学文の項には被爆42周年原水爆禁止世界大会に参加した女の子のヒロシマでの経験を書いた作文があり、その平和への願いが胸を打つ。

816
ぬ
15
〈広〉
〈長〉
小高～

平和を考える小中学生作文集 第15集

沼津市財務部 〔編〕
沼津市財務部 2004年 73 P

昭和62年に「核兵器廃絶平和都市宣言」を行った沼津市の小中学生が書いた、平和を考える作文58編を収録。原爆に関する本を読んだり、広島や長崎を訪れたことから平和について考えた子どもの作文も載っており、平和を願う子どもたちの強い気持ちが伝わってくる。

816
ひ
〈広〉
〈長〉
小高～

広島・長崎市児童生徒平和のつどい感想文集

広島・長崎市児童生徒平和のつどい実行委員会 〔編〕
広島・長崎市児童生徒平和のつどい実行委員会
2003年・2004年・2005年
31 P・56 P・32 P

被爆都市である広島と長崎の子どもたちの交流を通し、平和への意識を高めることを目的とした“広島・長崎市児童生徒平和のつどい”。このつどいに参加した広島の子どもたちが、つどいで感じたことや平和を願う気持ちを素直につづった感想文集。

816
ふ
〈広〉
中学～

子どもたちの見たヒロシマ ―修学旅行感想文集―

文沢 隆一 編
汐文社 1982年 262 P

平和教育の一環として広島への修学旅行が定着している。戦争・原爆を知らない子どもたちは、どのようにヒロシマを見たか。平和記念資料館に寄せられた多くの修学旅行感想文集をまとめ、解説を掲載。

816
へ
12
〈広〉
〈長〉
小高～

こども平和文集 十二号 ―平和・環境を考える―

平和協会・児童部 〔編〕
平和協会 1996年 182 P

「平和・環境を考える」というテーマで募集した、全国の小・中学生の作文や詩を収録。「広島・長崎」の章では、原爆や核実験について考え、核のない世界を願う生徒たちの作文を掲載。ほかに「基地の島・沖縄」など、平和について幅広く考える内容となっている。

908
い
〈広〉
中学～

ぼくの町は「戦場」だった

BBCイギリス放送協会 編
山中 恒 訳
平凡社 1990年 230 P

第二次世界大戦中に子どもだった12人の戦争体験集。イギリスで企画され、イギリスと直接関係のあった12の国の人の文章が集められている。広島に生まれ、中学校2年生の時被爆した高橋昭博氏は、「あの日」を出発点に生き残った者の使命を語る。

908
へ
〈広〉
中学～

戦争は終わった

(The Excellent Series of Foreign Literature Books)
ハインリッヒ・ベル (ほか) 著
好村 富士彦 編訳
ほるぷ出版 1988年 307 P

第二次世界大戦の終結を人々はどのようにして迎えたか。ドイツ、アメリカ、フランスなど各国の作家が、それぞれの終戦を語ったもの。日本では、「生ましめんかな」を書いた栗原貞子氏が、被爆体験、敗戦、終戦後の日本の様子をつづり、現在の核時代の不安を語る。

914
な
〈広〉
小高～

ぼくと兄の日章旗 ―兄から学んだこと― (新・のびのび人生論 4)

中野 孝次 著
ポプラ社 1995年 174 P

インド国境での無謀なインパール作戦によって無念の戦死を遂げた著者の兄。その兄の遺品と思われる日章旗が戦後50年目に見つかったのを契機に、兄と自分の戦争体験をつづったもの。広島と長崎への原爆投下にも触れつつ、戦争の残酷さと、平和の大切さを訴える。

914
な
〈広〉
小高～

夕焼けの子どもたち ―子どもにおくるエッセー集―

那須 正幹 著
岩崎書店 1990年 165 P

広島に生まれ、自らも被爆体験を持つ著者が子どもたちのために書いたエッセー30編を収録。特に「原爆を描く」では著書『折り鶴の子どもたち』の執筆に触れ、自らの体験を重ねながら、戦争を知らない子どもたちへ原爆を語り継ぐことの重要性を説く。

916
あ
〈広〉
中学～

子どものころ戦争があった ―児童文学作家と画家が語る戦争体験―

あかね書房 編
あかね書房 1974年 283 P

児童文学作家、画家20人の戦争体験記集。「パンツの旗」（大野允子作）、「ああ、戦争ごっこ」（山下明生作）の手記に、被爆はしていないものの原爆の強い光を見、身近に原爆の悲惨さに触れた体験が語られている。

916
あ
〈広〉
中学～

わたしの8月15日 ―児童文学作家と画家が語る戦争体験―

あかね書房 編
あかね書房 1975年 241 P

20人の児童文学作家や画家が、戦時下の様子や、敗戦を迎えた日の状況を語る体験集。「敗戦まで」（今西祐行著）、「昭和20年8月5・6・7」（太田大八著）では、それぞれが見た、被爆後の広島の様子が伝えられている。

916
あ
〈広〉
小高～

ぼくの戦争 ―原爆は、そら豆がこげるにおい―

秋山 勝彦 著
加茂 礼子 絵
ウインかもがわ 2004年 176 P

5歳の時に広島で被爆した著者が、幼い目に映った原爆のありさまや、原爆にこだわりながらも、自分が被爆者だと語れなかった、その後の日々をつづる。50年を経て、子どもたちへ被爆体験を語り始めた著者の、平和を希求する強い思いが伝わってくる半生記。

916
あ
〈広〉
小高～

初めて知った戦争 ―敗戦のあとさき― （「戦争と平和」少年少女の記録 7）

秋山 正美 編
日本図書センター 1993年 252 P

少年少女の目が捉えた終戦前後の記録集。広島での原爆投下後の状況をつづった『原爆の子』（長田新編）から14人の手記を抜粋。他に『戦災孤児の記録』（島田正蔵・田宮虎彦共編）からの抜粋も併収。それぞれに解説と資料を掲載。

916
あ
〈広〉
小高～

一人ぼっちの焼けあと ―傷ついた十代の記録―

(「戦争と平和」 少年少女の記録 8)

秋山 正美 編

日本図書センター 1993年 249 P

坪田譲治・平間孝三の両氏がまとめた『犯罪少年の手記』の中から選び出した作文を収録。大半が第二次世界大戦中から戦後間もない頃に書かれたもの。「原子爆弾で父を失う」などの作品からは戦争犠牲者でもある犯罪少年少女たちの苦しみが伝わる。

916
あ
〈広〉
小高～

よみがえるふるさと ―平和な国を築く―

(「戦争と平和」 少年少女の記録 10)

秋山 正美 編

日本図書センター 1993年 293 P

敗戦直後から数年間に子どもたちが書いた作文・自由詩などを収録。「瀬戸内・四国編」では、原爆で兄が死んだ少女の作文や、被爆で心身に傷をうけた少年の詩など、原爆の恐怖を訴える10作品を収録する。子どもの目を通して、戦争とは何かを考えさせられる。

916
あ
〈広〉
中学～

ひかりのたね ―「あの時代」を生きた少女の日記―

天野 文子 記

小野 和子 編

汐文社 1992年 182 P

現在、平和の語り部としてヒロシマの証言を続ける著者の、戦時下の日記をまとめたもの。初めて学徒動員で工場に出た日から、8月6日に被爆するまでの日々が克明につづられている。軍国少女だった著者が戦争の真の姿、醜さに目覚める様子は胸に迫る。

916
あ
〈長〉
小中～

ごめんね、お母さん ―長崎で原爆をみた少年の心の記録―

(ポプラ・ノンフィクション 55)

荒木 正夫 文

高橋 孟 絵

ポプラ社 1991年 158 P

被爆した人々の惨状を、病院で目の当たりにした著者の体験記。戦争中、著者は長崎郊外の軍病院の調理場で働いていた。原爆投下後、次々と運びこまれる傷ついた人々。特に忘れがたい数組の母子との触れあいと別れを中心に、原爆と戦争への怒りと悲しみを記す。

916
あ
〈長〉
中学～

サヨナラはお乳の匂い ―脱走から生まれたわたしの終戦―

荒木 正夫 著

村上 新一郎 絵

あらき書店 1988年 145 P

戦争末期の頃、少年船員だった著者は、死の怖れから乗船命令を拒否し、かわりに諫早の海軍病院に勤め始める。そんな時、長崎で原爆が落とされ、たくさんの負傷者が運ばれてきた……。著者の心に現在もお深い傷あとを残す戦争の残酷さを、体験を通して語る。

916
い
〈広〉
小中～

飯田くん

飯田 國彦 語り
土井 理絵子 絵
平和の大切さを伝える日本語教材をつくる会
2018年 13P

飯田國彦さんは3歳の時に原爆で母と姉を亡くし、その後祖父母も相次いで亡くした。原爆により心身ともに深く傷ついた飯田さんの子どもの頃の苦難と、それを乗り越え強く生きるきっかけになった出会いを語る。平和の大切さを伝える、多読用日本語教材。

916
い
〈長〉
中学～

わたしの少女時代

(岩波ジュニア新書 3)
池田 理代子 (ほか) 著
岩波書店 1979年 209P

現在、社会の各分野で活躍中の13人の女性が各々の少女時代を語る書。長崎の兵器工場で学徒動員中被爆した林京子の「二、三秒の間」には、生々しい体験とその後の生き方がつづられている。

916
い
〈広〉
〈長〉
中学～

1945年8月6日 ―ヒロシマは語りつづける―

(岩波ジュニア新書 6)
伊東 壮 著
岩波書店 1979年 212P
〔新版 (岩波ジュニア新書 156) 1989年〕
208、2P

原爆投下後の惨状、戦前の生活、戦後の様相、原爆開発から投下までの経緯、現代社会における問題点など、原爆・平和問題について総合的に解説。書名は広島への原爆投下を指すが、長崎についても詳しく述べている。新版では、戦後の核兵器開発や反核運動を紹介。

916
い
〈広〉
〈長〉
小高～

いのちが未来をもてるように ―平和の語り部＝広島・長崎―

松谷 みよ子 構成・文
杉野 孝典 撮影
日本生活協同組合連合会 1986年 27P

「水をください／あつしよう／この焼けただれたブツブツの穴から／ヒロシマ・ナガサキの声が聞こえてきます」。もの言えぬ原爆瓦の写真は語る。溶けてゆがんだ一升びん、ぼろぼろの制服など、遺品中心の写真集。被爆の語り部・富永初子さんの話も収録。

916
う
〈広〉
小高～

原爆の図物語

(こみね創作児童文学 6)
宇佐美 承 作
丸木 位里 絵
丸木 俊 絵
小峰書店 1985年 174P

「原爆の図」などで知られる丸木位里・俊夫妻の物語。『ルルの家の絵かきさん』（偕成社・1978年刊）を一部書き直し、絵本『ひろしまのピカ』の誕生までの苦労を描いた「ヒロシマのピカ」の章を加えた作品。

916
う
〈広〉
小高～

ルルの家の絵かきさん —原爆の絵をかきつづける丸木夫妻の物語—
(世界のこどもノンフィクション 2)

宇佐美 承 著
丸木 位里 絵
丸木 俊 絵
偕成社 1978年 168P

「原爆の図」をはじめヒロシマの絵を描き続ける丸木夫妻の物語。東京郊外の山中に小さな家を作って住みついてから、丸木美術館建設までの様子や茶室「流流の家」での位里じいさんと俊ばあさんの日常の生活を描く。

916
う
〈広〉
小高～

折り鶴は世界にはばたいた —平和への祈り・折り鶴をめぐる人びとの物語—
(PHP愛と希望のノンフィクション)

うみの しほ 作
高田 三郎 絵
PHP研究所 1998年 190P

モンゴルで歌われている「ヒロシマの少女の折り鶴」のエピソードや、原爆製造の地、アメリカ・ロスアラモスでの、原爆の子の像姉妹像建設の様子など、世界に広がる「サダコ」と「折り鶴」を巡る活動を描く。時代や国境を越えた平和への祈りが込められた本。

916
お
〈広〉
〈長〉
小高～

広島・長崎からの伝言
(岩崎少年文庫 29)

大川 悦生 編著
岩崎書店 1990年 221P

1945年8月6日、広島に原爆が投下された。続いて8月9日、長崎にも……。原爆が人々にもたらした深い傷跡は、いまだに癒えることはない。被爆者本人とその家族や関係者の生々しい体験談が、原爆の恐ろしさを伝える。過ちを繰り返さないための戒めとなる本。

916
お
〈広〉
小高～

思い出のサダコ —思春期の入り口にいた三か月—

大倉 記代 文
夜川 けんたろう 絵
よも出版 2005年 62P
〔一日英対訳—Memories of Sadako—〕
大倉 記代 著
宮本 慶子 訳
スティーブン・リーパー 監訳
IBCパブリッシング 2015年 125P

14歳の時に、12歳の佐々木禎子さんと3カ月間病室を共にした著者が、戦後60年を機に彼女との思い出を初めてつづった作品。思春期の入り口にいた禎子さんの素顔と、原爆への憤りを伝える。2015年版は、解説等を加え、英語のテキストとして出版。英語音声CD付。

916
お
〈広〉
小中～

夏服の少女たち —広島・昭和20年8月6日—
(ポプラ・ノンフィクション 40)

大野 允子 著
ポプラ社 1989年 190P

広島県立広島第一高等女学校1年6組の少女たち。4月に女学生になれて、戦時下とはいえ、胸ふくらませて学校に通っていた少女たち。そんな少女たちを襲った一瞬の閃光。死んでいった少女たちの姿を通して、原爆のもたらす残酷さを描く。

916
お
〈広〉
小高～

ヒロシマ語り部の歌

大野 允子 作
四国 五郎 絵
汐文社 1999年 113 P

修学旅行で広島に来る生徒に、広島第一県女碑のそばで語り部をしている梶山雅子さん。彼女が、原爆投下後、姉と一緒に広島から逃れていく時に見た町や人の惨状と、亡くなった級友たちのことを話す姿を紹介。また、生徒たちからのお礼の手紙も掲載している。

916
お
〈広〉
中学～

ヒロシマ、遺された九冊の日記帳

大野 允子 著
ポプラ社 2005年 215 P

昭和20年8月6日、第一県女の一年生321名のほとんどが被爆し亡くなった。戦後、発見された9人の日記帳を題材に作品を発表してきた著者が、60年目を機にあらためて原爆への思いをまとめたもの。日記の一部を原文のまま収録し、命の尊さを訴える。

916
お
〈広〉
小高～

おおきなまちのちいさいはなし ー大平数子の世界ー

大平 泰 編著
大平泰 2019年 237 P

己斐町で被爆した大平数子さんが、自らの体験や被爆者から聞いた話を基に創作した童話「ききがき ひろしま」。方言をそのままに、被爆者の悲痛な記憶を後世に伝える。2018年に見つかった遺稿を息子である著者が書籍化。原爆詩集「少年のひろしま」も再録。

916
お
〈広〉
小低～

山梨の被爆アオギリ二世 ー平和の使者は山梨の地へも舞いおりたー

岡田 清 文
浅川 晃治 絵
岡田清 2005年 32 P

原爆にあいながらも生き延びた広島のアオギリ。そのタネは、平和の使者として山梨県にらさきの韮崎北西小学校へ贈られ――。今では山梨に根付いた被爆アオギリ二世について多くの人に知ってもらい、原爆や平和への理解を深めてもらいたいという思いで書かれた本。

916
お
〈広〉
中学～

ヒロシマの雨はドームの涙

(子どもと父母と教師が書いた原爆の記録 1)
小川 利雄 編
教育出版センター 1975年 161 P

広島^の被爆二世の子どもたちの作文集。彼ら自身が語る原爆や、初めて肉親から当時の惨状を聞き、原爆の恐ろしさを知った憤りがつづられている。

916
お
〈広〉
中学～

原爆の子 ―広島の少年少女のうったえ―

長田 新 編
岩波書店 1970年 304 P
〔(ワイド版岩波文庫 327・328 上・下)〕
〔2010年 313 P・265 P〕

原爆投下後7年、あの日広島で原爆を体験した広島少年少女たちが、当時のような辛苦をなめ、現在どのような感慨を持っているかをつづった「原爆の子」たちの手記集。1951年刊行されたものの改訂版。

916
お
〈広〉
小高～

わたしがちいさかったときに ―長田新編―〈原爆の子〉他より―

(若い人の絵本)
長田 新 (ほか) 編
岩崎 ちひろ 画
童心社 1967年 94 P
〔(フォア文庫 C085) 1989年 124 P〕
〔(フォア文庫 愛蔵版) 1994年 124 P〕

『原爆の子』(岩波書店版)から作文を、『原子雲の下より』(青木書店版)から詩を抜粋し、再編集したもの。広島で原爆で傷つき、肉親を奪われた子どもたちの血を吐くような作品からは、被爆の生々しさや戦争への怒りとともに、平和への祈りが伝わってくる。

916
お
〈広〉
中学～

さよなら、先生 ―被爆少年の手記―

(ポプラ・ブックス 59)
織井 青吾 著
ポプラ社 1982年 222 P

旧制中学3年生の時に被爆した著者の戦中戦後生活の手記。原爆で傷つき、既存の価値観が崩壊する中で悩み、その末に、原爆での悲惨な体験を逆にエネルギーとして強く生きて行こうとするまでの、心の軌跡を描く。

916
か
〈広〉
小高～

マレーシアの語り人

(原爆児童文学集 17)
かつお きんや 作
北島 新平 絵
汐文社 1985年 148 P

第二次世界大戦中、南方特別留学生としてマレーシアから来日し、広島にいたアブドル・ラザック。あの日、爆心地から1.5kmの場所で被爆した彼の見たものは……。現在、教員として生徒をはじめマレーシアの人々に、原爆の悲惨さを語り続ける彼の半生をつづる。

916
か
3
〈広〉
小高～

戦後50年学童疎開の子どもたち 第3巻

―悲しかったあのころの宝もの―

嘉藤 長二郎 編
小林 奎介 編
ゲン・クリエイティブ 編
汐文社 1995年 169 P

学童疎開をした子ども、引率した教師、送り出した親、それぞれの疎開体験を集めた証言集。この巻には、疎開先から広島へ戻ったために被爆死した少女とその家族が、疎開中に交わした手紙を収める。娘を原爆で失ってしまった母親の後悔の念が伝わってくる。

916
か
〈広〉
小中～

かえってきた瓢湖の白鳥

(ほんとうにあった美しい話 8)

神戸 淳吉 (ほか) 著
田代 三善 (ほか) 画
講談社 1984年 187 P

生きがいを求めて努力した有名無名の13人の話を集めたもの。「おりづるにいのりをのせて」(後藤建夫作)は、病気が治るよう折り鶴に願いを込めながら、原爆症で亡くなった佐々木禎子さんの話を紹介。

916
き
1・2
〈広〉
〈長〉
中学～

語り継ぐヒロシマ・ナガサキの心 上・下巻

京都「被爆2世・3世の会」 編
ウインかもがわ 2020年・2021年
521 P・522 P

被爆体験の継承により核兵器を廃絶し世界平和実現へ貢献すること、被爆二世・三世の健康問題の解決とあらゆる核被爆者の救済に役立てることを目的として発足した、京都「被爆二世・三世の会」。本書は、95人の証言者の原爆被害の実相とその後の人生をつづる。

916
く
〈広〉
〈長〉
小高～

燃える日本列島

(父が語る太平洋戦争 3)

来栖 良夫 編
古田 足日 編
堀尾 青史 編
永井 潔 え
童心社 1969年 190 P
〔(フォア文庫 C061) 1985年 210 P〕

実際に戦争を体験した人たちが太平洋戦争をつづるシリーズの第3巻で、沖縄戦から敗戦までの話19編を収録。「ピカドン! 原爆第一号」(小倉豊文著)、「原爆また長崎へ!」(内田保信著)の2編は原爆の恐ろしさを伝える。

916
け
〈広〉
中学～

「原爆の子」をうけついで —小・中・高校生市民応募作品より—

—発刊60年・長田新没後50年—
『原爆の子』をうけつぐ会 編
原爆の子をうけつぐ会 2011年 152 P
『原爆の子』をうけついで
—こども・青年・市民の平和へのねがい—
—長田新編『原爆の子』・発刊60年—
本の泉社 2012年 175 P

『原爆の子』発刊60周年を記念し募集した『原爆の子』や「平和」についての文章の中から、入選作49編と特別寄稿5編を掲載。併せて2011年6月に開催された記念講演の内容も収録。2012年版では、大学生や青年の文章を加え、増補・再編集。

916
こ
〈広〉
中学～

ピカドンの青春 —母から子へのバラード—

小井手 桂子 著
三修社 1985年 235 P

原爆、敗戦、その後の混乱で行われなかった卒業式を30年ぶりにしよう。広島女専第18期生の30年遅れの卒業式と当時の思い出をつづる。学徒動員先での被爆者の救護、原爆投下直後に入った広島街の状況等、著者の体験談として原爆の惨状が語られている。

916
こ
〈広〉
小中～

ピカドン —だれも知らなかった子どもたちの原爆体験記—
(シリーズ子どもたちの未来のために)

講談社 編
講談社 2003年 79P

約50年ぶりに広島市立己斐小学校で発見された1951年の作文集「原爆の思い出」。当時5、6年生だった子どもたちが、4～6歳の被爆時を思い出してつづったこの文集から15編を収録。幼い目に映った原爆の悲惨さが、素直な言葉で語られている。

916
こ
〈広〉
小中～

あの日を、わたしは忘れない —ヒロシマ原爆の絵日記—

河野 きよみ 絵と文
早坂 暁 編
勉誠出版 2008年 47P

14歳の時、広島市から35キロ離れた田舎で暮らしていた著者は、原爆が投下された翌日に、焼け跡となった市内を母と訪れ、姉を探し歩いた。その時目にした広島の様状を絵に描き、原爆のむごさを伝えている。当時の様子が分かる写真も掲載する。英文併記。

916
こ
〈広〉
中学～

悪魔の銀のサイコロ
(子どもと父母と教師が書いた原爆の記録 3)

国際平和教育研究会 編
教育出版センター 1975年 145P

『地獄からの汽車』に続く、小学校の父兄等から寄せられた原爆体験記集。「悪魔の銀のサイコロ」など、作品それぞれには、自ら原爆の悲惨さを体験した人々が、次代を生きる子や孫に託す、平和への願いが込められている。

916
こ
〈広〉
中学～

地獄からの汽車
(子どもと父母と教師が書いた原爆の記録 2)

国際平和教育研究会 編
教育出版センター 1975年 142P

広島の一小学校が、その父兄等から募集した原爆体験記・手記の一部を収めたもの。広島から来た列車に原爆を見た「地獄からの汽車」など、作品それぞれが子や孫に語る優しい口調ながら、原爆を強く告発している。

916
こ
1～3
〈広〉
中学～

しまってはいけない記憶 —被爆体験記集Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ—

国立広島原爆死没者追悼平和祈念館 編
国立広島原爆死没者追悼平和祈念館
2015年・2016年・2016年
557P・299P・327P

平成18年度から27年度まで行われた、被爆体験記執筆補助事業により完成した116編のうち、Ⅰ集では50編、Ⅱ集では27編、Ⅲ集では31編を収録。被爆前の生活、被爆時の状況、戦後の生活、平和への思いなどがつづられる。被災状況が分かる広島市街説明図付き。

916
こ
〈広〉
小高～

ヒロシマ心の旅路

(イワサキ・ライブラリー 4)

児玉 辰春 著
村井 宗二 画
岩崎書店 1996年 157P

原爆遺品にまつわる物語を書いている著者が、国内外に貸与された遺品を訪ねる旅に出た。本書は、その1カ月にわたる旅の様子を中心に、各地で感じた原爆観の違いや自作製作時のエピソードなどをつづり、“ヒロシマの心”を伝えていくことの大切さを訴えている。

916
こ
〈広〉
小高～

遠きヒロシマ ―記憶の町の物語―

〔児玉 八重子 述〕
青木 幸子 著
牧歌舎 2014年 84P

児玉八重子さんは広島で幸せな日々を過ごしていた。しかし、戦争により町の様子は変わっていく。原爆投下当時13歳で、疎開先から焼野原となった町に入り必死に父を探したことや、多くの悲惨な状況を目にしたことなど、伯母が語る原爆の体験を記録に残す。

916
こ
〈広〉
小中～

象のいなくなった動物園

(こどもノンフィクション 8 戦争の悲劇)

近野 十志夫 編
小峰書店 1994年 127P

原爆が投下された時、たまたま広島に居合わせた、移動演劇隊“桜隊”の9人の劇団員。被爆後、それぞれの地で亡くなった彼らの運命を描いた「原爆できえた劇団」。この他に、表題作「象のいなくなった動物園」など、戦争のもたらした悲劇の実話全5編を収録。

916
さ
〈広〉
小高～

禎子の千羽鶴

(戦争ノンフィクション)

佐々木 雅弘 著
学研パブリッシング 2013年 158P

広島で理髪店を営む両親の元に生まれた佐々木禎子は、元気で思いやりのある子だった。原爆投下からかろうじて生き延び、貧しいながらも幸せに暮らす一家だったが、ある日、12歳になった禎子が白血病と診断されてしまう。禎子をそばで見続けた実兄の手記。

916
し
〈広〉
中学～

きのこ雲の下で ―1945.8.6 ヒロシマ―

重高 ヨシコ 作
重高 ヨシコ 2005年 73P

昭和20年8月6日、県立広島第二高等女学校1年生だった著者は、学徒動員での作業中原爆にあう。一方姉は自宅、母は住吉橋付近でそれぞれ被爆して――。被爆直後の町の様子と、避難所での再会から母の死までをつづり、犠牲者の無念や核廃絶への思いを訴える。

916
し
〈広〉
中学～

流光 ―語り継ごう平和を 被爆50年―

修道中学・高等学校記念誌「流光」編集委員会 編
修道中学・高等学校 1995年 186 P

爆心地から約2キロにあった修道中学校の原爆被災記録と、被爆後、50年間の慰霊の歩みをまとめたもの。生々しい被爆体験をつづった当時の生徒やその家族たちの手記とともに、核廃絶を願う現在の生徒教職員の手記も収録。平和を語り継ぐことの大切さを訴える。

916
し
〈広〉
中学～

集団疎開生活と原爆被災 ―正現寺疎開児童の手記―

正現寺疎開児童の会 編
正現寺疎開児童の会 2003年 43 P

安佐北区の正現寺で疎開生活を送っていた舟入小学校3～6年生13名と教師3名が、当時を回想してつづった手記を収録。疎開中で自身の被爆は逃れたものの、多くの子が家族や友人を原爆で失っており、60年近くを経てなお心に残るそのつらい記憶がつづられている。

916
せ
〈広〉
中学～

広島第二県女二年西組 ―原爆で死んだ級友たち―

関 千枝子 著
筑摩書房 1985年 227 P
〔(ちくま文庫) 1988年 292 P〕

広島第二県女二年西組の生徒39人は、建物疎開作業中に被爆し、うち38人が、8月6日から20日までの間に死亡した。本書は、たまたま欠席していて生き残った6人の中の一人である著者が、30年後に、級友一人一人の被爆状況や、その軌跡を克明に追った記録集。

916
そ
〈広〉
小高～

家族から見た「8・6」 ―語り継ぎたい10の証言―

創価学会広島青年部 編
第三文明社 2015年 118 P、106 P

創価学会広島青年部を以て中心とする青年たちが、被爆者・被爆二世やその家族から聞き取った被爆証言集。被爆者が語る生々しい体験やそれを受け止め、次世代に伝えなければならないという使命感を持つ家族の思いがつづられる。日本語と英訳の両方を収録。

916
そ
〈広〉
小高～

75―未来へつなぐヒロシマの心

創価学会広島青年部 編
第三文明社 2020年 167 P

広島創価学会青年部の高校生らが、被爆者や戦争体験者に取材した内容をまとめたもの。被爆者6人と、原爆投下から二日後の「福山空襲」にあった戦争体験者2人の証言、聞き取りを行った高校生らの感想を掲載。広島市内の平和遺構を紹介したページもある。

916
た
〈広〉
小中～

折り鶴の少女 —原爆症とたたかった佐々木禎子さんと〈原爆の子の像〉の話—

たいら まさお 著
偕成社 1988年 147P

原爆による白血病のため、原爆投下後10年もたって、12歳で亡くなった佐々木禎子さん。病氣とたたかう禎子さんの姿、それを見守る家族やクラスメートたちとの友情を描く。また、死後、この友情が感動を広げ、「原爆の子の像」建立にいたる経過も語られている。

916
た
〈広〉
〈長〉
小中～

七夕にねがいをこめて —アンネの声がきこえる—

(愛と勇気のノンフィクション 3)

武田 英子 作
清水 耕蔵 絵
岩崎書店 1985年 77P

七夕の短冊に込めた一少女の平和の願いが、大きく広がり、3300枚もの平和の短冊が国連へと届けられた。その中には、広島・長崎から原爆の恐ろしさを訴える声もあった。平和を望む人々の姿を感動的に描く。

916
た
〈広〉
中学～

さいごのトマト —ヒロシマを、わたし自身の「ことば」で—

竹本 成徳 著
日本生活協同組合連合会 2010年 79P

爆心地から1キロの地点で被爆し、きのこ雲の下、暗闇となった町を逃げ惑った著者。勤務先で被爆した姉は全身大やけどを負い、翌日息絶えた。当時中学2年生だった著者が、自身の言葉でありのままに被爆体験を語り、戦争を繰り返してはならないと訴える。

916
た
〈広〉
小中～

恩師岩佐幹三先生 —私の大切な先生—

田畑 サンドーム 光恵 書いた人
平和の大切さを伝える日本語教材をつくる会
〔2020年〕 11P

16歳の岩佐少年は、爆心地から1.2キロの自宅で被爆。家の下敷きになった母を助けることができず、妹も見つけることができなかった。自身も原爆症と戦いながら、核廃絶運動を続ける。彼の教え子である著者が、恩師から聞いた話を日本語学習用教材として編集。

916
つ
〈広〉
中学～

ヒロシマの証

(岩波グラフィックス 7)

土田 ヒロミ 写真
杉原 正文
兼口 芳成 文
岩波書店 1982年 80P

広島で原爆で犠牲となった人々の悲しみを、遺品の写真と肉親の生々しい声でつづった証言集。1枚1枚の写真から、原爆の恐ろしさ、むごたらしさが伝わってくる。

916
つ
〈長〉
小高～

娘よ、ここが長崎です —原爆のおそろしさをうったえた永井隆の遺児、茅乃のねがい—
(くもんのノンフィクション・愛のシリーズ 8)

筒井 茅乃 作
松岡 政春 写真
保田 孝 写真

くもん出版 1985年 197P

〔新装版 —永井隆の遺児、茅乃の平和への祈り—〕
〔2007年 206P〕

原爆投下後の長崎で、病床から原爆の悲惨さを訴え続けた永井隆博士。その娘茅乃が、自分の娘に語るかたちで、自らの半生を原爆投下前後と父の事を中心につづる。次代への切々とした平和の願いが込められている。

916
て
〈広〉
小中～

飛べ！ 千羽づる —ヒロシマの少女 佐々木禎子さんの記録—

手島 悠介 著

講談社 1982年 173P

〔講談社青い鳥文庫 3-3〕 1986年 205P〕
〔新装版 1989年 173P〕
〔新装版 2000年 175P〕
〔講談社青い鳥文庫 3-6〕 2015年 214P〕

元気だった少女が突然、白血病になった。2歳の時に被爆し、原爆症のため闘病の末死んでいった佐々木禎子さんと、その死後「原爆の子の像」建立のため活動した級友達の姿を感動的に描く。

916
と
〈広〉
〈長〉
小高～

あの日から生きて生きて

東京都原爆被害者団体協議会 編
汐文社 1986年 177P

あの日、広島・長崎で原爆を体験し、現在は東京に在住している人たちが、語り尽くせないほどの生き地獄の中、どのような辛苦をなめてきたかを語り集めたもの。11人の血を吐くような体験と、現在どのような感慨を持っているかがつづられている。

916
な
〈広〉
小中～

圭子ちゃん —広島の子の話— / **けんいち** —本当の話—

小野 久仁子 話した人

中越 尚美 書いた人

土井 紀子 イラスト

マットリン 喜佐 [著]

平和の大切さを伝える日本語教材をつくる会
〔2020年〕 13P、15P

広島で被爆し、4歳で亡くなった「圭子ちゃん」の話は、おばから聞いた話を書き起こした。日本軍による真珠湾攻撃で家と母を失った「けんいち」の話は、ハワイ出身の著者が祖父の経験を基に描いた。これらを1冊にまとめた日本語学習用教材。

916
な
〈広〉
小中～

平和の木

(童心社・小学生ブックス)

長崎 源之助 著

二俣 英五郎 画

童心社 1990年 102P

原爆で傷つき枯れかけたエノキとエノキを守ろうとする子どもたちの姿を描いた絵本『ひろしまのエノキ』。この絵本を作るための取材で著者が出会った人たちの話と著者自身のエノキに寄せる思いを語る。平和について考えるエッセイ集。

916
な
〈長〉
中学～

太陽が消えたあの日 ―被爆を語る― (若い人の図書館)

長崎放送報道部 編
童心社 1972年 221 P

長崎放送のラジオ番組「被爆を語る」
として放送されたものの中から、5人
の話を選び文章におこしたもの。若い
女性、母、教師、徴用工員、女学生と
それぞれ違う立場で原爆を受けた市民
が語る原爆体験記集。

916
な
〈広〉
中学～

はだしのゲンはピカドンを忘れない (岩波ブックレット 7)

中沢 啓治 著
岩波書店 1982年 55 P

『はだしのゲン』で知られる著者は、
広島に投下された原爆のため一瞬にし
て父と姉弟を失い、さらに原爆症で母
と妹を亡くした。その悲しみの底から
漫画家になるまでの苦難の道や、平和
への願いをつづる。

916
な
〈広〉
中学～

はだしのゲンはヒロシマを忘れない (岩波ブックレット No.735)

中沢 啓治 著
岩波書店 2008年 53 P

6歳の時に広島で原爆にあい、その体
験を題材にした漫画を描いてきた著
者。著作『はだしのゲン』が生まれた
経緯や、被爆体験を描くことのつらさ
や難しさ、世界の被爆地を訪れ目にし
た核の被害などをつづり、原爆の実態
を伝え続けていく大切さを訴えている。

916
な
〈広〉
小高～

14歳の生涯 ―体験記集― (原爆児童文学集 30)

中本 昭 (ほか) 作
浜田 桂子 絵
汐文社 1986年 121 P

広島市の中学生の寛治は、学徒動員先
で原爆にあい、家に帰れないまま14歳
で死んだ。表題作「14歳の生涯」ほ
か、悲惨な原爆を体験し生き残った
者、家族を失った者の体験記を3編収
録。原爆が与えた心の傷の深さが胸を
打つ。

916
な
〈広〉
小中～

あの日を、ぼくは忘れない ―ヒロシマ原爆の絵日記―

名柄 堯 絵と文
早坂 暁 編
勉誠出版 2008年 53 P

己斐国民学校の校庭で被爆し全身にや
けどを負った著者が、広島の町で見た
ものは……。原爆投下時、小学6年生
だった著者が当時の様子を絵日記で伝
える。淡々とつづられる文章と素朴で
力強い絵から、平和を願う痛切な思い
が伝わる。母の手記も掲載。英文併記。

916
な
〈広〉
小中～

ぼく生きたかった

名越 謙蔵 文
名越 操 文
矢野 洋子 絵
労働教育センター 1982年 59P

「いつなおるの？」と言い続けて、白血病で死んでいった7歳の史樹くん。被爆二世ではあるが元気に生まれてきた彼が、発病し短い生涯を終えた。本書は、彼を見守った両親の痛恨の記録。

916
な
〈広〉
小高～

折り鶴の子どもたち —原爆症とたたかった佐々木禎子と級友たち— (PHPこころのノンフィクション 27)

那須 正幹 作
高田 三郎 絵
PHP研究所 1984年 302P

被爆後10年を経て、突然原爆症に倒れた佐々木禎子の死に至る軌跡を描いた1部と、禎子の死後「原爆の子の像」建立までを禎子の級友たちを中心に描いた2部からなる。子どもの目を通して原爆の問題を問いかける。

英語版： ⁹¹⁶_N 『CHILDREN OF THE PAPER CRANE
—The Story of Sadako Sasaki and Her Struggle with the A-Bomb Disease—』
Masamoto Nasu 著
Elizabeth W. Baldwin (ほか) 訳
M. E. Sharpe 1991年 221P

916
な
〈広〉
小中～

こんな学校があるよ —みんなが先生— (ポプラ社いきいきノンフィクション 20)

名取 弘文 著
ポプラ社 1997年 198P

学校の先生以外の人を先生に迎えて、教室の内外で勉強した2年1組の子どもたち。本書は、その1年間を月ごとにまとめたもの。10月の項で、生徒のおばあちゃんが、広島での被爆体験を語った時のことを収める。併せて、話を聞いた子どもたちの感想も紹介。

916
に
〈広〉
小中～

あやちゃんのひばくたいけん —あやちゃんの涙を忘れないで—

西 純子 著
Sean Perez 訳
鎌倉 麻衣 絵
竹林館 2019年 17P

広島に原爆が投下された瞬間、3歳のあやちゃんは崩れた家の下敷きになり、外出していた母はひどいやけどを負った。家族7人はなんとか再会し、田舎へ避難することに。被爆二世の著者が、母の体験を基に、被爆直後から戦後までの家族の様子を伝える。英文併記。

916
に
〈広〉
小高～

明子さんのピアノとパルチコフさんのヴァイオリン

西村 文 著
廣谷 明人 著
二口 とみゑ 著
ガリバープロダクツ 2023年 207P

幼い頃アメリカから日本へ移り住んだ明子さんと、ロシアから日本へ亡命したパルチコフさん。現存する被爆楽器の持ち主であった二人は、かつて広島で出会っていた。遺された日記や遺族の証言を織り込みながら、それぞれの生涯をつづり、平和の大切さを伝える。

916
に
〈広〉
中学～

原爆体験記

西村 利信 著
小野英子・岡崎弥保 2018年 20P

中学2年生だった著者は、勤労奉仕中に突然強い閃光とごう音に襲われる。級友たちの悲惨な姿や、周囲の惨状に打ちのめされながら、必死に家を目指した。だが帰らない父と弟を探すため、再び市中に戻る。爆心地の地獄のような状況を、詳細な記述でつづった手記。

916
に
〈長〉
小中～

あの日のこと ―ぼくの消えない記憶・1945.8.9―

西山 進 文・絵
クリエイティブ21 2005年 116P

17歳の時、長崎の造船所で被爆し、現在は漫画家となった著者。彼が体験したことなどを、豊富な挿絵と共に分かりやすく書いた本。戦争をなくすために、被爆者の体験を語り伝えることの大切さを訴えている。

916
に
〈広〉
〈長〉
中学～

あの日… ―『ヒロシマ・ナガサキ死と生の証言』より―

日本原水爆被害者団体協議会 編
新日本出版社 1995年 190P

1985年に行われた調査を基に出版された『原爆被害者調査ヒロシマ・ナガサキ死と生の証言』を、被爆50年を機に再編集したもの。拭い得ぬ悲惨な体験の記憶、原爆症の苦しみなど、被爆者の証言を、広島と長崎に分けて収録し、被爆の実相を浮き彫りにする。

916
に
〈広〉
〈長〉
中学～

神の子たち

(語りつぐ戦争体験 5)
日本児童文学者協会 編
日本子どもを守る会 編
草土文化 1979年 190P

15年戦争の体験記集。16の手記のうち、原爆投下直後の長崎を語る「原爆の長崎へ」と、広島で原爆を体験し、後に平和運動を続けた亡父を語る「ハマユウの花」の2編が収められている。

916
に
〈広〉
〈長〉
中学～

原爆予告をきいた

(続・語りつぐ戦争体験 1)

日本児童文学者協会 編
日本子どもを守る会 編
草土文化 1983年 177P

一般の人の手記で構成された戦争体験記集。「戦記」「原爆」「戦時下の生活」の3部からなり、「原爆」の項には「原爆予告をきいた」など、広島・長崎の原爆についてつづった5編の手記が収められている。

916
に
〈広〉
中学～

こつつぽ 骨壺

(語りつぐ戦争体験 3)

日本児童文学者協会 編
日本子どもを守る会 編
草土文化 1979年 190P

15年戦争体験記集。5章構成のうち1章を原爆体験手記にあて、被爆死した子を語る「由郎のお弁当箱」ほか「お人形トコちゃん」「かあさんがんぼる」の3編を収める。「お人形……」は後、『太陽の落ちた日』に収録。

916
に
〈広〉
中学～

碑めぐり研修録

—平成14年度修学旅行

広島班別自主研修—

日本大学第二中学校 〔編〕
日本大学第二学園日本大学第二中学校第3学年
2003年 256P

日本大学第二中学校が平成14年6月4日～5日にかけて実施した修学旅行の研修録。広島で「碑めぐり」をするための事前学習資料や『ひろしま 碑・遺跡・平和あんない』の地図を基にした「碑めぐり」研修の報告、生徒の感想文などをまとめている。

916
の
〈広〉
小高～

わたしが子どものころ戦争があった

—児童文学者が語る現代史—

野上 暁 編
神沢 利子 (ほか) 著
理論社 2015年 255P

太平洋戦争前後に、子ども時代を過ごした8名の児童文学者が、戦争の影響を受けた当時の暮らしを語る。「広島に生まれて」(那須正幹著)では、3歳の時に被爆した著者が、原爆投下以後の記憶や、原爆関連本の執筆のきっかけなどを伝える。巻末に関連年表あり。

916
は
〈広〉
中学～

少女・十四歳の原爆体験記

(NPO「ピースデポ」の本)

橋爪 文 著
高文研 2001年 226P

〔新版 —ヒロシマからフクシマへ—
2011年 234P〕

当時14歳だった著者の、広島での壮絶な被爆体験とその後の記録。自分や家族、身近な人の長年にわたる苦しみを、一つ一つ具体的につづる。被爆50周年を機に、次世代に“あの日”を語り継ぐために書かれた。新版には、「私のその後」と福島原発事故への思いを追加。

916
は
〈広〉
小中～

原爆ドームの祈り

長谷川 敬 文
山本 東陽 写真
講談社 1995年 131 P

わたし「原爆ドーム」は、大正4年に生まれました。広島でいちばん背の高いわたしは、広島の人たちのじまんでした。ところが、昭和20年8月6日、わたしのすぐ上で、一つの爆弾が炸裂して……。原爆ドームの歴史を振り返り、平和とは何かを訴えかける。

916
は
〈長〉
小高～

ナガサキの空

畑島 喜久生 著
えさき みつたか 絵
らくだ出版 1986年 107 P

15歳の時に、長崎で被爆した著者が、原爆投下後40年たった今、当時の悲惨な体験と、戦争とは何だったのかをつづったもの。原爆が落とされた後の避難所の様子や、傷を負った人たちの生々しい様子が、克明に語られている。

916
は
〈広〉
中学～

オマールさんを訪ねる旅 —広島にいたマレーシアの王子様—

早川 幸生 編
かもがわ出版 1994年 177 P

マレーシアから来日し、広島で原爆にあい、京都で亡くなったオマールさん。修学院小学校の生徒たちは、オマールさんを知る人に手紙を出したり、広島への修学旅行の調べ学習を始める。オマールさんを通じて平和について考え、取り組む生徒たちの姿を描く。

916
ひ
〈広〉
中学～

平和を祈る人たちへ —広島女学院同窓会被爆60周年証言集—

被爆60周年記念証言集編集委員会 編
広島女学院同窓会 2005年 463 P

被爆60周年を機に編集された、広島女学院同窓生の体験記。爆心地から1.1 kmという至近距離で被爆した生徒たちの証言には、亡くなった同級生を悼み、平和を願う思いが込められている。絵本作家・森本順子氏や詩人・井野口慧子氏も卒業生として寄稿している。

916
ひ
〈広〉
小中～

ヒロシマにいた友だち

檜山 純子 文
アイナ・ヒヤマ・ザズリ 絵
平和の大切さを伝える日本語教材をつくる会
2021年 12 P

日本軍に占領されたマラヤから留学していたラザクさん、ユソフさん、オマールさん。広島で被爆し、ラザクさんを除く二人は亡くなった。日本には二人のお墓があり、ラザクさんは故国で原爆について語り続けた。南方特別留学生を描いた、日本語学習用教材。

916
ひ
1～5
〈広〉
中学～

遺言「ノー・モア・ヒロシマ」 第1集～第5集

—未来のために残したい記憶—

ヒロシマ青空の会 編

ヒロシマ青空の会

2004年・2005年・2006年・2007年・2008年

160 P・176 P・128 P・125 P・169 P

被爆者の高齢化により埋もれていく被爆体験を後世に伝えようと、被爆者の話を聞き取り、まとめたもの。生々しい被爆者の体験談とともに、原爆投下時のB29エノラ・ゲイの乗組員のやりとりや、投下後の状況なども解説されている。

916
ひ
〈広〉
小高～

紙碑 —被爆者のあかし—

広島原爆被爆者援護事業団 編

広島原爆被爆者援護事業団 2019年 59 P

広島原爆養護ホームの入園者による被爆体験記『紙碑』の第1集～第7集から抜粋し、一冊にまとめ刊行。爆心地から1 km以内で被爆した19名の体験をつづる。被爆の際の悲惨な状況、家族を失った悲しみ、健康への不安、そして平和への切なる願いが語られる。

916
ひ
〈広〉
中学～

ああ麗しき太田川 —広島県立広島工業学校原爆追悼集—

広島県立広島工業高等学校同窓会 編

広島県立広島工業高等学校創立100周年記念

事業実行委員会 1997年 153 P

広島県立広島工業高等学校100周年事業の一環として出版された原爆追悼集。亡くなった生徒の遺族や卒業生たちの被爆体験が、聞き書きと手記でまとめられている。当時の広島の惨状と生き残った人々の悲しみや苦しみを伝えるとともに、平和の大切さを訴えている。

916
ひ
〈広〉
中学～

広島ろう学校被爆と疎開の記録

広島県立広島ろう学校平和教育資料編纂委員会 〔編〕

広島県立広島ろう学校 1996年 122 P

県立広島ろう学校の被爆と再建の記録をまとめたもの。学童疎開の状況や、学校の教育方針が戦前・戦中・戦後と移り変わっていく状況などを記す。また、被爆直後の被害状況や校舎の復旧の様子が、当時の先生・生徒たちの手記・聞きとりにより再現されている。

916
ひ
〈広〉
中学～

夏雲 —広島女学院原爆被災誌—

広島女学院教職員組合平和教育委員会 編

広島女学院教職員組合 2001年 202 P

広島女学院の原爆被爆体験を教材化しようと編まれたものの改訂第9版。15年戦争のあらましから戦時下の女学院の受難、原爆被災状況のほか、当時の生徒・父母・教職員の手記を収録。また、平和運動のあゆみにも触れ、戦争の恐ろしさと平和の尊さを伝える。

916
ひ
〈広〉
中学～

証 ―失われた命を語り継いで 被爆60周年慰霊の記―

広島市立高等女学校・
広島市立舟入高等学校同窓会 〔編〕
広島市立高等女学校・
広島市立舟入高等学校同窓会
2005年 55 P
〔証 ―被爆70周年慰霊の記― 2015年 107 P〕

被爆60周年を機に広島市立高等女学校
(現在の舟入高等学校) 同窓会が発刊
した記念誌。戦中の学校生活をまとめ
た年表や、毎年行われてきた慰霊の歴
史、同窓生たちの原爆への思いをつ
づった手記などを収録。犠牲者の冥福
を祈るとともに世界平和を強く訴える。

916
ひ
〈広〉
小高～

いしぶみ

(人類の記録シリーズ 3)

広島テレビ放送 編
ポプラ社 1970年 213 P
〔(ポプラ社文庫 A133) 1983年 214 P
改訂新版 ―広島二中一年生全滅の記録― 2005年 191 P
(ポプラポケット文庫 805-1) 2009年 199 P
新装版 2015年 183 P〕

旧制広島第二中学校 1 年生322名は、
学徒動員先で被爆し、全員が死亡した。
生徒達はそれぞれどのようにして死に
至ったのか。これは、生き残った両親
等の話を基につづられた全滅の記録で
ある。2005年に名簿訂正等を行った改
訂版を刊行。

英語版： ⁹¹⁶_H 『ISHIBUMI

—A memorial to the Atomic Annihilation of 321 Students of Hiroshima Second Middle School—』

Hiroshima Television Corporation 編
Yasuko Claremont 訳
Roman Rosenbaum 訳
POPLAR Publishing 2016年 238 P

916
ひ
〈広〉
中学～

原爆被爆者は訴える ―被爆証言集―

(平和冊子 No.6)

広島平和文化センター 編
広島平和文化センター 1988年 105 P

修学旅行生たちに、自らの被爆体験を
語っている11人の被爆者の体験談を収
録した証言集。併せて、被爆の全体像
と外国人被爆者についての解説も収め
られている。

英語版： ⁹¹⁶_H 『Appeals From The A-bomb Survivors ―Eyewitness Testimonies―』

Hiroshima Peace Culture Foundation 編
Hiroshima Peace Culture Foundation
1990年 103 P

916
ふ
〈広〉
小中～

チロの星まつり —イヌの天文台長—
(ポプラ・ノンフィクション 35)
藤井 旭 著
ポプラ社 1988年 206P

天文台長犬チロと星仲間たちは、NHKのディレクター島津さんと、青白い閃光をきらめかせる停止流星を見た。この光は島津さんに、子どもの頃、大島から見た閃光を思い出させた。広島原爆の光線を星の美しさと比べ、2度とあってはならない輝きだと訴える。

916
ふ
〈広〉
小高～

緑のドクター —老木の治療に生涯をささげる樹医・山野忠彦—
(くもんのノンフィクション・愛のシリーズ 17)
藤崎 康夫 作
根岸 佐千子 写真
くもん出版 1988年 157P

広島市の太田川沿いに、子どもたちが守り続けている被爆エノキがある。その木が2度の台風で倒れてしまった。再び新しい芽を出させるために、樹医の山野忠彦さんに治療してもらう。子どもたちと山野さんの、平和を願う心が、被爆エノキを通して描かれる。

916
へ
〈広〉
小中～

シュモーハウス —一人ひとりができること—
平和の大切さを伝える日本語教材をつくる会 文
山田 夢乃 絵
平和の大切さを伝える日本語教材をつくる会
2019年 16P

広島原爆投下に心を痛めた米国人シュモーさんは、被爆者のために家を建てようと米国で募金活動を始める。自らも広島で建設に携わり、20軒の家とコミュニティ・ハウスを建てた。彼の活動をやさしい日本語で書いた読み物で、日本語学習のための多読用教材。

916
も
〈広〉
小中～

世界じゅうに、愛の手を
(ほんとうにあった美しい話 2)
望月 正子 (ほか) 著
小松 修 (ほか) 画
講談社 1984年 187P

さまざまな愛の話、12編を集めたもの。「ヒロシマから世界へ第一報」(砂田弘著)では、原爆投下後の広島の姿を初めて世界に知らせた、アメリカの雑誌記者ハーシーの話を紹介する。

916
も
〈広〉
小高～

自由と平和
森本 マリア 作・絵
ナンシー・H・ロス 訳
吉備人出版 2023年 55P

1941年4月、花ちゃんは東京の女学校に入学する。だが戦争が始まると、食糧は不足し、千人針縫いや竹やり訓練の日々となった。東京が爆撃機で破壊され広島に戻るが、原爆で一瞬にしてがれきの街に。終戦翌日までの忘れがたい記憶を簡潔に書き残す。英文併記。

916
も
〈広〉
小中～

春ちゃん

森本 マリア 作
ナンシー・H・ロス 訳
彩瀬 ひよ子 絵
吉備人出版 2019年 45P

国民学校へ通う春ちゃんは、疎開先から広島市内の家へ着替えを取りに戻っていたとき原爆にあう。一命は取り留めたが、春ちゃんの体は放射能によってむしばまれていく。幼なじみの著者が記憶の中の春ちゃんの思い出を易しい文章と切り絵で表現、英文も併記。

916
も
〈広〉
小中～

ゆきちゃんが見たピカドン

森本 マリア 作
ナンシー・H・ロス 翻訳
彩瀬 ひよ子 切り絵
吉備人出版 2015年 45P

広島の北、三入村で暮らすゆきちゃんは、8月6日の朝、空が光るのを見た。広島町に爆弾が落ちたのだ。村人は、町から来たけが人たちを交代で看護し、亡くなると河原で焼却した。終戦前後の村の様子を、当時小学生だった著者が、飾らない言葉でつづる。英文併記。

916
や
〈広〉
小高～

海をわたる被爆ピアノ

(世の中への扉)

矢川 光則 著
講談社 2010年 143P

広島で調律師をしている著者は、あるピアノに出会い、人生が変わった。原爆で傷ついた「被爆ピアノ」の修理・演奏を続け、その活動を通じて、多くの人々に原爆の悲惨さや平和の大切さを伝えている。著者の前向きで、情熱あふれる生き方を描く。

916
や
〈広〉
中学～

かあさんと呼べた ―原爆の子らと歩いた11年の記録―

山口 勇子 〔編〕
草土文化 1964年 224P
〔かあさんと呼べた日 山口 勇子 著〕
〔1978年 253P〕

1953年に発会した“広島子どもを守る会”は、原爆孤児に精神親を紹介し、物質的・精神的援助を与える活動をした。会に関わった著者が子どもたちの成長、精神親との交流をつづり、原爆の傷跡を明らかにする。

916
や
〈広〉
小高～

原爆の火の長い旅

山口 勇子 著
新日本出版社 1991年 150P

福岡県星野村で、今も燃え続けている原爆の火。それは、おじさんを探しに被爆直後の広島に入った山木さんが、持ち帰ったものだった。その火が、上野東照宮の境内へ、さらに、ニュージーランドへと平和の誓いを込めて分火されることになった経緯をつづる。

916
や
〈広〉
小高～

ひろしま ―九歳の時の父捜しと被爆体験―

山田 達磨 著
D-create 2015年 158P

広島市内中心部から十数キロ離れた村へ疎開していた著者は、原爆投下の数日後、父を捜しに、母と二人で市内へ入り、2日間にわたって惨状を目の当たりにした。同じ惨劇が2度と起きないように、自らの体験を伝える。反核の歌「原爆を許すまじ」の楽譜も掲載。

916
や
〈広〉
〈長〉
中学～

焼け跡に風が吹く

(福音館日曜日文庫)
山福 康政 著
福音館書店 1995年 362P

広島生まれ九州育ちの著者が、終戦前後の少年時代の思い出をつづったもの。長崎に投下された原爆を搭載したB29の爆音を聞いたこと。原爆による叔母の死や、働きに行った広島で垣間見た被爆後の惨状などについて述べられている。

916
や
〈長〉
小高～

ナガサキに翔ぶ ―ふりそでの少女像をつくった中学生たち―

山脇 あさ子 著
新日本出版社 1996年 188P

京都府綾部市の中学生が、市内に住む原爆で娘を失ったおばあさんとの交流をきっかけに、「ふりそでの少女像」の建立を計画した。本書は、その翌年、彼らが長崎の新原爆資料館の屋上庭園に像を完成させるまでの、約1年にわたる活動の記録。

916
よ
〈広〉
小高～

平和の芽 ―語りつぐ原爆・沼田鈴子ものがたり―

横山 秀夫 著
講談社 1995年 239P

通信局で働いていた鈴子は、被爆したときのけががもとで片足を失う。婚約者も戦死し、死を考えた鈴子だったが、通信局の運動場で被爆したアオギリが芽吹いているのを見て……。今は平和公園に移植されたアオギリと、被爆体験を語り続ける沼田鈴子さんの物語。

916
よ
〈長〉
小中～

ナガサキの命 ―伝えたい、原爆のこと―

(角川つばさ文庫 Dよ1-2)
吉永 小百合 編
男鹿 和雄 カバー絵・挿絵
YUME 挿絵
KADOKAWA 2015年 155P

茅乃の父親は、長崎で被爆しながら、医師として負傷者の治療に当たり、病に倒れる。永井博士の娘である茅乃が3歳からの体験を記した『娘よ、ここが長崎です』を再構成した第一部。手記2編、原爆詩6編を第二部として収録。平和への祈りを伝え続ける。

916
よ
〈広〉
小高～

ぼくは満員電車で原爆を浴びた —11歳の少年が生きぬいたヒロシマ—

米澤 鐵志 語り
由井 りょう子 文
小学館 2013年 125P

1945年8月6日、母親と共に広島市を訪れた11歳の「ぼく」は、爆心地から750メートル離れた路面電車の中で被爆する。悲惨な光景を目にしながらも、何とか二人で疎開先に戻るが……。50年以上にわたってヒロシマの語り部を続ける男性の被爆体験を伝える。

916
よ
6
〈広〉
小高～

読む知る話すほんとうにあったお話 6年生

講談社 2013年 159P

8月6日の朝、中学1年生の滋は、母から渡された弁当を持ち、建物疎開の作業場に来ていた。その時、強烈な光に包み込まれ——。広島平和記念資料館の展示品の“弁当箱”や“さんりんしゃ”の持ち主が被爆した時の話、「ヒロシマの記憶」。全12編の中の1編。

916
わ
〈長〉
小高～

長崎を忘れない

渡辺 千恵子 作
東本 つね 絵
草土文化 1980年 61P

長崎に落とされた原爆のため、16歳で下半身不随になった著者の体験記。被爆当時の様子、その後の不自由な生活、そして、原水爆禁止運動に関わりながら平和を訴え続ける半生を語る。

916
D
〈広〉
中学～

The Complete Story of Sadako Sasaki and the Thousand Paper Cranes

Sue Dickey 著
Masahiro Sasaki 著
ARMED WITH THE ARTS 2018年 143P
〔TUTTLE PUBLISHING 2020年 143P〕

2歳で被爆した佐々木禎子は、戦後の貧しさの中でも元気に学校に通う、運動の得意な女の子だった。だが6年生になった頃、白血病を発症。「原爆の子の像」のモデルとなった少女の実話を、禎子の実兄とアメリカの作家が協力して執筆。易しい英語で世界に伝える。

918
か
〈広〉
小高～

原爆の子の像 —六年竹組の仲間たち—

川野 登美子 著
文化評論 2013年 99P

2歳の時に被爆した佐々木禎子さんは運動が得意で活発な少女だった。しかし12歳で白血病を発症し入院する。当時の広島市立幟町小学校六年竹組の同級生たちが、禎子さんの思い出と「原爆の子の像」建立までの活動をつづり、平和の大切さと命の尊さを伝える。

918
な
21
〈広〉
〈長〉
中学～

「戦争と平和」子ども文学館 別巻

—解説・戦争児童文学を読む—

長崎 源之助 編
今西 祐行 編
岩崎 京子 編
長谷川 潮 著
日本図書センター 1995年 124P

全20巻からなる戦争児童文学集の別巻。本書は、この文学集の意義と内容、戦争児童文学について解説したもの。第2章「全巻の内容と作品・作家について」の項で、原爆児童文学10作品を収めた16巻から18巻に触れ、作品名と共に、その内容や作家について記述する。

986
お
〈広〉
中学～

アイオイ橋の人影

フセヴォロト・オフチニコフ [著]
北畑 静子 訳
富山房 1974年 157P

旧ソ連の新聞記者である著者が、豊富な写真や資料、取材を基に、原爆は、いかにして広島と長崎に落とされたかを述べた書。原爆の開発から投下までの経緯、広島への傷跡、第五福竜丸、平和運動化、原爆を包括的に描き、ヒロシマの意味を問う。



5. 詩歌

27点

908
か
9
〈広〉
〈長〉
小高～

戦争と人間

(あなたにおくる世界の名詩 9)

川崎 洋 編

梅田 俊作 絵

岩崎書店 1997年 105P

世界各地の詩をテーマ別に選んで収録したシリーズの第9巻。「戦争と人間」をテーマにしたこの巻では、広島・長崎の原爆の悲惨さを伝える詩6編を含む29編の詩を収録している。巻末に、収められた詩の作者紹介と出典などを掲載。

908
た
5
〈広〉
〈長〉
小高～

ヒロシマの空 ー原爆 Iー

(立原えりか詩のアルバム 5)

立原 えりか 編

牧野 鈴子 絵

太平出版社 1984年 82P

表題作「ヒロシマの空」ほか、12の詩文と2首の短歌が収められている。12人の作者のほとんどが、直接、原爆の悲惨さを体験しており、その作品は、強く原爆のむごさを訴えかける。

908
た
6
〈広〉
〈長〉
小高～

いのり ー原爆 IIー

(立原えりか詩のアルバム 6)

立原 えりか 編

島田 勝吾 絵

太平出版社 1985年 82P

表題作「いのり」ほか、14の詩が収められている。広島・長崎の原爆に関連した詩のほかに、核実験を扱った詩も収められ、原爆の悲惨さを伝えるとともに、平和を祈り、平和を推進しようと訴える。

911
い
〈広〉
小高～

挨拶 ー原爆の写真によせて ー石垣りん詩集ー

(豊かなことば 現代日本の詩⑤)

石垣 りん 著

伊藤 英治 編

岩崎書店 2009年 94P

女性ならではの目線で日常にはせる思いや、死生観、人生への回顧をつづった詩集。この中に、「あ、この焼きただれた顔は 一九四五年八月六日 その時広島にいた人 二五万の焼きただれのひとつ……」(挨拶)など、原爆や戦争に寄せた詩も掲載されている。

911
え
〈広〉
小高～

水辺の祈り ―構成詩―ヒロシマから― (ジュニア・ライブラリー)

えの ゆずる 作
向井 康子 絵
大日本図書 1989年 107P

広島で被爆した著者が、自らの体験を基に、原爆投下から40数年を経た今日までをストーリー的に構成した詩集。8月6日の惨状、そして原爆後遺症がいつ出るか分からない不安。これらを通して、核兵器廃絶、世界平和への強い思いを訴える。

911
え
10
〈広〉
小高～

日本の詩 10 ―せんそう・へいわ―

遠藤 豊吉 編・著
小峰書店 1978年 63P
〔新版 2016年〕

近現代の日本の詩をテーマごとに分類したアンソロジー。当巻では、戦争や平和を題材にした15編の詩を収録。広島^{じよ}の原爆の悲惨さをうたった「仮^{かり}繙^{ほう}帯^{たい}所^{じよ}にて」(峠三吉)、「水ヲ下サイ」(原民喜)なども掲載。全ての詩に編者の言葉を添える。1978年刊の新版。

911
お
〈広〉
小高～

少年のひろしま

大平 数子 作
竹本 三郎 画
草土文化 1981年 82P

「慟哭」「少年」の2部構成からなる詩集。原爆のため幼くして肉親と別れ、帰る家や学校までもなくした少年たちが懸命に生きる姿や、我が子を亡くした母親の気持ちが切々とつづられている。

911
か
〈広〉
〈長〉
小中～

愛する人へ ―詩集― (子ども世界の本)

門倉 詠 著
岩崎 保夫 え
けやき書房 1987年 158P

戦争に憤り、いま戦争を考えようとする詩を中心に編まれた詩集。その中で小詩集「夏」と「ヒロシマ・いのちの証言」では、戦後、広島・長崎の地に立った著者が、戦争への激しい怒りを内に秘めつつ、平和への強い思いをうたう。

911
き
〈広〉
中学～

いま中学生とよみたい101の詩

木坂 涼 編
水内 喜久雄 編
民衆社 1999年 205P

島崎藤村から現代までの、101人の作品を収めたアンソロジー。“生きる、ということを考えてほしい”など4つの視点から編まれており、子どもたちに近い年代の作者から順に紹介している。その中で、原民喜の「水ヲ下サイ」を掲載。原爆の悲惨さを訴えている。

911
さ
〈広〉
小中～

子どもと心を見つめる詩 —詩の読み方・味わい方—

西郷 竹彦 編・著
黎明書店 1996年 175 P

詩のおもしろさや味わいを楽しめる作品を、形式別に123編収録した詩集。この中に、「にんげんをかえせ」（峠三吉）、「コレガ人間ナノデス」「水ヲ下サイ」（原民喜）も掲載。欄外に作品の背景である原爆や作者の平和を訴える心について解説が掲載されている。

911
し
〈広〉
〈長〉
小中～

母よ誰が —詩で語る戦争と平和— (現代・創作児童文学)

渋谷 清視 編
吉田 定一 編
かみや しん 画
金の星社 1985年 154 P

戦争と平和をテーマにした38編の詩を収録。第2章「一九四五年八月のあの時…」は、原爆の悲惨さを訴える8編の詩から構成されている。その他の章にも、原爆の傷跡を描いた詩、反核の詩が含まれている。

911
し
12
〈広〉
小高～

小学生・詩のくにへ 12 —地球をまもろうよ— —せんそうとへいわ—

新川 和江 編
安藤 ひろみ 絵
太平出版社 1988年 66 P

原爆投下直後の悲惨な状況、家族を失った者の怒り、嘆き、悲しみを歌った詩や、平和を訴える詩など、原爆に関連した詩19編を収める。小学生に向けて、戦争の恐ろしさ、平和の大切さを訴えるために編まれた詩集。

911
と
〈広〉
中学～

原子雲の下より —詩集— (青木文庫 黄38)

峠 三吉 編
山代 巴 編
青木書店 1970年 220 P

被爆した広島の子どもたちの原爆への率直な叫び、悲劇の中から立ち上がった市民の平和への願いがつづられた詩集。『原子雲の下より』（原爆の詩編纂委員会編 1952年刊）の再版。

911
と
〈広〉
中学～

原爆詩集 —にんげんをかえせ— —新装・愛蔵版—

峠 三吉 著
合同出版 1995年 146 P

1952年に出版された『原爆詩集』を底本とした新装・愛蔵版。この詩集には、自らも被爆者として苦しんだ著者の原爆への怒りと、平和への願いが込められている。ルビは、生前の著者の朗読にしたがって付けられたもの。語句の説明も詳しく分かりやすい。

911
と
〈広〉
中学～

詩集 にんげんをかえせ

峠 三吉 著
増岡 敏和 編
新日本出版社 1995年 206 P

峠三吉の全詩集の中から44篇を収録。
「ちちをかえせ／ははをかえせ……」
ではじまる『原爆詩集』を第1部、戦
前から敗戦直後までの作品を第2部、
戦後の作品（「絵本」を除く）を第3
部に分けて編集。巻末には、編者によ
る作品・作者についての解説を掲載。

911
な
〈広〉
〈長〉
中学～

夏の雲は忘れない ―ヒロシマ・ナガサキ一九四五年―

夏の会 編
大月書店 2020年 141 P

2008年から12年間続いた原爆朗読劇
「夏の雲は忘れない」で上演された内
容をまとめた本。原爆で家族を失った
子どもたちの作文、子どもを亡くした
母親の手記、亡くなった子どもたちの
最期の言葉、峠三吉ら詩人たちの原爆
詩などを写真や絵と共に掲載する。

911
に
34
〈広〉
小中～

日本の子どもの詩 34 ―広島―

日本作文の会 編
岩崎書店 1984年 109 P

日本の子どもの詩を年代順に並べた
『日本子どもの詩』の広島編。そのう
ち〈1945～1959〉の作品には、原爆が
落とされた時の惨状、その後の苦しみ
の日々、平和への願いが強く表れてい
る。

911
は
〈広〉
中学～

詩のわかる本 中学3年 (中学校教科書にでてくる詩の本)

畑島 喜久生 編
国土社 1997年 159 P

教科書にでてくる詩を中心に、7つの
テーマに分けて解説。第4章では「平
和はどんなに願っても願いすぎること
はない」と題し、峠三吉の「仮絆帯所
にて」、原民喜の「原爆小景より」な
どを収録。自身も被爆者である編者の
平和への願いが込められている。

911
ひ
〈広〉
小高～

原子雲の下より ―新編8・6少年少女詩集―

被爆実態調査会 編
亜紀書房 1989年 289 P

1945年8月6日、広島に投下された原
子爆弾を、自ら体験した子どもたちに
よって書かれた詩、196編を収めた詩
集。1952年に出版された『原子雲の下
より』に載せられた作品65編も再録。
原子雲の下をさまよった子どもたちの
悲しみのメッセージ。

911
ふ
〈広〉
小中～**ひろしまの子** —愛のうた—深川 宗俊 詩
四国 五郎 絵
春陽社出版 1975年 20P

被爆後十数年して広島 of 川の砂の中から見つかった小さな人間の骨をうたった「小さな骨」、被爆した少女が母になるまでをうたった「ひろしまの子」の2編からなる詩画集。

911
ま
〈広〉
小高～**あおい空に**
(ちひろからあなたへ)松永 伍一 編
いわさき ちひろ 画
童心社 1996年 62P

平和への願いを込めた峠三吉の「原爆詩集 序」のほか、ドイツ、ベトナムなど各国の詩人が、それぞれの命への思いをうたった詩、26編を収めた詩集。日常の幸せな光景や戦争による突然の悲しみをうたうことによって、世界平和と命の尊さを訴える。

911
み
〈広〉
〈長〉
小中～**教室でよみたい詩12か月 小学校3・4年**水内 喜久雄 編著
民衆社 1995年 157P

小学校中学年向けに、1編の季節の詩と4編のテーマに沿った詩を月ごとに紹介。8月のテーマ「平和を考える」では、いのちを考え、戦争についても見つめてほしいという編者の思いをこめて、「にんげんをかえせ」(峠三吉作)などの詩を収める。

911
み
〈広〉
小高～**教室でよみたい詩12か月 小学校5・6年**水内 喜久雄 編著
民衆社 1995年 158P

小学校高学年向けに、月ごとに、季節の詩を1編とテーマに沿った詩を4編ずつ紹介。8月の詩として、原爆の詩「助けてください」(えのゆずる作)を取り上げる。原爆の悲惨さを訴えかけ、戦争や平和のついて考えさせる構成となっている。

911
み
〈広〉
中学～**交響詩集ヒロシマ** —水野潤一詩集—水野 潤一 著
丸ノ内出版〔発売〕 1999年 292P

家族は広島市白島で被爆、自らも入市被爆した著者が、永年書きためてきた詩作品をまとめたもの。全編を通して亡母への思慕の念いと原爆への憎しみが込められている。なお、本書では朗読されることを念頭において全ての作品に振り仮名が付けられている。

911
よ
〈長〉
小高～

空になった少年 —詩を愛した被爆二世の祈り—
(イワサキ・ライブラリー 3)

シゲミ・ヨシダ 詩
長 新太 画
岩崎書店 1995年 93P

広島・長崎に落とされた原爆は、被爆者のみならず、その子孫の身体をもむしばんでいた。この本は、長崎の被爆二世・宮崎俊宏君の残した詩と闘病記を基に創作されたもの。原爆症のため15歳でこの世を去った少年の、心の叫びが聞こえてくる。

911
よ
〈広〉
〈長〉
中学～

第二楽章 —ヒロシマの風— —長崎から—

吉永 小百合 編
アーサー・ビナード (ほか) 英訳
男鹿 和雄 画
スタジオジブリ 2015年 89、37P

栗原貞子の「生ましめんかな」や原民喜の「永遠のみどり」、筒井茅乃の『娘よ、ここが長崎です』など、平和の大切さを語り継ぐ詩を中心に25編を収録。編者のライフワークである朗読活動の中で紹介してきた作品に、水彩で描かれた挿絵と英訳を添えた詩画集。

911
わ
〈広〉
小高～

菩提樹とさるすべりの花

わらび さぶろう 詩
藤田 健次 切り絵
らくだ出版 2003年 81P

原爆にあい、母の献身的な看護で命をとりとめたことから看護師になった葉子。一方、同級生の咲江は、動けなくなった兄を抱え、生きるために盗みを繰り返し——。原爆で人生を変えられた二人の女性の姿を通し、原爆の悲惨さや平和の尊さを訴える。

詩

歌



6. 原爆関係図書目録

2点

020
う
〈広〉
〈長〉
中学～

原爆手記掲載図書・雑誌総目録 —1945-1995—

宇吹 暁 編著
日外アソシエーツ 1999年 503 P

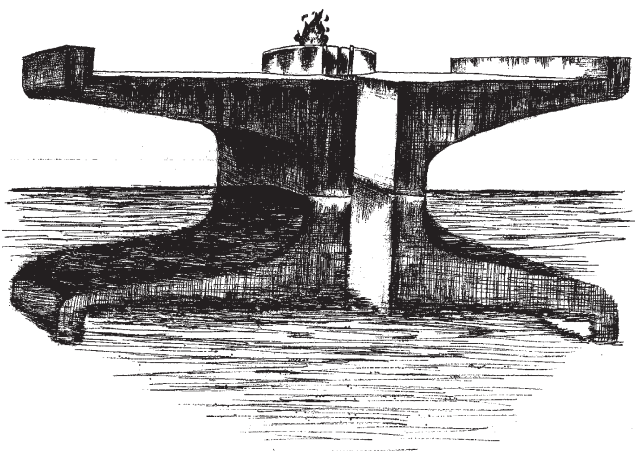
1945年8月から1995年末までに出版された、原爆手記を掲載している図書、雑誌、ミニコミ紙3677冊（3万8955編の手記）を、発行年月の古い順に収録した目録。解説として「戦後50年間における原爆手記の出版と普及」、巻末に書名索引、著者名索引を掲載。

310
ふ
〈広〉
〈長〉
中学～

原爆文献大事典 —1945（昭和20）年～2002（平成14）年—

文献情報研究所 編著
日本図書センター 2004年 608 P

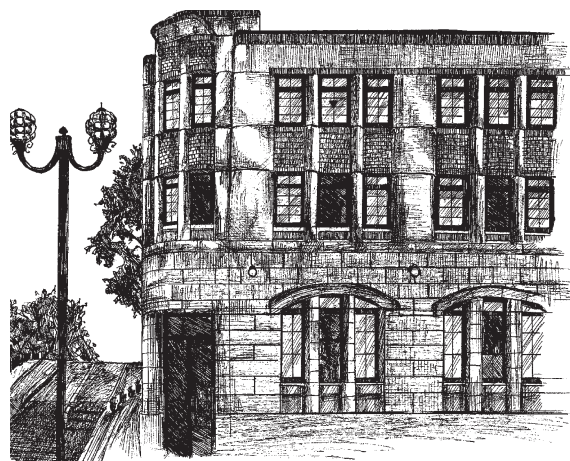
昭和20年から平成14年までに刊行された「原爆・原子力問題」に関するテーマを含む4000点余りの文献を収録した事典。書名や編著者名などの書誌事項のほか、主要な約3200点の文献には略目次を記載。刊行年ごとに配列されており、原爆資料を探す手がかりとなる。



対象別リスト

幼児から

内容	請求記号	書 名	著 者 名	出 版 者	出版年
紙 芝 居	P	おばあちゃんの人形	佛教大学社会福祉学部・黒岩ゼミ 制作	本の泉社	2013
	P	シュモーさんとヒロシマの家	シュモーさんの「ヒロシマの家」を語りつぐ会 作 山先 方江 絵	シュモーさんの「ヒロシマの家」を語りつぐ会	2013
	P	ちっちゃいこえ	アーサー・ビナード 脚本 丸木 俊 絵 丸木 位里 絵	童心社	2019
絵 本	い	ピカドンたけやぶ	はら みちを 作・絵	岩崎書店	1983
	か	とうろうながし	松谷 みよ子 文 丸木 俊 絵	偕成社	1985
	か	まちんと	松谷 みよ子 文 司 修 絵	偕成社	1978
	か	まちんと	松谷 みよ子 文 司 修 絵	偕成社	1983
	ち	ピカドン	小崎 侃 作・版画	汐文社	1991
	と	伸ちゃんのさんりんしゃ	児玉 辰春 作 おぼ まこと 絵	童心社	1992
	と	ひろしまのエノキ	長崎 源之助 作 二俣 英五郎 絵	童心社	1988
	と	ながさきアンジェラスのかね	中井 俊已 ぶん おむら まりこ え	ドン・ボスコ社	2017
	は	8月6日のこと	中川 ひろたか 文 長谷川 義史 絵	ハモニカブックス	2011
	ひ	アオギリのねがい	『被爆アオギリ二世』の絵本をつくる会 作・画	広島平和教育研究所	1996
	ひ	アオギリのねがい	「被爆アオギリ二世」の絵本をつくる会 作・画	広島平和教育研究所	2003
	ほ	かあさんのうた	大野 允子 文 山中 冬児 絵	ポプラ社	1977
	03 S	SHIN'S TRICYCLE	CHART INSTITUTE 編著	CHART INSTITUTE	1994



小学校低学年から

内容	請求記号	書名	著者名	出版者	出版年
紙芝居	P	原爆の子さだ子の願い	宮崎 二美枝 脚本 江口 準次 絵	汐文社	1994
	P	原爆の子さだ子の願い	宮崎 二美枝 脚本 江口 準次 絵	南々社	2023
	P	長崎原爆紙芝居 1	坂口 便 原作 古村 覚 脚色 村上 新一郎 画	あらき書店	1985
	P	長崎原爆紙芝居 2	坂口 便 原作 古村 覚 脚色 村上 新一郎 画	あらき書店	1984
	P	長崎原爆紙芝居 3	坂口 便 原作 古村 覚 脚色 村上 新一郎 画	あらき書店	1984
	P	長崎原爆紙芝居 4	坂口 便 原作 古村 覚 脚色 村上 新一郎 画	あらき書店	1985
	P	長崎原爆紙芝居 5	坂口 便 原作 古村 覚 脚色 村上 新一郎 画	あらき書店	1985
	P	二度と	松井 エイコ 脚本・絵	童心社	2005
	P 1～5	はだしのゲン 1～5	中沢 啓治 作・絵	汐文社	1991
絵本	あ	ピカ	西本 伸 絵と文	あゆみ出版	1984
	え	青い空ヒロシマ ぼくたち、わたしたちにできること	HPS国際ボランティア 企画 学生・生徒・児童一同 編	HPS国際ボランティア	2016
	え	MY HIROSHIMA	森本 順子 著	HPS国際ボランティア	2010
	え	MY HIROSHIMA	森本 順子 作・絵	HPS国際ボランティア	2011
	え	MY HIROSHIMA	森本 順子 作・絵	HPS国際ボランティア	2012
	き	おこりじぞう	山口 勇子 原作 沼田 曜一 語り 四国 五郎 絵	金の星社	1979
	き	わたしのヒロシマ	森本 順子 作・絵	金の星社	1988
	こ	むかえじぞう	吉本 直志郎 作 飯原 一夫 絵	佼成出版社	1991
	こ	げんばくとげんばつ	増山 麗奈 文・絵	子どもの未来社	2013
	こ	ひろしまのピカ	丸木 俊 文・絵	小峰書店	1980
	し	シュモーおじさん	とがわ こういちろう 文・絵	シュモーに学ぶ会	2016
	し	シュモーおじさん	とがわ こういちろう 文・絵 エリザベス・ボールドウィン 英訳 小泉 直子 英訳	シュモーに学ぶ会	2019
	し	まっ黒なおべんとう	児玉 辰春 文 長澤 靖 絵	新日本出版社	1995
	し	よっちゃんのビー玉	児玉 辰春 ぶん 北島 新平 え	新日本出版社	1996
	す	かえってきたつりがね	児玉 辰春 作 長澤 靖 絵	鈴木出版	1996
	た	ひばくポンプ	児玉 美空 作	第一美術印刷	2020
	ち	悲しい顔のマリア	原 之夫 作・絵	汐文社	1991
	ち	金魚がきえた	山本 美次 作・絵 吉野 和子 作	汐文社	1989
	ち	雲のむこうに	毛利 まさみち 作・絵	汐文社	1996

– 185 –

内容	請求記号	書名	著者名	出版者	出版年
フ イ ク シ ヨ ン	913 い	ゆみ子とつばめのおはか	今西 祐行 さく 遠藤 てるよ え	偕成社	1972
	913 お	ながさきの子うま	大川 悦生 さく 宮本 忠夫 え	新日本出版社	1984
	913 お	ながさきの子うま	大川 悦生 原作 翼プロダクション 作	新日本出版社	2016
	913 お	はとよひろしまの空を	大川 悦生 作 二俣 英五郎 絵	ポプラ社	1979
	913 お	まめたんばあさん	大野 允子 作 上野 紀子 絵	あすなろ書房	1987
	913 か	人形レストラン	怪談レストラン編集委員会 [編] かとう くみこ 絵	童心社	2004
	913 こ	心がホッとする話 1年生下・ 2年生下	井上 こみち (ほか) 文	学習研究社	1999
	913 さ	かずさんの手	佐和 みずえ 作 かわい ちひろ 絵	小峰書店	2021
	913 し	つるにのって	ミホ・シボ 原案	金の星社	1994
	913 し	ちゃんちゃこばあちゃん	正田 篠枝 作 榎本 めぐみ 絵	太平出版社	1980
	913 し	ことりになったエノキ	白木 恵委子 さく ふりや かよこ え	新日本出版社	2002
	913 し	人形がかぞえる子もりうた	白根 厚子 作 遠藤 てるよ 絵	草炎社	1996
	913 は	むらさき色のピカ	馬場 淑子 作 中沢 啓治 絵	太平出版社	1981
	913 ま	ミサコの被爆ピアノ	松谷 みよ子 文 木内 達朗 絵	講談社	2007
	913 や	おこりじぞう	山口 勇子 さく 四国 五郎 え	新日本出版社	1982
	913 や	おこりじぞう	山口 勇子 原作 翼プロダクション 作	新日本出版社	2016
	913 や	ヒロシマからきたマメじぞう	山口 勇子 作 小野 かおる 絵	太平出版社	1983
	913 や	ヒロシマの火	山口 勇子 さく 四国 五郎 え	新日本出版社	1988
	913 や	タヌキのきょうしつ	山下 明生 作 長谷川 義史 絵	あかね書房	2019
	913 や	千羽づるのねがい	山下 夕美子 作 沢井 一三郎 画	小学館	1975
ハン デ ィ ン グ	913 や	かよこ桜	山本 典人 さく 井口 文秀 え	新日本出版社	1981
	913 Y	THE ANGRY JIZO	YUKO YAMAGUCHI 作 Beth Harrison 英訳 Hisashi Oda 編	YAMAGUCHI SHOTEN	1983
ハン デ ィ ン グ	750 ま	へいわをゆめみて	マナ・オリ さく	あいり出版	2015
	916 お	山梨の被爆アオギリ二世	岡田 清 文 浅川 晃治 絵	岡田清	2005

小学校中学年から

内容	請求記号	書名	著者名	出版者	出版年
紙芝居	P	8月のウサギ	佐藤 優 文 いくまさ 鉄平 絵	ヒロシマ・ヤング・ピース・ビルダーズ	2022
	P	被爆アオギリ物語	グループアオギリ 制作	コミュニティ ルネッサンス研究所	2014
	P	平和のちかい	稲庭 桂子 脚本 佐藤 忠良 画	子どもの文化研究所	1979
	P	平和のちかい	稲庭 桂子 脚本 佐藤 忠良 絵	童心社	2005
	P	平和への祈り 2	町屋 住男 作 N きいち 線	大空社	1995
絵本	あ	わすれていてごめんね	緒方 俊平 画・文	朝日新聞出版	2018
	あ	サダコの祈り	フォージア・ミナラ 作 うねざき まさこ 訳	アント・ヒロシマ	2008
	い	ざっそう	ロアルド・ホフマン 原作 きむら ゆういち 構成・訳 吉澤 みか 絵	今人舎	2018
	え	ピカドン きのこ雲の下で見つけた宝物	佐藤 廣枝 著 南有田 秋徳 絵	HPS国際ボランティア	2013
	お	赤いボタン	岡本 央 写真・文	大月書店	2023
	お	火のトンネル	岡本 央 写真・文	大月書店	2023
	お	さだ子と千羽づる	SHANTI 著	オーロラ自由アトリエ	1994
	か	彼岸花はきつねのかんざし	朽木 祥 作 ささめや ゆき 絵	学研教育出版	2015
	き	昭ちゃんの紙芝居	山口 昭治 作	木戸出版	2005
	く	わらってお母さん	たから さき 文 たから さやか 絵	クリエイティブ21	2004
	こ	わたしはひろがる	岸 武雄 作 長谷川 知子 絵	子どもの未来社	2010
	こ	海をわたった折り鶴	石倉 欣二 作	小峰書店	2010
	こ	ピカドン	丸木 位里 作 丸木 俊 作 ナンシー H. ツニソン 英訳 石川 保夫 英訳	小峰書店	1987
	こ	わたしはひろがる	岸 武雄 詩 辻本 洋太朗 染絵	小峰書店	1994
	し	母さんをたのんだぞ！	被爆体験伝承者瀬越グループ 作 沖本 直子 絵 沖本 直子（ほか） 英語	Shift Project	2023
	し	ふじおくんのハーモニカ	被爆体験伝承者鳥越グループ 作 山口 香織 絵 松下 富美（ほか） 英訳	Shift Project	[2022]
	し	あの夏の日	葉 祥明 絵・文 長崎市 編集協力・英訳 吉崎 克美 アートディレクション	自由国民社	2000
	し	いわたくんちのおばあちゃん	天野 夏美 作 はまの ゆか 絵	主婦の友社	2006
	し	パンフルートになった木	巢山 ひろみ 文 こがしわ かおり 絵	少年写真新聞社	2020
	し	原爆の火	岩崎 京子 文 毛利 まさみち 絵	新日本出版社	2000
	し	やくそくのどんぐり	大門 高子 文 松永 禎郎 絵	新日本出版社	2010

内容	請求記号	書名	著者名	出版者	出版年
絵	た	ドームがたり	アーサー・ビナード 作 スズキ コージ 画	玉川大学出版部	2017
	ち	クロがいた夏	中沢 啓治 作・絵	汐文社	1990
	ち	それから	榎田 伸子 作・絵	汐文社	1992
	ち	天に焼かれる	金崎 是 作・絵	汐文社	1989
	ち	はだしのゲン	中沢 啓治 作・絵	汐文社	1980
	ち	ヒロシマのおとうさん	高橋 昭博 文 四国 五郎 絵	汐文社	1983
	ち	ぼくは生きている	尾崎 正義 作・絵	汐文社	1992
	て	クロがいた夏	中沢 啓治 著	DINO BOX	2011
	て	はだしのゲン BAREFOOT GEN	中沢 啓治 著 Elizabeth Baldwin 訳	DINO BOX	2013
	て	ピンク色の雲	宇留賀 佳代子 文 稲田 善樹 絵	てらいんく	2007
	と	さがしています	アーサー・ビナード 作 岡倉 慎志 写真	童心社	2012
	と	チュニイ 春姫という名前の赤ちゃん	ピョン キジャ 文 チョン スンガク 絵	童心社	2017
	と	ピカドン	丸木 位里 著 丸木 俊 著	東邦出版	1982
	と	この世界の片隅に	こうの 史代 原作	徳間書店	2019
	に	本川をつたえて	奥原 球喜 文・絵 田中 八重子 原案	日本電子書籍技術 普及協会	2022
	本	に	つる	エリナー・コア 文 こだま ともこ 訳 エド・ヤング 絵	日本図書センター
ひ		ここにいること おかあさんに しらせて	上野 さかる 文 藤 わかな 絵	BOC出版部	2005
ひ		小さな赤いてぶくろ	西野 綾子 文 渡辺 俊明 絵	ひくまの出版	1983
ひ		童心寺	木下 数子 文・絵 童心寺を次世代に語りつぐ会 編	広島市五日市公民館 広島市皆賀公民館	2016
ひ		走れひばく電車	まさき かずみ 文 しげとう さちよ 絵	ひろしま女性学研究所	2008
ひ		助けてあげられなくてごめんね	広島市立段原小学校 編 平和教育推進委員会 編	広島市立段原小学校	2003
ひ		8月のウサギ	佐藤 優 文 いくまさ 鉄平 絵	ヒロシマ・ヤング・ ピース・ビルダーズ	2022
ふ		青い空	柳生 研太郎 作・画	風詠社	2011
ふ		きっときこえるよ	藤原 美香 作 村本 美香 作 瀧川 裕恵 絵 Haruki Asagoshi (ほか) 英訳	〔藤原美香・村本美香〕	2019
ふ		いのりの石	こやま 峰子 文 塚本 やすし 絵	フレーベル館	2015
ふ		ピカッ！ドン！！はもうやめて！！！！	久野 登久子 文 佐藤 八重子 絵	フレーベル館	2010
ふ		海をわたったヒロシマの人形	指田 和 文 牧野 鈴子 絵	文研出版	2011

内容	請求記号	書名	著者名	出版者	出版年
絵 本	ほ	北の里から平和の祈り	こやま 峰子 文 藤本 四郎 絵 エバンズ・キアラ 英訳 五十嵐 夕夏 英訳	北海道新聞社	2020
	ほ	ヒロシマ消えたかぞく	指田 和 著 鈴木 六郎 写真	ポプラ社	2019
	ほ	ヒロシマに原爆がおとされたとき	大道 あや 著 赤木 かん子 企画・編集協力	ポプラ社	2002
	れ	しげるくん物語	アマーリエ 文 もりひろ てるみ 絵	レムリア・ルネッサンス	2011
	03 A	Sadako's Prayer	Fauzia Aziz Minallah 絵・文	Fauzia Aziz Minallah	2012
	03 K	SADAKO OF HIROSHIMA	MANORAMA Jafa 作 AJANTA GUHATHAKURTA 絵	Khas Kitab foundation	2000
	46 N	히로시마사라진가족	指田 和 著 鈴木 六郎 写真	ニシンラムメディア	2022
フ ィ ク シ ヨ ン	726 あ	赤い靴はいた	あおき てつお まんが 「シリーズ戦争」編集委員会 編	草土文化	1991
	726 あ	赤い靴はいた	あおき てつお マンガ 「戦争」編集委員会 [編]	草土文化	1995
	726 あ 1・2	まんが ロザリオの祈り 1・2	青空 風太郎 漫画 さかい ともみ 原作	教育出版センター	1984 1985
	726 く	まんが 被爆地の新聞社	くぼ なおこ (ほか) 漫画 中国新聞社 企画	中国新聞社	2022
	726 け 2	原水爆漫画コレクション 2	谷川 一彦 著	平凡社	2015
	726 な	ある日突然に	中沢 啓治 作	汐文社	1987
	726 な 1・2	いつか見た青い空 上・下	中沢 啓治 作	汐文社	1986
	726 な	野球バカ	中沢 啓治 作	汐文社	1986
	726 な	ユーカリの木の下で	中沢 啓治 作	汐文社	1986
	778 き	ピカドン	木下 蓮三 作 木下 小夜子 作	ダイナミック セラーズ	1979
	778 き	ピカドン	木下 蓮三 作 木下 小夜子 作	ダイナミック セラーズ出版	2009
	908 に	チュイホアねえさん	日中児童文学美術交流センター 編	フレーベル館	1994
	913 あ	ユソフさん	あおき けいこ 文 あおき ゆみえ 絵	南方特別留学生を 語り伝える会	2019
	913 あ	ユソフさん —Remembering Nik—	あおき けいこ 文 あおき ゆみえ 絵 William R. Nelson 英訳	南方特別留学生を 語り伝える会	2019
	913 あ	あの海の波間に		岩崎書店	1989
	913 い	川とノリオ	いぬい とみこ 作 長谷川 集平 絵	理論社	1982
	913 い	川とノリオ	いぬい とみこ 作 長谷川 集平 絵	理論社	1982
	913 い	一つの花	今西 祐行 著 伊勢 英子 絵	ポプラ社	1983
	913 い	一つの花	今西 祐行 著 伊勢 英子 絵	ポプラ社	2005
	913 い	一つの花 ヒロシマの歌	今西 祐行 作 森川 泉 本文イラスト	集英社	2015

内容	請求記号	書 名	著 者 名	出 版 者	出版年
フ イ ク シ ヨ ン	913 お	石のひとりごと ほか3篇	大石 千枝子 (ほか) 作 富永 佳宏 絵	あらき書店	1981
	913 お	八月がくるたびに	おおえ ひで 作 篠原 勝之 え	理論社	1971
	913 お	八月がくるたびに	おおえ ひで 作 篠原 勝之 絵	理論社	1978
	913 お	八月がくるたびに	おおえ ひで 作 篠原 勝之 画	理論社	1982
	913 お	八月がくるたびに	おおえ ひで 作 篠原 勝之 絵	理論社	2001
	913 お	浜ひるがおの花が咲く	おおえ ひで 作 四国 五郎 絵	汐文社	1985
	913 お	アオギリよ芽をだせ	大川 悦生 作 遠藤 てるよ 絵	新日本出版社	1992
	913 お	おかあさんの木	大川 悦生 作 箕田 源二郎 絵	ポプラ社	1969
	913 お	おかあさんの木	大川 悦生 作 箕田 源二郎 絵	ポプラ社	1979
	913 お	おかあさんの木	大川 悦生 作 箕田 源二郎 絵	ポプラ社	2005
	913 お	木は生きかえった	大川 悦生 作 宮本 忠夫 絵	新日本出版社	1986
	913 お	長崎にいた小人のフ란ツ	大川 悦生 作 宮本 忠夫 絵	国土社	1988
	913 お	長崎のふしぎな女の子	大川 悦生 著 宮崎 耕平 絵	ポプラ社	1985
	913 お	星からきたカード	大川 悦生 作 宮本 忠夫 絵	汐文社	1985
	913 お	ヒロシマの河童	おおた そら 著	幻冬舎	2018
	913 お	ヒロシマのぬいぐるみ	おおた そら 著	パレード	2022
	913 お	海のむこうに	大西 伝一郎 作 かみや しん 絵	汐文社	1985
	913 お	あした、またね！	大野 允子 作 二俣 英五郎 絵	ポプラ社	1991
	913 お	いないいない、いない	大野 允子 作 浜田 桂子 絵	国土社	1987
	913 お	かあさんのうた	大野 允子 著 司 修 絵	ポプラ社	1981
ン	913 お	げんさん	大野 允子 作 上野 紀子 絵	あすなろ書房	1986
	913 お	白い鳥とねむの木の町	大野 允子 作 向井 康子 絵	小峰書店	1990
	913 お	チコとじぞうさん	大野 允子 作 こさか しげる 絵	国土社	1977
	913 お	母の川	大野 允子 作 鈴木 義治 画	小学館	1978
	913 お	見えないトゲ	大野 允子 作 田代 三善 絵	国土社	1970
	913 お	ミナのあした	大野 允子 作 吉田 翠 画	岩崎書店	1989

内容	請求記号	書名	著者名	出版者	出版年
フ イ ク シ ヨ ン	913 お	ゆりさんの花物語	大野 允子 作 狩野 富貴子 絵	PHP研究所	1989
	913 お	夏の記憶	丘 修三 作 多田 治良 絵	汐文社	1992
	913 お	わすれていてごめんね	緒方 俊平 画・文	ガリバープロダクツ	2000
	913 お	ちちんぷいぷいとんでいけ	小野 和子 作 永井 紗智子 絵	汐文社	1985
	913 く	彼岸花はきつねのかんざし	朽木 祥 作 ささめや ゆき 絵	学習研究社	2008
	913 く	泣くな、東太	熊谷 本郷 作 吉野 晃希男 絵	銀の鈴社	2014
	913 く	おばけ雲	来栖 良夫 作 市川 禎男 絵	新日本出版社	1969
	913 く	栗栖良夫児童文学全集 2	来栖 良夫 著	岩崎書店	1983
	913 こ	心がホッとする話 4年生下	七尾 純（ほか） 文	学習研究社	1999
	913 こ	くちなしの花 八月	児玉 辰春 文 長澤 靖 絵	草土文化	2001
	913 こ	まっ黒なおべんとう	児玉 辰春 作 北島 新平 絵	新日本出版社	1989
	913 こ	よっちゃんのビー玉	児玉 辰春 作 北島 新平 絵	新日本出版社	1990
	913 こ	ヒロシマの夏	子どもと文学の会 編 高田 勲 絵	国土社	1990
	913 こ	遠い国からきた小さな友だち	こにし ひでこ 作 末吉 陽子 絵	新風舎	2007
	913 さ	あの子らの碑	坂口 便 作 村上 新一郎 画	あらき書店	1982
	913 さ	消えてしまった町	坂口 便 作 平田 賢昭 画	あらき書店	1987
	913 さ	原子雲を見た子どもたち	坂口 便 作 村上 新一郎 画	あらき書店	1980
	913 さ	原子野の汽笛	坂口 便 作 榎田 八郎 画	あらき書店	1986
	913 さ	原子爆弾『でぶっちょ』	坂口 便 作 平野 伸人 画	あらき書店	1988
	913 さ	世界でいちばん悲しいクラス	坂口 便 作 村上 新一郎 画	あらき書店	1981
	913 さ	土のなかの顔	坂口 便 作 村上 新一郎 画	あらき書店	1982
	913 さ	なぐさめの天使	坂口 便 作 村上 新一郎 画	あらき書店	1981
	913 さ	見えないほうがよかった	坂口 便 作 村上 新一郎 画	あらき書店	1980
	913 さ	赤い風よふけ	沢井 充子 作 渡辺 安芸夫 絵	汐文社	1986
	913 し	十五年めのおくりもの	柴山 一郎 作 村田 収 絵	金の星社	1997
	913 し	とべ、ぼくの鳩よ	下嶋 哲朗 作・絵	金の星社	1984
	913 し	ピカッ子ちゃん	正田 篠枝 作 なかの ひろたか 絵	太平出版社	1977

内容	請求記号	書名	著者名	出版者	出版年
フ イ ク シ ヨ ン	913 す	ヒロシマのいのちの歌	鈴木 ゆき江 作 末崎 茂樹 絵	ひくまの出版	2001
	913 す	おばあさんのとっくり	砂田 弘 作 富永 秀夫 絵	岩崎書店	1977
	913 す	おばあさんのとっくり	砂田 弘 作 富永 秀夫 絵	岩崎書店	1980
	913 セ	十日間のお客	関 英雄 編 大石 真 編 古田 足日 編	小峰書店	1970
	913 セ	ヒロシマのうた	関 英雄 編 大石 真 編 古田 足日 編	小峰書店	1971
	913 た	ナガサキのおばあちゃん	高橋 克雄 作 吉田 隆 絵	『ナガサキのおばあちゃん』出版支援会	2006
	913 た	地図にない島へ	武田 英子 文 吉本 宗 絵	農山漁村文化協会	1990
	913 た	風のみた街	竹田 まゆみ 作 司 真実 絵	ポプラ社	1985
	913 た	ガラスびんの夏	竹田 まゆみ 作 石倉 欣二 絵	汐文社	1985
	913 た	四年一組にきた子	竹田 まゆみ 作 山中 冬児 絵	ポプラ社	1983
	913 た	るいいるいとるいいるいと	竹田 まゆみ 作 こさか しげる 絵	汐文社	1987
	913 た	ロクの菜の花畑	竹田 まゆみ 作 相沢 るつ子 絵	汐文社	1996
	913 つ	魔法のぶた	司 修 作・絵	汐文社	1985
	913 つ	見てるよ！ヒトミ	槻野 けい 作 倉石 琢也 絵	汐文社	1985
	913 て	かべにきえる少年	手島 悠介 作 岩淵 慶造 絵	講談社	1976
	913 て	かべにきえる少年	手島 悠介 作 岩淵 慶造 絵	講談社	1981
	913 と	白いチマチョゴリ	徳永 和子 作 岩淵 慶造 絵	教育画劇	1991
	913 な	うそつき咲っぺ	長崎 源之助 著 石倉 欣二 挿絵	佼成出版社	1995
	913 な	汽笛	長崎 源之助 作 石倉 欣二 絵	ポプラ社	2008
	913 な	五十年めの手紙	長崎 源之助 作 山中 冬児 絵	ポプラ社	1996
	913 な	3+6の夏	中澤 晶子 作 ささめや ゆき 絵	汐文社	2015
	913 な	ひろしまの満月	中澤 晶子 作 ささめや ゆき 絵	小峰書店	2022
	913 な	白い物語	中島 信子 作 田沢 梨枝子 絵	汐文社	1985
	913 な	やんばる君	中野 慶 作 山本 祐司 画	童心社	2000
	913 な	あやかし草子	那須 正幹 作 タカタ カヲリ 絵	日本標準	2011

内容	請求記号	書名	著者名	出版者	出版年
フ イ ク シ ヨ ン	913 な 5	那須正幹童話集 5	那須 正幹 作 武田 美穂 絵	ポプラ社	2014
	913 な	八月の髪かざり	那須 正幹 作 片岡 まみこ 絵	佼成出版社	2006
	913 に 4	戦争と平和のものがたり 4	西本 鶏介 編 篠崎 三朗 絵	ポプラ社	2015
	913 に	ん子先生お元気で、ねっ	日本子どもの本研究会 編 黒岩 章人 絵	ほるぷ出版	1993
	913 に	傘の舞った日	日本児童文学者協会 編 山田 花菜 絵	新日本出版社	2007
	913 に	ヒロシマのうた	日本児童文学者協会 編	小峰書店	1986
	913 に	焼けあとの白鳥	日本児童文学者協会 編	小峰書店	1986
	913 の	転校生とぼくの秘密	野矢 一郎 作 丸木 俊 絵	小峰書店	1986
	913 は	ナガサキの花	畑島 喜久生 著 辻 みやこ 絵	らくだ出版	1989
	913 は	虹	早船 ちよ 作 太田 大八 絵	汐文社	1985
	913 は	灯ろう	原 のぶ子 作 岩淵 慶造 絵	汐文社	1992
	913 は	みえちゃんの集団疎開	はら みえこ さく だんばらちゅうがっこうびじゅつぶ え	段原中学校美術部	1993
	913 は	みえちゃんの集団疎開	原 美恵子 著	原美恵子	1991
	913 ひ	らくだい先生	広島・子どもと教師の文学の会 著 せき あきこ 絵	ポプラ社	1982
	913 ふ	クレヨン王国月のたまご	福永 令三 作 三木 由記子 絵	講談社	1986
	913 ふ	クレヨン王国月のたまご	福永 令三 作 三木 由記子 絵	講談社	1998
	913 ま	風のむらからさわこ	マオ アキラ 作 柿谷 織絵 絵	汐文社	1991
	913 み	ヤン一族の最後	三浦 精子 作 入野 忠芳 絵	汐文社	1985
	913 む	ヒロシマこどもたちの夏	村上 啓子 作 堀口 忠彦 絵	溪水社	1995
	913 も	青い空がつながった	毛利 まさみち 作 うめだ ゆみ 絵	新日本出版社	2014
	913 も	ナガサキの男の子	森下 真理 作 篠崎 三朗 絵	太平出版社	1985
	913 や	ごめんねぼっこ	山下 夕美子 著 太田 大八 絵	あかね書房	1969
	913 や	三年三組なきむしメソコ先生	山下 夕美子 作 村井 香葉 絵	ポプラ社	1985
	913 や 8	ポケネコ・にゃんころりん 8	山本 悦子 作 沢音 千尋 画	童心社	2012
	913 や 8	ポケネコ・にゃんころりん 8	山本 悦子 作 沢音 千尋 絵	童心社	2013
	913 や	おばあちゃんのももの木	山本 玲子 作 長野 ヒデ子 絵	汐文社	1986
	913 ゆ	広島 昭和20年8月6日	遊川 和彦 著	汐文社	2005

内容	請求記号	書名	著者名	出版者	出版年
フィクション	913 よ	翔ぶんだったら、いま！	吉本 直志郎 作 村上 豊 絵	ポプラ社	1979
	913 よ	翔ぶんだったら、いま！	吉本 直志郎 作 中島 きよし 絵	ポプラ社	1984
	913 れ	パンプキン！	令丈 ヒロ子 作 宮尾 和孝 絵	講談社	2011
	913 れ	パンプキン！	令丈 ヒロ子 作 宮尾 和孝 絵	講談社	2019
	913 わ	霧に消えた少女	わたり むつこ 作 秋元 純子 絵	国土社	1985
	913 H	Mie's group Evacuation —away from hom[e], away from parents—	Mieko Hara 著	Mieko Hara	1992
	918 よ	ヒロシマの風	吉永 小百合 編 男鹿 和雄 カバー絵・挿絵 YUME 挿絵	KADOKAWA	2014
ノンフィクション	210 い	ヒロシマ8月6日、少年の見た空	井上 こみち 文 すがわら けいこ 絵	学研教育出版	2015
	210 え 6	絵でよむ日本の歴史 6	鈴木 亮 編 中妻 雅彦 編 金沢 佑光 絵	大月書店	1990
	210 さ 1・2	ビジュアル版 平和博物館・戦 跡ガイド 1・2	佐藤 広基 イラスト・文 本地 桃子 イラスト・文	汐文社	2004
	210 し 5	シリーズ戦争孤児 5	平井 美津子 編	汐文社	2015
	210 セ 7	せんそうってなんだったの？ 第7巻		学習研究社	2007
	210 セ	せんそうってなんだったの？	ささき あり 作 井上 こみち 作 戸田 和代 作 夏目 尚吾 (ほか) 画	学研教育出版	2013
	210 セ 2-9	せんそうってなんだったの？ 第2期9	井上 こみち 文 すがわら けいこ 絵	学研教育出版	2014
	210 セ 2-10	せんそうってなんだったの？ 第2期10	光丘 真理 文 藤本 四郎 絵	学研教育出版	2014
	210 ち	子どもたちへ、今こそ伝える戦争	長 新太 (ほか) 著	講談社	2015
	210 て	まんがで語りつぐ広島復興	手塚プロダクション まんが 青木 健生 シナリオ	小学館クリエイティブ	2015
	210 て	平和のたからもの	寺田 志桜里 ぶん・え	くもん出版	2001
	210 に	ピカドンのきこ雲	日本児童文芸家協会 編	ポプラ社	1975
	210 に	日本の戦争遺跡図鑑		PHP研究所	2013
	210 に 7	日本の歴史博物館・史跡 7		あかね書房	1999
	210 ひ 12	ひとり調べができる時代別日本 の歴史 12		学習研究社	1997
	210 め 4	目でみる戦争とくらし百科 4		日本図書センター	2001
	210 れ 11	太平洋戦争はじまる	笠原 秀 文	ポプラ社	1990
	210 わ 7	わたしたちの戦争体験 7	日本児童文芸家協会 著	学研教育出版	2010
	210 T	Hiroshima's Revival	Takeo Aoki シナリオ Tezuka Productions 漫画 Pauline Baldwin 英訳	Shogakukan Creative Inc.	2016
	281 き	たゆまぬ歩み おれはカタツムリ	畑島 喜久生 作 小林 与志 絵	佼成出版社	1986

内容	請求記号	書名	著者名	出版者	出版年
ノ ン フ イ ク シ ヨ ン	281 な	永井隆	中井 俊巳 著	童心社	2007
	281 ま	丸木俊	岡村 幸宣 文	あかね書房	2023
	291 こ 7・8	日本と世界のちがいを考える本 7・8		ポプラ社	2000
	291 し 5	調べ学習に役立つ宇宙から見た 日本の地理と産業 5		あかね書房	1998
	291 れ 5	歴史と文化を伝える117の町 5	三浦 はじめ 編著	PHP研究所	1994
	310 あ	被爆者	会田 法行 写真・文	ポプラ社	2005
	310 あ	続・被爆者	会田 法行 写真・文	ポプラ社	2015
	310 お	きみに聞いてほしい	〔バラク・オバマ 述〕 池上 彰 翻訳 葉 祥明 画	リンダ パブリッシャーズ	2016
	310 た	核兵器をなくすと世界が決めた日	高橋 真樹 文 岩崎 由美子 文 TOTO 絵	大月書店	2022
	310 に 2	いま戦争を考える No.2	日本作文の会 編	百合出版	1987
	310 ほ	ほんとうにあった戦争と平和の話		講談社	2016
	361 な	ゲンバクとよばれた少年	中村 由一 著 渡辺 考 聞き書き 宮尾 和孝 絵	講談社	2018
	370 い 3	ビジュアル版 学校の歴史 3	岩本 努 共著 保坂 和雄 共著 渡辺 賢二 共著	汐文社	2012
	550 ひ	広島平和記念資料館	広島平和記念資料館 編	広島市市長室	1986
	700 こ	ぼくらは生きたい	加藤 茂男 著	ポプラ社	1983
	700 ひ	日本の大切なもの	PHP研究所 編	PHP研究所	2007
	810 に	にほんご多読ブックsvol.10-5 「広島の少年飯田くん」	平和の大切さを伝える 日本語教材をつくる会 作 土井 理絵子 挿絵	大修館書店	2019
	816 さ	作文が好きになる事典 3・4年		講談社	1995
	916 あ	ごめんね、お母さん	荒木 正夫 文 高橋 孟 絵	ポプラ社	1991
	916 い	飯田くん	飯田 國彦 語り 土井 理絵子 絵	平和の大切さを伝える 日本語教材をつくる会	2018
	916 お	夏服の少女たち	大野 允子 著	ポプラ社	1989
	916 か	かえてきた瓢湖の白鳥	神戸 淳吉 (ほか) 著 田代 三善 (ほか) 画	講談社	1984
	916 こ	ピカドン	講談社 編	講談社	2003
	916 こ	あの日を、わたしは忘れない	河野 きよみ 絵と文 早坂 暁 編	勉誠出版	2008
	916 こ	象のいなくなった動物園	近野 十志夫 編	小峰書店	1994
	916 た	折り鶴の少女	たいら まさお 著	偕成社	1988
	916 た	七夕にねがいをこめて	武田 英子 作 清水 耕蔵 絵	岩崎書店	1985
	913 た	恩師岩佐幹三先生	田畑 サンドーム 光恵 書いた人	平和の大切さを伝える 日本語教材をつくる会	[2020]
	916 て	飛べ！ 千羽づる	手島 悠介 著	講談社	1982
	916 て	飛べ！ 千羽づる	手島 悠介 著	講談社	1986
	916 て	飛べ！ 千羽づる	手島 悠介 著	講談社	1989

内容	請求記号	書 名	著 者 名	出 版 者	出版年
ノ ン フ ィ ク シ ヨ ン	916 て	飛べ！ 千羽づる	手島 悠介 著	講談社	2000
	916 て	飛べ！ 千羽づる	手島 悠介 著	講談社	2015
	916 な	圭子ちゃん／けんいち	小野 久仁子 話した人 中越 尚美 書いた人 土井 紀子 イラスト マツトリン 喜佐 〔著〕	平和の大切さを伝える 日本語教材をつくる会	〔2020〕
	916 な	平和の木	長崎 源之助 著 二俣 英五郎 画	童心社	1990
	916 な	あの日を、ぼくは忘れない	名柄 堯 絵と文 早坂 暁 編	勉誠出版	2008
	916 な	ぼく生きたかった	名越 謙蔵 文 名越 操 文 矢野 洋子 絵	労働教育センター	1982
	916 な	こんな学校があるよ	名取 弘文 著	ポプラ社	1997
	916 に	あやちゃんのひばくたいけん	西 純子 著 Sean Perez 訳 鎌倉 麻衣 絵	竹林館	2019
	916 に	あの日のこと	西山 進 文・絵	クリエイティブ21	2005
	916 は	原爆ドームの祈り	長谷川 敬 文 山本 東陽 写真	講談社	1995
	916 ひ	ヒロシマにいた友だち	檜山 純子 文 アイナ・ヒヤマ・ザズリ 絵	平和の大切さを伝える 日本語教材をつくる会	〔2021〕
	916 ふ	チロの星まつり	藤井 旭 著	ポプラ社	1988
	916 へ	シュモーハウス	平和の大切さを伝える 日本語教材をつくる会 文 山田 夢乃 絵	平和の大切さを伝える 日本語教材をつくる会	2019
	916 も	世界じゅうに、愛の手を	望月 正子（ほか） 著 小松 修（ほか） 画	講談社	1984
	916 も	春ちゃん	森本 マリア 作 ナンシー・H・ロス 訳 彩瀬 ひよ子 絵	吉備人出版	2019
	916 も	ゆきちゃんが見たピカドン	森本 マリア 作 ナンシー・H・ロス 翻訳 彩瀬 ひよ子 切り絵	吉備人出版	2015
	916 よ	ナガサキの命	吉永 小百合 編 男鹿 和雄 カバー絵・挿絵 YUME 挿絵	KADOKAWA	2015
詩 歌	911 か	愛する人へ	門倉 訣 作 岩崎 保夫 え	けやき書房	1987
	911 さ	子どもと心を見つめる詩	西郷 竹彦 編・著	黎明書店	1996
	911 し	母よ誰が	渋谷 清視 編 吉田 定一 編 かみや しん 画	金の星社	1985
	911 に 34	日本の子どもの詩 34	日本作文の会 編	岩崎書店	1984
	911 ふ	ひろしまの子	深川 宗俊 詩 四国 五郎 絵	春陽社出版	1975
	911 み	教室でよみたい詩12か月 小学校3・4年	水内 喜久雄 編著	民衆社	1995

小学校高学年から

内容	請求記号	書名	著者名	出版者	出版年
紙芝居	P	ヒロシマへ行って	谷田川 和夫 原案 渡辺 泰子 脚本 宮本 忠夫 絵	汐文社	1990
絵本	あ	オマール王子の旅	古田 博一 作 藤原 飛鳥 絵	あいり出版	2019
	あ	ジュノー	津谷 静子 文 enjin productions・UNION CHO 絵	ありがとう出版	2008
	い	あの日のこと	山口 美代子 文 吉澤 みか 絵 倉田 ひさし 編	今人舎	2023
	い	星は見ている	藤野 としえ 文 広田 郁世 絵 紺野 美沙子 編	今人舎	2023
	か	可部に舞い降りた落下傘	いくまさ 鉄平 文・絵	[可部まち物語つたえたい]	[2021]
	き	音が消えた時	森本 マリア 著 小泉 直子 英訳 ジム・ロナルド 英訳	吉備人出版	1999
	く	ようすけ君の夢	上村 吉 語り 真柳 タケ子 語り 佛教大学黒岩ゼミ 文 田中 愛 絵 越智 裕希美 絵	クリエイツかもがわ	2008
	こ	100ばんめのサル	ケン・キース・ジュニア 原作 松本 茂樹 文 尾崎 真吾 絵	国土社	1987
	す	旅のネコと神社のクスノキ	池澤 夏樹 文 黒田 征太郎 絵	スイッチ・パブリッシング	2022
	せ	昭和二十年八さいの日記	佐木 隆三 文 黒田 征太郎 絵	石風社	2011
	せ	火の話	黒田 征太郎 作	石風社	2011
	ち	うわさごと	梅田 俊作 文・絵	汐文社	2012
	ち	光にむかって	くさば よしみ 編 やまなか ももこ 絵	汐文社	2022
	て	原爆の怖さの物語	兒玉 智江 絵と文	デザイン・コダマ	2016
	ふ	ようすけ君の夢	上村 吉 語り 真柳タケ子 語り 佛教大学社会学部社会福祉学科社会福祉援助技術演習ゼミ生(二〇〇五年度二KFクラス)文 田中 愛 絵 越智 裕希美 絵	佛教大学社会学部・佛教大学福祉教育開発センター	2006
フィクション	388 に	広島県の民話	日本児童文学者協会 編	偕成社	1979
	726 か	マンガでつづる原爆の子の像	川野 登美子 著 山田 奈穂 構成・漫画	文化評論	2021
	726 き 1～5	キセキのヒロシマ 1～5	ピースピースプロジェクト 企画 高下 知代 漫画 谷川 知子 漫画 山田 康代 漫画 こばやし 将 漫画(4巻・5巻)	美健ガイド社	2014～2015
	726 く	怒る犬	黒田 征太郎 著 日暮 真三 著 長友 啓典 著	岩波書店	2012
	726 け 3	原水爆漫画コレクション3	白土 三平 著 滝田 ゆう 著	平凡社	2015
	726 け 4	原水爆漫画コレクション4	赤塚 不二夫(ほか) 著	平凡社	2015

内容	請求記号	書名	著者名	出版者	出版年
フ イ ク シ ヨ ン	726 こ 1～3	この世界の片隅に 上・中・下	こうの 史代 著	双葉社	2008～ 2009
	726 こ	夕風の街桜の国	こうの 史代 著	双葉社	2004
	726 さ	あの日、ヒロシマで	さすらいのカナブン 著	みらいパブリッシング	2022
	726 し	長崎の原爆を生きぬいて	しおうら しんたろう 作・絵	ポトス出版	2023
	726 そ	焼けあとのイチ	創価学会婦人平和委員会 編	第三文明社	1995
	726 て	原爆といのち	手塚 治虫 (ほか) 著	金の星社	2013
	726 な	沖縄戦と原爆投下	中沢 啓治 (ほか) 著	金の星社	2017
	726 な	黒い雨にうたれて	中沢 啓治 著	ディノボックス	2005
	726 な 2～4	中沢啓治著作集 2～4	中沢 啓治 著	DINO BOX	2014～ 2018
	726 な 1～10	はだしのゲン 1～10	中沢 啓治 著	汐文社	1975～ 1987
	726 な 1～3	はだしのゲン 1～3	中沢 啓治 著	中央公論社	1996
	726 な 1～7	はだしのゲン 1～7	中沢 啓治 著	金の星社	2019～ 2020
	726 ひ	わたしからのメッセージ	広島市立幟町中学校「この世界に平和を！」委員会 執筆	広島市立幟町中学校	2001
	726 ま	帰らない夏	まえだ なおこ 著	まえだなおこ	2017
	726 N	BAREFOOT GEN 1～10	Keiji Nakazawa 著 Project Gen 訳	LAST GASP	2004～ 2009
	726 T	The Hiroshima Miracle	Taeko Tada 著 Tomoyo Takashita 漫画 Tomoko Tanigawa 漫画 Alan Gleason 英訳	Peace Piece Project	2016
	908 に	読み聞かせる戦争	日本ペンクラブ 編 加賀美 幸子 選	光文社	2015
	913 あ	北国の子どもたち	赤木 由子 作 池田 仙三郎 絵	講談社	1982
	913 あ	広島の追憶	梓 加依 著	鹿砦社	2023
	913 い	テニアン少女	石上 正夫 作 井口 文秀 絵	汐文社	1985
	913 い	あの戦争のなかにぼくもいた	石浜 みかる 著	国土社	1992
	913 い	光の消えた日	いぬい とみこ 作 長 新太 画	岩波書店	1978
	913 い	みどりの川のぎんしょきしょき	いぬい とみこ 作 太田 大八 画	福音館書店	1978
	913 い	この空の下で	井上 雅博 作	朝日学生新聞社	2011
	913 い	化石原人の告白	猪野 省三 作	学習研究社	1963
	913 い	いま、戦争と平和を考えてみる。	峠 三吉 (ほか) 作	くもん出版	2009
	913 い	あるハンノキの話	今西 祐行 著	実業之日本社	1966
	913 い	あるハンノキの話	今西 祐行 著	偕成社	1976
	913 い 6	今西祐行全集 6	今西 祐行 著	偕成社	1988
	913 い	くらがり峠	今西 祐行 著 福田 庄助 絵	偕成社	1981
	913 い	ハコちゃん・あるハンノキの話ほか	今西 祐行 著	実業之日本社	1981
	913 い	ヒロシマの歌	今西 祐行 作 遠藤 てるよ 画	岩崎書店	1982

内容	請求記号	書名	著者名	出版者	出版年
フ イ ク シ ヨ ン	913 い	ヒロシマの歌	今西 祐行 作 遠藤 てるよ 画	岩崎書店	1994
	913 お	心でさげんでください	おおえ ひで 作 かみや しん 画	小学館	1983
	913 お	南の風の物語	おおえ ひで 著	理論社	1961
	913 お	りよおばあさん	おおえ ひで 著	実業之日本社	1972
	913 お	十四才の夏	大谷 美和子 作 たざわ りえこ 絵	汐文社	1990
	913 お	朝の別れを	大野 允子 著	ポプラ社	2001
	913 お	あなたへ	大野 允子 作 鈴木 義治 絵	あすなろ書房	1985
	913 お	つるのとぶ日	大野 允子 (ほか) 著	東都書房	1963
	913 お	つるのとぶ日	大野 允子 (ほか) 著 鈴木 義治 絵	講談社	1977
	913 お	つるのとぶ日	大野 允子 (ほか) 著 鈴木 義治 絵	講談社	1980
	913 お	虹をみた日	大野 允子 作 永田 治子 絵	ポプラ社	1995
	913 お	八月の少女たち	大野 允子 著 吉崎 正巳 絵	新日本出版社	1985
	913 お	ヒロシマの少女	大野 允子 著 鈴木 義治 絵 鈴木 琢磨 え	盛光社	1969
	913 お	ヒロシマ、八月、炎の鎮魂歌 ^{レクイエム}	大野 允子 作 永田 治子 絵	ポプラ社	1998
	913 お	夕焼けの記憶	大野 允子 作 小坂 しげる 絵	国土社	1973
	913 お	おれたちにできなかったこと	大原 興三郎 作 こぐれ けんじろう 絵	PHP研究所	1996
	913 お	マンモスの夏	大原 興三郎 作 山野辺 進 絵	文溪堂	1995
	913 お	空を飛んだ夏休み	丘乃 れい 作 大西 雅子 絵	東方出版	2018
	913 お	歌よ川をわたれ	沖井 千代子 作 こさか しげる 絵	講談社	1980
	913 か	八月のすきまに	辛島 萌 作 狩野 ふきこ 絵	新日本出版社	2005
	913 き	^{ちなみ} 因の木と少女たちの40年	菊地 澄子 作 津田 櫓冬 絵	汐文社	1986
	913 き	ひとりひとりの戦争	菊地 澄子 作 鈴木 琢磨 え	理論社	1975
	913 き	もえる吹雪	菊池 鮮 作 市川 禎男 絵	汐文社	1985
	913 き	ヒロシマの子守唄	菊地 正 作 こさか しげる 絵	汐文社	1985
	913 き	バオバブのゲンバク	木村 功 (ほか) 作 会田 恵津子 絵	汐文社	1986
	913 き	広島にチンチン電車の鐘が鳴る	きむら けん 著 高橋 透 装画	汐文社	1999
	913 き	さようならかげぼうし	木村 英代 作 多田 治良 絵	汐文社	1985

内容	請求記号	書名	著者名	出版者	出版年
フ イ ク シ ヨ ン	913 き	白い町ヒロシマ	木村 靖子 作 梶 鮎太 画	金の星社	1983
	913 き	白い町ヒロシマ	木村 靖子 作 梶 鮎太 画	金の星社	1985
	913 く	かげふみ	朽木 祥 作	光村図書	2023
	913 く	チビ兵行進曲	熊谷 本郷 作 鈴木 孝子 絵	汐文社	1989
	913 く	どえりゃあやつ	熊谷 本郷 作 なんば 孝子 絵	銀の鈴社	2023
	913 く	太陽の落ちた日	来栖 良夫 (ほか) 編	労働教育センター	1980
	913 こ	この世界の片隅に	こうの 史代 原作 蒔田 陽平 ノベライズ	双葉社	2016
	913 こ	夕風の街桜の国	こうの 史代 原作・イラスト 蒔田 陽平 ノベライズ	双葉社	2017
	913 こ	トンネルとビー玉とわすれ貝	子どもの家同人 編	牧書店	1971
	913 さ 1～3	ロザリオの祈り 1～3	さかい ともみ 作 青空 風太郎 絵	教育出版センター	1984
	913 さ	ラグリマが聞こえる	ささぐち ともこ 著 くまおり 純 絵	汐文社	2020
	913 し	アイリーンのとうろう	柴田 克子 著 永井 吐無 絵	アリス館	1976
	913 し	遙かなトナカイの国	清水 道尾 作 阿嘉 まさご 画	岩崎書店	1991
	913 す	夏の花たち	鈴木 ゆき江 著	ひくまの出版	2004
	913 す	バウムクーヘンとヒロシマ	巢山 ひろみ 著 銀杏 早苗 絵	くもん出版	2020
	913 そ	ねこになった少年	征矢 清 作 やまだ 紫 画	岩波書店	1988
	913 そ	ねこになった少年	征矢 清 作 やまだ 紫 画	岩波書店	1996
	913 た	あしたへげんまん	竹田 まゆみ 著 小坂 しげる 絵	新日本出版社	1971
	913 た	おじいちゃんは兵隊だった	竹野 栄 作 田代 三善 絵	旺文社	1994
	913 つ	あしたの風	壺井 栄 著	ポプラ社	1978
	913 つ	明日が来なかった子どもたち	鶴 文乃 文 能仲 リエ 絵	サンパウロ [発売]	2000
ナ	913 と	消えた夏休み	富家 知道 著 富家 美代子 著 大羽 睦代 著	ウインかもがわ	2005
	913 な	はだしのゲン	中沢 啓治 原作 君塚 良一 脚本 田中館 哲彦 構成	汐文社	2007
	913 な 1～3	はだしのゲン 上・中・下	中沢 啓治 原作 深沢 一夫 作	汐文社	1980 1981
	913 な	1983年熱い秋のノート	中澤 晶子 作 むかい ながまさ 絵	汐文社	1985
	913 な	時の石	那須 正幹 作 岡本 順 絵	文溪堂	1994
	913 な	チョウのいる丘	那須田 稔 作 市川 禎男 絵	講談社	1968

内容	請求記号	書名	著者名	出版者	出版年
フ イ ク シ ン ヨ	913 な	チョウのいる丘	那須田 稔 作 市川 禎男 絵	講談社	1982
	913 に	ぼくはうそをついた	西村 すぐり 作 中島 花野 絵	ポプラ社	2023
	913 に	北風は芽を	日本児童文学者協会 編 市川 禎男 画	童心社	1971
	913 に	こすもすペーカリー物語	日本児童文学者協会 編 松本 春野 絵	新日本出版社	2008
	913 に	ひろしまのオデット	日本児童文学者協会 編 小林 与志 画	童心社	1972
	913 に	ふたりの英雄	日本児童文学者協会 編 太田 大八 画	童心社	1971
	913 ひ	歌のとどく日	広島児童文学研究会 編 遠藤 てるよ 絵	新日本出版社	1970
	913 ふ	ミチコとクミ	深沢 一夫 作 高田 三郎 絵	汐文社	1986
	913 ふ	犬之介さんと小犬	藤本 正文 文 市原 正勝 絵	近代文藝社	1995
	913 ま	光る夏一たつひこ	マオ アキラ 作 谷口 広樹 画	童心社	1993
	913 ま	ふたりのイーダ	松谷 みよ子 著 司 修 絵	講談社	1976
	913 ま	ふたりのイーダ	松谷 みよ子 著 司 修 絵	講談社	1980
	913 ま	ふたりのイーダ	松谷 みよ子 著 司 修 絵	講談社	1995
	913 ま	ふたりのイーダ	松谷 みよ子 著 司 修 絵	講談社	2006
	913 ま	おもいで箱	松永 伍一 (ほか) 作 鈴木 たくま 絵	汐文社	1985
	913 ま	あやと青い目の人形	松永 照正 著 會田 貴代 絵 黒崎 晴生 写真	クリエイティブ21	2003
	913 や	かあさんの野菊	山口 勇子 著 東本 つね 絵 倉石 琢也 絵	新日本出版社	1974
	913 や	貝の鈴	山口 勇子 著 岩崎 ちひろ 画	大日本図書	1970
	913 や	スカーフは青だ	山口 勇子 著 二俣 英五郎 絵	新日本出版社	1969
	913 や	人形マリー	山口 勇子 著 四国 五郎 絵	新日本出版社	1980
	913 や	広島の子供	山本 真理子 作 岩淵 慶造 絵	岩崎書店	1973
	913 や	広島の子供	山本 真理子 作 岩淵 慶造 画	岩崎書店	1979
	913 や	広島の子供	山本 真理子 作 岩淵 慶造 画	岩崎書店	1994
	913 や	広島の子	山本 真理子 作 藤田 通代 絵	岩崎書店	1995
	913 や	広島の子供たち	山本 佐伯 真理子 作 和子 画	岩崎書店	1982

内容	請求記号	書名	著者名	出版者	出版年
フ イ ク シ ヨ ン	913 や	広島之母たち	山本 真理子 作 佐伯 和子 画	岩崎書店	1985
	913 よ	北の天使南の天使	吉本 直志郎 作 遠藤 てるよ 絵	ポプラ社	1982
	913 よ	北の天使南の天使	吉本 直志郎 作 おおた 慶文 絵	ポプラ社	1985
	913 よ	リトルボーイ	吉本 直志郎 作 中島 潔 絵	ポプラ社	2005
	913 わ	麦畑のカマキリ	和田 勝恵 作 鈴木 孝子 絵	汐文社	1986
	913 わ	いのちの石	渡部 秀美 著	新風舎	1996
	913 K	WHITE TOWN HIROSHIMA	Yasuko Kimura 作 Nobuko Ueno 訳 Jerri Okada 訳	BUNKA HYORON PUBLISHING COMPANY	1985
	913 Y	Sisters in Hiroshima	Mariko Yamamoto 原作 Osamu Umeda 編訳	Sanyusha	1984
	918 な 16	「戦争と平和」子ども文学館 16	長崎 源之助（ほか） 編	日本図書センター	1995
	918 な 17	「戦争と平和」子ども文学館 17	長崎 源之助（ほか） 編	日本図書センター	1995
	918 な 18	「戦争と平和」子ども文学館 18	長崎 源之助（ほか） 編	日本図書センター	1995
	933 は	ラスト・チェリー・ブロッサム	キャサリン・バーキンショー 作 吉井 知代子 訳	ほるぷ出版	2022
	933 ふ	さよならをいう時間もない	ジュデイ＝ブルーム 作 長田 敏子 訳	偕成社	1991
ノ ン フ イ ク シ ヨ ン	019 き	「夾竹桃物語ーわすれていてごめんね」 絵画・読書感想文集		「夾竹桃物語ーわすれていてごめんね」 絵画・読書感想文事務局	2002
	060 り 9	戦争と郷土の歴史を考える		福武書店	1992
	150 こ	自分ってなんだろう？	小島 昌世 著	ポプラ社	1995
	200 か 8	学習に役立つものしり事典365日 8月		小峰書店	1990
	200 き	きょうはなんの日？ 7月・8月	布施 孝子 文	ポプラ社	1999
	200 セ	平和公園碑めぐりガイドブック	生活協同組合ひろしま 編	生活協同組合ひろしま	1986
	200 セ	平和公園碑めぐりガイドブック	生活協同組合ひろしま 編	生活協同組合ひろしま	2007
	209 た 10	第二次世界大戦 10	槐 一男 著	太平出版社	1985
	209 よ 21	原子爆弾投下	吉田 悟郎（ほか） 編	岩崎書店	1983
	209 れ	みんなが知りたい！世界と日本の「戦争遺産」戦跡から平和を学ぶ本	歴史学習研究会 著	メイツ出版	2017
	209 れ	みんなが知りたい！世界と日本の「戦争遺産」戦跡から平和を学ぶ本	歴史学習研究会 著	メイツユニバーサル コンテンツ	2021
	210 あ	小倉に原爆が落ちた日	朝日新聞西部本社社会部 編	あらき書店	1983
	210 あ	アジア・太平洋戦争		ポプラ社	2006
	210 あ 5	語り伝える空襲 第5巻	安斎 育郎 文	新日本出版社	2008
	210 あ 1～5	シリーズ戦争 語りつごうヒロシマ・ナガサキ 1～5	安斎 育郎 文	新日本出版社	2014 2015
	210 い	復興の記憶	泉美術館 企画制作	泉美術館	2015
	210 い 10	日本の歴史 10	今井 庄次 著	ポプラ社	1969
	210 え 5	NHK日本映像の20世紀 5		ポプラ社	2003
	210 お 5	おはなし太平洋戦争史 5	和歌森 太郎（ほか） 編	岩崎書店	1970
	210 け 1～3	新聞で調べよう現代日本の50年 1～3	現代日本の50年編集委員会 編	大日本図書	1995

内容	請求記号	書名	著者名	出版者	出版年
ノ ン フ イ ク シ ヨ ン	210 さ	「ヒロシマ消えたかぞく」のあしあと	指田 和 著	ポプラ社	2022
	210 し 2	昭和の歴史 中	森藤 よしひろ まんが	くもん出版	1989
	210 し 8	調べ学習日本の歴史 8		ポプラ社	2000
	210 し 12	しらべ学習に役立つ日本の歴史 12	古川 清行 著	小峰書店	1995
	210 し 3	シリーズ戦争遺跡 3	辻 隆広 編	汐文社	2010
	210 し 7	人物や文化遺産で読み解く日本の歴史 7		あかね書房	2010
	210 す	子どもにおくる戦争があったころの話	鈴木 喜代春（ほか） 編	らくだ出版	2006
	210 た	ヒロシマの原子雲	高城 肇 著	偕成社	1972
	210 た 2	日本の歴史 下	高橋 碩一 著 徳武 敏夫 著 山下 國幸 著	岩崎書店	1987
	210 つ	ヒロシマ・コレクション	土田 ヒロミ 撮影	日本放送出版協会	1995
	210 に	21世紀こども百科歴史館		小学館	1999
	210 に 7	日本の遺跡と遺産 7	矢野 慎一 著	岩崎書店	2009
	210 に 5	日本の歴史 5	宇野 俊一 編	集英社	1991
	210 ひ 1・2	100人が語る戦争とくらし 1・2		学研プラス	2017
	210 ひ	広島県の歴史ものがたり	広島県郷土史研究会 編著	日本標準	1981
	210 ふ 3	わたしたちのアジア・太平洋戦争 3	古田 足日 編 米田 佐代子 編 西山 利佳 編	童心社	2004
	210 ヘ 1・2	平和学習に役立つ戦跡ガイド 1・2	平和学習に役立つ戦跡ガイド編集委員会 編	汐文社	2014
	210 ヘ 5	平和を考える戦争遺物 5	是恒 高志 編	汐文社	2014
	210 ま	なみだのファインダー	松重 美人 著	ぎょうせい	2003
	210 む 4	シリーズ戦争 子どもたちが綴った戦争体験 4	村山 士郎 著	新日本出版社	2021
	210 や	平和を考える戦争遺産図鑑	安島 太佳由 写真・著	岩崎書店	2015
	210 れ 5	世界と出会う日本の歴史 5	歴史教育者協議会 編	ほるぷ出版	1999
	210 わ 9	1945年8月15日	和歌森 太郎（ほか） 編	岩崎書店	1995
	281 え 2	兵隊ぐらしとピカドン	江戸家 猫八 著	ポプラ社	1983
	281 こ	憎しみを乗り越えて	佐藤 真澄 著	汐文社	2019
	281 さ	シゲコ！	菅 聖子 著	偕成社	2010
	281 と	風のように炎のように 峠三吉	岩崎 健二 作・画	峠三吉記念事業委員会	1993
	281 な	永井隆	片山 はるひ 著	日本キリスト教団出版局	2015
	281 に	仁科芳雄／本多光太郎	関口 たか広 漫画	ほるぷ出版	1991
	281 や	平和のバトンをつないで	池田 まき子 著 タムラ フキコ 絵	WAVE出版	2014
	281 よ	暁の超特急	辺見 じゅん 著	今井書店	2001
	283 あ	アインシュタインと相対性理論	D・J・レイン 作 ないとう ふみこ 訳	玉川大学出版部	2015
	291 お 11	おはなし日本地理 11	入江 敏夫（ほか） 編	岩崎書店	1978
	291 し	事前学習に役立つみんなの修学旅行		小峰書店	2015
	291 し 6	事前に調べる修学旅行 パーフェクトガイド 6		金の星社	2003
	291 し	新図解 わたしたちの日本地理		学習研究社	1997
	291 に 34	子ども日本風土記 34	日本作文の会 編	岩崎書店	1975

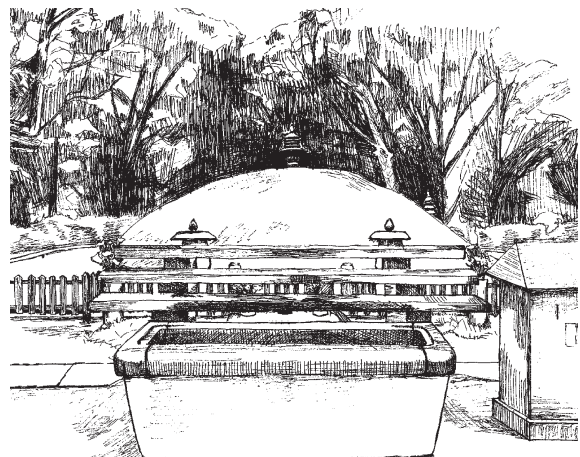
内容	請求記号	書 名	著 者 名	出 版 者	出版年
ノ ン フ イ ク シ ヨ ン	291 に 42	子ども日本風土記 42	日本作文の会 編	岩崎書店	1971
	291 に 3	日本の地理 3	小島 晃 編	あゆみ出版	1990
	310 あ	13歳からの平和教室	浅井 基文 著	かもがわ出版	2010
	310 あ	INORI	綾野 まさる 著	ハート出版	2010
	310 あ 1～5	語り伝えるヒロシマ・ナガサキ 1～5	安斎 育郎 文	新日本出版社	2004
	310 い 3	いのちを学ぼう平和学習実践集 3		汐文社	2002
	310 え 1～6	ヒロシマの心 [1]～6	HPS国際ボランティア 企画・構成	HPS国際ボランティア	2018～2023
	310 え	御霊への誓い	HPS国際ボランティア (ほか) [編]	HPS国際ボランティア	2017
	310 え	絵で見てわかる核兵器禁止条約ってなんだろう？		旬報社	2021
	310 さ	ヒロシマのいのち	指田 和 著	文研出版	2017
	310 さ	ヒロシマここより永遠に	佐藤 廣枝 企画 佐藤 菜笑 編 佐藤 太紀 編 スティーブン・リーパー 英訳	HPS国際ボランティア	2015
	310 さ	ようきんさった原爆ドームは語る	佐藤 廣枝 企画 佐藤 菜笑 編 スティーブン・リーパー 英訳	HPS国際ボランティア	2014
	310 さ	生まれかわるヒロシマの折り鶴	佐藤 真澄 著	汐文社	2023
	310 さ	ヒロシマをのこす	佐藤 真澄 著	汐文社	2018
	310 す 1・2	こんなに恐ろしい核兵器 1・2	鈴木 達治郎 著 光岡 華子 著	ゆまに書房	2018～2019
	310 セ	戦争体験を「語り」・「継ぐ」		学研プラス	2018
	310 そ	青い地球はぼくたちのもの	創価学会婦人平和委員会 編	第三文明社	1986
	310 そ	ヒロシマ「平和への出発」	創価学会婦人平和委員会 編	第三文明社	1987
	310 ち	ひろしま国	中国新聞社 編	明石書店	2009
	310 ち	原爆ドーム物語	汐文社編集部 編	汐文社	1990
	310 と	「原爆の子の像」と「折鶴」	豊田 清史 著	火幻社	2003
	310 ひ	長崎原爆資料館	ピースウイング長崎 (長崎平和推進協会) 編	長崎平和推進協会	2000
	310 ひ	平和記念資料館学習ハンドブック	広島平和記念資料館 [著]	広島平和記念資料館	2001
	310 ふ	アオギリのいのち	藤井 健太郎 文 秦 さやか 絵	三恵社	2019
	310 ヘ	広島修学旅行ハンドブック	平和・国際教育研究会 編	平和文化	1999
	310 ヘ	広島修学旅行ハンドブック	平和・国際教育研究会 編	平和文化	2006
	310 ま	翼のヒロシマ	町田 樹生 文・絵	飛鳥出版室 (制作)	2011
	310 み	奇跡はつばさに乗って	源 和子 著	講談社	2013
	310 ゆ	平和のバトン	弓狩 匡純 著	くもん出版	2019
	310 よ	聞かせて、おじいちゃん	横田 明子 著	国土社	2021
	310 ろ	たった一発の爆弾でヒロシマ20万人、ナガサキ10万人が死んだ。	労働教育センター編集部 編	労働教育センター	2011
	320 し 2	シリーズ国連 2	半田 博 著 蔵元 幸二 著	リブリオ出版	1993
	320 れ 1	シリーズ憲法9条 第1巻	歴史教育者協議会 編	汐文社	2006
	370 う	君と感動の日々を	上田 精一 著	民衆社	1985
	370 お	歩いて見てほしいひろしま原爆の木たち	大川 悦生 著	たかの書房	1995

内容	請求記号	書名	著者名	出版者	出版年
ノ ン フ イ ク シ ヨ ン	370 け	似島	原水爆禁止似島少年少女のつどい実行委員会 編	一粒の麦社	2012
	370 し	ひろしま	小学校平和教育教材編集委員会 編 広島県原爆被爆教師の会 編	広島平和教育研究所 出版部	1970 (ほか)
	390 に	せんそう	日本作文の会 編	岩崎書店	1991
	430 お	火ははたらく	大竹 三郎 著	大日本図書	1987
	490 に 5	日本人いのちと健康の歴史 5	加藤 文三 編 名原 壽子 編 石井 勉 絵	汐文社	1991
	490 に 5	日本人いのちと健康の歴史 5	加藤 文三 編 名原 壽子 編 石井 勉 絵	汐文社	2008
	510 ち 7	地球の環境問題シリーズ 7	伊東 壮 編	ポプラ社	1991
	530 い	核はほんとうに安全か?	伊東 壮 著	ポプラ社	1990
	530 け	原子力がわかる事典		PHP研究所	2012
	530 け	原子力のことがわかる本		数研出版	2003
	530 た	核災害からの復興	高田 純 著	医療科学社	2005
	550 な	絵で読む広島原爆	那須 正幹 文 西村 繁男 絵	福音館書店	1995
	550 ひ	原爆一見えない放射線の被害	広島平和記念資料館 著	広島平和記念資料館	2000
	550 へ	あの日、広島と長崎で	平和博物館を創る会 編	平和のアトリエ	1994
	550 N	HIROSHIMA	Masamoto Nasu 文 Shigeo Nishimura 絵 Joanna King 訳 Yuki Tanaka 訳	Fukuinkan Shoten	1998
	650 い	広島の木に会いに行く	石田 優子 著	偕成社	2015
	700 し 5	修学旅行で行ってみたい日本の世界遺産 5	本田 純 著 小松 亮一 著 清野 賢司 著	岩崎書店	2007
	700 し 5	修学旅行で行ってみたい日本の世界遺産 5	本田 純 著 小松 亮一 著 清野 賢司 著	岩崎書店	2014
	700 セ 6	世界に誇る日本の世界遺産 6	吉田 忠正 文	ポプラ社	2014
	700 に	日本の世界遺産		朝日新聞出版	2016
	720 く	平和をねがう「原爆の図」	楠木 しげお 作 くまがい まちこ 絵	銀の鈴社	2012
	720 け	原爆の図 HIROSHIMA		童心社	1977
	720 ま	原爆の図	丸木 位里 共同制作 丸木 俊 共同制作	丸木美術館	1983
	720 ま	原爆の図	丸木 位里 共同制作 丸木 俊 共同制作	丸木美術館	1988
	720 ま	原爆の図	丸木 位里 共同制作 丸木 俊 共同制作	小峰書店	2000
	726 な	はだしのゲンわたしの遺書	中沢 啓治 著	朝日学生新聞社	2012
	726 ま	漫画から学ぶ生きる力		ほるぷ出版	2016
	740 つ	ヒロシマ1945～1979	土田 ヒロミ 著	朝日ソノラマ	1979
	770 い	少年口伝隊一九四五	井上 ひさし 著	講談社	2013
	770 き	ゲン in ヒロシマ	中沢 啓治 原作 木島 恭 脚本・詞	講談社	1999
	800 ふ 2	チャレンジ! キッズスピーチ 2	フリー・ザ・チルドレン・ジャパン 編	大月書店	2015

内容	請求記号	書名	著者名	出版者	出版年
ノ ン フ ィ ク シ ヨ ン	816 け	広島平和の親子バスツアー感想文集	原水爆禁止加古川市協議会 編	原水爆禁止加古川市協議会	1993
	816 に 1	子どもの作文で綴る戦後50年 1	日本作文の会 編	大月書店	1995
	816 に 11	子どもの作文で綴る戦後50年 11	日本作文の会 編	大月書店	1995
	816 に	たのしい観察記録の作文5年生	日本作文の会 編	小峰書店	1993
	816 ん 15	平和を考える小中学生作文集 第15集	沼津市財務部 [編]	沼津市財務部	2004
	816 ひ	広島・長崎市児童生徒平和のつどい感想文集	広島・長崎市児童生徒平和のつどい実行委員会 [編]	広島・長崎市児童生徒平和のつどい実行委員会	2003 2004 2005
	816 へ 12	こども平和文集 十二号	平和協会・児童部 [編]	平和協会	1996
	914 な	ぼくと兄の日章旗	中野 孝次 著	ポプラ社	1995
	914 な	夕焼けの子どもたち	那須 正幹 著	岩崎書店	1990
	916 あ	ぼくの戦争	秋山 勝彦 著 加茂 礼子 絵	ウインかもがわ	2004
	916 あ	初めて知った戦争	秋山 正美 編	日本図書センター	1993
	916 あ	一人ぼっちの焼けあと	秋山 正美 編	日本図書センター	1993
	916 あ	よみがえるふるさと	秋山 正美 編	日本図書センター	1993
	916 い	いのちが未来をもてるように	松谷 みよ子 構成・文 杉野 孝典 撮影	日本生活協同組合連合会	1986
	916 う	原爆の図物語	宇佐美 承 作 丸木 位里 絵 丸木 俊 絵	小峰書店	1985
	916 う	ルルの家の絵かきさん	宇佐美 承 著 丸木 位里 絵 丸木 俊 絵	偕成社	1978
	916 う	折り鶴は世界にはばたいた	うみの しほ 作 高田 三郎 絵	PHP研究所	1998
	916 お	広島・長崎からの伝言	大川 悦生 編著	岩崎書店	1990
	916 お	想い出のサダコ	大倉 記代 文 夜川 けんたろう 絵	よも出版	2005
	916 お	想い出のサダコ	大倉 記代 著 宮本 慶子 訳 スティーブン・リーパー 監訳 夜川 けんたろう 絵	IBCパブリッシング	2015
	916 お	ヒロシマ語り部の歌	大野 允子 作 四国 五郎 絵	汐文社	1999
	916 お	おおきなまちのちいさいはなし	大平 泰 編著	大平泰	2019
	916 お	わたしがちいさかったときに	長田 新 (ほか) 編 岩崎 ちひろ 画	童心社	1967
	916 お	わたしがちいさかったときに	長田 新 (ほか) 編 岩崎 ちひろ 画	童心社	1989
	916 お	わたしがちいさかったときに	長田 新 (ほか) 編 岩崎 ちひろ 画	童心社	1994
	916 か	マレーシアの語り人	かつお きんや 作 北島 新平 絵	汐文社	1985
	916 か 3	戦後50年学童疎開の子どもたち 第3巻	嘉藤 長二郎 編 小林 奎介 編 ゲン・クリエイティブ 編	汐文社	1995
	916 く	燃える日本列島	来栖 良夫 編 古田 足日 編 堀尾 青史 編 永井 潔 え	童心社	1969

内容	請求記号	書名	著者名	出版者	出版年
ノ ン フ ィ ク シ ヨ ン	916 く	燃える日本列島	来栖 良夫 編 古田 足日 編 堀尾 青史 編 永井 潔 え	童心社	1985
	916 こ	ヒロシマ心の旅路	児玉 辰春 著 村井 宗二 画	岩崎書店	1996
	916 こ	遠きヒロシマ	〔児玉 八重子 述〕 青木 幸子 著	牧歌舎	2014
	916 さ	禎子の千羽鶴	佐々木 雅弘 著	学研パブリッシング	2013
	916 そ	家族から見た「8・6」	創価学会広島青年部 編	第三文明社	2015
	916 そ	75－未来へつなぐヒロシマの心	創価学会広島青年部 編	第三文明社	2020
	916 つ	娘よ、ここが長崎です	筒井 茅乃 作 松岡 政春 写真 保田 孝 写真	くもん出版	1985
	916 つ	娘よ、ここが長崎です	筒井 茅乃 作 松岡 政春 写真 保田 孝 写真	くもん出版	2007
	916 と	あの日から生きて生きて	東京都原爆被害者団体協議会 編	汐文社	1986
	916 な	14歳の生涯	中本 昭（ほか） 作 浜田 桂子 絵	汐文社	1986
	916 な	折り鶴の子どもたち	那須 正幹 作 高田 三郎 絵	PHP研究所	1984
	916 に	明子さんのピアノとパルチコフ さんのヴァイオリン	西村 文 著 廣谷 明人 著 二口 とみゑ 著	ガリバープロダクツ	2023
	916 の	わたしが子どものころ戦争があった	野上 暁 編 神沢 利子（ほか） 著	理論社	2015
	916 は	ナガサキの空	畑島 喜久生 著 えさき みつたか 絵	らくだ出版	1986
	916 ひ	紙碑	広島原爆被爆者援護事業団 編	広島原爆被爆者援護事業団	2019
	916 ひ	紙碑 第4集～第8集	広島原爆被爆者援護事業団 編	広島原爆被爆者援護事業団	1995～ 2020
	916 ひ	いしぶみ	広島テレビ放送 編	ポプラ社	1970
	916 ひ	いしぶみ	広島テレビ放送 編	ポプラ社	1983
	916 ひ	いしぶみ	広島テレビ放送 編	ポプラ社	2005
	916 ひ	いしぶみ	広島テレビ放送 編	ポプラ社	2009
	916 ひ	いしぶみ	広島テレビ放送 編	ポプラ社	2015
	916 ふ	緑のドクター	藤崎 康夫 作 根岸 佐千子 写真	くもん出版	1988
	916 も	自由と平和	森本 マリア 作・絵 ナンシー・H・ロス 訳	吉備人出版	2023
	916 や	海をわたる被爆ピアノ	矢川 光則 著	講談社	2010
	916 や	原爆の火の長い旅	山口 勇子 著	新日本出版社	1991
	916 や	ひろしま	山田 達磨 著	D-create	2015
	916 や	ナガサキに翔ぶ	山脇 あさ子 著	新日本出版社	1996
	916 よ	平和の芽	横山 秀夫 著	講談社	1995
	916 よ	ぼくは満員電車で原爆を浴びた	米澤 鐵志 語り 由井 りょう子 文	小学館	2013
	916 よ 6	読む知る話すほんとうにあった お話 6年生		講談社	2013

内容	請求記号	書名	著者名	出版者	出版年
ノンフィクション	916 わ	長崎を忘れない	渡辺 千恵子 作 東本 つね 絵	草土文化	1980
	916 H	ISHIBUMI	Hiroshima Television Corporation 編 Yasuko Claremont 訳 Roman Rosenbaum 訳	POPLAR Publishing	2016
	916 N	CHILDREN OF THE PAPER CRANE	Masamoto Nasu 著 Elizabeth W. Baldwin (ほか) 訳	M. E. Sharpe	1991
	918 か	原爆の子の像	川野 登美子 著	文化評論	2013
詩歌	908 か 9	戦争と人間	川崎 洋 編 梅田 俊作 絵	岩崎書店	1997
	908 た 5	ヒロシマの空	立原 えりか 編 牧野 鈴子 絵	太平出版社	1984
	908 た 6	いのり	立原 えりか 編 島田 勝吾 絵	太平出版社	1985
	911 い	挨拶 ―原爆の写真によせて	石垣 りん 著 伊藤 英治 編	岩崎書店	2009
	911 え	水辺の祈り	えの ゆずる 作 向井 康子 絵	大日本図書	1989
	911 え 10	日本の詩 10	遠藤 豊吉 編・著	小峰書店	1978
	911 え 10	日本の詩 10	遠藤 豊吉 編・著	小峰書店	2016
	911 お	少年のひろしま	大平 数子 作 竹本 三郎 絵	草土文化	1981
	911 し 12	小学生・詩のくにへ 12	新川 和江 編 安藤 ひろみ 絵	太平出版社	1988
	911 ひ	原子雲の下より	被爆実態調査会 編	亜紀書房	1989
	911 ま	あおい空に	松永 伍一 編 いわさき ちひろ 画	童心社	1996
	911 み	教室でよみたい詩12か月 小学校5・6年	水内 喜久雄 編著	民衆社	1995
	911 よ	空になった少年	シゲミ・ヨシダ 詩 長 新太 画	岩崎書店	1995
	911 わ	菩提樹とさるすべりの花	わらび さぶろう 詩 藤田 健次 切り絵	らくだ出版	2003



中学生から

内容	請求記号	書名	著者名	出版者	出版年
紙芝居	P	夏の花	原 民喜 原作 竹原 陽子 制作	のびる文庫	2015
絵本	こ	母と暮せば	山田 洋次 文 森本 千絵 絵	講談社	2015
	03 L	My Story	Naomi Nakagoshi 編	Living Pages Publishing	2018
フ イ ク シ ヨ ン	726 に	夏の残像	西岡 由香 著	凱風社	2008
	726 に	八月九日のサンタクロース	西岡 由香 マンガと文	凱風社	2010
	908 セ	夏の花	成城国文学会 編	ポプラ社	1984
	913 あ	おかあちゃんがほしい	梓 加依 著	素人社	2018
	913 い	野の花は生きる	いぬい とみこ 文 司 修 画	童心社	1972
	913 お	海に立つにじ	大野 允子 著	講談社	1965
	913 お	消えていく詩	大野 允子 作 織茂 恭子 画	ポプラ社	1976
	913 お	ひーちゃんはいった	大野 允子 著	ポプラ社	1977
	913 お	ひーちゃんはいった	大野 允子 著	ポプラ社	1984
	913 お	ピラミッド帽子よ、さようなら	乙骨 淑子 作 長谷川 集平 絵	理論社	1981
	913 お	ピラミッド帽子よ、さようなら	乙骨 淑子 作 長谷川 集平 絵	理論社	2010
	913 お	ピラミッド帽子よ、さようなら	乙骨 淑子 作 長谷川 集平 絵	理論社	2017
	913 か	脱走者たち	片山 昌造 作 いいの としお え	理論社	1973
	913 く	八月の光	朽木 祥 作	偕成社	2012
	913 く	八月の光	朽木 祥 作	小学館	2017
	913 く	八月の光・あとかた	朽木 祥 著	小学館	2015
	913 く	パンに書かれた言葉	朽木 祥 作	小学館	2022
	913 く	光のうつしえ	朽木 祥 作	講談社	2013
	913 こ	ある晴れた夏の朝	小手鞠 るい 著	偕成社	2018
	913 こ	おかあさんの被爆ピアノ	五藤 利弘 著	講談社	2020
	913 し	48色の夢のクレヨン	重藤静美マナーレ 著 佐藤 綾子 編集	池田出版	2013
	913 し	48色の夢のクレヨン	重藤マナーレ静美 著 佐藤 綾子 編集	池田出版	2015
	913 し	夢のクレヨン希望にのって	重藤静美マナーレ 著	文芸出版	2019
	913 な	もうひとつのヒロシマ	仲里 三津治 著	講談社	2008
	913 な	あなたがいたところ	中澤 晶子 作 ささめや ゆき 絵	汐文社	2021
	913 な	いつものところで	中澤 晶子 作 ささめや ゆき 絵	汐文社	2023
	913 な	ワタシゴト	中澤 晶子 作 ささめや ゆき 絵	汐文社	2020
	913 な 1～3	ヒロシマ 1～3	那須 正幹 作 長谷川 知子 装画	ポプラ社	2011
	913 な 1～3	ヒロシマ1949・1960・1977	那須 正幹 作 長谷川 知子 装画	ポプラ社	2015
	913 に 1～3	お菓子放浪記 [正]・続・完結	西村 滋 作 八木 康夫 絵 西村 滋 作 朝倉 美恵子 絵 西村 滋 作 武藤 セイ子 画	理論社	1976 1994 2003

内容	請求記号	書名	著者名	出版者	出版年
フ ィ ク シ ヨ ン	913 に 1	お菓子放浪記 [正]	西村 滋 作 八木 康夫 絵	理論社	1994
	913 は	友よ・夏の花・原爆詩	林 京子 (ほか) 著	金の星社	1985
	913 ま	わたくし、始まる	松尾 静明 著	三宝社	2022
	913 や	カモメの家	山下 明生 作 宇野 亜喜良 絵	理論社	1991
	913 や	二年2組はヒヨコのクラス	山下 夕美子 作 長 新太 え	理論社	1968
	913 や	二年2組はヒヨコのクラス	山下 夕美子 作 長 新太 絵	理論社	1983
	913 や	二年2組はヒヨコのクラス	山下 夕美子 作 長 新太 画	理論社	1990
	913 や	赤毛のポチ	山中 恒 作 しらい みのもる 絵	理論社	1969
	913 K	On A Bright Summer Morning	Rui Kodemari 著 Guren Sariban 訳	KAISEI-SHA	2021
	933 か	ハナコの愛したふたつの国	シンシア・カドハタ 作 もりうち すみこ 訳	小学館	2020
	933 す	弟を地に埋めて	ロバート・スウィンデルズ 作 斉藤 健一 訳	福武書店	1988
	933 は	ヒロシマから帰った兄	マリアン・D・バウアー 著 久米 穰 訳	佑学社	1992
	933 ろ	On the horizon 水平線のかたに	ロイス・ローリー 著 田中 奈津子 訳 ケナード・パーク 画	講談社	2023
ノ ン フ ィ ク シ ヨ ン	019 か	中学生の読書のために	川口 昭三 著	民衆社	1989
	019 セ	平和を考える絵本	全国学校図書館協議会ブック・リスト委員会 編	全国学校図書館協議会	1992
	020 き	きみには関係ないことか	京都家庭文庫地域文庫連絡会戦争を考えるための子どもの本リスト編集委員会 (ほか) 編	京都家庭文庫 地域文庫連絡会	1984 1991
	020 き	きみには関係ないことか	京都家庭文庫地域文庫連絡会 編	かもがわ出版	1997 2004 2011
	200 に 1・2	広島のいしぶみはみつめる 第1集・第2集	西尾 隆昌 [編]	西尾隆昌	1982 2000
	200 は	恐ろしい本	長谷川 四郎 著	筑摩書房	1970
	209 あ 1	子どもにつたえる世界の戦争と平和 1	荒井 信一 (ほか) 編	日本図書センター	1995
	209 し 2	人類の歴史を変えた8つのできごと 2	眞 淳平 著	岩波書店	2012
	210 あ	母と子でみる広島・長崎	朝日新聞企画部 編	草土文化	1983
	210 う	ヒロシマ散歩	植野 浩 著	汐文社	1997
	210 え	1941年12月8日	江口 圭一 著	岩波書店	1991
	210 か	九州史跡見学	川添 昭二 著	岩波書店	1989
	210 く	原爆写真 ノーモアヒロシマ・ナガサキ	黒古 一夫 編 清水 博義 編 James Dorsey 訳	日本図書センター	2005
	210 こ	長崎原爆写真集	小松 健一 編 新藤 健一 編	勉誠出版	2015
	210 こ	広島原爆写真集	小松 健一 編 新藤 健一 編	勉誠出版	2015
	210 そ	加害基地宇品	空 辰男 著	汐文社	1994

内容	請求記号	書名	著者名	出版者	出版年
ノ ン フ イ ク シ ヨ ン	210 ち	ヒロシマの空白	中国新聞社報道センターヒロシマ 平和メディアセンター 著	中国新聞社	2021
	210 て 1	綾瀬はるか「戦争」を聞く 〔Ⅰ〕	TBSテレビ『NEWS23』取材班 編	岩波書店	2013
	210 て 2	綾瀬はるか「戦争」を聞く Ⅱ	TBSテレビ『NEWS23』取材班 編	岩波書店	2016
	210 に	AIとカラー化した写真でよみがえる戦前・戦争	庭田 杏珠 著 渡邊 英徳 著	光文社	2020
	210 は	爆心地ヒロシマに入る	林 重男 著	岩波書店	1992
	210 は	母と子でみる原爆を撮った男たち	反核・写真運動 編	草の根出版会	1987
	210 ひ	爆心直下の町ー細工町・猿楽町	広島平和記念資料館学芸課 〔編〕	広島平和記念資料館学芸課	2022
	210 む	20世紀を一緒に歩いてみないか	村上 義雄 著	岩波書店	2001
	210 も	遺品は語る	森下 一徹 写真 深沢 一夫 文	汐文社	1982
	210 や	日本の戦跡を見る	安島 太佳由 著	岩波書店	2003
	210 H	Neighborhoods Directly Beneath the Ceter of Explosion: Saiku-machi and Sarugaku-cho	Hiroshima Peace Memorial Museum 〔編〕	Hiroshima Peace Memorial Museum	2022
	250 え	アメリカ	槐 一男 著	岩崎書店	1990
	250 す 2	語られなかったアメリカ史 2	オリバー・ストーン 著 ピーター・カズニック 著 S・C・バートレット 編著 鳥見 真生 訳	あすなろ書房	2016
	250 す 3	語られなかったアメリカ史 3	オリバー・ストーン 著 ピーター・カズニック 著 エリック・シンガー 編著 鳥見 真生 訳	あすなろ書房	2020
	280 た	ヒロシマツインズ	高橋 文子 著	展望社	2022
	280 た	最後の手紙	立川 昭二 著	筑摩書房	1990
	280 な	名もなき人びとの伝記	永井 萌二 著	大日本図書	1971
	281 さ	忘れないで8月6日	佐々木 和子 著	佐々木真	2019
	281 な	オヤジがライバルだった	中里 喜昭 著	筑摩書房	1984
	281 は	ヒロシマに生きて	原田 東岷 著	草の根出版会	1999
	291 け	ガイドブック ヒロシマ	原爆遺跡保存運動懇談会 編	新日本出版社	1996
	291 た	ヒロシマの碑 ^{いしづみ}	宅和 純 著 広島県教職員組合 編 広島平和教育研究所 編	広島県教育用品	1996
	291 は	長崎	原田 博二 著	岩波書店	2006
	291 ひ	慰霊碑解説のしおり〈抜粋〉	被爆体験証言者グループ 編	被爆体験証言者グループ	〔出版年不明〕
	291 ひ	ヒロシマの旅	広島県歴史教育者協議会（ほか） 編	平和文化	1983
	291 ひ	一瞬に消え去った爆心の町	広島平和記念資料館 〔編〕	広島平和記念資料館	2001
	291 ひ	ひろしま碑・遺跡・平和あんない	広島平和教育研究所 編 広島県原爆被爆教職員の会 編	広島平和教育研究所	1984
	300 こ	ヒロシマ読本	小堺 吉光 著 広島平和文化センター 編	広島平和文化センター	1978
	300 こ	ヒロシマ読本	小堺 吉光 著 広島平和文化センター 編	広島平和文化センター	2023
	300 K	HIROSHIMA PEACE READER	Yoshiteru Kosakai 著 Akira Tashiro（ほか） 訳	Hiroshima Peace Culture Foundation	2023
	310 あ	ヒロシマ、顔〔1〕～〔3〕	ANT-Hiroshima 編 石河 真理 写真 後藤 三歌 文	ANT-Hiroshima	2020

内容	請求記号	書名	著者名	出版者	出版年
ノ ン フ イ ク シ ヨ ン	310 か	14歳のヒロシマ	梶本 淑子 著	河出書房新社	2023
	310 か	核兵器はなくせる	川崎 哲 著	岩波書店	2018
	310 か	僕の仕事は、世界を平和にすること。	川崎 哲 著	旬報社	2023
	310 き	訪ねてみよう 戦争を学ぶ ミュージアム／メモリアル	〔記憶と表現〕研究会 著	岩波書店	2005
	310 く	猫ちゃんは帰らない	黒川 万千代 著	民衆社	1983
	310 け	ヒロシマの声を聞こう	「原爆碑・遺跡案内」編集委員会 〔編〕	「原爆碑・遺跡案内」編集委員会	1990
	310 け	ヒロシマの声を聞こう	「原爆碑・遺跡案内」刊行委員会 〔編〕	「原爆碑・遺跡案内」刊行委員会	2012
	310 こ	広島復興の歩み	国際平和拠点ひろしま構想推進 連携事業実行委員会 編	国際平和拠点ひろしま構想 推進連携事業実行委員会	2015
	310 こ	ヒロシマは世界をむすぶ	小島 昌世 著	ポプラ社	1999
	310 さ	折り鶴に出会った子どもたち	三省堂 編	三省堂	2003
	310 し	ピース・アニメを創る	ミホ・シボ 著	かもがわ出版	1993
	310 せ	せこへい	世界の子どもの平和像を広島につくる会 編	部落問題研究所	2002
	310 せ 6	世界の「戦争と平和」博物館 第6巻	草の根出版会 編	日本図書センター	1997
	310 た	ヒロシマ、ナガサキ、フクシマ	田口 ランディ 著	筑摩書房	2011
	310 ち	ユネスコ世界遺産原爆ドーム	中国新聞社 編	中国新聞社	1997
	310 と	はばたけ千羽鶴	豊田 清史 著	筑摩書房	1982
	310 な	ナガサキー1945年8月9日	長崎総合科学大学平和文化研究所 編	岩波書店	1984
	310 な	ナガサキー1945年8月9日	長崎総合科学大学平和文化研究所 編	岩波書店	1995
	310 な	明子のピアノ	中村 真人 著	岩波書店	2020
	310 な	妹たちへの手紙	中山 千夏 著	国土社	1984
	310 に	広島・被爆ハマユウの祈り	西村 一郎 著	同時代社	2020
	310 に	原爆の絵	NHK長崎放送局 編	日本放送出版協会	2003
	310 に	原爆の絵	NHK広島放送局 編	日本放送出版協会	2003
	310 に	サダコ	NHK広島「核・平和」プロジェクト 著	日本放送出版協会	2000
	310 の	「ノーモアヒロシマ」伝えていこう！平和	ユニプラン編集部 編	ユニプラン	2020
	310 は	ノーモア核兵器	服部 学 編著 高田 藤三郎 イラスト	草土文化	1983
	310 ひ	原水爆とのたたかい	日高 六郎 著	国土社	1963
	310 ひ	希望のヒロシマ	平岡 敬 著	岩波書店	1996
	310 ひ	被爆アオギリと生きる	広岩 近広 著	岩波書店	2013
	310 ひ	原爆モニュメント物語	広島県歴史教育者協議会 編著	平和文化	1984
	310 ひ	原爆死没者慰霊式典の記録	広島市 〔編〕	広島市	2016
	310 ひ	世界遺産原爆ドーム	広島市市民局平和推進室 編 広島平和文化センター 編	広島市市民局	1997
	310 ひ	オバマ大統領がヒロシマを訪れた日	広島テレビ放送 編	ポプラ社	2016
	310 ひ	ヒロシマを世界に	広島平和記念資料館 編	広島平和記念資料館	1999
	310 ひ	「平和宣言」を読む	広島平和記念資料館（ほか） 編	広島平和記念資料館（ほか）	1994 （ほか）
	310 ひ	ヒロシマ平和宣言集〔1947～2015〕		トーク出版	2015
	310 ひ	平和一国家・核・教育	広島平和文化センター 編	広島平和文化センター	1989
	310 ふ	長崎原爆絵巻 崎陽のあらし	深水 経孝 作 人吉高校英語研究会 編	草の根出版会	2003
	310 ふ	原爆ドーム再生の奇跡	古川 修文 著	南々社	2022
	310 ま	広島長崎修学旅行案内	松元 寛 著	岩波書店	1982

内容	請求記号	書名	著者名	出版者	出版年
ノ ン フ イ ク シ ヨ ン	310 ま	広島長崎修学旅行案内	松元 寛 著	岩波書店	1998
	310 も	ヒロシマの子	森下 弘 (ほか) 編著	平和文化	1983
	310 も	Do You Know Sadako?	守屋 敦子 著	よも出版	2002
	310 や	原爆瓦	山口 勇子 著	平和文化	1982
	310 や	ぼくのピース・メッセージ	山本 コウタロー 著	岩波書店	1990
	310 れ	平和博物館・戦争資料館ガイドブック	歴史教育者協議会 編	青木書店	2004
	310 わ	15歳のナガサキ原爆	渡辺 浩 著	岩波書店	2002
	310 H	Hiroshima's Path to Reconstruction	“Hiroshima for Global Peace” Plan Joint Project Executive Committee 編 Hiroshima Prefecture and The City of Hiroshima [編]	“Hiroshima for Global Peace” Plan Joint Project Executive Committee	2015
	360 い	ヒロシマを持ちかえった人々	市場 淳子 著	凱風社	2000
	360 い	ヒロシマを持ちかえった人々	市場 淳子 著	凱風社	2005
	360 く	被爆者たちの戦後50年	栗原 淑江 [著]	岩波書店	1995
	369 と	キノコ雲に追われて	ロバート・トランプル 著 吉井 知代子 訳	あすなろ書房	2010
	369 ひ	ヒロシマから「内部被ばく」と歩んで	肥田 舜太郎 著	クレヨンハウス	2012
	370 い	中学生の春夏秋冬	石川 逸子 著	岩波書店	1984
	370 い	高校生の正しい夏	岩波書店編集部 編	岩波書店	1989
	370 う	学校演劇で平和を学ぶ	上田 精一 著	草の根出版会	2004
	370 こ 1	中学生のための「総合」アイデアBOOK 1	滝口 正樹 著 こどもくらぶ 編	ポプラ社	2001
	370 こ	原爆碑を洗う中学生	小林 文男 著	草の根出版会	2005
	370 さ	原爆は終わっていない	埼玉県立朝霞高等学校一年二組 著	埼玉県立朝霞高等学校一年二組	1990
	370 さ	ヒロシマ希望の未来	澤野 重男 著	平和文化	2010
	370 ひ	ひろしま	広島県平和教育教材編集委員会 編 広島県原爆被爆教師の会 編	広島平和教育研究所出版部	1969 (ほか)
	370 ひ	ヒロシマは語る	「ヒロシマは語る」刊行委員会 編 河野 通宏 著 宮本 幸晴 写真 原 広司 挿絵	広島県原爆被害者団体協議会	1997
	370 ひ	ひろしま	広島平和教育研究所 編	広島平和教育研究所出版部	1977 (ほか)
	370 ひ	ひろしま	広島平和教育研究所 編	広島平和教育研究所出版部	1986
	390 ふ	戦争がやってくる	藤井 治夫 著	筑摩書房	1991
	490 い	広島・長崎でなにが起ったのか	飯島 宗一 著	岩波書店	1982
	490 か	広島のおばあちゃん 過去 現在 未来	鎌田 七男 著	鎌田七男シフトプロジェクト	2005
	520 ひ	ヒロシマの被爆建造物は語る	被爆建造物調査研究会 編	広島平和記念資料館	1996
	520 ひ	原爆ドーム100年の記憶	広島市平和記念資料館 編	広島平和文化センター 平和記念資料館	2015
	540 こ	子どもたちに伝えたい 一原発が許されない理由	小出 裕章 著	東邦出版	2011
	540 ひ	チェルノブイリから広島へ	広河 隆一 著	岩波書店	1995
	540 や	ハンドブック 原発事故と放射能	山口 幸夫 著	岩波書店	2012
	550 に	原爆の実相を語りつぐ 被爆者からの伝言	日本原水爆被害者団体協議会 編	あけび書房	1995
	650 に	被爆七〇年・西区の被爆樹・ 被爆遺跡・被爆建物	西区被爆フィールドワークの会 編	西区被爆フィールド ワークの会	2015
	650 ひ	沈黙を聴く	広島東南ロータリークラブ [編]	広島東南ロータリークラブ	2020

内容	請求記号	書名	著者名	出版者	出版年
ノ ン フ イ ク シ ヨ ン	680 に	被爆電車に乗って1945年を語る	2000+7・平和 〔編〕	2000+7・平和	2016
	680 ひ	被爆電車75年の旅		ザメディアジョンプレス	2017
	690 く	私はニュースキャスター	久和 ひとみ 著	岩波書店	1989
	690 け	原爆投下時の電信電話		西日本電信電話株式会社広島支店	2020
	720 な	「原爆の絵」と出会う	直野 章子 著	岩波書店	2004
	720 ひ	平和への祈り	平山 郁夫 著	毎日新聞社	1998
	720 ひ	次世代と描く原爆の絵	広島市立基町高等学校 〔編〕	広島市立基町高等学校	2018 2022
	720 ひ	原爆の絵	広島平和記念資料館 編	岩波書店	2007
	720 ま	『はだしのゲン』を英語で読む	毎日文化センター広島 編	毎日新聞社	2013
	720 も	消えた町 記憶をたどり	森富 茂雄 絵と証言 ヒロシマ・フィールドワーク実行委員会 編	ヒロシマ・フィールド ワーク実行委員会	2011
	720 や 1・2	あしたきらきら No.1・No.2	伊藤 眞理子 詩 山崎 盛夫 絵 HIP（平和のためのヒロシマ通 訳者グループ） 翻訳	スニッフル	1994
	720 H	Atomic Bomb Drawings	Hiroshima Municipal Motomachi Senior High School 〔編〕	Hiroshima Municipal Motomachi Senior High School	2018 2023
	720 M	DISAPPEARED TOWNS, TRACING MEMORIES	Shigeo Moritomi 絵と証言 Luli van der Does 英訳 HIROSHIMA Fieldwork Committee 編	HIROSHIMA Fieldwork Committee	2020
	726 け	『ピカドン』とその時代	原爆の図丸木美術館 編 岡村 幸宣（ほか） 著	琥珀書房	2023
	726 な	はだしのゲン自伝	中沢 啓治 著	教育史料出版会	1994
	726 ま	ピカドン	丸木 位里 絵・文 赤松 俊子 絵・文 原爆の図丸木美術館 編	琥珀書房	2023
	740 い	ひろしま	石内 都 著	集英社	2008
	740 い	Fromひろしま	石内 都 著	求龍堂	2014
	740 け	ヒロシマ・ナガサキ	現代出版編集部 編	現代出版	1982
	740 に	空から地下を探るには？	西尾 元充 著	筑摩書房	1988
	740 ひ	ひろしま	広島県原爆被爆教職員の会 編	広島平和教育研究所	1984
	750 て	原爆ヒロシマ	寺尾 知文 著	光人社	1982
	770 く	私の戦争	黒木 和雄 著	岩波書店	2004
	778 か	核のない21世紀を	片桐 直樹 原案 田中館 哲彦 構成	汐文社	2001
	816 ふ	子どもたちの見たヒロシマ	文沢 隆一 編	汐文社	1982
	908 い	ぼくの町は「戦場」だった	BBCイギリス放送協会 編 山中 恒 訳	平凡社	1990
	908 へ	戦争は終わった	ハインリッヒ・ベル（ほか） 著 好村 富士彦 編訳	ほるぷ出版	1988
	916 あ	子どものころ戦争があった	あかね書房 編	あかね書房	1974
	916 あ	わたしの8月15日	あかね書房 編	あかね書房	1975
	916 あ	ひかりのたね	天野 文子 記 小野 和子 編	汐文社	1992
	916 あ	サヨナラはお乳の匂い	荒木 正夫 著 村上 新一郎 絵	あらき書店	1988
	916 い	わたしの少女時代	池田 理代子（ほか） 著	岩波書店	1979
	916 い	1945年8月6日	伊東 壮 著	岩波書店	1979

内容	請求記号	書名	著者名	出版者	出版年
ノ ン フ イ ク シ ヨ ン	916 い	1945年8月6日	伊東 壮 著	岩波書店	1989
	916 お	ヒロシマ、遺された九冊の日記帳	大野 允子 著	ポプラ社	2005
	916 お	ヒロシマの雨はドームの涙	小川 利雄 編	教育出版センター	1975
	916 お	原爆の子	長田 新 編	岩波書店	1970
	916 お	原爆の子	長田 新 編	岩波書店	2010
	916 お	さよなら、先生	織井 青吾 著	ポプラ社	1982
	916 き 1・2	語り継ぐヒロシマ・ナガサキの心 上・下巻	京都「被爆2世・3世の会」 編	ウインかもがわ	2020～ 2021
	916 け	「原爆の子」をうけついで	『原爆の子』をうけつぐ会 編	原爆の子をうけつぐ会	2011
	916 け	『原爆の子』をうけついで	『原爆の子』をうけつぐ会 編	本の泉社	2012
	916 こ	ピカドンの青春	小井手 桂子 著	三修社	1985
	916 こ	悪魔の銀のサイコロ	国際平和教育研究会 編	教育出版センター	1975
	916 こ	地獄からの汽車	国際平和教育研究会 編	教育出版センター	1975
	916 こ 1～3	しまつてはいけない記憶 I～Ⅲ	国立広島原爆死没者追悼平和祈念館 編	国立広島原爆死没者 追悼平和祈念館	2015～ 2016
	916 し	きのご雲の下で	重高 ヨシコ 作	重高 ヨシコ	2005
	916 し	流光	修道中学・高等学校記念誌「流光」 編集委員会 編	修道中学・高等学校	1995
	916 し	集団疎開生活と原爆被災	正現寺疎開児童の会 編	正現寺疎開児童の会	2003
	916 セ	広島第二県女二年西組	関 千枝子 著	筑摩書房	1985
	916 セ	広島第二県女二年西組	関 千枝子 著	筑摩書房	1988
	916 た	さいごのトマト	竹本 成徳 著	日本生活協同組合連合会	2010
	916 つ	ヒロシマの証	土田 ヒロミ 写真 杉原 正文 兼口 芳成 文	岩波書店	1982
	916 な	太陽が消えたあの日	長崎放送報道部 編	童心社	1972
	916 な	はだしのゲンはピカドンを忘れない	中沢 啓治 著	岩波書店	1982
	916 な	はだしのゲンはヒロシマを忘れない	中沢 啓治 著	岩波書店	2008
	916 に	原爆体験記	西村 利信 著	小野英子・岡崎弥保	2018
	916 に	あの日…	日本原水爆被害者団体協議会 編	新日本出版社	1995
	916 に	神の子たち	日本児童文学者協会 編 日本子どもを守る会 編	草土文化	1979
	916 に	原爆予告をきいた	日本児童文学者協会 編 日本子どもを守る会 編	草土文化	1983
	916 に	こつつぽ 骨壺	日本児童文学者協会 編 日本子どもを守る会 編	草土文化	1979
	916 に	碑めぐり研修録	日本大学第二中学校 〔編〕	日本大学第二学園日本大 学第二中学校第3学年	2003
	916 は	少女・十四歳の原爆体験記	橋爪 文 著	高文研	2001
	916 は	少女・十四歳の原爆体験記	橋爪 文 著	高文研	2011
	916 は	オマールさんを訪ねる旅	早川 幸生 編	かもがわ出版	1994
	916 ひ	平和を祈る人たちへ	被爆60周年記念証言集編集委員会 編	広島女学院同窓会	2005
	916 ひ 1～5	遺言「ノー・モア・ヒロシマ」 第1集～第5集	ヒロシマ青空の会 編	ヒロシマ青空の会	2004 ～ 2008
	916 ひ	ああ麗しき太田川	広島県立広島工業高等学校同窓会 編	広島県立広島工業高等学校創立 100周年記念事業実行委員会	1997

内容	請求記号	書名	著者名	出版者	出版年
ノンフィクション	916 ひ	広島ろう学校被爆と疎開の記録	広島県立広島ろう学校平和教育資料編集委員会 〔編〕	広島県立広島ろう学校	1996
	916 ひ	夏雲	広島女学院教職員組合平和教育委員会 編	広島女学院教職員組合	2001
	916 ひ	証	広島市立高等女学校・広島市立舟入高等学校同窓会 〔編〕	広島市立高等女学校・広島市立舟入高等学校同窓会	2005
	916 ひ	証	広島市立高等女学校・広島市立舟入高等学校同窓会 〔編〕	広島市立高等女学校・広島市立舟入高等学校同窓会	2015
	916 ひ	原爆被爆者は訴える	広島平和文化センター 編	広島平和文化センター	1988
	916 や	かあさんと呼べた	山口 勇子 〔編〕	草土文化	1964
	916 や	かあさんと呼べた日	山口 勇子 著	草土文化	1978
	916 や	焼け跡に風が吹く	山福 康政 著	福音館書店	1995
	916 D	The Complete Story of Sadako Sasaki and the Thousand Paper Cranes	Sue Diccico 著 Masahiro Sasaki 著	ARMED WITH THE ARTS	2018
	916 D	The Complete Story of Sadako Sasaki and the Thousand Paper Cranes	Sue Diccico 著 Masahiro Sasaki 著	TUTTLE PUBLISHING	2020
	916 H	Appeals From The A-bomb Survivors	Hiroshima Peace Culture Foundation 編	Hiroshima Peace Culture Foundation	1990
	918 な 21	「戦争と平和」子ども文学館 別巻	長崎 源之助 編 今西 祐行 編 岩崎 京子 編 長谷川 潮 著	日本図書センター	1995
詩歌	986 お	アイオイ橋の人影	フセヴォロト・オフチニコフ 〔著〕 北畑 静子 訳	富山房	1974
	911 き	いま中学生とよみたい101の詩	木坂 涼 編 水内 喜久雄 編	民衆社	1999
	911 と	原子雲の下より	峠 三吉 編 山代 巴 編	青木書店	1970
	911 と	原爆詩集	峠 三吉 著	合同出版	1995
	911 と	詩集 にんげんをかえせ	峠 三吉 著 増岡 敏和 編	新日本出版社	1995
	911 な	夏の雲は忘れない	夏の会 編	大月書店	2020
	911 は	詩のわかる本 中学3年	畑島 喜久生 編	国土社	1997
	911 み	交響詩集ヒロシマ	水野 潤一 著	丸ノ内出版〔発売〕	1999
原爆関係図書目録	911 よ	第二楽章	吉永 小百合 編 アーサー・ビナード（ほか） 英訳 男鹿 和雄 画	スタジオジブリ	2015
	020 う	原爆手記掲載図書・雑誌総目録	宇吹 暁 編著	日外アソシエーツ	1999
	310 ふ	原爆文献大事典	文献情報研究所 編著	日本図書センター	2004

さ く い ん

あ

ああ麗しき太田川……………	169
アイオイ橋の人影……………	175
挨拶 ―原爆の写真によせて……………	176
愛する人へ……………	177
アイリーンのとうろう……………	63
アインシュタインと相対性理論……………	111
青い空……………	25
青い空がつながった……………	80
あおい空に……………	180
青い空ヒロシマ	
ぼくたち、わたしたちにできること……………	7
青い地球はぼくたちのもの……………	122
アオギリのいのち……………	128
アオギリのねがい……………	24
アオギリよ芽をだせ……………	44
赤い風よふけ……………	62
赤い靴はいた……………	31
赤いボタン……………	7
赤毛のポチ……………	84
証……………	170
暁の超特急……………	111
明子さんのピアノと	
パルチコフさんのヴァイオリン……………	166
明子のピアノ……………	124
悪魔の銀のサイコロ……………	159
アサガオ……………	29
朝の別れを……………	46
アジア・太平洋戦争……………	94
明日が来なかった子どもたち……………	69
あしたきらきら No.1・No.2……………	145
あしたの風……………	68
あしたへげんまん……………	66
あした、またね！……………	47
あなたがいたところ……………	71
あなたへ……………	47
あの海の波間に……………	39
あの子らの碑……………	60
あの戦争のなかにぼくもいた……………	39
あの夏の日……………	13
あの日……………	166
あの日から生きて生きて……………	163

あの日のこと

―戦争を読む・平和を考える19450809―……………	6
あの日のこと	
―ぼくの消えない記憶・1945.8.9―……………	166
あの日、ヒロシマで……………	33
あの日、広島と長崎で……………	140
あの日を、ぼくは忘れない……………	164
あの日を、わたしは忘れない……………	159
アメリカ……………	107
あやかし草子……………	72
綾瀬はるか「戦争」を聞く〔I〕・II……………	101
あやちゃんのひばくたいけん……………	165
あやと青い目の人形……………	80
歩いて見てほしいひろしま原爆の木たち……………	134
ある晴れた夏の朝……………	58
あるハンノキの話……………	41
ある日突然に……………	34

い

飯田くん……………	154
石のひとりごと ほか3篇……………	42
いしぶみ……………	170
いつか見た青い空 上・下……………	34
一瞬に消え去った爆心の町……………	114
いつものところで……………	71
いないいない、いない……………	47
犬之介さんと小犬……………	78
いのちが未来をもてるように……………	154
いのちの石……………	86
いのちを学ぼう平和学習実践集 3……………	117
いのり……………	176
I N O R I……………	116
いのりの石……………	25
遺品は語る……………	106
いま、戦争と平和を考えてみる。……………	41
いま戦争を考える No.2……………	124
いま中学生とよみたい101の詩……………	177
今西祐行全集 6……………	41
妹たちへの手紙……………	124
慰霊碑解説のしおり〈抜粋〉……………	114
いわたくんちのおばあちゃん……………	13

う

うそつき咲っぺ……………	69
歌のとどく日……………	78
歌よ川をわたれ……………	52
生まれかわるヒロシマの折り鶴……………	120
海に立つにじ……………	47
海のむこうに……………	46
海をわたった折り鶴……………	12
海をわたったヒロシマの人形……………	26
海をわたる被爆ピアノ……………	172
うわさごと……………	16

え

A I とカラー化した写真でよみがえる戦前・戦争……………	103
絵で見てわかる核兵器禁止条約ってなんだろう？……………	117
絵でよむ日本の歴史 6……………	95
絵で読む広島原爆……………	139
NHK日本映像の20世紀 5……………	95

お

おおきなまちのちいさいはなし……………	156
おかあさんの木……………	44
おかあさんの被爆ピアノ……………	59
おかあちゃんがほしい……………	38
お菓子放浪記 [正]・続・完結……………	73
沖縄戦と原爆投下……………	35
おこりじぞう……………	81
おこりじぞう ー絵本ー……………	9
おこりじぞう ー人形アニメ版ー……………	81
怒る犬……………	32
おじいちゃんの銀時計……………	29
おじいちゃんは兵隊だった……………	68
恐ろしい本……………	92
弟を地に埋めて……………	88
音が消えた時……………	9
おばあさんのとっくり……………	65
おばあちゃんの人形……………	1
おばあちゃんのももの木……………	85
おばけ雲……………	57
おはなし太平洋戦争史 5……………	96
おはなし日本地理 11……………	111
オバマ大統領がヒロシマを訪れた日……………	127
オマール王子の旅……………	5
オマールさんを訪ねる旅……………	168
想い出のサダコ……………	155

おもいで箱……………	79
オヤジがライバルだった……………	110
折り鶴に出会った子どもたち……………	120
おりづるにのって……………	29
折り鶴の子どもたち……………	165
折り鶴の少女……………	162
おりづるの旅……………	23
折り鶴は世界にはばたいた……………	155
おれたちにできなかったこと……………	51
恩師岩佐幹三先生……………	162

か

かあさんと呼べた……………	172
かあさんのうた……………	27
かあさんのうた……………	47
かあさんの野菊……………	81
母さんをたのんだぞ！……………	13
ガイドブック ヒロシマ……………	111
貝の鈴……………	81
かえってきたつりがね……………	15
かえってきた瓢湖の白鳥……………	158
帰らない夏……………	37
加害基地宇品……………	99
核災害からの復興……………	138
学習に役立つものしり事典365日 8月……………	91
核のない21世紀を……………	149
核はほんとうに安全か？……………	138
核兵器はなくせる……………	118
核兵器をなくすと世界が決めた日……………	122
かげふみ……………	55
傘の舞った日……………	74
かずさんの手……………	62
化石原人の告白……………	40
風のみた街……………	66
風のむらからさわこ……………	78
風のように炎のように 峠三吉……………	109
家族から見た「8・6」……………	161
語られなかったアメリカ史 2・3……………	107
語り継ぐヒロシマ・ナガサキの心 上・下巻……………	158
語り伝える空襲 第5巻……………	94
語り伝えるヒロシマ・ナガサキ 1～5……………	116
学校演劇で平和を学ぶ……………	133
ビジュアル版 学校の歴史 3……………	133
悲しい顔のマリア……………	16
かべにきえる少年……………	69

可部に舞い降りた落下傘……………	9
神の子たち……………	166
カモメの家……………	82
かよこ桜……………	84
ガラスびんの夏……………	67
川とノリオ……………	39

き

消えた夏休み……………	69
消えた町 記憶をたどり……………	145
消えていく詩……………	48
消えてしまった町……………	60
聞かせて、おじいちゃん……………	131
キセキのヒロシマ 1～5……………	32
奇跡はつばさに乗って……………	129
北風は芽を……………	74
北国の子どもたち……………	38
北の里から平和の祈り……………	26
北の天使南の天使……………	85
きっときこえるよ……………	25
汽笛……………	70
キノコ雲に追われて……………	132
きのこ雲の下で……………	160
木は生きかえった……………	44
希望のヒロシマ……………	126
君と感動の日々を……………	134
きみに聞いてほしい……………	117
きみには関係ないことか	
一戦争を考えるための子どもの本……………	90
きみには関係ないことか	
一戦争と平和を考えるブックリスト……………	91
九州史跡見学……………	96
教室でよみたい詩12か月 小学校3・4年……………	180
教室でよみたい詩12か月 小学校5・6年……………	180
「夾竹桃物語—わすれていてごめんね」	
絵画・読書感想文集……………	90
きょうはなんの日? 7月・8月……………	91
霧に消えた少女……………	87
金魚がきえた……………	16

く

くちなしの花 八月……………	58
雲のむこうに……………	16
くらがり峠……………	41
クレヨン王国月のたまご……………	78

黒い雨にうたれて……………	35
クロがいた夏……………	17
クロがいた夏……………	20

け

圭子ちゃん／けんいち……………	163
ケイコちゃんごめんね……………	27
ゲン in ヒロシマ……………	148
げんさん……………	48
原子雲の下より 一詩集……………	178
原子雲の下より 一新編8・6少年少女詩集……………	179
原子雲を見た子どもたち……………	60
原子野の汽笛……………	60
原子爆弾『でぶっちょ』……………	61
原子爆弾投下……………	93
原子力がわかる事典……………	138
原子力のことがわかる本……………	138
原水爆とのたたかい……………	126
原水爆漫画コレクション 2……………	32
原水爆漫画コレクション 3……………	33
原水爆漫画コレクション 4……………	33
原爆一見えない放射線の被害……………	140
原爆瓦……………	130
原爆詩集……………	178
原爆死没者慰霊式典の記録……………	126
原爆写真 ノーモアヒロシマ・ナガサキ……………	96
原爆手記掲載図書・雑誌総目録……………	182
原爆体験記……………	166
原爆といのち……………	34
原爆投下時の電信電話……………	142
げんばくとげんばつ……………	11
げんばくとハマユウの花……………	28
原爆ドーム再生の奇跡……………	128
原爆ドームの祈り……………	168
原爆ドーム100年の記憶……………	138
原爆ドーム物語……………	123
ゲンバクとよばれた少年……………	132
原爆の絵 一ナガサキの祈り……………	124
原爆の絵 一ヒロシマの記憶……………	125
原爆の絵 一ヒロシマを伝える……………	144
「原爆の絵」と出会う……………	143
原爆の絵 HIROSHIMA……………	143
原爆の子……………	157
原爆の子さだ子の願い……………	1
原爆の子の像……………	174

「原爆の子の像」と「折鶴」	123
原爆の怖さの物語	20
「原爆の子」をうけついで	158
原爆の実相を語りつぐ	140
原爆の少女ちどり	17
原爆の図	144
原爆の図 一普及版完本一	145
原爆の図物語	154
原爆の火	14
原爆の火の長い旅	172
原爆は終わっていない	135
原爆被爆者は訴える	170
原爆ヒロシマ	148
原爆碑を洗う中学生	134
原爆文献大事典	182
原爆モニュメント物語	126
原爆予告をきいた	167
ハンドブック 原発事故と放射能	139

こ

交響詩集ヒロシマ	180
高校生の正しい夏	133
小倉に原爆が落ちた日	93
ここにいてこと おかあさんにしらせて	23
心がホッとする話	
1年生下・2年生下・4年生下	58
心でさげてください	43
五十年めの手紙	70
こすもすべーカリ物語	75
こつつぽ 骨壺	167
子どもたちに伝えたいー原発が許されない理由	139
子どもたちの見たヒロシマ	151
子どもたちへ、今こそ伝える戦争	100
子どもと心を見つめる詩	178
子どもにおくる戦争があったころの話	98
子どもにつたえる世界の戦争と平和 1	92
子ども日本風土記 34	113
子ども日本風土記 42	113
子どものころ戦争があった	152
子どもの作文で綴る戦後50年 1	150
子どもの作文で綴る戦後50年 11	150
こども平和文集 十二号	151
ことりになったエノキ	64
この世界の片隅に	22
この世界の片隅に上・中・下	33

この世界の片隅に ーノベライズー	57
この空の下で	40
ごめんね、お母さん	153
ごめんねぽっこ	83
こんな学校があるよ	165
こんなに恐ろしい核兵器 1・2	121

さ

最後の手紙	108
さいごのトマト	162
さがしています	20
作文が好きになる事典 3・4年	149
サダコ	125
さだ子と千羽づる	8
サダコの祈り	6
禎子の千羽鶴	160
ざっそう	6
さようならかげぼうし	54
さよなら、先生	157
サヨナラはお乳の匂い	153
さよならをいう時間もない	88
3+6の夏	71
三年三組なきむしメソコ先生	83

し

シゲコ!	109
しげるくん物語	29
地獄からの汽車	159
詩集 にんげんをかえせ	179
次世代と描く原爆の絵	144
事前学習に役立つみんなの修学旅行	112
事前に調べる修学旅行パーフェクトガイド 6	112
詩のわかる本 中学3年	179
紙碑	169
自分ってなんだろう?	91
しまってはいけない記憶 I・II・III	159
修学旅行で行ってみたい日本の世界遺産 5	142
15歳のナガサキ原爆	131
十五年めのおくりもの	63
13歳からの平和教室	116
集団疎開生活と原爆被災	161
自由と平和	171
14歳の生涯	164
十四才の夏	46
14歳のヒロシマ	118

ジュノー	5
シュモーおじさん	13
シュモーさんとヒロシマの家	1
シュモーハウス	171
小学生・詩のくにへ 12	178
少女・十四歳の原爆体験記	167
昭ちゃんの紙芝居	9
少年口伝隊一九四五	148
少年のひろしま	177
昭和二十年八さいの日記	15
昭和の歴史 中	97
調べ学習日本の歴史 8	97
調べ学習に役立つ	
宇宙から見た日本の地理と産業 5	112
しらべ学習に役立つ日本の歴史 12	98
シリーズ憲法9条 第1巻	132
シリーズ国連 2	131
シリーズ戦争	
語りつごうヒロシマ・ナガサキ 1～5	94
シリーズ戦争 子どもたちが綴った戦争体験 4	105
シリーズ戦争遺跡 3	98
シリーズ戦争孤児 5	98
白いチマチョゴリ	69
白い鳥とねむの木の町	48
白い町ヒロシマ	54
白い物語	72
新図解 わたしたちの日本地理	112
伸ちゃんのさんりんしゃ	21
人物や文化遺産で読み解く日本の歴史 7	98
新聞で調べよう現代日本の50年 1～3	96
人類の歴史を変えた8つのできごと 2	92

す

ON THE HORIZON <u>水平線のかなたに</u>	89
スカーフは青だ	82

せ

世界遺産原爆ドーム	127
世界じゅうに、愛の手を	171
世界でいちばん悲しいクラス	61
世界と出会う日本の歴史 5	107
世界に誇る日本の世界遺産 6	142
世界の「戦争と平和」博物館 第6巻	121
せこへい	121
1983年熱い秋のノート	71

1941年12月8日	95
1945年8月15日	107
1945年8月6日	154
戦後50年学童疎開の子どもたち 第3巻	157
せんそう	136
戦争がやってくる	136
戦争体験を「語り」・「継ぐ」	121
せんそうってなんだったの?	99
せんそうってなんだったの? 第7巻	99
せんそうってなんだったの? 第2期9	99
せんそうってなんだったの? 第2期10	99
戦争と郷土の歴史を考える	91
戦争と人間	176
「戦争と平和」子ども文学館 16	87
「戦争と平和」子ども文学館 17	87
「戦争と平和」子ども文学館 18	87
「戦争と平和」子ども文学館 別巻	175
戦争と平和のものがたり 4	74
戦争は終わった	151
千羽づるのねがい	83

そ

象のいなくなった動物園	160
続・被爆者	116
空から地下を探るには?	147
空になった少年	181
空を飛んだ夏休み	52
それから	17

た

第二楽章	181
第二次世界大戦 10	93
太平洋戦争はじまる	106
太陽が消えたあの日	164
太陽の落ちた日	57
助けてあげられなくてごめんね	24
訪ねてみよう	
戦争を学ぶミュージアム／メモリアル	118
脱走者たち	53
たった一発の爆弾でヒロシマ20万人、	
ナガサキ10万人が死んだ。	131
七夕にねがいをこめて	162
タヌキのきょうしつ	83
たのしい観察記録の作文5年生	150
旅のネコと神社のクスノキ	15

たゆまぬ歩み おれはカタツムリ	108
-----------------	-----

ち

小さな赤いてぶくろ	23
ちいさなおはか	26
チェルノブイリから広島へ	139
地球の環境問題シリーズ 7	137
チコとじぞうさん	48
地図にない島へ	66
ちちんぷいぷいとんでいけ	52
ちっちゃいこえ	1
因 ^{ちなみ} の木と少女たちの40年	53
チビ兵行進曲	56
チャレンジ! キッズスピーチ 2	149
ちゃんちゃこばあちゃん	64
チュイホアねえさん	38
中学生の春夏秋冬	133
中学生のための「総合」アイデアBOOK 1	134
中学生の読書のために	90
春姫 ^{チュニイ} という名前の赤ちゃん	21
チョウのいる丘	73
チロの星まつり	171
沈黙を聴く	141

つ

土のなかの顔	61
翼のヒロシマ	129
つる	22
つるにのって	63
つるのとぶ日	48

て

テニアン ^{テニアン} の少女	39
転校生とぼくの秘密	76
天に焼かれる	17

と

童心寺	23
とうちゃんの涙	17
灯ろう	77
とうろうながし	8
どえりゃあやつ	56
遠い国からきた小さな友だち	59
十日間のお客	65
遠きヒロシマ	160

時の石	72
翔ぶんだったら、いま!	86
飛べ! 千羽づる	163
とべ、ぼくの鳩よ	63
ドームがたり	16
友よ・夏の花・原爆詩	76
トンネルとビー玉とわすれ貝	59

な

永井隆一原爆の荒野から世界に「平和を」	109
永井隆一平和を祈り愛に生きた医師	110
長崎	113
ナガサキー1945年8月9日	123
ながさきアンジェラスのかね	22
長崎原爆絵巻 崎陽のあらし	128
長崎原爆紙芝居 1	2
長崎原爆紙芝居 2	2
長崎原爆紙芝居 3	2
長崎原爆紙芝居 4	2
長崎原爆紙芝居 5	2
長崎原爆写真集	96
長崎原爆資料館	125
長崎にいた小人のフ란ツ	44
ナガサキに翔ぶ	173
ナガサキの命	173
ナガサキの男の子	80
ナガサキのおばあちゃん	66
長崎の原爆を生きぬいて	34
ながさきの子うま	45
ながさきの子うま 一人形アニメ版	45
ナガサキの空	168
ナガサキの花	76
長崎のふしぎな女の子	27
長崎のふしぎな女の子	45
長崎を忘れない	174
中沢啓治著作集 2~4	35
ながさめの天使	61
泣くな、東太	57
那須正幹童話集 5	73
夏雲	169
夏の記憶	51
夏の雲は忘れない	179
夏の残像	36
夏の花	3
夏の花	37

夏の花たち	64
夏服の少女たち	155
75—未来へつなぐヒロシマの心	161
なみだのファインダー	105
名もなき人びとの伝記	108

に

憎しみを乗り越えて	109
虹	76
仁科芳雄／本多光太郎	110
21世紀こども百科歴史館	101
20世紀を一緒に歩いてみないか	105
虹をみた日	49
二度と	3
二年2組はヒヨコのクラス	83
似島	134
にほんご多読ボックス vol.10-5	149
日本人いのちと健康の歴史 5	137
日本と世界のちがいを考える本 7・8	112
日本の遺跡と遺産 7	102
日本の子どもの詩 34	179
日本の詩 10	177
日本の世界遺産	142
日本の戦跡を見る	106
日本の戦争遺跡図鑑	102
日本の大切なもの	143
日本の地理 3	113
日本の歴史 下	100
日本の歴史 5	102
日本の歴史 10	95
日本の歴史博物館・史跡 7	102
人形がかぞえる子もりうた	64
人形マリー	82
人形レストラン	52
詩集 <u>にんげんをかえせ</u>	179

ね

猫ちゃんは帰らない	118
ねこになった少年	66

の

野の花は生きる	40
ノーモア核兵器	125
「ノーモアヒロシマ」伝えていこう！平和	125

は

バウムクーヘンとヒロシマ	65
バオバブのゲンバク	54
爆心地ヒロシマに入る	103
爆心直下の町—細工町・猿楽町	104
ハコちゃん・あるハンノキの話ほか	41
初めて知った戦争	152
はじめてのヒロシマ	24
走れひばく電車	24
はだしのゲン 1～5 —紙芝居—	3
はだしのゲン —絵本—	18
はだしのゲン BAREFOOT GEN —絵本—	20
はだしのゲン 1～10 —コミックス版—	35
はだしのゲン 1～3 —中公愛蔵版—	36
はだしのゲン 1～7 —完全版—	36
はだしのゲン 上・中・下 —児童文学版—	70
はだしのゲン —テレビドラマ版—	70
はだしのゲン自伝	146
はだしのゲンはピカドンを忘れない	164
はだしのゲンはヒロシマを忘れない	164
はだしのゲンわたしの遺書	146
『はだしのゲン』を英語で読む	144
八月がくるたびに	43
八月九日のサンタクロース	37
8月のウサギ	3
8月のウサギ	24
八月の髪かざり	73
八月の少女たち	49
八月のすきまに	53
八月の光	55
八月の光 —失われた声に耳をすませて—	55
八月の光・あとかた	55
8月6日のこと	22
はとよひろしまの空を —アニメ版—	27
はとよひろしまの空を	45
ハナコの愛したふたつの国	88
はばたけ千羽鶴	123
母と暮らせば	11
母と子でみる原爆を撮った男たち	103
母と子でみる広島・長崎	93
母の川	49
母よ誰が	178
浜ひるがおの花が咲く	43
遙かなトナカイの国	63
春ちゃん	172

ハンドブック 原発事故と放射能	139
パンに書かれた言葉	56
パンプキン!	86
パンフルートになった木	14

ひ

ピカ	5
ピカッ子ちゃん	64
ピカッ! ドン!! はもうやめて!!!	25
ピカドン	12
ピカドン	18
ピカドン	21
ピカドン	37
ピカドン	146
ピカドン ーだれも知らなかった 子どもたちの原爆体験記ー	159
ピカドン きのか雲の下で見つけた宝物	7
ピカドンたけやぶ	7
『ピカドン』とその時代	145
ピカドンのきのか雲	102
ピカドンの青春	158
光に向かって	18
光のうつしえ	56
光の消えた日	40
ひかりのたね	153
光る夏 ーたつひこ	79
彼岸花はきつねのかんざし	8
彼岸花はきつねのかんざし	56
ビジュアル版 学校の歴史 3	133
ビジュアル版 平和博物館・戦跡ガイド 1・2	97
ピース・アニメを創る	121
ひーちゃんはいった	49
ーつの花	42
ーつの花 ヒロシマの歌	42
ひとり調べができる時代別日本の歴史 12	103
ひとりひとりの戦争	53
一人ぼっちの焼けあと	153
火のトンネル	8
火の話	15
被爆アオギリと生きる	126
被爆アオギリ物語	3
被爆者	115
被爆者たちの戦後50年	132
被爆電車75年の旅	141
被爆電車に乗って1945年を語る	141

被爆七〇年・西区の被爆樹・被爆遺跡・被爆建物	141
ひばくポンプ	15
火ははたらく	136
碑めぐり研修録	167
100人が語る戦争とくらし 1・2	103
100ばんめのサル	11
ピラミッド帽子よ、さようなら	52
ヒロクンとエンコウさん	18
ヒロシマ 第1部～第3部	73
ひろしま	146
ひろしま ー九歳の時の父捜しと被爆体験ー	173
ひろしま ー原爆をかんがえる(試案)ー	135
ひろしま ーこれはわたしたちの さけびです(試案)ー	135
ひろしま ー今日の核時代を生きる(試案)ー	136
ひろしま ー15年戦争と広島(試案)ー	136
ひろしま ー平和教育教材写真集ー	147
ひろしま碑・遺跡・平和あんない	114
ヒロシマ、顔	116
ヒロシマ語り部の歌	156
ヒロシマから帰った兄	88
ヒロシマからきたマメじぞう	82
ヒロシマから「内部被ばく」と歩いて	133
ヒロシマ消えたかぞく	27
「ヒロシマ消えたかぞく」のあしあと	97
ヒロシマ希望の未来	135
広島県の民話	31
広島原爆写真集	97
ひろしま国	122
ヒロシマここより永遠に	120
ヒロシマ心の旅路	160
ヒロシマこどもたちの夏	80
ヒロシマ・コレクション	100
ヒロシマ散歩	95
広島修学旅行ハンドブック	129
広島 昭和20年8月6日	85
ヒロシマ1945～1979	147
広島第二県女二年西組	161
ヒロシマツインズ	108
ヒロシマ読本	115
ヒロシマ・ナガサキ	147
広島・長崎からの伝言	155
広島・長崎市児童生徒平和のつどい感想文集	150
広島長崎修学旅行案内	129
広島・長崎でなにが起ったのか	137

ヒロシマ、ナガサキ、フクシマ	122
ヒロシマに生きて	110
ヒロシマにいた友だち	168
ヒロシマに原爆がおとされたとき	28
広島にチンチン電車の鐘が鳴る	54
ヒロシマの証	162
ヒロシマの雨はドームの涙	156
ヒロシマの碑	113
広島のいしぶみはみつめる 第1集・第2集	92
ヒロシマのいのち	119
ヒロシマのいのちの歌	65
ヒロシマのいのちの水	26
ヒロシマのうた	65
ヒロシマのうた	75
ヒロシマの歌	42
ひろしまのエノキ	21
ひろしまのオデット	75
ヒロシマのおとうさん	18
広島のおばあちゃん 過去・現在・未来	137
ヒロシマの風	87
ヒロシマの河童	46
広島の木に会いに行く	140
ヒロシマの空白	100
ヒロシマの原子雲	100
ひろしまの子	180
ヒロシマの子	130
ヒロシマの声を聞こう	119
ヒロシマの心 [1]～6	117
ヒロシマ、遺された九冊の日記帳	156
ヒロシマの子守唄	54
広島の子供たち	84
ヒロシマの少女	49
ヒロシマの空	176
ヒロシマの旅	114
広島の子供たち	39
広島の子供たち	85
ヒロシマの夏	59
ヒロシマのぬいぐるみ	46
広島の子供たち	85
ヒロシマの火	82
ヒロシマのピアノ	26
ひろしまのピカ	12
ヒロシマの被爆建造物は語る	137
広島の子供たち	119
ひろしまの満月	71

広島の子供たち	104
ヒロシマは語る	135
ヒロシマは世界をむすぶ	119
ヒロシマ、八月、炎の鎮魂歌	50
ヒロシマ8月6日、少年の見た空	94
広島・被爆ハマユウの祈り	124
ヒロシマへ行って	4
広島平和記念資料館	140
ヒロシマ平和宣言集〔1947～2015〕	128
広島平和の親子バスツアー感想文集	149
ヒロシマ「平和への出発」	122
広島ろう学校被爆と疎開の記録	169
ヒロシマを世界に	127
ヒロシマをのこす	120
ヒロシマを持ちかえった人々	132
ピンク色の雲	20

ふ

ふじおくんのハーモニカ	13
ふたりのイーダ	79
ふたりの英雄	75
復興の記憶	94
ふりそでの少女	19
Fromひろしま	147

へ

兵隊ぐらしとピカドン	108
平和学習に役立つ戦跡ガイド 1	104
平和学習に役立つ戦跡ガイド 2	105
平和記念資料館学習ハンドブック	127
平和公園碑めぐりガイドブック	92
平和一国家・核・教育	128
「平和宣言」を読む	127
平和の木	163
平和のたからもの	101
平和のちかい	4
平和のちかい	4
平和のバトン	130
平和のバトンをつないで	111
平和の芽	173
ビジュアル版 平和博物館・戦跡ガイド 1・2	97
平和博物館・戦争資料館ガイドブック	131
平和への祈り	143
平和への祈り 2	4
平和を祈る人たちへ	168

平和を考える絵本	90
平和を考える小中学生作文集 第15集	150
平和を考える戦争遺産図鑑	106
平和を考える戦争遺物 5	105
平和をねがう「原爆の図」	143
へいわをゆめみて	148

ほ

ぼく生きたかった	165
ぼくと兄の日章旗	151
僕の仕事は、世界を平和にすること。	118
ぼくの戦争	152
ぼくのピース・メッセージ	130
ぼくの町は「戦場」だった	151
ぼくは生きている	19
ぼくはうそをついた	74
ぼくは満員電車で原爆を浴びた	174
ぼくらは生きたい	142
ポケネコ・にゃんころりん 8	84
星からきたカード	45
星は見ている	6
菩提樹とさるすべりの花	181
本川をつたえて	22
仁科芳雄／本多光太郎	110
ほんとうにあった戦争と平和の話	129

ま

まちゃんと	8
まっ黒なおべんとう —絵本—	14
まっ黒なおべんとう	58
魔法のぶた	68
まめたんばあさん	50
丸木 俊	110
マレーシアの語り人	157
漫画から学ぶ生きる力	146
まんがで語りつぐ広島復興	101
マンガでつづる原爆の子の像	31
まんが 被爆地の新聞社	32
まんが ロザリオの祈り 1・2	31
マンモスの夏	51

み

みえちゃんの集団疎開	77
みえちゃんの集団疎開	77
見えないトゲ	50

見えないほうがよかった	61
ミサコの被爆ピアノ	79
水辺の祈り	177
御霊への誓い	117
ミチコとクミ	78
見てるよ！ヒトミ	68
みどりの川のぎんしょきしょき	40
緑のドクター	171
ミナのあした	50
南の風の物語	43
ミヨちゃんの笛	19
みんなが知りたい！世界と日本の 「戦争遺産」戦跡から平和を学ぶ本	93

む

むかえじぞう	11
むかえじぞう	28
麦畑のカマキリ	86
娘よ、ここが長崎です	163
むらさき色のピカ	76

め

目でみる戦争とくらし百科 4	106
----------------	-----

も

もうひとつのヒロシマ	70
もえたじゃがいも	19
燃える日本列島	158
もえる吹雪	53

や

野球バカ	36
やくそくのどんぐり	14
焼け跡に風が吹く	173
焼けあとのイチ	34
焼けあとの白鳥	75
山梨の被爆アオギリ二世	156
ヤン一族の最後	80
やんばる君	72

ゆ

遺言「ノー・モア・ヒロシマ」 第1集～第5集	169
夕風の街桜の国	33
夕風の街桜の国 —ノベライズ—	57
夕焼けの記憶	50

タ焼けの子どもたち	152
ユーカリの木の下で	36
ゆきちゃんが見たピカドン	172
ユソフさん	38
ユネスコ世界遺産原爆ドーム	123
ゆみ子とつばめのおはか	42
ゆめくい雲とアッコちゃん	19
夢のクレヨン希望にのって	62
ゆりさんの花物語	51

よ

ようきんさった原爆ドームは語る	120
ようすけ君の夢	10
ようすけ君の夢	25
よっちゃんのビー玉 一絵本一	14
よっちゃんのビー玉	58
四年一組にきた子	67
よみがえるふるさと	153
読み聞かせる戦争	38
読む知る話すほんとうにあったお話 6年生	174
48色の夢のクレヨン	62

ら

らくだい先生	77
ラグリマが聞こえる	62
ラスト・チェリー・ブロッサム	88

り

リトルボーイ	86
流光	161
りよおばあさん	43

る

るいるいとるいるいと	67
ルミちゃんの赤いリボン	28
ルルの家の絵かきさん	155

れ

歴史と文化を伝える117の町 5	114
------------------	-----

ろ

ロクの菜の花畑	68
ロザリオの祈り 1～3	60

わ

わすれていてごめんね	5
わすれていてごめんね	51
忘れないで8月6日	109
私の戦争	148
わたくし、始まる	79
私はニュースキャスター	141
わたしが子どものころ戦争があった	167
わたしがちいさかったときに	157
わたしからのメッセージ	37
ワタシゴト	72
わたしたちのアジア・太平洋戦争 3	104
わたしたちの戦争体験 7	107
わたしの少女時代	154
わたしの8月15日	152
わたしのヒロシマ	9
わたしはひろがる	11
わたしはひろがる	12
わらっておかあさん	10

ん

ん子先生お元気で、ねっ	74
-------------	----

A

Appeals From The A-bomb Survivors	170
Atomic Bomb Drawings	144

B

BAREFOOT GEN 1～10	35
-------------------	----

C

CHILDREN OF THE PAPER CRANE	165
-----------------------------	-----

D

DISAPPEARED TOWNS, TRACING MEMORIES	145
Do you know Sadako?	130

H

HIROSHIMA	139
HIROSHIMA PEACE READER	115
Hiroshima's Path to Reconstruction	119
Hiroshima's Revival	101

I
ISHIBUMI.....170

M
Mie's group Evacuation..... 77
MY HIROSHIMA..... 7
MY HIROSHIMA..... 10
MY HIROSHIMA..... 10
MY HIROSHIMA..... 10
My Story..... 30

N
Neighborhoods Directly Beneath
the Center of Explosion
—Saiku-machi and Sarugaku-cho104

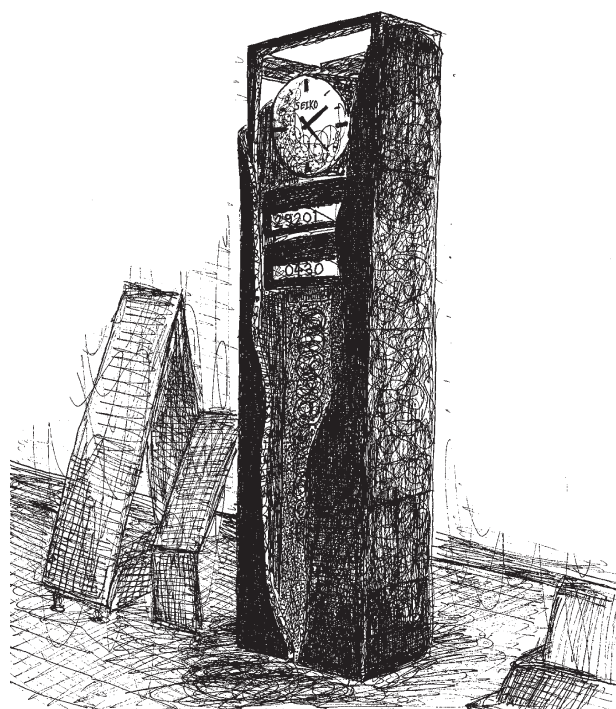
O
On A Bright Summer Morning..... 59
ON THE HORIZON 水平線のかなたに..... 89

P
Paper Crane Journey..... 23

S
SADAKO OF HIROSHIMA..... 29
Sadako's Prayer..... 6
SHIN'S TRICYCLE..... 21
Sisters in Hiroshima..... 84

T
THE ANGRY JIZO..... 81
The Complete Story of Sadako Sasaki
and the Thousand Paper Cranes.....174
The Hiroshima Miracle..... 32
The Hiroshima Story..... 12
The Peace Tree from Hiroshima..... 30

W
WHITE TOWN HIROSHIMA..... 55



※表紙・裏表紙装画及び挿絵は、広島市立基町高等学校普通科創造表現コースにご製作いただきました。それぞれの作品の題材は、次の通りです。

表 紙……………「嵐の中の母子像」

P. 4……………「平和の鐘」

P. 10……………「原爆犠牲ヒロシマの碑」

P. 30……………「平和祈念像」

P. 44・裏表紙……「被爆したアオギリ」

P. 67・P. 175……「元安橋」

P. 89……………「原爆犠牲国民学校教師と子どもの碑」

P. 115……………「原爆死没者慰霊碑（広島平和都市記念碑）」

P. 181……………「平和の泉」

P. 182……………「平和の^{ともしび}灯」

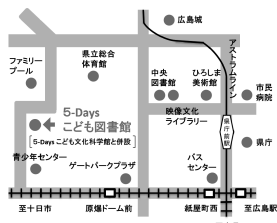
P. 183……………「広島市平和記念公園レストハウス（元大正屋呉服店）」

P. 208……………「原爆供養塔」

P. 228……………「地球平和監視時計」

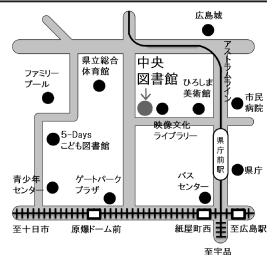
こども図書館

〒730-0011
広島市中区基町5番83号
(こども文化科学館と併設)
TEL 082-221-6755
FAX 082-222-7020
原爆ドーム前電停下車
約300m



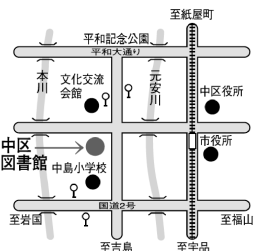
中央図書館

〒730-0011
広島市中区基町3番1号
(映像文化ライブラリーと併設)
TEL 082-222-5542
FAX 082-222-5545
広島バスセンターから約500m
アストラムライン県庁前駅から徒歩約400m
※令和7年10月時点。令和8年度当初移転・開館予定。



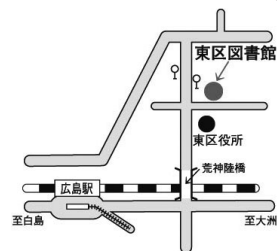
中区図書館

〒730-0812
広島市中区加古町4番17号
(JMSアステールプラザ2階)
TEL 082-248-9300
FAX 082-247-8447
加古町バス停下車
約200m



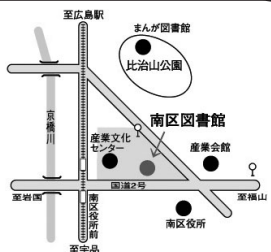
東区図書館

〒732-0055
広島市東区東蟹屋町10番31号
(東区民文化センターと併設)
TEL 082-262-5522
FAX 082-264-2610
JR広島駅から約900m
東区役所前バス停下車すぐ



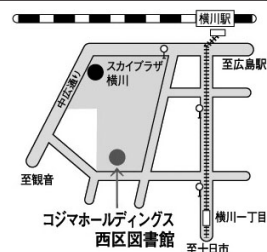
南区図書館

〒732-0816
広島市南区比治山本町16番27号
(南区民文化センターと併設)
TEL 082-251-1080
FAX 082-252-4120
南区役所前バス停下車
約100m
南区役所前電停下車
約200m



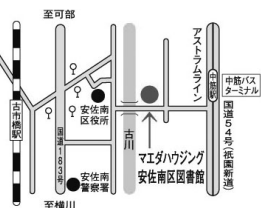
西区図書館

〒733-0013
広島市西区横川新町6番1号
(西区民文化センターと併設)
TEL 082-234-1970
FAX 082-295-9287
JR横川駅から徒歩約300m



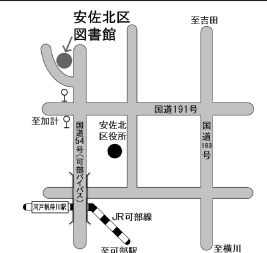
安佐南区図書館

〒731-0122
広島市安佐南区中筋一丁目22番17号
(安佐南区民文化センターと併設)
TEL 082-879-5060
FAX 082-879-8536
下古市バス停下車
約600m
アストラムライン中筋駅から
約200m



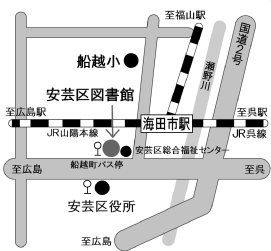
安佐北区図書館

〒731-0221
広島市安佐北区可部七丁目28番25号
(安佐北区民文化センターと併設)
TEL 082-814-0340
FAX 082-814-0604
安佐北区民文化センター入口バス停
下車
約500m



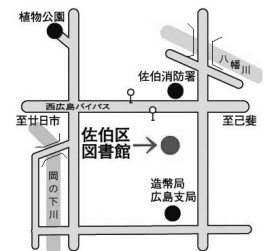
安芸区図書館

〒736-8508
広島市安芸区船越南三丁目2番16号
(安芸区民文化センターと併設)
TEL 082-824-1056
FAX 082-824-1057
JR海田市駅から約400m
船越町バス停下車すぐ



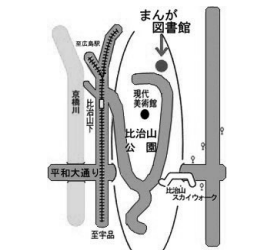
佐伯区図書館

〒731-5128
広島市佐伯区五日市中央六丁目1番10号
(佐伯区民文化センターと併設)
TEL 082-921-7560
FAX 082-924-0742
佐伯区民文化センター前バス停下車
約300m



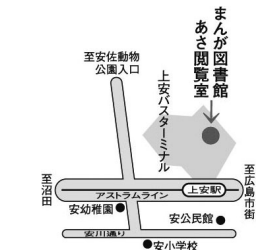
まんが図書館

〒732-0815
広島市南区比治山公園1番4号
TEL 082-261-0330
FAX 082-262-5406
比治山下電停下車
約800m
段原中央バス停下車
約900m



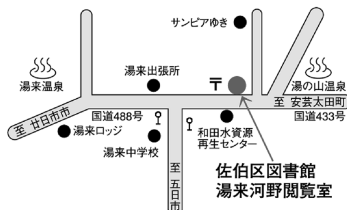
まんが図書館あさ閲覧室

〒731-0154
広島市安佐南区上安二丁目30番15号
上安バスターミナル3階
(ベルテガーデンA棟2階)
TEL 082-830-3675
FAX 082-830-3676
アストラムライン上安駅からすぐ
上安バスターミナル下車すぐ



佐伯区図書館湯来河野閲覧室（やまゆりホール）

〒738-0601
広島市佐伯区湯来町大字和田353番地の1
TEL 0829-40-4005
FAX 0829-83-0134
大橋（湯来出張所前）バス停下車
約600m



子どもたちへ原爆を語りつぐ本

——総集版・2025——

発行年月日 令和 7 (2025) 年10月30日
編集・発行 広島市こども図書館
所 在 地 〒730-0011 広島市中区基町 5 番83号
電話 (082) 221-6755
<https://www.library.city.hiroshima.jp/kodomo/>

